科目名	科目担当代表教員	ページ数
総合教養講座	白戸　力弥 ・・・・・・・・	7
日本国憲法	池田　杏奈 ・・・・・・・・	16
キャリア入門	木村　悠里菜 ・・・・・・・・	25
キャリア形成	木村　悠里菜 ・・・・・・・・	32
統計の基礎	武田　裕康 ・・・・・・・・	39
物理学	松岡　審爾 ・・・・・・・・	48
英語Ⅰ	山崎　メラニー ・・・・・・・・	57
英語Ⅰ	山崎　メラニー ・・・・・・・・	66
英語Ⅱ	相馬　哲也 ・・・・・・・・	75
英語Ⅱ	相馬　哲也 ・・・・・・・・	84
韓国語Ⅰ	曺　順姫 ・・・・・・・・	93
韓国語Ⅱ	權　永慶 ・・・・・・・・	102
生涯スポーツA	平岡　英樹 ・・・・・・・・	111
生涯スポーツB	平岡　英樹 ・・・・・・・・	118
生涯スポーツB	平岡　英樹 ・・・・・・・・	127
情報処理	常見　裕子 ・・・・・・・・	136
数理・データサイエンス・AI入門	松岡　審爾 ・・・・・・・・	145
数理・データサイエンス・AI実践	松岡　審爾 ・・・・・・・・	152
基礎ゼミナール	木谷　岐子 ・・・・・・・・	159
基礎ゼミナール	小林　美花 ・・・・・・・・	168
基礎ゼミナール	佐々木　雅哉 ・・・・・・・・	177
基礎ゼミナール	白幡　知尋 ・・・・・・・・	186
基礎ゼミナール	西野　美穂 ・・・・・・・・	195
基礎ゼミナール	山下　秀樹 ・・・・・・・・	204
基礎ゼミナール	山本　愛子 ・・・・・・・・	213
基礎ゼミナール	渡邉　尭宏 ・・・・・・・・	222
基礎音楽	西野　美穂 ・・・・・・・・	231
保育方法の理論と実践	渡邉　尭宏 ・・・・・・・・	240
保育原理	村松　良太 ・・・・・・・・	249
保育者論	渡邉　尭宏 ・・・・・・・・	258
こどもの心理学Ⅰ	川俣　智路 ・・・・・・・・	267
こどもの心理学Ⅱ	嵯峨　千里 ・・・・・・・・	276
こどもの心理学Ⅱ	嵯峨　千里 ・・・・・・・・	285
教職入門	村田　敏彰 ・・・・・・・・	294
教育基礎論	宮﨑　隆志 ・・・・・・・・	303
社会福祉	松岡　是伸 ・・・・・・・・	312
こども家庭福祉	今西　良輔 ・・・・・・・・	321
知的障がい者の心理・生理・病理	木谷　岐子 ・・・・・・・・	330
肢体不自由者の心理・生理・病理	木谷　岐子 ・・・・・・・・	339
病弱者の心理・生理・病理	木谷　岐子 ・・・・・・・・	348
視覚・聴覚障がい者の心理・生理・病理	伊藤　太 ・・・・・・・・	357

障がい児保育Ⅰ	美馬　正和	・・・・・・・・	364
障がい児保育Ⅰ	美馬　正和	・・・・・・・・	373
障がい児保育Ⅱ	美馬　正和	・・・・・・・・	382
障がい児保育Ⅱ	美馬　正和	・・・・・・・・	391
社会的養護Ⅰ	美馬　正和	・・・・・・・・	400
こども家庭支援論	吉岡　亜希子	・・・・・・・・	409
子育て支援	山本　愛子	・・・・・・・・	418
子育て支援	山本　愛子	・・・・・・・・	427
こどもの保健	海老名　由紀子	・・・・・・・・	436
こどもの健康と安全	菅原　美保	・・・・・・・・	445
こどもの健康と安全	菅原　美保	・・・・・・・・	454
こどもの食と栄養Ⅰ	小塚　美由記	・・・・・・・・	463
こどもの食と栄養Ⅱ	佐々木　将太	・・・・・・・・	472
こども家庭支援の心理学	吉岡　亜希子	・・・・・・・・	481
保育の計画と評価	小林　美花	・・・・・・・・	490
保育内容総論	美馬　正和	・・・・・・・・	499
保育内容総論	美馬　正和	・・・・・・・・	508
保育内容指導法(健康1)	平岡　英樹	・・・・・・・・	517
保育内容指導法(健康1)	平岡　英樹	・・・・・・・・	526
保育内容指導法(健康2)	平岡　英樹	・・・・・・・・	535
保育内容指導法(健康2)	平岡　英樹	・・・・・・・・	544
保育内容指導法(人間関係1)	山口　宗兼	・・・・・・・・	553
保育内容指導法(人間関係1)	山口　宗兼	・・・・・・・・	562
保育内容指導法(人間関係2)	山口　宗兼	・・・・・・・・	571
保育内容指導法(人間関係2)	山口　宗兼	・・・・・・・・	580
保育内容指導法(環境1)	柘植　純一	・・・・・・・・	589
保育内容指導法(環境1)	柘植　純一	・・・・・・・・	598
保育内容指導法(環境2)	岡　健吾	・・・・・・・・	607
保育内容指導法(環境2)	岡　健吾	・・・・・・・・	616
保育内容指導法(言葉1)	山口　宗兼	・・・・・・・・	625
保育内容指導法(言葉1)	山口　宗兼	・・・・・・・・	634
保育内容指導法(言葉2)	山口　宗兼	・・・・・・・・	643
保育内容指導法(言葉2)	山口　宗兼	・・・・・・・・	652
保育内容指導法(音楽表現1)	今井　由惠	・・・・・・・・	661
保育内容指導法(音楽表現1)	今井　由惠	・・・・・・・・	670
保育内容指導法(音楽表現2)	今井　由惠	・・・・・・・・	679
保育内容指導法(音楽表現2)	今井　由惠	・・・・・・・・	688
保育内容指導法(造形表現1)	笠見　康大	・・・・・・・・	697
保育内容指導法(造形表現1)	笠見　康大	・・・・・・・・	706
保育内容指導法(造形表現2)	笠見　康大	・・・・・・・・	715
保育内容指導法(造形表現2)	笠見　康大	・・・・・・・・	724
社会的養護Ⅱ	堀　允千	・・・・・・・・	733

社会的養護Ⅱ	堀　允千	・・・・・・・・	742
乳児保育Ⅰ	小林　美花	・・・・・・・・	751
乳児保育Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	760
乳児保育Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	769
表現Ⅰ幼児音楽	西野　美穂	・・・・・・・・	778
表現Ⅰ幼児音楽	西野　美穂	・・・・・・・・	787
表現Ⅱ造形	笠見　康大	・・・・・・・・	796
表現Ⅱ造形	笠見　康大	・・・・・・・・	805
表現Ⅲ身体表現1	細田　洋介	・・・・・・・・	814
表現Ⅲ身体表現1	細田　洋介	・・・・・・・・	823
表現Ⅳ日本語表現	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	832
表現Ⅳ日本語表現	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	841
総合表現音楽Ⅰ	今井　由惠	・・・・・・・・	850
総合表現音楽Ⅰ	今井　由惠	・・・・・・・・	859
幼児と健康	平岡　英樹	・・・・・・・・	868
幼児と健康	平岡　英樹	・・・・・・・・	875
幼児と人間関係	山口　宗兼	・・・・・・・・	882
幼児と環境	高桑　純	・・・・・・・・	889
幼児と環境	高桑　純	・・・・・・・・	896
幼児と言葉	山口　宗兼	・・・・・・・・	903
幼児と表現	今井　由惠	・・・・・・・・	910
国語科概論	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	917
社会科概論	佐々木　英明	・・・・・・・・	926
理科概論	高桑　純	・・・・・・・・	933
理科概論	高桑　純	・・・・・・・・	940
算数科概論	常田　拓孝	・・・・・・・・	947
英語科概論	釣　晴彦	・・・・・・・・	954
教育経営論	中田　和彦	・・・・・・・・	963
特別支援教育基礎論	村田　敏彰	・・・・・・・・	972
教育課程の編成と実施	相馬　哲也	・・・・・・・・	979
生徒指導の意義と内容	相馬　哲也	・・・・・・・・	988
幼児の理解	山本　愛子	・・・・・・・・	997
道徳教育の指導法	佐々木　英明	・・・・・・・・	1006
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	相馬　哲也	・・・・・・・・	1015
教育方法論	佐々木　英明	・・・・・・・・	1024
ICTを活用した教育の理論と方法	佐々木　英明	・・・・・・・・	1031
教育相談の基礎と方法	山本　愛子	・・・・・・・・	1038
教育相談の基礎と方法	山本　愛子	・・・・・・・・	1047
教科教育法 国語	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	1056
教科教育法 社会	佐々木　英明	・・・・・・・・	1065
教科教育法 算数	但木　功	・・・・・・・・	1074
教科教育法 理科	高桑　純	・・・・・・・・	1083

教科教育法 理科	高桑　純	・・・・・・・・	1092
教科教育法 生活	高桑　純	・・・・・・・・	1101
教科教育法 生活	高桑　純	・・・・・・・・	1110
教科教育法 音楽	今井　由惠	・・・・・・・・	1119
教科教育法 図画工作	笠見　康大	・・・・・・・・	1128
教科教育法 図画工作	笠見　康大	・・・・・・・・	1137
教科教育法 家庭	木下　教子	・・・・・・・・	1146
教科教育法 体育	浅野　勇	・・・・・・・・	1155
教科教育法 英語	釣　晴彦	・・・・・・・・	1164
特別支援教育総論	村田　敏彰	・・・・・・・・	1173
知的障がい教育Ⅰ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1182
知的障がい教育Ⅱ	村田　敏彰	・・・・・・・・	1191
肢体不自由児教育Ⅰ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1200
肢体不自由児教育Ⅱ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1209
病弱教育	木谷　岐子	・・・・・・・・	1218
視覚・聴覚障がい教育	伊藤　太	・・・・・・・・	1227
重複障がい教育総論	山下　秀樹	・・・・・・・・	1234
発達障がい等教育総論	木谷　岐子	・・・・・・・・	1243
教育実習指導Ⅰ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1252
教育実習指導Ⅰ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1264
教育実習指導Ⅰ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1276
教育実習指導Ⅰ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1288
教育実習Ⅰ	山口　宗兼	・・・・・・・・	1300
特別支援学校教育実習講義	山下　秀樹	・・・・・・・・	1309
特別支援学校教育実習講義	山下　秀樹	・・・・・・・・	1318
特別支援学校教育実習	山下　秀樹	・・・・・・・・	1327
教育実習指導Ⅱ	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	1336
教育実習Ⅱ	村田　敏彰	・・・・・・・・	1345
保育実習指導Ⅰ－1	美馬　正和	・・・・・・・・	1354
保育実習指導Ⅰ－1	美馬　正和	・・・・・・・・	1363
保育実習指導Ⅰ－2	小林　美花	・・・・・・・・	1372
保育実習指導Ⅰ－2	小林　美花	・・・・・・・・	1381
保育実習指導Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	1390
保育実習指導Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	1399
保育実習指導Ⅲ	美馬　正和	・・・・・・・・	1408
保育実習Ⅰ－1	美馬　正和	・・・・・・・・	1417
保育実習Ⅰ－2	小林　美花	・・・・・・・・	1426
保育実習Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	1435
保育実習Ⅲ	美馬　正和	・・・・・・・・	1444
こども学総合演習Ⅰ	笠見　康大	・・・・・・・・	1453
こども学総合演習Ⅰ	木谷　岐子	・・・・・・・・	1462
こども学総合演習Ⅰ	今井　由惠	・・・・・・・・	1471

こども学総合演習Ⅰ	白幡　知尋	・・・・・・・・	1480
こども学総合演習Ⅰ	西野　美穂	・・・・・・・・	1489
こども学総合演習Ⅰ	美馬　正和	・・・・・・・・	1498
こども学総合演習Ⅰ	村田　敏彰	・・・・・・・・	1507
こども学総合演習Ⅰ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1516
こども学総合演習Ⅰ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1525
こども学総合演習Ⅰ	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	1534
こども学総合演習Ⅰ	小林　美花	・・・・・・・・	1543
こども学総合演習Ⅰ	山本　愛子	・・・・・・・・	1552
こども学総合演習Ⅰ	佐々木　英明	・・・・・・・・	1561
こども学総合演習Ⅱ	笠見　康大	・・・・・・・・	1570
こども学総合演習Ⅱ	木谷　岐子	・・・・・・・・	1579
こども学総合演習Ⅱ	今井　由惠	・・・・・・・・	1588
こども学総合演習Ⅱ	白幡　知尋	・・・・・・・・	1597
こども学総合演習Ⅱ	西野　美穂	・・・・・・・・	1606
こども学総合演習Ⅱ	美馬　正和	・・・・・・・・	1615
こども学総合演習Ⅱ	村田　敏彰	・・・・・・・・	1624
こども学総合演習Ⅱ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1633
こども学総合演習Ⅱ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1642
こども学総合演習Ⅱ	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	1651
こども学総合演習Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	1660
こども学総合演習Ⅱ	山本　愛子	・・・・・・・・	1669
こども学総合演習Ⅱ	佐々木　英明	・・・・・・・・	1678
教職実践演習(幼・小)	山口　宗兼	・・・・・・・・	1687
教職実践演習(幼・小)	村田　敏彰	・・・・・・・・	1701
卒業研究Ⅰ	相馬　哲也	・・・・・・・・	1715
卒業研究Ⅰ	木谷　岐子	・・・・・・・・	1724
卒業研究Ⅰ	今井　由惠	・・・・・・・・	1733
卒業研究Ⅰ	白幡　知尋	・・・・・・・・	1742
卒業研究Ⅰ	西野　美穂	・・・・・・・・	1751
卒業研究Ⅰ	美馬　正和	・・・・・・・・	1760
卒業研究Ⅰ	笠見　康大	・・・・・・・・	1769
卒業研究Ⅰ	村田　敏彰	・・・・・・・・	1778
卒業研究Ⅰ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1787
卒業研究Ⅰ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1796
卒業研究Ⅰ	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	1805
卒業研究Ⅰ	小林　美花	・・・・・・・・	1814
卒業研究Ⅰ	山本　愛子	・・・・・・・・	1823
卒業研究Ⅰ	佐々木　英明	・・・・・・・・	1832
卒業研究Ⅱ	相馬　哲也	・・・・・・・・	1841
卒業研究Ⅱ	木谷　岐子	・・・・・・・・	1850
卒業研究Ⅱ	今井　由惠	・・・・・・・・	1859

卒業研究Ⅱ	白幡　知尋	・・・・・・・・	1868
卒業研究Ⅱ	西野　美穂	・・・・・・・・	1877
卒業研究Ⅱ	美馬　正和	・・・・・・・・	1886
卒業研究Ⅱ	笠見　康大	・・・・・・・・	1895
卒業研究Ⅱ	村田　敏彰	・・・・・・・・	1904
卒業研究Ⅱ	渡邉　尭宏	・・・・・・・・	1913
卒業研究Ⅱ	山下　秀樹	・・・・・・・・	1922
卒業研究Ⅱ	佐々木　雅哉	・・・・・・・・	1931
卒業研究Ⅱ	小林　美花	・・・・・・・・	1940
卒業研究Ⅱ	山本　愛子	・・・・・・・・	1949
卒業研究Ⅱ	佐々木　英明	・・・・・・・・	1958

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　人間と文化						
科目名	総合教養講座					ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸　力弥、松岡　審爾、大森　圭、小塚　美由記、渡部　俊弘						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。
国際教養学科のディプロマ・ポリシー(DP)の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローカルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
・Google Classroomの利用ができること。
・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探求する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部　俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部　俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸　力弥		

第4回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第5回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第6回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸　力弥		

第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物（あるいは食べることが許されている食べ物）について調べておく。（90分）	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。（90分）
担当教員	小塚　美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 （NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部）	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。（90分）	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。（90分）
担当教員	松岡　審爾		
第9回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。（学友会） 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。（各団体）	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。（90分）	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。（90分）
担当教員	大森　圭		

第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森　圭		
第11回	本学のカーボンニュートラルの取り組みの紹介 カーボンニュートラル推進センター	本学のカーボンニュートラルの取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	自ら実践できるカーボンニュートラルの取り組みを考える。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸　力弥		

第13回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師：青木さやかさん	ゲスト講師のこれまでの活動について、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第14回	UHB北海道文化放送制作のドキュメンタリー映画『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』の上映	上映映画について予習をする。(90分)	上映映画について復習をする。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修 えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸　力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出および授業参加の積極性から総合的に判断する。
その他	0	なし。

教科書
なし。

参考文献

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　社会と制度						
科目名	日本国憲法					ナンバリング	1120
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田　杏奈						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップにおいて、「人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」に位置づけされる。国際教養学科のディプロマ・ポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。また、国際教養コミュニケーション学科の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と主に関連する。さらに、看護学科のディプロマ・ポリシーの「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。さらに、地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」と関連する。

授業の概要

民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の精神と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。

到達目標

1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。
2. 様々な基本的人権について概要を述べることができる。
3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。
各講義中に毎回コメント（授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの）をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。
確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う（全15回）。

ICT活用

Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則――子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権――外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密――プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？――自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下の平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下の平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後――法の下の平等(1)」「Theme6 むかし親殺しありき――法の下の平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争――信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利――表現の自由(1)」「Theme9 人殺し教えます――表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ――営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活――生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ――教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて――死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪――国会(1)」「Theme17 民の声 vox Dei？――国会(2)」「Theme18 首相の選び方――内閣」「Theme19 裁判はだれのために――裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交？――天皇」「Theme15 人権の条件――平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を！――地方自治」「Theme22 憲法の変身――改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業後に提出するコメントやレポート等により評価する。
その他	0	なし。

教科書

いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣

参考文献

講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　社会と制度						
科目名	キャリア入門					ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村　悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。

授業の概要

グローバリゼーションと高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々をとりまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。

到達目標

・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	働くことの意味などを考えた上で、我々を取り巻く市場環境や「社会人基礎力」などを学ぶ。	高校生と大学生の違いと、働くことの意味について、調べ、考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	自己理解の方法の全体像を理解した上で、テストの実施を通して学ぶ。「計画的偶発性」などを学ぶ。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などの概要を理解する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などの概要を理解する。	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲など

教科書

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
・授業態度が不適切である場合（例：私語、授業内容と関係のない行為）、欠席扱いとなることがある。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　社会と制度						
科目名	キャリア形成					ナンバリング	1135
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村　悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくままに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など

教科書

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

・講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
・出欠管理は、講義内で実施予定
・グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
・授業態度が不適切な場合（例：私語、授業と関係のない行為）、欠席扱いとなることがある
・本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　自然と科学						
科目名	統計の基礎					ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田　裕康						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポロシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻ののディプロマ・ポロシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す（全15回）。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度（比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度）に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標（散布度）である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96~p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群（3群以上）の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ワーリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複（または反復）測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出（15回）
その他	50	各回ごとの宿題の提出（15回）

教科書

1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社
2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

特になし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　自然と科学						
科目名	物理学					ナンバリング	1152
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡　審爾						

授業の位置づけ

科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。
「運動学Ⅰ」(理学、作業)、「運動学Ⅱ」(理学、作業)、「物理療法学Ⅰ」(理学)、「物理療法学Ⅱ」(理学)、「物理療法学演習」(理学)と連携している教養科目である。
看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。
作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。

授業の概要

物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。

到達目標

1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。
2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。
3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。
4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。
5. 電磁現象の概略（電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質）を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる（全15回）。
毎回の内容について宿題を課す（1回目～14回目）。
9回目と15回目に試験を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。
授業の動画（パワーポイントの説明に音声を入力したもの）をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1 【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則(F＝ma)および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41,p43, p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	力学4【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	力学5【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	力学6【剛体の力学】・剛体の力学―剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。	教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力（慣性力）を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。	教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率（ヤング率、剛性率）の違いを知る。	教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	力学9【流体の力学】・流体の力学―流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第10回	【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。	教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシターの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していなくてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)、各回ごとの宿題の提出(14回)および授業内(9回目と15回目)に実施する試験により評価する。
その他	0	なし

教科書

第3版 物理学入門 新装版 Web動画付／原康夫／学術出版図書

参考文献

医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社

履修条件・留意事項等

理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生,それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　外国語						
科目名	英語Ⅰ(1組)					ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山崎　メラニー						

授業の位置づけ

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを取得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行う為に必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。後期開講の英語Ⅱと連携している教養科目である。

授業の概要

本授業では、様々なスピーキングとライティングの学習を行い、ペアおよびグループワークを通して、英語でコミュニケーションを取るためのスキルを修得する。

到達目標

○自信を持って英語でコミュニケーションを取ることができる。
○スピーキングとリスニングの自信を持つことができる。
○発音とイントネーションの上達を図ることができる。

授業の方法

ポワーポイントを中心に英語活動や会話を行う。

ICT活用

ポワーポイントとグーグルクラスルームを活用して課題提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

特に無し

課題に対するフィードバックの方法

授業内や提出する物のフィードバックを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 自己紹介	自己紹介の準備(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第2回	好きな物:動物、スポーツ、食べ物に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習、好きな物の準備(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第3回	ショーアンドテル:気に入りの物を紹介する表現を学ぶ	先週の授業の復習をする、紹介する物を用意する(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		

第4回	英語で折り紙① 折り方の語彙と表現を学ぶ	先週の授業の復習をする、折り紙を用意する（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第5回	英語で折り紙② 発表	先週の授業の復習をする、発表を練習する。（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第6回	時間：時間の読み方と何時に何をする・したに関する表現を学ぶ	先週の授業の復習と自分が何時に何をするを考えておく（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		

第7回	数字と値段（日本円とニュージーランドドル）に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第8回	体と健康：体の部分と健康状態に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第9回	英語で手遊び①：2種類の手遊びを勉強する、発表の準備	先週の授業の復習をする、自分が出来そうな手遊びを調べておく（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		

第10回	英語で手遊び②:発表	先週の授業の復習をする、発表を練習する。(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎 メラニー		
第11回	学校案内:教室と学校の案内に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎 メラニー		
第12回	学校の行事:学校の行事と日付けに関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎 メラニー		

第13回	フォニックス:英語の発音の仕方、フォニックスで遊ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第14回	英語で絵本の読み聞かせ①英語で絵本の読み聞かせの仕方、発表の準備	先週の授業の復習、絵本を用意する(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第15回	英語の絵本の読み聞かせ②発表	先週の授業の復習(25分)	今期学んだ事を振り返る(10分)
担当教員	山崎　メラニー		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	60% Attitude and effort in all classes 30% Presentations 10% Feedback
その他	0	

教科書

無し

参考文献

履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　外国語						
科目名	英語Ⅰ(2組)					ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山崎　メラニー						

授業の位置づけ

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを取得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行う為に必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。後期開講の英語Ⅱと連携している教養科目である。

授業の概要

本授業では、様々なスピーキングとライティングの学習を行い、ペアおよびグループワークを通して、英語でコミュニケーションを取るためのスキルを修得する。

到達目標

○自信を持って英語でコミュニケーションを取ることができる。
○スピーキングとリスニングの自信を持つことができる。
○発音とイントネーションの上達を図ることができる。

授業の方法

ポワーポイントを中心に英語活動や会話を行う。

ICT活用

ポワーポイントとグーグルクラスルームを活用して課題提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

特に無し

課題に対するフィードバックの方法

授業内や提出する物のフィードバックを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 自己紹介	自己紹介の準備(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第2回	好きな物:動物、スポーツ、食べ物に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習、好きな物の準備(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第3回	ショーアンドテル:気に入りの物を紹介する表現を学ぶ	先週の授業の復習をする、紹介する物を用意する(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		

第4回	英語で折り紙① 折り方の語彙と表現を学ぶ	先週の授業の復習をする、折り紙を用意する（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第5回	英語で折り紙② 発表	先週の授業の復習をする、発表を練習する。（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第6回	時間：時間の読み方と何時に何をする・したに関する表現を学ぶ	先週の授業の復習と自分が何時に何をするを考えておく（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		

第7回	数字と値段（日本円とニュージーランドドル）に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第8回	体と健康：体の部分と健康状態に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		
第9回	英語で手遊び①：2種類の手遊びを勉強する、発表の準備	先週の授業の復習をする、自分が出来そうな手遊びを調べておく（25分）	今週の授業の復習（20分）
担当教員	山崎　メラニー		

第10回	英語で手遊び②:発表	先週の授業の復習をする、発表を練習する。(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎 メラニー		
第11回	学校案内:教室と学校の案内に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎 メラニー		
第12回	学校の行事:学校の行事と日付けに関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎 メラニー		

第13回	フォニックス:英語の発音の仕方、フォニックスで遊ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第14回	英語で絵本の読み聞かせ①英語で絵本の読み聞かせの仕方、発表の準備	先週の授業の復習、絵本を用意する(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員	山崎　メラニー		
第15回	英語の絵本の読み聞かせ②発表	先週の授業の復習(25分)	今期学んだ事を振り返る(10分)
担当教員	山崎　メラニー		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	60% Attitude and effort in all classes 30% Presentations 10% Feedback
その他	0	

教科書

特に無し

参考文献

履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　外国語						
科目名	英語Ⅱ(1組)					ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。

到達目標

○日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
○具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。
ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

中学校・高校で17年間、英語教員として指導した経験を生かす。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here,or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)
その他	0	

教科書

You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　外国語						
科目名	英語Ⅱ(2組)					ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語の説明など必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することに慣れさせる。

到達目標

○基礎的語彙に慣れ親しむことができる。
○日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
○具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。
ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

中学校、高等学校で17年間英語教員として指導した経験を活かす。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit10 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit10 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(25分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)
その他	0	

教科書

You’re welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　外国語						
科目名	韓国語Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	曺　順姫						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。

授業の概要

韓国語と日本語は似ていて比較的学び易いといわれるが、両者は文字や発音の面ではかなり異なる言語ある。具体的には、基本子音、基本母音の読み書きを学び、激音および濃音の子音、合成母音の順で覚える。課ごと基本会話を取り入れながら、パッチムやそれによる発音変化について学ぶ。

到達目標

文字(ハングル)を正しい発音で読め、書けるようにする。
簡単な基本会話を身につける。

授業の方法

パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる
学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業ガイダンス(授業の進行、留意点、成績評価など) ②第00課 韓国語とハングル ③簡単な自己紹介練習	なし	教科書p8～p9の復習 自己紹介を覚える。(90分)
担当教員			
第2回	第1課 基本母音 基本会話①	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p10～p11	基本母音を覚える。(90分) 授業中に学んだ単語の暗記と課題
担当教員			
第3回	第2課 基本子音字(平音①) ・有声音について 小テスト①	第2回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p12～	基本子音字(平音①)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第4回	第2課 基本子音字(平音②) ・有声音化について②	第3回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p13～	基本子音字(平音②)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			
第5回	第2課 基本子音字(激音) 基本会話② 小テスト②	第4回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p13～	基本子音字(激音)を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			
第6回	第3課 合成母音 基本会話③	第5回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p16~p17	合成母音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と 課題。(90分)
担当教員			

第7回	第3課 合成子音 基本会話④ 小テスト③	第6回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p20~p21	合成子音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第8回	第5課 パッチム(終声)	第7回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p22~23	合成子音を覚える。 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第9回	仮名のハングル表記 基礎会話⑤ 小テスト④	第9回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p25~	仮名のハングル表記と課題。 (90分) 名前をハングルで書く。
担当教員			

第10回	第6課 連音化 1文字パッチムの連音化 2文字パッチムの連音化と連音化の例外	第9回目の授業内容の復習。 (90分) 教科書p26~p27	連音化の単語の暗記と課題。 (90分)
担当教員			
第11回	連音化の応用(k－pop通して学ぶ) 基礎会話⑥ 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p28練習問題1.2	韓国語の歌詞の応用と課題。 (90分)
担当教員			
第12回	韓国について学ぶ ソウルの地下鉄 韓国プチ観光	ハングル読みの復習 教科書p19・p29を読む。(90分)	ハングル読みの課題。(90分)
担当教員			

第13回	第7課 アンニョンハセヨ？私は日本人です。① 助詞(は)、名詞＋です・ですか	ハングル単語の復習 教科書p30~p31	助詞(は)、名詞のです・ですかの復習課題 進出名詞、国名の復習
担当教員			
第14回	第7課 アンニョンハセヨ？私は日本人です。② 鼻音化、自己紹介:と言います/申します。 小テスト⑥	第13回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p32~p33	発音の変化の復習と課題。(90分) 自己紹介の文の暗記。
担当教員			
第15回	第7課 アンニョンハセヨ？私は日本人です。③ 会話文⑦と国名と職業の色々 前期復習	第14回目の授業内容の復習。(90分) 教科書p34~p35	第7課の復習。 前期復習課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題40% 小テスト30% 参加度20
その他	10	遅刻、理由無き欠席は減点します。

教科書

「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　外国語						
科目名	韓国語Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	權　永慶						

授業の位置づけ

本授業は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。
韓国語Ⅱは韓国語Ⅰより、一歩進んだ発話と基礎文法を学ぶ。
グローバル社会の中で世界の人々と交流するためのコミュニケーション能力を備えるための初級韓国語を学ぶ。

授業の概要

「韓国語Ⅰ」同様に教科書に沿って文法を学び会話力を身につける。本授業では、基本的なコミュニケーションを可能なものにするための手助けになり、話したい内容をより豊かに表現できるよう正しい発音で音読したり、学んだ表現を用い会話したりする練習をも行う。

到達目標

韓国語で趣味や好きなことなどを話せ、相手にも聞けるようにする。韓国のwebサイトや新聞から情報を入手できるようにする。

授業の方法

パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる
学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業ガイダンス 前期復習	前期復習（90分）	授業内容の復習と課題。（90分）
担当教員			
第2回	第8課 これは何ですか。① こそあど、体言の否定、助詞 の、と 家族の呼称	第1回目の授業内容の復習（90分） 教科書p36～p38	こそあど、体言の否定、助詞 の、と 家族の呼称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第3回	第8課 これは何ですか。② 会話⑧、基本名詞 小テスト①	第2回目の授業内容の復習（90分） 教科書p39～p42	会話⑧、基本名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			

第4回	第9課 学校はどこにありますか。① 助詞 が、に、と 存在詞 ある/ない	第3回目の授業内容の復習（90分） 教科書p44～p47	助詞 が、に、と 存在詞 ある/ない 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第5回	第9課 学校はどこにありますか。② 位置名詞、会話⑨、場所名詞 小テスト②	第4回目の授業内容の復習（90分） 教科書p48～p49	会話⑨ 場所名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第6回	第10課 午後に何をしますか。① 用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所 に、で、を	第5回目の授業内容の復習（90分） 教科書p50～p53	用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所のに、で、を 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			

第7回	第10課 午後に何をしますか。② 会話⑩　基本動詞 と反対語 小テスト③	第6回目の授業内容の復習（90分） 教科書p54～p55	会話⑩　基本動詞 反対語 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第8回	第11課 誕生日はいつですか。① 漢数詞、曜日	第7回目の授業内容の復習（90分） 教科書p56～p58	漢数詞、曜日 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第9回	第11課 誕生日はいつですか。② 後置否定形、会話⑪ 小テスト④	第8回目の授業内容の復習（90分） 教科書p58～p61	後置否定形、会話⑪ 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			

第10回	第12課 どちらにお住まいですか。① 尊敬形、口語体助詞 と、副詞	第9回目の授業内容の復習（90分） 教科書p62～p64	尊敬形、口語体助詞 と、副詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第11回	第12課 どちらにお住まいですか。② 会話⑫ 体の名称 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習（90分） 教科書p65～p67	会話⑫ 体の名称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			
第12回	第13課 どんな映画が好きですか。① ヘヨ体	第11回目の授業内容の復習（90分） 教科書p68～p70	ヘヨ体 授業中に学んだ単語の暗記と課題。（90分）
担当教員			

第13回	第13課 どんな映画が好きですか。② 前置否定形、会話⑬、趣味名詞 小テスト⑤	第12回目の授業内容の復習(90分) 教科書p71～p73	前置否定形、会話⑬、趣味名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第14回	韓国文化を学ぶ:映画鑑賞	第13回目の授業内容の復習(90分)	感想文を書く
担当教員			
第15回	第14課 固有数詞 前期復習	前期復習(90分) 教科書p74～p75	前期復習 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題40% 小テスト30% 参加度20%
その他	10	遅刻、理由無き欠席は減点します。

教科書

「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　スポーツと健康						
科目名	生涯スポーツA					ナンバリング	1198
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。
スポーツ・運動することの重要性を学ぶための科目である。
また、生涯スポーツを通して、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を高めるための科目である。
「保育内容指導法（健康1・2）」と関連する。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について理解する。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、生涯スポーツとは何か、生涯スポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
③生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。
④生活習慣病について理解を深め、予防の方法を知ることができるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。 生涯スポーツとは何か、生涯スポーツの必要性と意義を解説する。	前期の学習内容と健康と関りを調べておくこと スポーツ・運動の必要性を調べておくこと(90分)	スポーツ・運動と健康の関りについて理解しておくこと スポーツ・運動の必要性をよく理解しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	熱中症予防について、水分補給についての重要性や方法等を解説する。	熱中症について調べておくこと(90分)	熱中症の危険性、水分補給の重要性をよく理解しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	カロリー・糖質について理解し、ダイエットとの関係について解説する。	自分なりの「ダイエット」について考えておくこと(90分)	ダイエットとカロリーや糖質との関係について理解しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	体温について 体温と身体に与える影響を学ぶ	体温が与える影響について調べる(90分)	体温が与える影響について理解しまとめる(90分)
担当教員			
第5回	常在菌について 常在菌と身体の関係、身体に与える影響について学ぶ	常在菌とは何か、どのようなものがあるかを調べる(90分)	常在菌と身体の関係、身体に与える影響について理解しまとめる(90分)
担当教員			
第6回	こどもの体力について こどもの体力の現状と運動能力とは何かを学ぶ	こどもの体力について現状を調べる 運動能力とはどのようなものかを調べる(90分)	こどもの体力の現状をよく理解し、今後の課題を考える 運動能力にはどのようなものがあるかをまとめる(90分)
担当教員			

第7回	生活習慣病（高血圧症・脂質異常症・糖尿病・メタボリックシンドローム）の危険性について学ぶ。 生活習慣病を予防するために効果的な運動を学ぶ。	生活習慣病（高血圧症・脂質異常症・糖尿病・メタボリックシンドローム）について理解する(90分)	生活習慣病（高血圧症・脂質異常症・糖尿病・メタボリックシンドローム）についてよく理解しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	まとめ（試験） 「生涯スポーツA」のまとめと復習	7回の資料に目を通す（90分）	7回の授業を通し「生涯スポーツA」の重要性や今後の課題についてまとめる（90分）
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点30%(準備・後片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価70%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　スポーツと健康						
科目名	生涯スポーツB(1組)					ナンバリング	1199
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。
スポーツ・運動することの重要性を学ぶための科目である。
また、生涯スポーツを通して、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を高めるための科目である。
「保育内容指導法(健康1・2)」と関連する。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するこころを育てることができるようになる。
③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム（グループ）分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ーパス・シュートなどの個人技術を2人・3人のプレーに生かしゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ーパス・シュートなどの個人技術を活用し4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ ソフトボールーゲーム（キャッチ・スロー・バッティング技術を活用）を行う。 テニスーラリー（フォアハンド・バックハンド技術を活用）を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う。	ニュースポーツにはどのような競技があるかを調べる。（20分）	基本技術・ルールの確認。（25分）
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(3) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(4) 応用技術を活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%（準備・片付け・受講態度など）、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ（屋内用）を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　スポーツと健康						
科目名	生涯スポーツB(2組)					ナンバリング	1199
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。
スポーツ・運動することの重要性を学ぶための科目である。
また、生涯スポーツを通して、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を高めるための科目である。
「保育内容指導法(健康1・2)」と関連する。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するこころを育てることができるようになる。
③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム（グループ）分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ーパス・シュートなどの個人技術を2人・3人のプレーに生かしゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー)ーパス・シュートなどの個人技術を活用し4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ ソフトボールーゲーム（キャッチ・スロー・バッティング技術を活用）を行う。 テニスーラリー（フォアハンド・バックハンド技術を活用）を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う。	ニュースポーツにはどのような競技があるかを調べる。（20分）	基本技術・ルールの確認。（25分）
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。（20分）	実施の内容と感想を書きとめておく。（25分）
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(3) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	ニュースポーツ(4) 応用技術を活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	ニュースポーツ(5) 応用技術を活用しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%（準備・片付け・受講態度など）、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ（屋内用）を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　総合領域						
科目名	情報処理					ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常見　裕子						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の学修や社会で必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。

到達目標

1. ワープロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4、プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトの操作を理解するために、教科書会社が提供するeラーニングシステム（NESS）により各自が主体的に確認テスト問題を行う（第3回～第11回、第13回、第14回）。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるe-ラーニングシステム（NESS）を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。また、教科書会社が提供するOffice2021のリファレンス動画サイトを用いて基本的な操作の自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステム（NESS）により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫Wordの基本的操作として、起動、画面構成、リボンを概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。また、文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2) 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson2)。	シラバスを読み、教科書のp30～p47, p250～p257を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。また、タッチタイピングの練習を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫Wordの基本的操作として文字の修正・範囲指定・変換、文字の変更、文字の移動・複写方法を習得する(§2-STEP1のLesson3)【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術としてのcookie, パスワードの管理を習得する。また、不正アクセス法について学ぶ。ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺対策の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp47下～p59,p258～p267を読んでおく。不正アクセス禁止法について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点(§5-STEP2のLesson2)および個人情報の漏洩対策を学ぶ(§5-STEP2のLesson3)。	教科書のp60～p67上半分, p271～p275を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する（§2-STEP2のLesson1）。	教科書のp67下半分～p75上半分を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する（§2-STEP2のLesson1）。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する（§2-STEP2のLesson2）	教科書のp75下半分～p90を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】≪Word≫レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する（§2-STEP2のLesson2）。 【情報の分析評価】≪Excel≫表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する（§3-STEP1のLesson1）	教科書のp91～p97, p100～p106を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析評価】≪Excel≫データの表示設定（文字・表示形式、罫線の設定、行の高さ・列幅の変更）を習得する（§3-STEP2のLesson1）。	教科書のp107～p121を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp122練習9を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】≪Excel≫印刷手法（改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する（§3-STEP2のLesson2）。数式の入力方法・コピー、合計の計算を習得する（§3-STEP2のLesson3）。 §2Word-Section2の試験(20問)を実施する。	教科書のp123～p138を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】≪Excel≫相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。また、条件に応じて処理を変えるIF関数,ネストを習得する（§3-STEP2のLesson3）。	教科書のp139～p152を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第10回	【情報の分析評価】≪Excel≫あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。グラフの要素、縦棒グラフおよび円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書のp153～p176を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第11回	【データの分析演習】≪Excel≫ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。(教科書にはない)。 【データベース】≪Excel≫データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、オートフィルターによる抽出と並べ替えを修得する。(教科書にはない)。	データベースについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【データベース】≪Excel≫データベース機能における数値フィルター、テキストフィルター、トップテン機能を修得する。 【ピボットテーブル】≪Excel≫データベースから集計表を作成できるピボットテーブルを修得する。 §3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を実施する。	データベース、ピボットテーブルについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】≪PowerPoint≫プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§4-STEP2のLesson1)。	教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】≪PowerPoint≫Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§4-STEP2のLesson2)SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§4-STEP2のLesson2)。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの§4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】≪PowerPoint≫発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§4-STEP3のLesson2)。 §4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を実施する。	教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。
その他	0	なし

教科書

イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Ofice2021対応／ノア出版

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください（キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場）。やむを得ずネット通販で購入の場合は必ず新品を購入してください。メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　総合領域						
科目名	数理・データサイエンス・AI入門					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡　審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。

授業の概要

ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能（AI）を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意するべき事項も学習する。

到達目標

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
数理・データサイエンス・AIを活用するあたって留意すべき事（ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理）について説明できる。
実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う（第7回、第8回）。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する（全8回）。Google Formを用いて意見を出し合う（第7回、第8回）。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI（(Artificial Intelligence：人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体（e-Stat等）の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの特徴を表す方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数の関係を調べるための方法として、散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法（教師あり、教師なし、強化学習）を理解する。 【AIの手法1：教師あり機械学習（回帰）】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2：教師あり学習（分類）】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 ：教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(＝連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 ：ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教師なし機械学習のクラスタリング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI利活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 （ゲスト講師：山本光喜EZOAI代表）	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項－情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1－ELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI（Ethical：倫理的、Legal：法的、Social Issues：社会的課題）について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を疎外するバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題（AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権）について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

なし
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	教養科目　総合領域						
科目名	数理・データサイエンス・AI実践					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡　審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。

授業の概要

表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。

到達目標

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
データを分析できる形に整えることができる。
データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
データの特徴を説明することができる。
任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく（全8回）。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する（全8回）。パソコンを用いた演習を行う（全8回）。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量（代表値の計算、データのばらつき（分散、標準偏差））を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理（順次処理、条件分岐、反復処理）のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理（順次処理、条件分岐、反復処理）のうち反復処理を体験する。 【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習（回帰）】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析（単回帰、重回帰）を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習（分類）】 Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類（ロジスティック回帰など）を体験する。また、k-means法によるクラスタリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局
Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社
Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社

履修条件・留意事項等

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール(木谷　岐子)					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷　岐子						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体でオリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【発想法② 】ブレーンストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレーンストーミングについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員			
第9回	【文献検索活動② 】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた図書を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の要約を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	【文献検索活動③】図書を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール(小林　美花)					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

保育士の勤務経験があり、保育について幅広い知識を有している。この経験を活かして、保育内容、保育環境、子育て支援等について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体でオリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【自己理解】自分史を作成し、自己理解における方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、自分史について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【発想法】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第6回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第7回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む。(20分)
担当教員			
第8回	【文献検索活動② 】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた図書を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の要約を完成させる。(20分)
担当教員			
第9回	【フィールドワーク①】子育て支援センターにおける、子育ての支援の実際について学ぶ。	恵庭市の子育て支援センターについて調べる。(25分)	子育て支援について考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第10回	【フィールドワーク②】子育て支援センターを利用する、保護者の状況について学ぶ。	子育て中の保護者の実態について調べる。(25分)	保護者の実態についてまとめる。(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門基礎科目 学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール(佐々木 雅哉)					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ(3年)に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教諭、また管理職としての経験を生かし、初等教育において教師が身につけておきたい事項について提供する。「教育に携わる者」として、学び続けるための方法をともに考えたい。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体でオリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第4回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【発想法② 】ブレーンストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレーンストーミングについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	【文献検索活動】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員			
第9回	【自主活動計画 】 ・ゼミとして活動したいこと、ものを討議し、計画を立案する。	ゼミ活動の構想を練る。(25分)	実践に当たり、必要事項を整理する。(20分)
担当教員			

第10回	【自主活動】 ・実際の活動を組み立て、実践する。計画から実施までの学びを他者と共有する。	運営が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	自主活動について学んだことをまとめる(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%) 2.参加姿勢(30%) 3.小論文(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。
・受講者の自主活動計画の内容によって、授業内容の変更や授業順序の入れ替えがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール（白幡　知尋）					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡　知尋						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ（3年）に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。
また、研究・調査の実践として学外におけるフィールドワークも予定している。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法なども視野に入れつつ、レポート作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。（白幡）

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを読み、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布資料等を復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第2回	フィールドワークに向けての事前学習を行う。 配布資料およびグループワークにより、フィールドでの実施内容を検討する。	配布資料に沿ってアイディアをまとめる。(25 分)	配布資料に沿ってグループでの意見をまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第3回	フィールドワーク1 第2回に各クループで決定した計画に沿って行う。	配布資料から計画を確認する。(25 分)	フィールドにおける知見をまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		

第4回	フィールドワーク2 第2回に各クループで決定した計画に沿って行う。	配布資料から計画を確認する。(25 分)	フィールドにおける知見をまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第5回	フィールドワーク3 第2回に各クループで決定した計画に沿って行う。	配布資料から計画を確認する。(25 分)	フィールドにおける知見をまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第6回	レポート作成時に留意する事項について学ぶ。	配布資料を読み、内容を確認する。(25 分)	学んだ内容をもとに作成するレポートのアイディアをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		

第7回	情報収集について学ぶ。 図書館の利用や文献検索について。	配布資料を読み、内容を確認する。(25 分)	学んだ内容をもとに作成するレポートに関する情報について考えをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第8回	レポート作成の実践1 各自の興味に沿ったレポートを作成するにあたり、調査計画を示す。	配布資料を読み、内容を確認する。(25 分)	学んだ内容やほかの人たちの意見をもとに、作成するレポートのアイディアをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第9回	レポート作成の実践2 図書館を利用するなどして、計画したテーマについてレポートを作成する。	配布資料を読み、内容を確認する。(25 分)	学んだ内容やほかの人たちの意見をもとに、作成するレポートのアイディアをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		

第10回	レポート内容発表 各自のレポートをもとに発表を行い、質疑応答を受ける。	配布資料を読み、内容を確認する。(25 分)	調査した内容に加えほかの人たちからの質疑応答をもとに、各自の調査結果をより深く理解する。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第11回	フィールドワークのレポート・プレゼンテーション作成1	これまでの資料や個々の記録をまとめておく。(25 分)	学んだ内容をもとに作成するレポートのアイディアをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第12回	フィールドワークのレポート・プレゼンテーション作成2	これまでの資料や個々の記録をまとめておく。(25 分)	学んだ内容をもとに作成するレポートのアイディアをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		

第13回	フィールドワークのレポート・プレゼンテーション作成3	これまでの資料や個々の記録をまとめておく。(25 分)	学んだ内容をもとに作成するレポートのアイディアをまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第14回	フィールドワークの成果発表を行う。	レポート・プレゼンテーションの内容をもとに、各グループでの発表について確認しておく。(25 分)	自分たちのグループ発表および他グループの発表について，内容と質疑応答についてまとめ理解を深める。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
第15回	活動内容の振り返り フィールドワークで得られた知見を全員で共有する。	前回の各発表内容を確認しておく。(25 分)	今回の討議内容等をまとめる。(20 分)
担当教員	白幡　知尋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書

適宜資料を配布する。

参考文献

なし。

履修条件・留意事項等

フィールドワークの際には、事前の注意事項等をよく確認し、時間を守って行動する。

備考欄

準備については必要に応じて連絡を行う。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール（西野　美穂）					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ（3年）に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第4回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定①】メンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行う。	研究活動・テーマについてあらかじめ検討しておく(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【活動内容・テーマの確定②】前回に引き続き、メンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行う。	研究活動・テーマについて前回の授業を踏まえて検討しておく(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【グループ活動①】必要な資料の収集し、その内容を検討する。	研究活動・テーマについて前回の授業を踏まえて検討しておく(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	【グループ活動②】必要な資料の収集し、その内容を検討する。鶴岡記念図書館を利用し、資料の収集をする。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員			
第9回	【グループ活動③】必要な資料の収集し、その内容を検討する。鶴岡記念図書館を利用し、資料の収集をする。鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	【グループ活動④】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール（山下　秀樹）					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ（3年）に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験や研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第4回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【発想法② 】ブレーンストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレーンストーミングについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員			
第9回	【文献検索活動② 】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール（山本　愛子）					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ（3年）に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有している。また、本学子育て教育地域支援センターにおいても臨床実践を続けてきた。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体でオリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【発想法② 】ブレーンストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレーンストーミングについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員			
第9回	【文献検索活動② 】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた図書を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の要約を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	【文献検索活動③】図書を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　学びの理解						
科目名	基礎ゼミナール（渡邉　尭宏）					ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学における学びの基礎を身につける科目である。ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ（3年）に接続していくための基礎となる科目である。

授業の概要

基礎ゼミナールでは、グループ活動を基本として、主体的な活動や発表をもとに、ゼミナールのメンバー同士で学びを深め合う。具体的には、研究や調査活動で必要となる文献探索方法、文献講読方法、レポート作成方法、そしてレポートに基づく対話や討議のスキルを身に付ける。

到達目標

1. 学習・研究活動に必要な文献探索、文献講読、レポート作成の基本的スキルを身に付けることができる。
2. 主体的に課題に取り組むことができる。
3. 他者（仲間）と協働し課題に対し探究的に取り組むことができる。

授業の方法

初回は、配布物とパワーポイントを用い、講義形式でガイダンスを行う。
2回目からは、それぞれの担当者のもとで、文献探索、文献講読、対話・コミュニケーション活動、レポート作成等を行っていく。学生諸君の意欲的で主体的な活動参加により、レポート内容に関する対話によって、相互に学びを深めていく。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園での担任、管理職業務。また、保育所での園長業務と民間の学童保育の代表の実務経験から、現場での経験を交え、研究の基礎的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりすることでフィードバックを行う。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション を行う。 大学における学びのあり方は、ゼミナールにおける探究的な学び、学生相互の学び合いにあることについて考えを深める。	シラバスを一読し、15回の授業の展開を確認する。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	【アイスブレイキング】 各グループに分かれてゼミ活動を行う。まずは、メンバー同士でアイスブレイキングや自己紹介等を行い、リレーション(あたたかな人間関係、つながり)を生み出す。	第2回のシラバスを一読し、自分を紹介する内容などを考える。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	【コミュニケーション活動①】グループで行うゲームやワークを通して、探究活動の基礎である協力関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、グループで行うゲーム等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	【コミュニケーション活動②】 グループ活動を円滑に遂行するために、傾聴・対話の方法を学び、信頼関係を育む。	第3回のシラバスを一読し、信頼関係を育む傾聴・対話の方法等について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	【発想法①】マインドマップを作成し、自分の思考を外在化する方法を学ぶ。	第5回のシラバスを一読し、マインドマップについて調べる。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	【発想法② 】ブレーンストーミングを体験し、他者と協働して発想していく方法を学ぶ。	第6回のシラバスを一読し、ブレーンストーミングについて調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	【発想法③】K-J法を用いて、発想をまとめ、新たな思考を見出す方法について学習する。	第7回のシラバスを一読し、K-J法について調べる。(25 分)	配布プリントを復習し、考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	【文献検索活動①】鶴岡記念図書館等における文献検索の方法を学ぶ。	第8回のシラバスを一読し、鶴岡記念図書館のHPを検索する。(25 分)	鶴岡記念図書館から借りた図書を読む(20分)
担当教員			
第9回	【文献検索活動② 】鶴岡記念図書館での文献検索によって得られた文献を用い、文献の要約について学ぶ。	鶴岡記念図書館から借りた図書を読み重要な部分をピックアップする。(25分)	鶴岡記念図書館から借りた図書の文献の要約を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	【文献検索活動③】文献を要約したものを、他者と共有し、学び合う。	図書の文献の要約が他者に伝わるものになっているのかを確認する。(25分)	文献の要約方法について学んだことをまとめる(20分)
担当教員			
第11回	【小論文作成①】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する方法を学ぶ。	第11回のシラバスを一読し、これまでに自身が記述してきた小論文を読み返す。(25 分)	小論文の構成を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	【小論文作成②】与えられたテーマについて、自身の思考や発想を整理し、他者に伝わる小論文を作成する。	完成させた小論文の構成から内容を考える。(25分)	小論文を完成させる。(20分)
担当教員			

第13回	【小論文作成③】作成した小論文を互いに読み合い、理解したことを伝え合う。自身の表現と他者の理解の一致や相違から、自身の文章表現について理解を深める。	完成させた小論文を点検する。(25分)	小論文を作成して学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	【プレゼンテーション】プレゼンテーションの基本的な方法について学び、情報を分かりやすく伝える方法をメンバー間で討論する。	第14回のシラバスを一読し、プレゼンテーションの基本的な方法について調べる。(25分)	プレゼンテーションの基本的な方法について学んだことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	【振り返りとまとめ 】15回の授業を通して、基礎的な研究能力の養成を図ってきた。これまでの取り組みや演習について全体を振り返り、自己評価と相互評価を行う。	これまでに配布されたプリントを読み直し、基礎ゼミナールの意義を再確認する。(25 分)	基礎ゼミナールを通して学びを深められたことについてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.課題(40%)2.参加姿勢(30%)3.レポート(30%)
その他	0	

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

・卒業必修の科目である。
・レポート等は提出期限を厳守する。
・ゼミの日程など柔軟な対応が必要なこともあるので留意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門基礎科目 学びの理解						
科目名	基礎音楽					ナンバリング	2208
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	西野 美穂						

授業の位置づけ

大学における学修の基礎的な能力を身につけるための科目である。変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになるための科目である。(ディプロマポリシーの思考・判断・表現)学生が将来、保育者として、子ども達と楽しく音楽活動ができるようになるために、必要な音楽の基礎的知識を身につけるための科目である。(ディプロマポリシーの知識・技能)子育て支援者としての基本的な技能・表現力を身につけるための科目である。(ディプロマポリシーポリシーの知識・技能)
「表現Ⅰ幼児音楽」と連携し、「保育内容指導法(音楽表現1，2)」、「教科教育法音楽」、「総合表現音楽Ⅰ，Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業では保育における器楽演奏や歌唱指導などの音楽活動に必要な読譜や音楽表現の基礎知識を学ぶ。ピアノ学習や弾き歌いの練習を円滑に進めるために必要な読譜の知識を習得するために音楽理論(楽典)の基礎を学ぶ。さらに、子どもの遊びや、育みたい資質や能力を支援するために必要な音楽知識・技能を学び、豊かな感性を表現する力を実践的に習得する。

到達目標

○ 読譜（楽譜を読むこと）のための「きまり」である楽典の基礎的な知識が身につき、初めての曲でも演奏できる。
○ 簡単な記譜（楽譜を書くこと）ができる。
○ さまざまな音楽の鑑賞を通して知識を深め、豊かな感性をもって楽しく音楽活動ができる。

授業の方法

板書と配布印刷物を活用しながら講義形式ですすめる。必要に応じて楽器を使い、グループで実際に音を出して理解を深める。
視聴覚メディア（CDやDVD）を活用してさまざまな音楽を鑑賞し、芸術的感性を育む。

ICT活用

google classroomを活用し、情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業内で行う小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・ 楽譜の基礎知識について。 ・ なぜ楽典が必要であるかの説明。 音の高さ① ・五線と加線、音部記号の種類(ト音記号、ヘ音記号)、さまざまな譜表(大譜表、アルト譜表など)を理解する。 ・五線譜に音符や音部記号が正確に書けるようにする。	・シラバスを読んで、本科目の内容を把握しておくこと ・教科書のp28～p31を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げ、ト音記号、ヘ音記号が正確に書けるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	音の高さ② ・音名(日本語、イタリア語、ドイツ語、英語)が正確に読めるようにする。 ・変化記号(♯、♭など)、異名同音、幹音と派生音について理解する。 ・変化記号の効力について理解する。 ・楽譜を書く練習をする。 音楽鑑賞1 ・ルネサンスとバロック時代の音楽	教科書のp32～p39を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第3回	音の長さ① ・音符と休符、付点音符と付点休符、タイ、連符について理解する。 ・楽譜を書く練習をする。 音楽鑑賞2 ・バロック時代の音楽(バッハ)	教科書のp20～p25を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			

第4回	音の長さ② ・拍子、縦線と小節、拍子記号、いろいろな拍子、弱起と強起について理解する。 音楽鑑賞3 ・古典派時代の音楽①（モーツァルト）	教科書のp20～p25を読んでおくこと（90分）	配布されたプリントを仕上げておくこと（90分）
担当教員			
第5回	音の長さ③ ・拍子の復習。 ・リズム譜によるリズム打ちをする。 ・カホンを使って強弱拍の理解を深める。 ・グループでリズム譜を見て練習する。 音楽鑑賞4 ・古典派時代の音楽②（ベートーヴェン）	教科書のp26～p27を読んでおくこと（90分）	配布されたプリントを仕上げておくこと（90分）
担当教員			
第6回	音程① ・音程の度数の数え方、音程の種類（ 長短系・完全系）について理解する。 音楽鑑賞5 ・ロマン派時代の音楽①（シューベルト、シューマン）	教科書のp82～p84を読んでおくこと（90分）	配布されたプリントを仕上げておくこと（90分）
担当教員			

第7回	音程② ・2音間の音程の度数を数え、音程の転回について理解する。 音楽鑑賞6 ・ロマン派時代の音楽②(ショパン)	教科書のp85～p93を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第8回	音階① ・音階(長音階)について理解する。主音、属音、下属音、導音の役割、調号について理解する。 音楽鑑賞7 ・近現代の音楽(ドビュッシー、ラヴェル)	教科書のp96～p107を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第9回	音階② ・短音階(自然的、和声的、旋律的短音階)について理解する。 音楽鑑賞8 ・近現代の曲音楽(バルトーク、ストラヴィンスキー)	教科書のp108～p118を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			

第10回	音階③ ・移調、転調、関係調について理解する。簡単なメロディーを移調する練習をする。 音楽鑑賞9 ・邦楽（雅楽、民謡）	教科書のp123～p130を読んでおくこと（90分）	配布されたプリントを仕上げておくこと（90分）
担当教員			
第11回	音楽の記号 ・強弱記号、速度記号、奏法に関する記号、曲想に関する記号、反復記号について理解する。 音楽鑑賞10 ・世界の民族音楽	教科書のp44～p71を読んでおくこと（90分）	配布されたプリントを仕上げておくこと（90分）
担当教員			
第12回	和音① ・三和音、和音記号、三和音の種類、七の和音、転回、終止について理解する。ピアノを用いて和音の聴音をし、響きの違いを理解する。 音楽鑑賞11 ・オペラ、ミュージカル	教科書のp134～p149を読んでおくこと（90分）	配布されたプリントを仕上げておくこと（90分）
担当教員			

第13回	和音② ・コード・ネーム、メジャーコード、マイナーコードについて理解する。 ・ピアノでコードを弾いて響きを確認する。	教科書のp151～p157を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第14回	和音③ ・コードの活用(コードの転回形、伴奏付けの実際) C、F、G のコードで簡単なこどもの歌が伴奏できるようになるまでコードに慣れる。	教科書のp158～p159を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第15回	まとめ ・今までの授業内容を確認する。 確認テストを行う。	今までの授業の中で理解できていない部分を復習しておく(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	必要に応じた授業中の小テスト、課題レポート提出、授業態度
その他	50	第15回の授業内で確認テストをする。

教科書

音楽通論/教芸音楽研究グループ編/教育芸術社
こどもの歌曲200選/ 松山 祐士 編著/ドレミ楽譜出版社

参考文献

実用楽典/澤野立次郎編/ドレミ出版社

履修条件・留意事項等

必ず、五線ノートを用意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　教育と保育の理解						
科目名	保育方法の理論と実践					ナンバリング	2220
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている（知識・技能）、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる（思考・判断・表現）」と関係する科目である。

授業の概要

保育内容についての理解のうえに、こどもの発達援助に適した保育方法を学び、さらによりよい保育を実現できるように考察を深める。保育方法の原理、環境による保育、遊びを通しての総合的指導、一人一人への発達援助について、具体例を取り上げながら解説する。また、指導計画を作成し、現場に立つための実践的学習を積み重ねる。

到達目標

・こどもの一人一人の自発性、主体性を尊重することの大切さが説明できる。
・保育の人的環境として大切な、応答的な保育の基本を挙げることができる。
・こどもとの遊びの技能や保育技術の基本を述べることができる。

授業の方法

教科書、プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い理解を深める。適宜、グループワークを通して保育の方法、内容を検討する。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

保育所、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務に基づき、保育内容・方法・こどもとの関わり方・指導案の書き方等について、保育実習および幼稚園実習に向けて実践的授業の取り組みをする。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対してはコメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要: 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。保育の方法について考えてみる。	保育原理の教科書を見返しておくこと。(90分)	実際に保育現場で行われている保育について確認をすること。(90分)
担当教員			
第2回	保育方法とは何か: 保育方法とは何か。保育方法のポイントとして「保育観」「こども観」「発達観」「こども理解」「自発性」などのキーワードをあげることが出来るだろう。キーワードからみえてくる保育方法を知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	授業で扱った保育方法についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	こども理解からはじまる保育方法: 保育の出発点としての子ども理解を知る。こどもの内面、こどもの内面の理解を支える発達を見る目などを知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	こども理解についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	環境を生かした保育方法: 環境を通しての保育とはどのような保育だろうか、環境構成にはどのような工夫が可能なのかについて知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	環境を生かした保育についてまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	遊びを通しての総合的な指導方法: こどもの発達をふまえながら遊びが学びとはどういったことをいうのか、遊びを通しての総合的な指導(保育)とはどのようなものだろうか、遊びが豊になるための援助とはどういったものかについて知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	保育における遊びについてまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	個と集団を生かした保育方法: 集団の育ちとはなにか、個の育ちとはなにか、他者への思い、育ちあう姿の深まりと広がりについて知る。(グループワーク)	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	個と集団をいかした保育についてまとめておくこと(90分)
担当教員			

第7回	こどもにふさわしい園生活と保育形態: こどもにふさわしい園生活とは何か、保育形態にはどのようなものがあるのか、1日の流れはどのようなものが望ましいのかについて考え、知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	こどもにふさわしい園生活と保育形態についてまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法: 発達段階に応じた保育方法を考え、保育指導案(部分案・1日案)の作成に必要な内容を理解する。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法についてまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法: 発達段階に応じた保育方法を考え、保育指導案(部分案・1日案)の作成に必要な内容を理解する。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法についてまとめておくこと(90分)
担当教員			

第10回	保育の計画・実践・評価: 保育の計画・実践・評価がなぜ必要なのか、保育の「計画」と「実践」の関係、子どもに即した保育の「計画」と「実践」を生み出す「評価」について知る。(グループワーク)	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	保育の計画・実践・評価についてまとめておくこと(90分)
担当教員			
第11回	家庭・地域との連携を生かした保育: 家庭との連携が生かされる保育とはどのような保育なのか、地域に開かれ、地域との連携が生かされる保育とはどのような保育なのかについて知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	地域などとの連携についてまとめておくこと。(90分
担当教員			
第12回	小学校との交流活動のデザイン: なぜ小学校と交流活動を行うのか、小学校と連携を取るにはどのように連携を取るのかなど実際の取り組みを参考にして、小学校との交流活動を知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	交流活動についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	配慮を要する子どもへの保育方法: 配慮を要する子ども(発達障害が疑われる子どもなど)への保育方法、園内の連携の必要性、保護者との連携、専門機関との連携の必要性について知る	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	配慮を要する子どもへの保育についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	保育者の成長と保育実践の深まり: 保育者が成長するとはどういうことか、保育者の専門性とは何か、保育におけるカンファレンスの必要性などについてを知る。	授業のテーマについて、参考資料や過去に学んだことから調べておくこと(90分)	保育者の成長とはどのようなものかまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ:保育方法についての復習: 保育方法の授業を振り返り、保育方法について考える。	これまでまとめたものを振り返ること。(90分)	保育の方法について全体像をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(50%)、保育指導案(40%)、授業参加の態度(10%)
その他	0	なし

教科書

「最新保育講座⑥ 保育方法・指導法」、大豆生田啓友ほか、ミネルヴァ書房

参考文献

「最新保育資料集」(1年次に購入したもの):本テキストに含まれる保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照のこと

履修条件・留意事項等

積極的な授業参加を望みます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門基礎科目 教育と保育の理解						
科目名	保育原理					ナンバリング	2222
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	村松 良太						

授業の位置づけ

本講は,【保育の本質・目的に関する科目】の領域に該当した「保育士資格取得必修科目」であり、ディプロマポリシーに基づいた講義や演習を通して、保育の意義や目的、関係法令、保育制度、保育思想等、保育所保育に関する基礎的事項について総合的に学んでいく科目である。

授業の概要

保育をめぐる理念や社会的責任、現行の制度および法規、目的・方法・内容、また思想と歴史に関する基本的な知識を身につける。その上で、今日における保育や子ども・子育てにかかわる課題をとらえ、考察する。

到達目標

1.保育の意義と目的、および関連する法令と制度について理解し、説明することができる。
2.保育所保育指針等を読み解き、そこで示されている保育の基本を理解し、説明することができる。
3.保育をめぐる思想と歴史的変遷を理解し、説明することができる。
4.保育および子ども・子育てにかかわる現状と課題を理解し、説明することができる。

授業の方法

板書、配布資料、視聴覚教材を活用した講義形式とグループワーク形式を併用して進める。

ICT活用

・Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
・教科書を基に、自らインターネットを活用した参考文献収集を通して、より内容を深める自主学習を促す

実務経験のある教員の教育内容

認定こども園を運営する学校法人において9年間の園長としての職務から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえた関り、保護者への支援、子育て支援に携わる保育士等の専門性についての実践的な経験と、保育所等の機能や役割について、家庭や地域との関係的な視点からを踏まえて、保育原理の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー等による質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	保育の理念と概念 ―「保育」という言葉にはどんな意味が込められているのだろう？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。90分)
担当教員			
第2回	保育の社会的役割と責任 ―保育に求められている「3つの責任」とは？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第3回	保育にかかわる関係法令と制度(1) ―幼稚園と保育所の違いって？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			

第4回	保育にかかわる関係法令と制度(2) ―認定こども園とは？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第5回	保育にかかわる関係法令と制度(3) ―子どもの利用施設・保育時間・保育料は誰がどうやって決めているの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第6回	保育所保育指針にもとづく保育(1) ―「保育所保育の基本原則」とは？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			

第7回	保育所保育指針にもとづく保育(2) ―どんな目標・内容・方法で子どもをはぐくむの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第8回	保育所保育指針にもとづく保育(3) ―0歳児の保育はどんなことが大切になるの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第9回	保育所保育指針にもとづく保育(4) ―3歳未満児・以上児保育ではそれぞれどんなことが大切になるの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			

第10回	保育所保育指針にもとづく保育(5) ―保育ではどんな「計画」と「評価」をするの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第11回	保育の思想と歴史(1) ―世界で保育はいつ・どのように始まったの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第12回	保育の思想と歴史(2) ―日本で保育はいつ・どのように始まったの？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			

第13回	保育の思想と歴史(3) ―日本全国に保育施設が普及したのはいつ・どうして？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。(90分)
担当教員			
第14回	保育をめぐる現状と課題 ―今日の保育・子育てはどんな困難を抱えているのだろう？―	Googleクラスルームより配信される事前学習レポートを作成する。(90分)	授業内容のうち、関心をもったテーマについて自分なりに調べ、Google Formにて提出する。90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめ		
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業中の課題や宿題の提出と内容(50%) ・授業中の作業や討議への参加度(50%)
その他	0	

教科書

『保育原理』公益財団法人児童育成協会監修 天野珠路・北野幸子編 中央法規,2019年,2000円+税

参考文献

授業内容に合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業に対し、授業計画に従ってテキストの該当部分をあらかじめ読んでくること。また授業終了後には、その内容について復習しながら再度考察すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門基礎科目 教育と保育の理解						
科目名	保育者論					ナンバリング	2224
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡邉 尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関連がある科目である。「保育原理」と関連し、「保育方法の理論と実践」へとつながる科目である。

授業の概要

保育者が子どもや保護者とともに日々努力し、研鑽していかなければならないことを理解する。社会の変化や政策動向の理解を深めつつ、保育者の職務内容を明確にし、保育者同士や保護者、地域の人々との連携重視の観点を持つ。倫理観をも含めた保育者のとしてのあり方を考え、実践的な態度を養う。

到達目標

(1)保育者として、保育所・幼稚園・認定こども園・社会福祉施設での職務を理解し,説明することができる。
(2)保育者の専門性とは何かについて考察し、理解し、自身の保育観を構築することができる。
(3)保育者の資質向上とキャリア形成について学び、自身のキャリアイメージを持つことができる。

授業の方法

テキスト、プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。15回の内、2回程度、現役保育者をゲストスピーカーとして招き、保育者としての、基礎基本、キャリアについて考える機会を設ける。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園、保育所、学童保育の保育現場での担任業務、管理職業務の経験を通し、保育者として必要なことを指導していく。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションとして授業展開、学生の到達（行動）目標,成績評価方法などについて知る。保育者に関する興味関心を明確化し、授業に取り組む意識を高める。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第2回	保育士・幼稚園教諭の1日とその役割を理解する。保育士・幼稚園教諭の1年とその役割を理解する。 指導計画の立案と行事、会議・研修への参加から見た幼稚園教諭の仕事を理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第3回	認定こども園における保育者の仕事と役割について、幼稚園や保育所と比較しながら理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			

第4回	幼稚園教諭免許状・保育士資格と教育実習・保育実習について理解する。保育の現場で学ぶ意義を考え、授業での学ぶ姿勢を「実践できる」レベルへと見直す。専門職としての観点へと転換する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第5回	子どもとのかかわりと保護者（親)とのかかわりにおいて求められる役割を理解する。保育者が社会から求められている役割、備えるべき資質について理解する。協働の態度の必要性を知る。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第6回	保育所・幼稚園教諭・保育教諭の1日の仕事の流れと留意点について現場の動きに即して理解する。 保育者になるために大学で重点的に学ぶべきことを検討する。 保育者として研鑽・研修していることなどを知り、保育士の力量形成を理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第7回	現役の保育者の講話を聞く(ゲストスピーカー)	これまでの授業で学んだことを振り返っておく(90分)	講話内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第8回	児童福祉施設における保育士の1日の仕事の流れと留意点について現場に即して理解する。 保育士(児童福祉施設)として日々、研鑽・研修していることを知り、実践的に理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第9回	チーム保育をすること、職員会議の重要性について、子どもや子育て家庭に共同で関わる視点から理解する。先輩保育者からのアドバイスをもとに、自分の保育について常にふりかえることの視点を持つ。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第10回	親の子育て困難について、家族形態、地域の教育力、子育て・生活の個別化、ジェンダーなどの視点から理解する。子ども・子育て支援新制度など、子育て支援の政策動向を理解する。親の子育て困難について、グループワークによって理解を深める。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第11回	地域子育て支援拠点における保育士の仕事と留意点について理解する。子育てしやすい地域づくりの視点から、他機関・他職種との連携の視点もふまえ、実践的に理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第12回	近年の政策動向から保育者の専門性が広く、高いレベルで求められていることを理解する。地域社会がもつ教育力、子育て機能の可能性について理解する。幼小連携、保小連携について理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			

第13回	様々な保育キャリアを持った保育者の講話を聞いて自身の保育キャリアを考える。(ゲストスピーカー)	授業のテーマについて自身のキャリアイメージを整理しておく(90分)	ゲストスピーカーの内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第14回	職務の法的根拠を知り、服務宣言について、服務義務と園務分掌(役割分担)を知り、園の一員として責任をもって常に行動することを自覚する。保育倫理綱領宣言について理解する。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第15回	保育者の職務に必要な知識を持ったか、保育者として実践的な態度で臨めることができるか、倫理観について、学生自身の観点の構築ができたか、まとめる。	保育者論に関わる自己課題を確認し、まとめる(90分)	保育者論の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、授業内のリアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)
その他	0	なし

教科書

「アクティベート保育学②保育者論」、秋田喜代美ほか、ミネルヴァ書房

参考文献

「新時代の保育双書 今に生きる保育者論 」、秋田喜代美編、(株)みらい
「保育者の地平―私的体験から普遍に向けて」、津守真、ミネルヴァ書房 等

履修条件・留意事項等

授業内で配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　教育と保育の理解						
科目名	こどもの心理学Ⅰ					ナンバリング	2226
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	川俣　智路						

授業の位置づけ

幼児・児童の心と体の発達とその支援の理解に関する科目であり、『教育と保育の理解の科目』に属する。『保育原理（1年前期）』に続き、『乳幼児心理学（2年後期）』とともにこどもの精神的、身体的、社会的発達についてその基礎的な理論を学ぶ。その後に履修する『幼児の理解（2年前期）』の基礎的な知識を得て3年次以降のより専門的な学修の基盤を形成する。ディプロマポリシーの「乳幼児期・学童期のこどもの基本的な知識」、「成長・発達を支援するための基本的資質」を身につけ、「より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」ことと関係する科目である。

授業の概要

発達心理学、教育心理学およびその関連領域から、人間の生涯にわたる心身の発達の過程について、こどもの発達に関わる環境、身体的・運動的要因、感情や認知の発達、社会性などの様々な要因とその影響について学び、科学的な発達観、教育観、保育観、こども観を育成する。

到達目標

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解することができる

2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解することができる

授業の方法

授業内では、前半に知識のレクチャーを実施し、後半はウェブ掲示板を活用しながら保育、教育に関する課題について心理学の視点からグループで議論する、課題解決型の授業を実施する。毎回の授業について事前学習、授業内容、事後学習を、次回の授業の開始時までに実施する。その他に15回の授業の中で毎回学習内容の確認問題の実施をする。また、授業の中で学習の定着度を測るための確認テストを実施する。なお、シラバスの実施回と実施内容は変更する場合があるが、その場合はその都度連絡する。

ICT活用

自身のデバイスによるクリッカーの活用、ウェブ掲示板による意見交流、ウェブフォームを使った確認問題の実施。

実務経験のある教員の教育内容

公認心理師として、学校や保育所に勤務した経験を活かして、子どもの心理や発達について講義する。

課題に対するフィードバックの方法

課題はウェブで提出として、質問への回答やコメントのフィードバックを実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	保育・教育のために心理学を学ぶことの意義。授業の進め方、単位認定の方法、受講上の注意等について理解し、心理学の基本的な性格、保育・教育との関係について学ぶ。	シラバスを通読して本科目のアウトラインを把握する。【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第2回	こどもの心身の発達的変化について「発達の順序性」「発達の方向性」「成熟優位説」「輻輳説」などについて、ゲゼルによる成熟優位説など様々な考え方からこども・保育・教育について理解する。	発達に関わる用語や理論について検索し、イメージを持っておく【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第3回	新生児は無能で白紙のような存在と考えられていた時代もあるが、胎児も学習する存在であり、個性がある。乳幼児の年齢別の言語発達の様相とその扱い方について学ぶ。	自分の赤ちゃん時代のことを調べてみたり、SNSやyoutubeで新生児に関わるコンテンツを視聴する【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			

第4回	この時期のこどもの発達とその扱い方について学ぶ。社会性の芽生えについても取り上げる。何が大人の愛情を引き出すカギになるのかといった点についても考察する。	自分の母子手帳や、SNSやyoutubeにあるコンテンツを視聴し、幼児期のイメージをつかむ。【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第5回	こどもは赤ちゃんから親から自立した存在へと発達していく。その過程で生じる「反抗」や「うそ」なども成長の証しである。フロイトの精神分析理論などから学習する。	幼い時の養育者との関わりや、子どもと養育者に関するウェブサイト、SNS、youtubeなどのコンテンツを視聴しておく【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第6回	集団生活が可能になり、友達との間の社会的関係も形成できるこの時期は幼稚園や保育所で過ごす時期であり、学ぶべきことが多い時期である。この時期の発達について学ぶ。	保育所・幼稚園時代の自分に関する情報整理したり、ウェブサイトやSNS等で保育所・幼稚園・こども園の情報を整理しておく【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			

第7回	小学校に進んだこどもは新しい環境に適応できないことも多い。バンデューラの社会的認知理論を軸に、児童期の認知能力・情緒・人格・社会性の発達等について学ぶ。	自分の小学生時代について回想すると共に、現在の小学校の発達支援について調べて整理しておく【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第8回	生涯発達の中の青年期について、エリクソンの社会的発達理論を中心に学ぶ。精神的に親から自立しようとする時期である青年期について学び、幼児・児童との関わりについても検討する。	エリクソンの発達理論について、ウェブサイト等を検索して自分なりに整理しておくこと。【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第9回	生涯発達の中の成人期・老人期 について学ぶ。社会的、経済的、精神的に自立した存在である老人への変化の過程を学ぶ。	自己の周辺の大人（親、祖父母、周囲の大人）の話、観察等から学んだことを整理する。【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			

第10回	「生涯発達とは何か？」について学び、発達とは何かについて概要を学ぶことができる。	本科目で今までに学んだ内容を整理・確認し、発達についてイメージを持つ【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第11回	現代のこどもの身体問題、運動発達の分類と方向性、乳幼児期の運動発達の様相、児童期の運動発達の様相、運動発達に影響するもの、について学ぶ。	こどもの運動の発達に関して、SNS、youtube、ウェブサイト等を検索して自分なりに整理しておくこと。【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第12回	ピアジェの発達理論、各時期の認知発達の状況、発達における社会文化的視点について学ぶ。ピアジェの臨床法の例を取りあげて具体的に学ぶ。	ピアジェの発達理論・臨床法についてネット検索やyoutubeで調べてイメージを持つ【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			

第13回	①発達障がい、②身体的障がい、③精神障がい、④ 障がいのある子どもとの関わり、⑤インクルーシブ保育・教育等について学習する。	各種の障がいについてウェブ検索、SNS、youtube等を活用してどのようなものかイメージが持てるようにする。【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第14回	感情とその機能、感情の成立と分化、感情の理解と表出、社会・文化の中での感情、感情の表現に問題と、心の表現としての感情表出とその対応について学習する。	ブリッジスの『感情の分化』の研究について調べ、そのイメージを持てるようにする【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
第15回	気質と性格、子どもの気質、性格をとらえる理論、性格を測定する方法、子どもの気質・性格の発達の保育について学ぶ。性格検査についても実践的な学習を行う。	各種の性格論・特性論についてウェブ検索やyoutubeなどを通して調べ、イメージを持つ【90分】。	講義内容について整理し説明できるようにする【90分】。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義終了後の定着度確認問題13回(2%×13回)。 授業内での確認テスト2回(24%、50%)。
その他	0	

教科書

指定しない。

参考文献

保育の心理学 2019年度 新保育士養成課程対応 本郷一夫、飯島典子編著 建帛社。
その他、適宜資料を配布する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　教育と保育の理解						
科目名	こどもの心理学Ⅱ(1組)					ナンバリング	2227
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	嵯峨　千里						

授業の位置づけ

・ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考える続けることができる(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている(知識・技能)」とも関係がある科目である。
「こどもの心理学Ⅰ」を基礎とし、保育・教育に関わるより専門的な各科目と連続する。

授業の概要

幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解するために、各種の学習理論とその教育への応用、主体的学習に関わる様々な要因、学習指導の基礎になる知識等について学ぶ。

到達目標

(1)様々な学習の形態や概念及びその過程を説明するための代表的理論の基礎を理解している。
(2)主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解している。
(3)幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動の指導と発達援助の基礎となる考え方を理解している。
(4)こどもの心身の発達と保育実践についての理解を深め、子どもの経験や学習の過程を理解している。

授業の方法

パワーポイントと視聴覚メディアを用いて理論を講義形式で説明し、グループワークやディスカッションを行う。

ICT活用

必要に応じて、グーグルフォームにて課題の提出を求める。

実務経験のある教員の教育内容

保育士として、保育所/認定こども園に従事してきた実務経験を活かし、保育に関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポート提出後、課題に対しての解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	保育・教育のための心理学を学ぶことの意義。授業の進め方、単位認定の方法、受講上の注意等について理解し、心理学の基本的な性格、保育・教育との関係について学ぶ。	教科書のp1～p15を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第2回	現代の子育て状況と求められる支援について学ぶ。	教科書のp16～p32を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第3回	保育実践において、乳幼児に関する心理学を学ぶことの重要性を理解する。	教科書のp33～p51を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第4回	発達理論の基礎的な内容を学ぶ。	教科書のp53～p75を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第5回	0歳児の発達について学ぶ。	教科書のp76～p101を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第6回	1歳児の発達について学ぶ。	教科書のp102～p122を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第7回	2歳児の発達について学ぶ。	教科書のp123～p144を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第8回	3歳児の発達について学ぶ。	教科書のp145～p164を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第9回	4歳児の発達について学ぶ。	教科書のp165～p184を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第10回	5歳児の発達について学ぶ。	教科書のp185～p207を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第11回	就学前後の子どもたちについて学ぶ。	教科書のp208～p226を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第12回	発達障がいの捉え方と、誰にとっても心地よい保育について学ぶ。	教科書のp227～p248を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第13回	保育における環境の考え方について学ぶ。	教科書のp249～p267を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第14回	子ども理解の深まりと保育者としての成長について学ぶ。	教科書のp268～p284を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第15回	本講義全体の振り返りを行い、発達とは何か、保育・教育実践において子どもの育ちをどのように捉えるべきかについて改めて考える。	これまでの講義の内容を振り返り、自分なりに考えをまとめる(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席、毎回の感想
その他	20	最終レポートの提出

教科書

新・育ちあう乳幼児心理学―保育実践とともに未来へ― 心理科学研究会(編) 有斐閣

参考文献

適宜、参考文献を紹介する

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　教育と保育の理解						
科目名	こどもの心理学Ⅱ(2組)					ナンバリング	2227
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	嵯峨　千里						

授業の位置づけ

・ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考える続けることができる(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている(知識・技能)」とも関係がある科目である。
「こどもの心理学Ⅰ」を基礎とし、保育・教育に関わるより専門的な各科目と連続する。

授業の概要

幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解するために、各種の学習理論とその教育への応用、主体的学習に関わる様々な要因、学習指導の基礎になる知識等について学ぶ。

到達目標

(1)様々な学習の形態や概念及びその過程を説明するための代表的理論の基礎を理解している。
(2)主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解している。
(3)幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動の指導と発達援助の基礎となる考え方を理解している。
(4)こどもの心身の発達と保育実践についての理解を深め、子どもの経験や学習の過程を理解している。

授業の方法

パワーポイントと視聴覚メディアを用いて理論を講義形式で説明し、グループワークやディスカッションを行う。

ICT活用

必要に応じて、グーグルフォームにて課題の提出を求める。

実務経験のある教員の教育内容

保育士として、保育所/認定こども園に従事してきた実務経験を活かし、保育に関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポート提出後、課題に対しての解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	保育・教育のための心理学を学ぶことの意義。授業の進め方、単位認定の方法、受講上の注意等について理解し、心理学の基本的な性格、保育・教育との関係について学ぶ。	教科書のp1～p15を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第2回	現代の子育て状況と求められる支援について学ぶ。	教科書のp16～p32を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第3回	保育実践において、乳幼児に関する心理学を学ぶことの重要性を理解する。	教科書のp33～p51を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第4回	発達理論の基礎的な内容を学ぶ。	教科書のp53～p75を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第5回	0歳児の発達について学ぶ。	教科書のp76～p101を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第6回	1歳児の発達について学ぶ。	教科書のp102～p122を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第7回	2歳児の発達について学ぶ。	教科書のp123～p144を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第8回	3歳児の発達について学ぶ。	教科書のp145～p164を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第9回	4歳児の発達について学ぶ。	教科書のp165～p184を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第10回	5歳児の発達について学ぶ。	教科書のp185～p207を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第11回	就学前後の子どもたちについて学ぶ。	教科書のp208～p226を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第12回	発達障がいの捉え方と、誰にとっても心地よい保育について学ぶ。	教科書のp227～p248を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		

第13回	保育における環境の考え方について学ぶ。	教科書のp249～p267を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第14回	子ども理解の深まりと保育者としての成長について学ぶ。	教科書のp268～p284を読んでおく(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
第15回	本講義全体の振り返りを行い、発達とは何か、保育・教育実践において子どもの育ちをどのように捉えるべきかについて改めて考える。	これまでの講義の内容を振り返り、自分なりに考えをまとめる(60分)	講義を受講した感想を提出する(30分)
担当教員	嵯峨　千里		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席、毎回の感想
その他	20	最終レポートの提出

教科書

新・育ちあう乳幼児心理学―保育実践とともに未来へ― 心理科学研究会(編) 有斐閣

参考文献

適宜、参考文献を紹介する

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　教育と保育の理解						
科目名	教職入門					ナンバリング	2231
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田　敏彰、佐々木　雅哉、佐々木　英明						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている【知識・技能】」ための科目である。
されに、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる【思考・判断・表現】」ための科目である。

授業の概要

今日の学校教育を担う教員の使命と職責について、教育行政及び保護者との連携や教職員の相互協力等に触れつつ、基本的な理解を促す。幼児期の保育との連携についても、教育の今日的課題として位置づけ取り扱う。授業には、教育行政担当者、地域住民、先輩教員を招き、具体的に学ぶことのできる条件を整える。子どもと地域を大切にし、同僚とともに歩み、教育実践を展開する教師となる意欲を喚起したい。

到達目標

(1) 教育への親・地域住民の期待と協力の実態を理解できる。
(2) 自らの資質形成へ向けて、努力すべき内容や過程を明確にすることができる。

授業の方法

出合った教師についての振り返りを踏まえ、授業参観・保育参観や、保護者・教員の講話を通して、教職課程の学習に向かう姿勢をつくれるよう工夫する。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末の有効な指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教員として長年勤務した経験を生かして、学校教育のあり方や教師の使命と職責、地域・保護者・幼稚園・教育委員会等などと連携することの重要性など、教職に関する基本を身につけるための授業を行う(佐々木雅、佐々木英・村田)。

課題に対するフィードバックの方法

レポートや礼状について、評価結果を提示し、次の学習に生かすよう指導する。最終レポートについては、コメントを付記して学生に返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション 授業概要と到達目標、授業計画、評価、授業の進め方について説明する。 ○教師の仕事について 教員に求められる資質の基本を説明する。	シラバスを読み内容を知ることで、講義内容を確認する。(90分)	オリエンテーション資料を再度読む。授業内容について整理しておく。(90分)
担当教員	村田　敏彰、佐々木　雅哉、佐々木　英明		
第2回	ICTの活用について 教育クラウドプラットフォームの活用について、実際に操作して体験する。	前回の授業の課題作成。(90分)	参観・見学する小学校のHPを見て学校の教育活動について確認する。(90分)
担当教員	村田　敏彰、佐々木　雅哉、佐々木　英明		
第3回	小学校訪問 受講者をグループにわけ、恵庭市の小学校を訪問させ、子ども、教育活動、学校環境について参観・見学させる。	参観・見学する小学校のHPを見て学校の教育活動について確認する。(90分)	参観・見学記録レポートの整理と提出。(90分)
担当教員	村田　敏彰、佐々木　雅哉、佐々木　英明		

第4回	小学校訪問の整理 小学校での訪問、参観・見学を通して、小学校教師の役割や工夫について整理・理解する。礼状書きも行う。	お礼状の要点を書く。(90分)	小学校への礼状を清書する。参観・見学する幼稚園のHPを見ておく。(90分)
担当教員	佐々木　雅哉		
第5回	幼稚園訪問 受講者をグループにわけ、恵庭市内の幼稚園を訪問させ、子ども、教育活動、学校環境について、参観・見学させる。	参観・見学する幼稚園のHPを見て教育活動について確認する。(90分)	参観・見学記録レポートの整理と提出。(90分)
担当教員	村田　敏彰、佐々木　雅哉、佐々木　英明		
第6回	幼稚園訪問の整理 幼稚園での参観・見学記録の交流を通して、幼稚園教師の役割や工夫について整理・理解する。礼状書きも行う。	お礼状の要点を書く。(90分)	礼状を清書する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		

第7回	教育委員会が教師に求めるもの 恵庭市の教育委員会の協力を得て、学校、教員を指導する立場から、教育の実情や今後の展望等について講話をいただく。	恵庭市の教育方針などをHPでみておく。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第8回	親(保護者)の教育への願い 子どもを学校に通わせている立場から、率直に学校、教員にかかわっての意見を述べていただく。	講話の聴き方についての学習。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第9回	教育委員会・保護者講話の整理 前々回(教育委員会)及び前回(保護者)の講話を振り返り、交流と記録の整理を行う。礼状書きも行う。	礼状の要点を整理する。(90分)	礼状を清書する。(90分)
担当教員	村田　敏彰		

第10回	小学校教員講話 小学校教員から教育実践への姿勢や実績、教員としての成長の軌跡、克服してきた困難等、ライフヒストリーを語っていただく。	学校の教員の一日について学習する。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第11回	幼稚園教員講話 幼稚園教員から教育実践への姿勢や実績、教員としての成長の軌跡、克服してきた困難等、ライフヒストリーを語っていただく。	幼稚園の教員の一日について学習する。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員	佐々木　雅哉		
第12回	小学校教員・幼稚園教員講話の整理 小学校教員の講話と幼稚園教員の講話の振り返り、交流と記録の整理を行う。礼状書きも行う。	礼状の要点を整理する。(90分)	礼状を清書する。(90分)
担当教員	佐々木　雅哉		

第13回	社会と教師 地域の中での学校・幼稚園の役割を理解し、家庭・地域との連携や「チーム学校」の必要性や意義などについて考える。	教師と家庭・地域との関係性について学習する。(90分)	記録の整理。授業内容に関する課題作成と提出。(90分)
担当教員	佐々木　雅哉		
第14回	○教員の資質能力 教員の資質能力の形成について理解し、向上のための取り組みについて学習する。 ○小中一貫教育 小中一貫教育のねらいや具体的な取り組みについて理解し、協働的な学校体制の必要性について学習する。	教員に求められる資質能力や小中一貫教育の意義について学習する。(90分)	記録の整理。授業内容に関する課題作成と提出。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第15回	○教育行政について 教育委員会の意義や仕組みについて説明する。 ○ICT教育の背景と意義について 学校教育におけるICTの役割や今後の方向性について説明する。	北海道及び札幌市の教育委員会のサイトを開き、公開されている情報の概要を調べておく。(90分)	記録の整理。授業内容に関する課題作成と提出。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講話や見学のレポートと礼状(60%) 授業内の課題(30%) 授業の参加度・出席態度(10%)
その他	0	なし

教科書

使用しない。

参考文献

小学校学習指導要領（平成29年3月）幼稚園教育要領（平成29年3月）教職履修の道筋・カルテ「生命の若木」

履修条件・留意事項等

卒業必修科目である。
幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得には必修。
一年目に履修すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　教育と保育の理解						
科目名	教育基礎論					ナンバリング	2232
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮﨑　隆志						

授業の位置づけ

以下のディプロマポリシーに対応している。
①教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)
②変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考。判断。表現)
③今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)

また、保育士資格・教育職員免許状取得のための必修科目であり、「教育の基礎的理解に関する科目」でもある。

授業の概要

教育は個人の発達を保障するとともに社会の再生産を支えている。それ故に、個人と社会の間に対立がある場合、教育は矛盾を含み、教育実践者はジレンマに陥らざるを得ない。これは教育・保育・福祉などの対人援助領域に共通した現象であり、その困難を乗り越える専門性が教育実践者には求められる。この講義では、①学習者が抱える困難と社会の構造の関連に留意しながら教育実践の基本課題を確認し、②教育実践を含む対人援助実践に即して課題解決の方法を検討する。③それらを踏まえ、教育計画・教育政策を検討する際の基本的な視点を検討する。

到達目標

①教育実践に内在する矛盾について説明できる
②対人援助実践としての教育の課題と方法について説明できる
③教育実践の発展を保障する教育計画の課題について説明できる

授業の方法

事前に各回の講義主題を提示し、事前学習を求める。講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて、各自が事前に検討した内容と資料に基づき考察した内容を総合し、グループごとの意見を集約する。最後に教員から総評を行う。

ICT活用

全体討議の際に、クリッカーを使用する場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義主題ならびに授業方法についてのガイダンス。教育学という学問が成立した背景と基本課題について説明した後に、各自の被教育経験を振り返りながら、「いい授業・教師」についての条件を討議する。それにより、この講義全体の検討課題を受講者と共有する。	シラバスを読んでおく。 自身の被教育経験を振り返り、いい意味で印象に残っている授業や教師を想い起しておく。(90分)	近代の教育が抱える困難性と教育実践の課題について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	明治から昭和に至る学校教育の歴史を映像によって振り返り、教育実践の特徴とその特徴が生じた社会的背景について、グループごとに検討を行う。その期間の教師を対人援助者としてみた場合の限界についても併せて検討する。	学校制度の歴史について調べておく。(90分)	日本の近代化過程における教育の特質について整理する。(90分)
担当教員			
第3回	対人援助をめぐる専門性論を紹介し、医学モデルに基づく援助論の意義と限界を検討する。P.フレイレの実践モデルを紹介し、そこで求められる教育実践者像をグループ討議で検討する。次回以後で取り扱う対人援助実践の課題と方法に関する仮説を整理することを目的としている。	パウロ・フレイレについて調べておく。(90分)	教育領域における医学モデルの限界について整理する。(90分) 課題レポート(1)をまとめる。課題は、「教」の側面にかかわる教育者の課題について。(90分)
担当教員			

第4回	この回から対人援助実践としての教育実践の方法について検討する。学習者との信頼関係が成り立ちがたい場合を想定し、教育実践者に求められる対応をグループで検討する。資料は看護実践の記録を用いる。	『生徒指導提要』(https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf)の1.3.1から1.3.3までを読み生徒指導の課題を考えておく。(90分)	当事者の力を引き出す支援の要件について整理する。(90分) 対人援助者としての教師に求められる役割
担当教員			
第5回	子どもどうしのトラブルが生じた場合に求められる支援の課題と方法について検討する。保育実践に関する映像資料を用いる。家庭との協働の必要性についても検討する。	『生徒指導提要』(https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf)の1.3.1から1.3.3までを読んでおく。特に集団指導の進め方について検討しておく。(90分)	対話の必要性と意義について整理する。(90分)
担当教員			
第6回	子どもの自立にとっての子ども集団の意義を検討する。学童保育に関する映像資料を用いる。家族からの自立と仲間を基盤にした自立を支援する方法をグループで検討する。	仲間集団が子どもの発達にとって持つ意義について検討しておく。(90分)	子ども集団の力を高めるための支援者の課題と方法を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	精神的な困難を抱える学習者への支援の方法を検討する。浦河べてるの家の実践を紹介し、当事者研究という方法の意義や可能性について、グループで検討する。	浦河べてるの家の実践について調べておく。(90分)	当事者研究における支援者の役割について整理する。(90分)
担当教員			
第8回	学習支援(教科指導)において、対話的で協働的な学びを組織するための教育実践者の課題について検討する。学校外の学習支援実践の映像資料に基づき、グループで検討する。	佐藤学の「学びの共同体」論について調べておく。(90分)	対話的で協働的な学びの必要性についてまとめる。 。(90分)
担当教員			
第9回	学習者の生活と教育を結合するための課題と方法を検討する。綴方教育について紹介し、生活認識・世界認識を切り開く学習の可能性について考える。	生活綴方について調べておく。(90分)	綴方教育が学習者の生活と学習を結び付けるための条件についてまとめる。課題レポート(2)をまとめる。課題は、当事者が問題解決の主体になるための支援の課題と方法について。(90分)
担当教員			

第10回	ここから教育の計画化の課題を検討する。第一回講義の主題を振り返りながら、教育における個人と社会の関連を検討する。教育の計画化にかかわる教育思想を紹介し、それを超える試みとしてデューイと宮原誠一の理論を検討する。	ジョン・デューイについて調べておく。(90分)	デューイ・宮原の提起の特徴について整理する。(90分)
担当教員			
第11回	高度経済成長期における人的能力開発論を取り上げ、経済成長と教育の計画化との関連を検討する。現代の教育改革と比較検討する。	経済成長に関わる人材養成についての最近の動向を調べておく。(90分)	人的能力開発論の意義と限界を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	1980年代の学校の荒れを取り上げ、当時の子どもたちの生きづらさの背景を教育計画の立場から考える。	校内暴力について調べておく。(90分)	「教育病理」についてまとめる。(90分)
担当教員			

第13回	2000年代における子どもたちの暴力行為に着目しつつ。その背景の一つとしての家族の変容についえ検討する。1990年代半ばからの家族の変容と福祉政策の動向を紹介し、教育に対する家族の期待の変容と教育の側の対応の課題をグループで検討する。	現代の家族の特徴について調べておく。(90分)	転換期としての現代における教育計画の課題について整理する。(90分)
担当教員			
第14回	2000年代の家庭教育の課題を検討する。「秋葉原事件」を事例にして、学習者の生きづらさの背後にある家族の問題、そして家族が抱えている困難について、グループで検討する。学習者の全人格を視野に入れた場合の対人援助としての教育実践の課題を考える。	秋葉原事件について調べておく。(90分)	学校教育と家庭教育、教育実践と家族支援の関連について整理する、(90分)
担当教員			
第15回	新たな社会を創造するための教育計画の課題について検討する。綴方から展開した地域教育運動と子どもの生活現実を踏まえた教育福祉に関わる実践を紹介し、	井沼淳一郎氏の実践記録を読んでおく(第14回の授業中に紹介)。(90分)	課題レポート(3)をまとめる。課題は教育計画の現代的課題について。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出(80%) グループ討議への参加度合い(20%)
その他	0	

教科書

指定しない。講義資料を配布する。

参考文献

勝野正章・庄井良信『問いから始める教育学』(有斐閣)
大田堯『教育とは何かを問い続けて』(岩波新書)

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	社会福祉					ナンバリング	2250
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡　是伸						

授業の位置づけ

・ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する科目である。
・保育・教育の基礎的な専門知識を身に付けるための専門基礎科目である。社会福祉の理念や社会問題の構造を理解することで、「子ども家庭福祉」や「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「こども家庭支援論」「子育て支援」等の基盤となる科目である。

授業の概要

本科目では、社会問題発生のメカニズムを学び、現代における社会福祉の意義と役割を理解する。社会福祉の歴史・制度・行財政を基にした社会福祉サービスの展開について概観するとともに地域社会にとっての社会福祉の意味やグローバル下での社会福祉の在り方についても検討する。

到達目標

1. 社会福祉法制度の基礎的知識・理解を身に着け、法制度や自らの考えを説明できるようにする。
2. 私たちの生活の中に「社会福祉」が、どのように位置づいているかを理解し、述べることができる。
3.「社会福祉・ソーシャルワーク」実践の基本的知識の理解と実際を知り、専門職者としての連携や保育士としての在り方を考え、自ら説明できるようにする。
4.社会福祉の専門職としての基本的な知識を身に付け、実践につなげるよう考えることができる。

授業の方法

1. 本講義では、講義形式で展開される。そのうえで対話型講義となる場合がある。
2. 本講義の配布物・諸連絡等については、Googleクラスルームを活用する。そのため講義必要な資料とは、Googleクラスルームよりダウンロードもしくは印刷し、講義に参加すること。
3. 本講義では、毎講義終了後にリアクションペーパーを提出し、次回以降の講義にてフィードバックする。

ICT活用

Googleクラスルームを活用する。また必要に応じてデジタルデバイスを活用する

実務経験のある教員の教育内容

特になし

課題に対するフィードバックの方法

講義のリアクションペーパーに対して、定期的に講義内でフィードバック（講評・アドバイス等）を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業のオリエンテーション ・授業の進め方や評価方法などを説明 ・現代社会と社会福祉	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	社会福祉の理念・意義 ・社会福祉の基本理念と基礎理解	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	社会福祉の歴史(1) ・社会福祉史の意義 ・イギリスの社会福祉の史的展開	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	社会福祉の歴史(2) ・アメリカの社会福祉の史的展開 ・日本の社会福祉の史的展開	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	社会福祉法制と実施体制 ・社会福祉法制と行財政	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	子ども家庭と社会福祉(1) ・子ども家庭・児童福祉の概念・対象 ・子ども家庭・児童福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	子ども家庭と社会福祉(2) ・児童虐待と社会的養護 ・ひとり親家庭と母子保健 ・少子化対策・子育て支援等の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	障がい者(児)と社会福祉 ・障がい者(児)の概念・対象 ・障がい者(児)福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	高齢者と社会福祉 ・高齢者の概念・対象 ・高齢者福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	貧困と社会福祉 ・貧困問題と社会福祉 ・生活保護・生活困窮者自立支援法等の貧困に対する施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	地域福祉の推進 ・地域福祉の現状と考え方 ・包括的相談支援体制と地域支援	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	社会保障制度 ・社会保障の概念・基本的理解 ・年金保険、医療保険、雇用保険・労災等の法制度の理解	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	社会福祉の担い手と専門職者 ・社会福祉専門職の概要、倫理、種類 ・専門職者間の連携	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	ソーシャルワーク実践 ・ソーシャルワークの基本的な理解 ・ソーシャルワークの実践事例 ・保育ソーシャルワークの基本的理解と実践事例	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	現代社会における社会福祉 ・社会福祉の動向と課題	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート50%、リアクションペーパー20%、授業参加状況30%
その他	0	

教科書

鈴木幸雄(編)『改訂現代の社会福祉』, 中央法規出版.

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

・講義は対話型講義で進められる場合があるため、積極的な講義参加を望む。
・日常において社会や地域に関心をはらい、常に学究心を持ち、講義、予習・復習にのぞんでもらいたい。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	こども家庭福祉					ナンバリング	2252
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	今西　良輔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」、「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」に関係する。

授業の概要

子どもの福祉において、発達、権利、地域の関係性を踏まえ、その理念とこれからの課題について理解する。
そして、これからどのように子どもの福祉が展開されるのか、子どもとその子どもの家庭の変遷について学習する。
専門職者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭など）が子どもに関連する法制度とその役割についての知識を深める。

到達目標

① 子どもの福祉の理念と意義の理解、関連法制度などについて説明できる。
② 子どもと家庭の歴史的変遷とその課題を理解して説明できる。
③ これからの子ども家庭福祉について、地域の現状を踏まえ課題について述べることができる。

授業の方法

授業は基本的な講義形式で行います。授業内容によってグループワークをする機会がありますので積極的に討論してください。

ICT活用

Google Formを活用したアンケートとテスト作成機能を用いて質問の受付、授業に関する問題を実施して理解を深める

実務経験のある教員の教育内容

児童相談所において、子どもと保護者への相談判定業務や子どもの生活支援の経験がある。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にリアクションペーパーもしくはクラスルームを用いて、質問などを受け付け、後日、内容のフィードバックするようにします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	現代社会と子ども家庭福祉① ～子ども家庭福祉とは何か、なぜ学ぶのか	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第2回	現代社会と子ども家庭福祉②～現代社会や保育と子ども家庭福祉ニーズを理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第3回	子ども家庭福祉の歴史的展開①～子ども家庭福祉の概念を理解し、その歴史を学ぶ	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			

第4回	子ども家庭福祉の歴史的展開②～近代から現代の歴史を学び、日本における施策を理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第5回	子ども家庭福祉の課題～子ども・子育て支援新制度を学ぶ	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第6回	子ども家庭福祉に関する法制度と実施体制①～子ども家庭福祉の制度と法体系を理解し、行政機関や児童福祉施設を理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			

第7回	子ども家庭福祉に関する法制度と実施体制②～子ども家庭福祉の費用と専門職について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第8回	子ども家庭福祉に関する法制度と実施体制③～ネットワークと権利擁護について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第9回	子ども家庭福祉施策の現状と課題①～少子化の現状を学び、子育て支援サービスや多様な保育ニーズを理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			

第10回	子ども家庭福祉施策の現状と課題②～母子保健サービスと障害のある子どもの支援について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第11回	子ども家庭福祉施策の現状と課題③～健全育成と子ども虐待について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第12回	子ども家庭福祉施策の現状と課題④～DV、社会的養護について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			

第13回	子ども家庭福祉施策の現状と課題⑤～ひとり親家庭と少年非行について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第14回	子ども家庭福祉の援助活動①～相談援助と諸外国について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
第15回	子ども家庭福祉の援助活動②～これまでの課題を整理し、今後の子ども家庭福祉について理解する	教科書の該当する項目を読んで予習してください。必要時間90分程度	授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。必要時間90分程度
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業内課題、レポート
その他	20	授業参加度

教科書

伊藤嘉余子・澁谷昌史(2022)『子ども家庭福祉[第2班]』(MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉)ミネルヴァ書房

参考文献

中坪史典・山下文一ら(2021)『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房
庄司順一・鈴木力・宮島清編(2011)『子ども家庭支援とソーシャルワーク』福村出版

履修条件・留意事項等

授業時に次週で取り上げる内容を指示するので該当するテキストを読むようにしてください。授業後は講義内容の復習をするようにしてください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門基礎科目 こども支援						
科目名	知的障がい者の心理・生理・病理					ナンバリング	2254
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関係する科目である。
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。知的障がい教育Ⅰ及びⅡの基礎となる。

授業の概要

知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる病理面や心理面及び生理面の相互作用について学ぶ。また、観察や検査を通して一人一人の特性を把握することを理解し、家庭や医療機関との連携の重要性について理解する。

到達目標

1. 知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる病理面や併存証・合併症と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。
2. 観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障がいの状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解している。
3.家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウト、視聴覚メディアを適時活用しながら授業内容を解説する。さらに、知的障がいについての理解を深めるための、グループ学習、体験学習、問題解決学習、ディスカッション等を取り入れる。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、知的障がいに関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	● オリエンテーション 講義の目的や内容、進め方についての説明を行い、15回の授業の展開を理解する。この授業で学ぶ知的障がい者の心理・生理・病理の概要を知る。	知的障がいに関するこれまでの知識や経験を整理する。(90分)	配付された資料を基に、これからの授業の見通しをもつ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	●障がいに対する考え方～ICFを元に考える ICIDHからICFへの変遷について学び、障がいとはな何か、どのように捉えるべきであるのか、障がいを理解する枠組みを学び考える。	ICFについて調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	●知能とは何か 知的障がいの原因や、知的障がいがあることに気づかれるきっかけ、知的能力とは何か、について学ぶ。また、発達検査を紹介し、知的能力を理解する枠組を学ぶ。	教科書第1章(p2～p12)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容について、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	●知的障がいがあるこどもの心理面の特徴や適応上の困難 「ことばがなかなかおぼえられない」、「物事を記憶しておくことができない」などの特性について学習し、障がいのある子どもへの理解を深める。	教科書第2章(p34～p38)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	●知的障がいがあるこどもの生理面や病理面の特徴 知的障がいのある子どもは、知能だけではなく、運動の発達にも遅れがあることがある。子どもの特徴に合わせてサポートしていくことを理解する。	教科書第1章(p26～p32)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	●知的障がいがあるこどもと家族や周囲の人との関係 家族や周囲の人との関係が、子どもの発達に大きな影響をもたらすことを理解する。また、子どもを育てる家族を支える事の意味について考察する。	教科書第3章(p76～p85)に目を通しておく。(90分)	配付プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	●知的障がいがあるこどもの気持ち～体験を通して理解する 知的なおくれとはどのような体験なのか。いくつかの体験ワークを行う。自分が体験したことをグループで話し合い、さらに理解を深める。	第2回～第6回までの配布資料を見直して、考えを整理する。(90分)	配布プリントを見直して、授業で体験した事についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第8回	●知的障がい者の心理・生理・病理の相互作用①(事例を通して理解する) 視聴覚教材視聴を通して、知能への理解、知的障がい児の心理・生理・病理の特徴についての知識を整理し、レポートにまとめて提出する。	これまで配付した資料に目を通しておく。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第9回	●知的障がい者の心理・生理・病理の相互作用②(事例を通して理解する) 視聴覚教材視聴を通して、知能への理解、知的障がい児の心理・生理・病理の特徴についての知識を整理し、レポートにまとめて提出する。	教科書第4章(p88～p95)に目を通しておく。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第10回	●知的障がいがあるこどもや家庭を支援する支援者 知的障がいがある子どもや家族を支援する立場の人の経験や考えを知り、支援者の視点を学ぶ。	教科書資料編(p98～p110)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第11回	●知的障がいに関連する諸障害①(ダウン症) ダウン症候群とともにあるこどもと、そのこどもを育てる保護者の思いや願いについて、事例とともに理解する。	ダウン症候群について調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容について、まとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第12回	●知的障がいに関連する諸障害②(自閉スペクトラム症) 自閉スペクトラム症は、社会的コミュニケーションの困難さや、興味・関心の偏り、感覚の過敏さなどの、感覚の偏りに特徴がある。視聴覚教材等を活用しながら、理解を深める。	自閉スペクトラム症について調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第13回	●知的障がいに関連する諸障害③(注意欠如・多動症) 注意欠如・多動症は、年齢に対して著しく不相応な注意散漫、多動、衝動性が見られる。視聴覚教材等を活用しながら、理解を深める。	注意欠如・多動性障害について調べる。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第14回	●知的障がいに関連する諸障害④(学習障害) 学習障害は、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	学習障害について調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容について、まとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第15回	●授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認するテストとレポートを提出する。	講義で学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%) 参加の積極性(30%)
その他	0	

教科書

こうすればうまくいく！ 知的障害のある子どもの保育 中央法規

参考文献

知的障害の心理学 小池俊英･北島善夫 編著 北大路書房

履修条件･留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理					ナンバリング	2256
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷　岐子、白幡　知尋						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と関係する科目である。
特別支援専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は必修である。肢体不自由児教育Ⅰ（2年前期）に接続し、重複障がい教育総論（4年）の基礎となる。

授業の概要

肢体不自由の定義やその原因となるさまざまな疾患損傷等について学び、通常の運動発達のプロセスや、身体各部位の名称、各関節の機能や運動及び心理について学ぶ。さまざまな身体の動きとその支援についての概要や補装具の種類など、肢体不自由者への対応の基礎的な知識について、視聴覚教材を活用しながら、また、パワーポイントと配布印刷物を用い、講義形式とグループ学習を通して、総合的に学ぶ。

到達目標

1. 肢体不自由の起因疾患(脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患)となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。
2. 観察や検査を通して、脳性まひのある幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知的の発達及び認知の特性を把握することを理解している。
3. 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウト、肢体不自由者の多様な実態を視聴覚メディアを活用しながら肢体不自由の個々の事例について説明する。さらに、肢体不自由の心理・生理・病理についての理解を深めるための、グループ学習、学生によるプレゼンテーションを取り入れる。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。また、Google Formのテスト作成機能を用いて課題を提示し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験から、肢体不自由者の心理・生理・病理についての基礎的な知識を、総合的に学ぶ授業を提供する。(木谷岐子)
歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。(白幡知尋)

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに評価やコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	● オリエンテーション(木谷・白幡) 講義の目的や内容、進め方についての説明を行い、15回の授業の展開を理解する。映像資料視聴を通して、この授業で学ぶ肢体不自由の心理・生理・病理の概要を知る。	肢体不自由児の心理・生理・病理の状態について調べる。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	白幡 知尋、木谷 岐子		
第2回	●「肢体不自由」を理解するための解剖生理学的基礎①～骨・関節・末梢神経(白幡) こどもの発達とその身体的障がいについて理解を深めることを目的に、基本的な人体の構造と機能について理解する。	理科，保険体育・生物などの科目で高等学校までに学んだ人体に関する内容を簡潔に復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、人体についての理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第3回	● 主な起因疾病の病態と家庭・医療機関との連携①～骨・関節疾患と末梢神経(白幡) 主に骨や関節に関連したものの基本的な病態を解説し，それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、主な骨と関節について復習しておく。(90分)	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。(90分)
担当教員	白幡 知尋		

第4回	●「肢体不自由」を理解するための解剖生理学的基礎②～中枢神経・筋（白幡） 主に中枢神経（脳）と筋に関連したものの基本的な病態を解説し，それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、中枢神経（脳）と主な筋について復習しておく。（90分）	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。（90分）
担当教員	白幡　知尋		
第5回	● 主な起因疾病の病態と家庭・医療機関との連携②～神経・筋疾患（白幡） 主に（抹消）神経と筋に関連したものの基本的な病態を解説し，それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、神経系について復習しておく。（90分）	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。（90分）
担当教員	白幡　知尋		
第6回	● 主な起因疾病の病態と家庭・医療機関との連携③～脳性麻痺（白幡） 脳性麻痺についての基本的な病態を解説し，それらの日常生活動作等について理解する。さらに学校と家庭および医療機関との連携について考える。	第2回の資料を基に、中枢神経系と運動器系に復習しておく。（90分）	配布された資料と課題を基に、学んだ疾患について理解を深める。（90分）
担当教員	白幡　知尋		

第7回	● 肢体不自由児の日常生活動作の評価方法（白幡） 国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health）の意義と概要を基に、具体的に日常生活活動を評価する視点と方法について理解する。	第3～6回までの資料から，学んだ疾患に見られた生活・動作に関する項目について復習しておく。（90分）	配布された資料と課題を基に、日常生活動作の捉え方について理解を深める。（90分）
担当教員	白幡　知尋		
第8回	● バリアフリーと心のバリアフリーについて①（木谷） 映像資料視聴を通して、医療的ケアを必要とする重い障がいがある人とその人を支える家族の地域での生活について考える。	重複障がいについて調べる。（90分）	映像資料視聴後の感想をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第9回	● バリアフリーと心のバリアフリーについて②（木谷） 映像資料視聴を通して、重い障がいがある人が地域で生活することの困難と、そのことの意義、また家族への支援について考える。	映像から学んだことを話し合う。（90分）	映像資料視聴後の感想をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		

第10回	● 障がいと共に生きる①（木谷） 少人数のグループに分かれ、パラリンピックスポーツを調べるためのオリエンテーションをおこなう。グループ活動の日程、活動の内容、到達目標を確認する。グループ内で役割分担をする。	パラリンピックスポーツについて調べる。（90分）	自分が割り当てられたパラリンピックスポーツについて調べる（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第11回	● 障がいと共に生きる②（木谷） 少人数のグループに分かれ、パラリンピックスポーツを調べる。スポーツの発症、ルール、注目選手をプレゼンテーション用のスライドにまとめていく。	自分が割り当てられた障がい者スポーツについて調べたことを話し合う。（90分）	自分が割り当てられた障がい者スポーツについて工夫してまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第12回	● 障がいと共に生きる③（木谷） 少人数のグループに分かれ、パラリンピックスポーツを調べる。スポーツの発症、ルール、注目選手についてまとめたスライドを確認し、発表の仕方を考える。	自分が割り当てられた障がい者スポーツについて工夫してまとめたことを交流する。（90分）	自分が割り当てられた障がい者スポーツの魅力が伝わる発表となるよう練習する。（90分）
担当教員	木谷　岐子		

第13回	● 障がいと共に生きる④（木谷） パラリンピックスポーツを調べたグループごとに調べたことを発表し、そのスポーツの魅力や選手の魅力を伝え合う。	自分が割り当てられた障がい者スポーツの魅力を伝えられる発表となっているか交流する。（90分）	他のグループの発表に対する感想をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第14回	● 障がいと共に生きる⑤（木谷） パラリンピックスポーツを調べたグループごとに調べたことを発表し、そのスポーツの魅力や選手の魅力を伝え合う。	他のグループの発表に対する感想を交流する。（90分）	他のグループの発表に対する感想をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第15回	● まとめ（木谷・白幡） この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認するテストを行う。	授業で配られた資料を振り返り、学んだ事を復習する。（90分）	この授業で配布された資料をファイリングしながら振り返り、今後も活用できる状態にする。（90分）
担当教員	白幡　知尋、木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%)グループ学習及び発表への積極性(20%) 授業参加態度(10%)
その他	0	

教科書

必要な資料はその都度配付する。

参考文献

安藤隆男著『よくわかる 肢体不自由教育』ミネルヴァ書房
特別支援学校学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 文部科学省

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	病弱者の心理・生理・病理					ナンバリング	2258
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷　岐子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関係する科目である。
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。病弱教育の基礎となる。

授業の概要

病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携について学ぶ。肢体不自由者への対応の基礎的な知識について、視聴覚教材を活用しながら、また、パワーポイントと配布印刷物を用い、講義形式とグループ学習を通して、総合的に学ぶ。

到達目標

1.病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。
2.観察や検査、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解している。
3.家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウト、視聴覚メディアを適時活用しながら授業内容を解説する。さらに、病弱教育についての理解を深めるための、グループ学習、体験学習、問題解決学習、ディスカッション等を取り入れる。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験から、病弱者の心理・生理・病理についての基礎的な知識を、総合的に学ぶ授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに評価やコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	●オリエンテーション 病弱者の心理・生理・病理について、その全体像を説明し、てんかん、小児がん、筋ジストロフィー、不登校などの概略にふれ、15回の授業内容を具体的に説明する。	病弱者の全体像について調べる。(90分)	配付された資料を基に、これからの授業の見通しをもつ。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第2回	●病気のある児童生徒が学んでいる関係機関と病弱教育の仕組みや制度 病気のある児童生徒が学んでいる関係機関と病弱教育の仕組みや制度について学ぶ。視聴覚教材等を活用しながら理解を深め、児童生徒や、教師の言葉から、その心情の理解を深める。	院内学級について調べる。(90分)	視聴覚教材視聴後の感想をまとめる(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	●糖尿病の心理・生理・病理 糖尿病は、血糖値が高くなり、尿糖が出現し、数年以上の経過で高血糖による血管を中心にした全身の障害に進行する。近年、小児糖尿病も出現し、これらの児童生徒の心理・生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	糖尿病について調べる。(90分)	糖尿病について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	●てんかんの心理・生理・病理 てんかんは、脳機能不全による慢性疾患で、脳のニューロンの過剰な放電に由来する反復性の発作を主徴とし、その発作は、多種多様な所見を伴う。発作が起こる不安を抱えつつ生活する、児童生徒の心理・生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	てんかんについて調べる。(90分)	てんかんについて学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	●気管支喘息および腎・泌尿器疾患の心理・生理・病理 気管支喘息は、笛声喘鳴を伴う、呼気性呼吸困難を繰り返す疾患であり、アレルギー、自律神経の異常、心理的要因、空気汚染など多くの要因が原因や誘因となる。また、腎臓疾患のうち腎炎とネフローゼ症候群等を取り上げ、児童生徒の心理・生理・病理について理解を深め、対応する方法等を学ぶ。	気管支喘息・腎臓疾患について調べる。(90分)	気管支喘息・腎臓疾患について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	●筋ジストロフィーの心理・生理・病理 筋原性委縮疾患には、進行性筋ジストロフィー、先天性筋ジストロフィー、神経原生筋委縮性疾患のウェルドニヒホフマン病等があり、これらの児童生徒の生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	筋ジストロフィーについて調べる。(90分)	筋ジストロフィーについて学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	●小児がんの心理・生理・病理 小児がん（小児悪性腫瘍）には、白血病、脳腫瘍、神経芽腫、悪性リンパ腫などがあり、小児がんの児童生徒の生理・病理について、視聴覚教材等を活用しながら理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	視聴覚教材から学んだことを話し合う。（90分）	視聴覚教材視聴後の感想をまとめる（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第8回	●不登校等多様なニーズを示すこどもの心理・生理・病理 こどもが示す多様なニーズとそれを支援する立場の人の経験や考えを知り、理解を深める。	こどもが示す多様なニーズについて調べる。（90分）	こどもが示す多様なニーズについて学んだことをまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第9回	●病弱者の心理・生理・病理に対する課題の発見 これまでの8回の授業で学んだ、小児がん、てんかん、気管支喘息、糖尿病、腎臓疾患、不登校等の心理・生理・病理に対して、各自がより詳しく調べてみたいこと、解決したい疑問等を見つけ出す作業を行う。調べる対象が一致した者同士で、小グループを編成する。	これまで学んできた内容を振り返り、特に印象に残っている内容を絞る。（90分）	各自が発見した課題の解決方法を考える。（90分）
担当教員	木谷　岐子		

第10回	●病弱者の心理・生理・病理に対する課題の解決①（グループ活動） 調べる対象が一致した者同士で編成した小グループ内で、各自がより詳しく調べてみたいこと、解決したい疑問等を伝え合い、それぞれの課題を解決する方法について、意見を交換する。課題解決方法の見通しができたグループから、指導教員に報告し、調査活動へと展開する。	各自の課題や解決方法について話し合う。（90分）	各自の課題の解決に向けて調査を進める。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第11回	●病弱者の心理・生理・病理に対する課題の解決②（グループ活動） 調べる対象が一致した者同士で編成した小グループ内で、各自の調査の進捗状況を確認し合う。行き詰まりを抱えるメンバーがいれば、解決方法をメンバー全員で考える。課題解決方法の見通しができたグループから、指導教員に報告し、再度調査活動へと展開する。	各自の調査の進捗状況を話し合う。（90分）	各自の課題の解決に向けて調査を進める。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第12回	●病弱者の心理・生理・病理に対する理解と表現①（グループ活動） 調べる対象が一致した者同士で編成した小グループ内で、各自の調査の進捗状況を確認し合う。行き詰まりを抱えるメンバーがいれば、解決方法をメンバー全員で考える。さらに、ポスターセッションにむけての表現方法を話合い、見通しができたグループから、指導教員に報告。表現活動準備へと展開する。	各自が調査した内容をどのように表現するか、考える。（90分）	表現の精度を高める。（90分）
担当教員	木谷　岐子		

第13回	●病弱者の心理・生理・病理に対する理解と表現②（グループ活動） 調べる対象が一致した者同士で編成したグループごとに、ポスターを発表し、ディスカッションを行う。それと同時に、他のグループの発表を聞いて理解を深める。	ポスターセッションに向けて準備する。（90分）	自分のグループの発表や他のグループの発表についての感想をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第14回	●病弱者の心理・生理・病理に対する理解と表現③（グループ活動） 調べる対象が一致した者同士で編成したグループごとに、ポスターを発表し、ディスカッションを行う。それと同時に、他のグループの発表を聞いて理解を深める。	ポスターセッションに向けて準備する。（90分）	自分のグループの発表や他のグループの発表についての感想をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認するテストを行う。	講義で使用した資料を振り返り、学んだ事を確認する。（90分）	授業全体を通しての感想及び意見をまとめる。（90分）
担当教員	木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%) グループ単位の発表活動及び、ディスカッションへの参加の積極性(30%)
その他	0	なし

教科書

必要な資料はその都度配付する。

参考文献

標準「病弱児の教育」テキスト【改訂版】一般社団法人日本育療学会

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門基礎科目 こども支援						
科目名	視覚・聴覚障がい者の心理・生理・病理					ナンバリング	2260
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	伊藤 太、福山 紀枝子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有する こどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】ことと関係する科目である。
専門基礎科目のこども支援分野であり、卒業必修である。また、保育士資格取得希望者は、選択必修、特別支援学校教諭免許取得希望者 は、必修である。
特別支援教育総論(2年)、視覚・聴覚障がい教育(3年)の基礎となる。

授業の概要

本授業は、特別支援教育に関する視覚障がい児及び聴覚障がい児の心理、生理及び病理に関する科目として、視覚障がい及び聴覚障がいの定義と分類、視覚器及び聴覚器の構造・機能・疾患と見えや聞こえの仕組み、視覚障がい及び聴覚障がいの状況や程度に関する検査法などについての基礎的知識について身に付ける。また、心理面、生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用や家庭、医療機関との連携の在り方について理解する。

到達目標

①視覚障がい及び聴覚障がい児の心理特性とその発達、視覚器及び聴覚器の構造と機能、視覚障がい及び聴覚障がいに係る疾患について説明することができる。
②視覚障がい及び聴覚障がいの状態や程度を調べる検査法や情報支援機器などの基礎的知識・技能等について説明することができる。

授業の方法

事前授業として、事前学習資料を精読し、ミニレポートをフォーム等で提出する。
スライド及び配布資料により、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。
フィードバックとして講義内容の振り返りのミニレポートをフォーム等で提出し理解度の確認を行う。

ICT活用

毎時間スライドを活用し、視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいに係る動画を視聴し、より理解が深められるようにするとともに、ペア討議やグループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

特別支援学校（視覚障がい）や、公立小学校・中学校の通級指導教室（言語・難聴・発達）での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい 授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして振り返りのミニレポートなどによる理解度の確認を行う。また、レポート内容に関して、フィードバックした方がよい内容については、回収後に個別もしくは全体に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	＜テーマ＞「聴覚障がいのある子どもの心理的特性」 講義予定、評価等について説明する。聴覚障がいによる学習上及び生活上の困難から生じる聴覚障がい児の心理的特性について、聴覚障がいへの配慮も合わせて学ぶ。	・本講義のシラバス及び授業内容につ いて確認する。 ・聴覚障がいにかかわる事前アンケートについてフォームで答える。(90分)	聴覚障がいのある子どもの心理的特性について、講義の内容についてミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。(90分)
担当教員	伊藤　太		
第2回	＜テーマ＞「聴覚障がいの分類について」 聴覚器の構造と機能及び聴覚障がいの生物学的基盤を学ぶ。	事前学習資料を精読し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。(90分)	聴覚障がいの分類について、講義の内容についてミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。(90分)
担当教員	伊藤　太		
第3回	＜テーマ＞「補聴器、人工内耳、補聴システム」 補聴器や人工内耳の基本と聴力測定の概要について学ぶ。	・事前学習資料を精読し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。 ・まとめのテストに向けて聴覚障がい者の心理・生理・病理の講義資料(第1回～3回)について復習する。(90分)	補聴器、人工内耳、補聴システムについて、講義の内容をミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。(90分)
担当教員	伊藤　太		

第4回	テーマ「オージオグラムについて」 ・オージオグラムの基本と聴力測定の概要、オージオグラムの見取りについて学ぶ。 ・聴覚障がい者の心理・生理・病理について、まとめのテストを実施する。	事前学習資料を精読し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。(90分)	聴覚障がい者の心理・生理・病理について、講義の内容をミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。(90分)
担当教員	伊藤　太		
第5回	＜テーマ＞「視覚障がいと認知の概要」 講義予定、教科書、評価等について、説明する。視覚障がいの定義や眼球の構造と機能及び主要な眼疾患の概要、視覚情報の認知について解説し、視覚霜害についての理解を深める。	講義内容について確認し、教科書を中心に授業内容に関わる箇所を事前に調べる。 (90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	福山　紀枝子		
第6回	＜テーマ＞「眼疾患と視覚管理及び視機能と検査法」 眼疾患に対応した視覚管理のあり方や視力について考え、視力や視野等の視機能の各種検査法について解説する。	教科書を中心に、授業に関わる箇所を事前に調べる。(90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	福山　紀枝子		

第7回	＜テーマ＞「視覚障がい児の発達と空間認知」 全盲児から弱視児までの視覚状況と知的発達の関係を考え、触察や触読の能力や空間認知の仕方などについての特性を理解する。	教科書を中心に、授業内容に関わる箇所を事前に調べる。(90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	福山　紀枝子		
第8回	＜テーマ＞「ロービジョン児の見え方及び視覚支援」 弱視児の見え方を理解し、生活や学習の中での困難を考える。障がいを改善・克服するための支援器具としての視覚補助具等について、白杖や映像などを使って紹介する。視覚障がいについて学んだ成果について、まとめのテストを実施する。	教科書及び資料等を中心に、授業に関わる事項を事前に調べる。 視覚障がいのまとめのテストに向けて視覚の全体の学習内容について確認する。(90分)	スライド資料や配布資料などにより、授業内容についてまとめる。 まとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	福山　紀枝子		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前学習の状況(20%)、授業への出席及び参加態度(20%)、授業内での発表状況(10%)、事後学習の状況(20%) 障がい種別に、まとめのテストを実施する(30%)
その他	0	なし

教科書

・聴覚障がい(第1回～4回)…なし
・視覚障がい第5回～8回)…別途指示

参考文献

・聴覚障がい(第1回～4回)…なし
・視覚障がい(第5回～8回)…別途指示

履修条件・留意事項等

卒業必修 保育士資格取得希望者は選択必修 特別支援学校教諭免許取得希望者は必修
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	障がい児保育Ⅰ(1組)					ナンバリング	2262
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障害を有するこどもについての基本的な知識を身につける」と特に関係する科目である。
「障がい児保育Ⅱ」、「重複障がい教育総論」に関連する科目である。

授業の概要

保育所、幼稚園、認定こども園などで保育者が対峙するであろう障がいのある子を含めた「配慮が必要な子ども」をどのように理解し、それを踏まえどのように対応していくのかを思考するための力を身につける。

到達目標

・障がいや特別な配慮を必要とする子どもの特徴について説明ができる。
・保育実践において障がいや特別な配慮を必要とする子どもへ配慮ができる。
・障がいや特別な配慮を必要とする子どもを含めた保育実践を計画することができる。
・障がいや特別な配慮を必要とする子どもへのかかわりについて工夫することができる。

授業の方法

基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。
調査後、発表を行い全体で内容を共有する。
講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。

ICT活用

Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループ学習 障がいの概念と歴史的変遷について調べる。	障がいの概念や歴史についての文献を探しておくこと。(25分)	障がいの概念や歴史についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループワーク 障がいの概念と歴史的変遷についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第4回	障がいの概念と歴史的変遷について:プレゼンテーション 障がいの概念と歴史的変遷についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	障がいの概念や歴史について振り返ること。(20分)
担当教員			
第5回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループ学習 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解について調べる。	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についての文献を探しておくこと。(25分)	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループワーク 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第7回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:プレゼンテーション 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	発達を促す生活や遊びの環境について文献を探しておくこと。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループ学習 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについて知る。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第9回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループワーク 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いついてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第10回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:プレゼンテーション 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境について振り返ること。(20分)
担当教員			
第11回	視覚・聴覚・言語障害について:グループ学習 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	視覚・聴覚・言語障害についての文献を探しておくこと。(25分)	視覚・聴覚・言語障害についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	視覚・聴覚・言語障害について:グループワーク 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第13回	視覚・聴覚・言語障害について:プレゼンテーション 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	視覚・聴覚・言語障害について振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	指導計画及び個別支援計画の作成:講義 指導計画や個別支援計画について知り、実際に作成をしてみる。	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。(25分)	実習に向け、障害児保育について振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など
その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)

教科書

特に指定なし

参考文献

「気になる子」と言わない保育ーこんなときどうする？考え方と手だて／赤木和重・岡村由紀子／ひとなる書房
子どものねがい・子どものなやみ乳幼児の発達と子育て〈改訂増補版〉／白石正久／クリエイツかもがわ
特別な配慮を必要とする子どもが輝くクラス運営: 教える保育からともに学ぶ保育へ ／松井剛太／中央法規

履修条件・留意事項等

この授業は、障がい児保育Ⅱと連動した授業になる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	障がい児保育Ⅰ(2組)					ナンバリング	2262
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障害を有するこどもについての基本的な知識を身につける」と特に関係する科目である。
「障がい児保育Ⅱ」、「重複障がい教育総論」に関連する科目である。

授業の概要

保育所、幼稚園、認定こども園などで保育者が対峙するであろう障がいのある子を含めた「配慮が必要な子ども」をどのように理解し、それを踏まえどのように対応していくのかを思考するための力を身につける。

到達目標

・障がいや特別な配慮を必要とする子どもの特徴について説明ができる。
・保育実践において障がいや特別な配慮を必要とする子どもへ配慮ができる。
・障がいや特別な配慮を必要とする子どもを含めた保育実践を計画することができる。
・障がいや特別な配慮を必要とする子どもへのかかわりについて工夫することができる。

授業の方法

基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。
調査後、発表を行い全体で内容を共有する。
講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。

ICT活用

Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループ学習 障がいの概念と歴史的変遷について調べる。	障がいの概念や歴史についての文献を探しておくこと。(25分)	障がいの概念や歴史についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループワーク 障がいの概念と歴史的変遷についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第4回	障がいの概念と歴史的変遷について:プレゼンテーション 障がいの概念と歴史的変遷についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	障がいの概念や歴史について振り返ること。(20分)
担当教員			
第5回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループ学習 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解について調べる。	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についての文献を探しておくこと。(25分)	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループワーク 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第7回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:プレゼンテーション 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	発達を促す生活や遊びの環境について文献を探しておくこと。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループ学習 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについて知る。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第9回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループワーク 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いついてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第10回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:プレゼンテーション 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境について振り返ること。(20分)
担当教員			
第11回	視覚・聴覚・言語障害について:グループ学習 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	視覚・聴覚・言語障害についての文献を探しておくこと。(25分)	視覚・聴覚・言語障害についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	視覚・聴覚・言語障害について:グループワーク 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第13回	視覚・聴覚・言語障害について:プレゼンテーション 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	視覚・聴覚・言語障害について振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	指導計画及び個別支援計画の作成:講義 指導計画や個別支援計画について知り、実際に作成をしてみる。	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。(25分)	実習に向け、障害児保育について振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など
その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)

教科書

特に指定なし

参考文献

「気になる子」と言わない保育ーこんなときどうする？考え方と手だて／赤木和重・岡村由紀子／ひとなる書房
子どものねがい・子どものなやみ乳幼児の発達と子育て〈改訂増補版〉／白石正久／クリエイツかもがわ
特別な配慮を必要とする子どもが輝くクラス運営: 教える保育からともに学ぶ保育へ ／松井剛太／中央法規

履修条件・留意事項等

この授業は、障がい児保育Ⅱと連動した授業になる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	障がい児保育Ⅱ(1組)					ナンバリング	2263
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている」と特に関係する科目であり、こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、障がいを有するこどもの基本的な知識を身につけることに関係する。
「発達障がい等教育総論」、「障がい児保育Ⅰ」と関連する科目である。

授業の概要

障害により生活のしずらさを持っている幼児に対して、障害特性を理解したうえで、どのように接することが本人や保護者に意味を持つのか、どのような支援が可能なのかを学ぶ。
障害がい児保育の実際、保護者の思い、保育者の役割、家族支援を学び、障がい児保育が保育の原点であるという考えも吟味して、一人一人のための発達支援の在り方を学ぶ。

到達目標

・保育者として子どもの支援にどのように関わるのかを考えながら、障害の理解と保育の在り方を論じることができる。
・いわゆる「気になる子」の理解と保育を進めるための要点を挙げることができる。
・保育の中で感じられる子どもへの手ごたえや喜びと共に困難さや辛さや切なさなどを知り、支援への姿勢を論じることができる。

授業の方法

基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。
調査後、発表を行い全体で内容を共有する。
講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。

ICT活用

Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	肢体不自由児について:グループ学習 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	肢体不自由についての文献を探しておくこと。(25分)	肢体不自由についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	肢体不自由児について:グループワーク 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第4回	肢体不自由児について:プレゼンテーション 肢体不自由とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	肢体不自由児について振り返ること。(20分)
担当教員			
第5回	知的障がい児について:グループ学習 知的障がいについて特徴や診断基準などについて知る。	知的障がい児についての文献を探しておくこと。(25分)	知的障がい児についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	知的障がい児について:グループワーク 知的障がいとはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第7回	知的障がい児について:プレゼンテーション 知的障がいとはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	知的障がい児について振り返ること。(20分)
担当教員			
第8回	発達障害について:グループ学習 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	発達障害について文献を探しておくこと。(25分)	発達障害についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	発達障害について:グループワーク 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第10回	発達障害について③:プレゼンテーション 発達障害とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達障害について振り返ること。(20分)
担当教員			
第11回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループ学習 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについての文献を探しておくこと。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループワーク 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第13回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:プレゼンテーション 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	障害児保育の現状:講義 職員間や他機関との連携や保護者に対する理解、交流について	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。(25分)	実習に向け、障害児保育について振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など
その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)

教科書

特に指定なし。

参考文献

随時紹介する。

履修条件・留意事項等

この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門基礎科目　こども支援						
科目名	障がい児保育Ⅱ(2組)					ナンバリング	2263
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている」と特に関係する科目であり、こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、障がいを有するこどもの基本的な知識を身につけることに関係する。
「発達障がい等教育総論」、「障がい児保育Ⅰ」と関連する科目である。

授業の概要

障害により生活のしずらさを持っている幼児に対して、障害特性を理解したうえで、どのように接することが本人や保護者に意味を持つのか、どのような支援が可能なのかを学ぶ。
障害がい児保育の実際、保護者の思い、保育者の役割、家族支援を学び、障がい児保育が保育の原点であるという考えも吟味して、一人一人のための発達支援の在り方を学ぶ。

到達目標

・保育者として子どもの支援にどのように関わるのかを考えながら、障害の理解と保育の在り方を論じることができる。
・いわゆる「気になる子」の理解と保育を進めるための要点を挙げることができる。
・保育の中で感じられる子どもへの手ごたえや喜びと共に困難さや辛さや切なさなどを知り、支援への姿勢を論じることができる。

授業の方法

基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。
調査後、発表を行い全体で内容を共有する。
講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。

ICT活用

Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	肢体不自由児について:グループ学習 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	肢体不自由についての文献を探しておくこと。(25分)	肢体不自由についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	肢体不自由児について:グループワーク 肢体不自由とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第4回	肢体不自由児について:プレゼンテーション 肢体不自由とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	肢体不自由児について振り返ること。(20分)
担当教員			
第5回	知的障がい児について:グループ学習 知的障がいについて特徴や診断基準などについて知る。	知的障がい児についての文献を探しておくこと。(25分)	知的障がい児についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	知的障がい児について:グループワーク 知的障がいとはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第7回	知的障がい児について:プレゼンテーション 知的障がいとはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	知的障がい児について振り返ること。(20分)
担当教員			
第8回	発達障害について:グループ学習 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、適切な対応などについて知る。	発達障害について文献を探しておくこと。(25分)	発達障害についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	発達障害について:グループワーク 発達障害とはどのような障害なのか特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第10回	発達障害について③:プレゼンテーション 発達障害とはどのような障害であり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達障害について振り返ること。(20分)
担当教員			
第11回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループ学習 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについての文献を探しておくこと。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:グループワーク 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			

第13回	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて:プレゼンテーション 重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもにはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	重症心身障がい児、医療的ケア、その他の特別な配慮を必要とする子どもについて振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	障害児保育の現状:講義 職員間や他機関との連携や保護者に対する理解、交流について	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。(25分)	実習に向け、障害児保育について振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など
その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)

教科書

特に指定なし。

参考文献

随時紹介する。

履修条件・留意事項等

この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育の理解						
科目名	社会的養護Ⅰ					ナンバリング	3300
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。
また、「社会福祉」「子ども家庭福祉」「こども家庭支援論」「子育て支援」と関連を持つ科目であり、「社会的養護Ⅱ」の基礎となる科目である。

授業の概要

社会的養護を必要としている子どもたちを支援していくために必要な知識を獲得し、これからの社会的養護のあり方について考える。子どもとかかわる専門職として、子どもが置かれている現状を知り、社会的養護の意義と保育者の役割を理解する。

到達目標

・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明することができる。
・子どもの人権養護を踏まえた社会的養護の基本について考えることができる。
・社会的養護の制度や実施体系などについて説明することができる。
・社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて説明することができる。
・社会的養護の現状と課題について考えることができる。

授業の方法

基本的には配布印刷物等とテキストを使用して講義形式で行う。
一部に、映像視聴による補足を行い、理解度の確認を含めてリアクションペーパー等を使用する。
また毎回授業後半にグループワークを行い、学習内容の確認を行い内容を深める。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

児童福祉施設において児童指導員の勤務経験があり、社会的養護について知識を有している。この経験を活かして教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして提出物等の返却の際に、解説を加える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の進め方、授業計画、評価方法等の説明 社会的養護のイメージや社会的養護の概要を学ぶ	社会的養護に関連しそうな素材(記事や特集)を探す。 テキストpp1-8を熟読すること。(90分)	授業の内容を受け、各自社会的養護が題材になっている素材を探し振り返る。 社会的養護の理念についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	社会的養護の歴史的変遷 欧米と日本の社会的養護の動向を学ぶ	テキストpp9-17を熟読すること。(90分)	社会的養護の歴史についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	子どもの人権と社会的養護 子どもの権利条約や子どもの権利ノート等を学ぶ	テキストpp29-35を熟読すること。(90分)	権利擁護の経緯や子どもの権利条約についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	社会的養護の基本原則 社会的養護の理念と基本原理を学ぶ	テキストpp75-83を熟読すること。(90分)	社会的養護の基本原理ついてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 専門職の資質と倫理、倫理綱領等を学ぶ	テキストpp65-73を熟読すること。(90分)	保育士等の倫理綱領と責務ついてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	社会的養護の制度と法体系 社会福祉法、児童福祉法、児童虐待防止法等の関係法令を学ぶ	テキストpp37-44を熟読すること。(90分)	社会的養護の制度と法体系ついてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	社会的養護の仕組みと実施体系 児童相談所、児童福祉施設、里親制度、養子縁組制度等を学ぶ	テキストpp45-53を熟読すること。(90分)	児童福祉の実施機関や児童福祉施設についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	家庭養護とファミリーソーシャルワーク ファミリーソーシャルワークや養護のパーマネンシー(永続性)の重要性を学ぶ	テキストpp93-99を熟読すること。(90分)	施設養護の実際についてまとめておくこと。 ケースワークについてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	社会的養護の対象 児童福祉法等の対象規定を学ぶ	テキストpp37-44を熟読すること。(90分)	社会的養護の対象についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	家庭養護と施設養護 家庭養護、家庭的養護、施設養護等の社会的養護の形態を学ぶ	テキストpp55-63を熟読すること。(90分)	児童養護の体系についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	社会的養護に関わる専門職 保育士、児童指導員、母子支援員、ファミリーソーシャルワーカー等の業務内容を学ぶ	テキストpp65-73を熟読すること。(90分)	社会的養護に関連する専門職についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	社会的養護に関する社会的状況 社会的養護を必要とする子どもの社会・生活状況を学ぶ	テキストpp19-27を熟読すること。(90分)	児童家庭福祉と社会的養護の関連をまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	施設等の運営管理 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、児童養護施設運営指針等を学ぶ	テキストpp85-92を熟読すること。(90分)	施設養護の実際についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	被措置児童等の虐待防止 児童虐待、被措置児童等虐待等の現状と課題を学ぶ	テキストpp117-122を熟読すること。(90分)	児童虐待についてまとめておくこと。 児童虐待防止法に目を通すこと。(90分)
担当教員			
第15回	社会的養護と地域福祉 地域福祉と社会的養護等のネットワーク形成を学ぶ	テキストpp123-128を熟読すること。(90分)	地域福祉と社会的養護についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート80%、リアクションペーパー10%、授業参加度10%
その他	0	

教科書

社会的養護Ⅰー「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けてー 鈴木幸雄・梶原敦・美馬正和編著 同文書院

参考文献

社会的養護児童のアドボカシー-意見表明権の保障を目指して- 栄留里美著 明石書店
施設で育った子どもたちの居場所「日向ぼっこ」と社会的養護 NPO法人日向ぼっこ編著 明石書店

履修条件・留意事項等

保育士をめざす者として必要な科目です。積極的な授業参加を望みます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育の理解						
科目名	こども家庭支援論					ナンバリング	3302
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡　亜希子						

授業の位置づけ

本科目は、こども発達学科のディプロマポリシー「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)」、「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「こども家庭支援の心理学」と関連し、「子育て支援」へとつながる科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、保育士が行う家庭支援の原理を学ぶ。なぜ子育て家庭への支援が必要なのか。保育所に入所している子どもの保護者だけではなく、地域の子育て家庭への支援を含めた包括的な支援の在り方について理解を深める。とりわけ保育の専門性を活かした子ども家庭支援とはどのようなことなのか、その意義と基本の理解を深める。また、地域における子育て家庭への支援体制や支援施策、次世代育成支援施策についても学ぶ。後半は、保育士が行う相談等の子ども家庭支援の内容、関係機関との連携について学ぶ。

到達目標

・子ども家庭支援の意義と役割を説明できる。
・保育の専門性を活かした子ども家庭支援について説明できる。
・子ども家庭支援にかかわる体制や施策について説明できる。
・保育所を利用している家庭、地域の子育て家庭、要保護児童等の家庭に対する相談や支援のあり方を説明できる。

授業の方法

テキスト・プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でwebによるリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。子育て家庭に対する相談や支援のあり方について、第2回と第11回にグループワークを行い、理解を深める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	子ども家庭支援とはなにか 1.子ども家庭支援とは 2.子ども家庭支援が必要とされる背景 3.子育てを取り巻く環境をどう捉えるか	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第2回	家庭生活の現在 1.家族構造の変化と子育て支援 2.「家族」とは何か 3.現代のライフスタイルと子育ての悩み 4.家族と子育て 5.子育て観の変容と現代の子どもが置かれている状況 グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第3回	求められる保育、子ども家庭支援の内容 1.多様な保育・支援ニーズへの対応した施策と事業 2.気になる子ども、障害のある子どもとその家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第4回	保育者の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方とその意義 1.保育者の3つの専門性 2.子ども家庭支援のあり方と意義	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第5回	保育者に求められる基本的役割と姿勢 1.保護者の子育て実践のための支援 2.子どもの理解(子どもの見方)の共有 3.相談支援の実際(相談，助言，情報提供，行動見本の提示等) 4.受容的関わり，自己決定の尊重，秘密保持等(バイスティックの7原則等) 5.支援に生かされる保育技術 6.地域の社会資源の活用と自治体・関係機関との連携	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第6回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 1.保育所保育指針における社会資源との連携 2.子ども家庭支援の対象と関係機関の特徴	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第7回	子育て支援施策と次世代育成支援施策の推進 1.制度のあらまし 2.子ども・子育て支援新制度 3.市町村子ども家庭支援指針（ガイドライン） 4.子育て支援・次世代育成支援施策の現状と課題	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第8回	子ども家庭支援の内容と対象 1.妊娠期からの切れ目のない支援 2.相談支援 3.情報提供 4.保育所等を利用している家庭への支援 5.地域の子育て家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第9回	子ども家庭支援の内容と対象 1.妊娠期からの切れ目のない支援 2.相談支援 3.情報提供 4.保育所等を利用している家庭への支援 5.地域の子育て家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			

第10回	保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援 1.保護者に対する支援 2.保護者や家庭が抱える多様な支援ニーズへの気づき 3.保育施設の特性を生かした支援と方法	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第11回	保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援 1.保護者に対する支援 2.保護者や家庭が抱える多様な支援ニーズへの気づき 3.保育施設の特性を生かした支援と方法 グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			
第12回	要保護児童等とその家庭に対する支援 1.要保護児童とは 2.虐待の予防と対応 3.要保護児童と家庭への支援 4.社会的養護―乳児院・児童養護施設・里親― 5.児童虐待予防に向けた支援の課題と展望	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる（90分）	学習内容を振り返り、まとめる（90分）
担当教員			

第13回	要保護児童等とその家庭に対する支援 1.要保護児童とは 2.虐待の予防と対応 3.要保護児童と家庭への支援 4.社会的養護―乳児院・児童養護施設・里親― 5.児童虐待予防に向けた支援の課題と展望	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第14回	保育の場における子ども家庭支援の現状と課題 1.保育の場における子ども家庭支援の現状と課題 2.保育者の協働 3.保護者との協働、共育て	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	14回の授業を教科書を参考にしながら振り返る(90分)	こども家庭支援論の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、リアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)
その他	0	なし

教科書

太田光洋 編著ほか「保育ニュー・スタンダード 子ども家庭支援論―保育を基礎とした子ども家庭支援―」、同文書院

参考文献

令和6年版「こども白書」、こども家庭庁

履修条件・留意事項等

授業内でweb配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育の理解						
科目名	子育て支援(1組)					ナンバリング	3304
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

この授業は「保育の理解」の分野における専門科目です。ディプロマポリシーにおいては、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている」に関わる科目として位置付いています。

授業の概要

この授業では、子育てに関する相談・援助のための基本的な理解の枠組みと姿勢を学びます。対象者のニーズを理解して適切な援助ができるよう、子育て支援のための基礎知識を身に着け、応用できる力を修得します。また、ここでは、学習を深めるために、子育て支援にかかわるロールプレィおよび分析法の実習を組み入れて、演習を進めていきます。

到達目標

1.　子育て支援にかかわる基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。
2.　子育て支援にかかわるロールプレイや行動観察の体験学習を通して、こども・保護者の理解のための観察力を高めることができる。
3.　子育て支援における関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。

授業の方法

この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレィ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による行動分析を行います。ここでは、特に子育て支援に関するロールプレイ場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、子育て支援の実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有しています。また、本学子育て教育地域支援センターにおいて臨床実践を続けています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の子育て支援に関する臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握する。(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項について理解する。(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは「長所マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、保育・子育て支援に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自身の特性について「長所」という視点から整理する。(25分)	完成した長所マップをふりかえって自己理解を深める。(20分)
担当教員			
第3回	保育所における子育て支援: 保育所における子育て支援の役割と保育士の専門性について学びます。また、保育所保育指針における子育て支援の位置付けについて理解を深めます。	関連文献を読んで内容をまとめる。(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(25分)
担当教員			

第4回	保護者との相互理解と信頼関係の構築: 保護者との相互理解を図り、信頼関係を構築するための基礎理論について学びます。また、ケースワークの視点から、バイスティックの7原則について理解を深めます。	バイスティックの7原則について調べる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第5回	保護者や家庭における支援のニーズの把握と多面的理解(1): 社会において保護者や家庭が抱えている多様な支援のニーズについて、文献講読を通して学びます。さらに、こどもの置かれている状況を多面的に理解することの必要性について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(15分)
担当教員			
第6回	保護者や家庭における支援のニーズの把握と多面的理解(2): 子育てにおける家族関係への支援をめぐって、家族療法の視点について学びます。また、FIT(Family Image Test)の実習を通して、家族の相互関係のアセスメントについて理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(15分)
担当教員			

第7回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(1): 支援の対象者について、心理的側面、社会・環境的側面、身体的側面など多様な視点からのアセスメントについて学びます。アセスメントに基づいた支援計画の作成についても学びを深めます。	アセスメントというキーワードについて調べる。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(15分)
担当教員			
第8回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(2): 子育て家庭の事例に基づいてグループごとにアセスメントを行い、支援計画を立案して、発表・意見交流を行います。各グループによる発表・意見交流を通して、支援の方策について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(25分)	アセスメント・支援計画を見直して、課題を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	子育て支援のフィールド理解(1): 本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)の実践について学びます。ここでは、関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)に基づく親子参加型の子育て支援の理論と実際について理解を深めます。	関係力育成プログラムについて調べる。(20分)	指定文献を読んでレポートを作成する。(25分)
担当教員			

第10回	子育て支援のフィールド理解(2): 関係力育成プログラムに基づいて、親子参加型の子育て支援に関する「ファミリー・ロールプレイ実習」を行います。また、ロールプレイ場面の映像については、クリッカーを用いて行動分析を行い、全体でふりかえりを実施します。	指定文献を読んでレポートを作成する。(25分)	ファミリー・ロールプレイ実習の体験報告レポートを作成する。(20分)
担当教員			
第11回	子育て支援の理論と実際(1): 絵本を用いた子育て支援の理論と実際について学びます。ここでは、ゲストティーチャーを招聘した特別講義を通して、絵本を用いた子育て支援の実践と研究について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(25分)
担当教員			
第12回	子育て支援の理論と実際(2): ペアレントサポートプログラムに基づく子育て支援の理論と方法について学びます。ペアレントサポートプログラムのロールプレイ体験を通して、保護者の心理について理解を深めます。	ペアレントサポートプログラムというキーワードについて調べる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			

第13回	社会資源の活用および関係機関や専門職との連携・協働: 問題の内容に応じて適切に社会資源を活用できるよう、関係機関や専門職の役割、支援の内容について学びます。また、関係機関や専門職との連携・協働について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第14回	子育てに関する相談・援助の実際: 子育てに関する相談・援助の実際について、事例を通して学びます。ここでは、グループに分かれて、事例に基づいてディスカッションを行い、相談・援助の在り方について検討します。	関連文献を読んで概要をまとめる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理する。(25分)	配布資料および関連文献を読んで、これまでの学習のまとめを行う。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関係するレポート作成によって評価します。
その他	25	子育て支援のロールプレイ実習に関しては、所定の書式で作成した「ロールプレィ実習体験報告レポート」によって評価します。

教科書

教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。

参考文献

新保育ライブラリ 子育て支援 李木明徳編著 北大路書房
保育者のためのペアレントサポートプログラム 高山恵子著 学研プラス
保育所保育指針 厚生労働省

履修条件・留意事項等

この演習では、子育て支援に関するロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育の理解						
科目名	子育て支援(2組)					ナンバリング	3304
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

この授業は「保育の理解」の分野における専門科目です。ディプロマポリシーにおいては、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている」に関わる科目として位置付いています。

授業の概要

この授業では、子育てに関する相談・援助のための基本的な理解の枠組みと姿勢を学びます。対象者のニーズを理解して適切な援助ができるよう、子育て支援のための基礎知識を身に着け、応用できる力を修得します。また、ここでは、学習を深めるために、子育て支援にかかわるロールプレィおよび分析法の実習を組み入れて、演習を進めていきます。

到達目標

1.　子育て支援にかかわる基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。
2.　子育て支援にかかわるロールプレイや行動観察の体験学習を通して、こども・保護者の理解のための観察力を高めることができる。
3.　子育て支援における関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。

授業の方法

この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレィ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による行動分析を行います。ここでは、特に子育て支援に関するロールプレイ場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、子育て支援の実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有しています。また、本学子育て教育地域支援センターにおいて臨床実践を続けています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の子育て支援に関する臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握する。(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項について理解する。(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは「長所マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、保育・子育て支援に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自身の特性について「長所」という視点から整理する。(25分)	完成した長所マップをふりかえって自己理解を深める。(20分)
担当教員			
第3回	保育所における子育て支援: 保育所における子育て支援の役割と保育士の専門性について学びます。また、保育所保育指針における子育て支援の位置付けについて理解を深めます。	関連文献を読んで内容をまとめる。(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(25分)
担当教員			

第4回	保護者との相互理解と信頼関係の構築: 保護者との相互理解を図り、信頼関係を構築するための基礎理論について学びます。また、ケースワークの視点から、バイスティックの7原則について理解を深めます。	バイスティックの7原則について調べる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第5回	保護者や家庭における支援のニーズの把握と多面的理解(1): 社会において保護者や家庭が抱えている多様な支援のニーズについて、文献講読を通して学びます。さらに、こどもの置かれている状況を多面的に理解することの必要性について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(15分)
担当教員			
第6回	保護者や家庭における支援のニーズの把握と多面的理解(2): 子育てにおける家族関係への支援をめぐって、家族療法の視点について学びます。また、FIT(Family Image Test)の実習を通して、家族の相互関係のアセスメントについて理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(15分)
担当教員			

第7回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(1): 支援の対象者について、心理的側面、社会・環境的側面、身体的側面など多様な視点からのアセスメントについて学びます。アセスメントに基づいた支援計画の作成についても学びを深めます。	アセスメントというキーワードについて調べる。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(15分)
担当教員			
第8回	子育て支援のためのアセスメントと支援計画(2): 子育て家庭の事例に基づいてグループごとにアセスメントを行い、支援計画を立案して、発表・意見交流を行います。各グループによる発表・意見交流を通して、支援の方策について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(25分)	アセスメント・支援計画を見直して課題を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	子育て支援のフィールド理解(1): 本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)の実践について学びます。ここでは、関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)に基づく親子参加型の子育て支援の理論と実際について理解を深めます。	関係力育成プログラムについて調べる。(20分)	指定文献を読んでレポートを作成する。(25分)
担当教員			

第10回	子育て支援のフィールド理解(2): 関係力育成プログラムに基づいて、親子参加型の子育て支援に関する「ファミリー・ロールプレイ実習」を行います。また、ロールプレイ場面の映像については、クリッカーを用いて行動分析を行い、全体でふりかえりを実施します。	指定文献を読んでレポートを作成する。(25分)	ファミリー・ロールプレイ実習の体験報告レポートを作成する。(20分)
担当教員			
第11回	子育て支援の理論と実際(1): 絵本を用いた子育て支援の理論と実際について学びます。ここでは、ゲストティーチャーを招聘した特別講義を通して、絵本を用いた子育て支援の実践と研究について理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(25分)
担当教員			
第12回	子育て支援の理論と実際(2): ペアレントサポートプログラムに基づく子育て支援の理論と方法について学びます。ペアレントサポートプログラムのロールプレイ体験を通して、保護者の心理について理解を深めます。	ペアレントサポートプログラムというキーワードについて調べる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			

第13回	社会資源の活用および関係機関や専門職との連携・協働: 問題の内容に応じて適切に社会資源を活用できるよう、関係機関や専門職の役割、支援の内容について学びます。また、関係機関や専門職との連携・協働について、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第14回	子育てに関する相談・援助の実際: 子育てに関する相談・援助の実際について、事例を通して学びます。ここでは、グループに分かれて、事例に基づいてディスカッションを行い、相談・援助の在り方について検討します。	関連文献を読んで概要をまとめる。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理する。(25分)	配布資料および関連文献を読んで、これまでの学習のまとめを行う。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関係するレポート作成によって評価します。
その他	25	子育て支援のロールプレイ実習に関しては、所定の書式で作成した「ロールプレィ実習体験報告レポート」によって評価します。

教科書

教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。

参考文献

新保育ライブラリ 子育て支援 李木明徳編著 北大路書房
保育者のためのペアレントサポートプログラム 高山恵子著 学研プラス
保育所保育指針 厚生労働省

履修条件・留意事項等

この演習では、子育て支援に関するロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　対象の理解						
科目名	こどもの保健					ナンバリング	3324
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	海老名　由紀子						

授業の位置づけ

こどもの保育・教育・子育て支援に関する専門科目、および「対象理解」の分野に該当する科目である。一般的なこどもの心身の成長発達についての理解に加え、個別性を考える視点、また生命の始まりから学ぶことによる命と子育ての尊さ、新生児・乳幼児・学齢期、さらには障がいを持つこどもと家族について基本的な知識を修得し、こどもの健やかな成長について学びと考察を目的とした科目である。本科目は保育士資格取得必修科目であり「こどもの健康と安全」に関連する保育実習の基礎となる科目である。

授業の概要

乳幼児期は著しい成長発達の途上である。すべての乳幼児が心身ともに健やかに成長できるよう、その特殊性を理解し、保健的視野を持ちこどもとかかわるための基礎を学ぶ。こどもの健康と保健の意義、こどもの発育と発達、こどもの生理的機能の特徴、精神保健について学び、基本的知識を得ることと、現代の子育てについて学ぶことを目的としている。

到達目標

1. 生命の始まりから学ぶことにより、命と人が人を育てることへの畏敬の念を持つことができる。
2. こどもの心身の健康の増進をはかる保健活動の意義を述べることができる。
3. こどもの身体の機能的・生理的な発育と発達を理解しこどもの保健への応用ができるようになる。
4. こどもの日常生活の援助の視点を挙げることができる。
5. 現代の子育ての社会的背景を理解し、子育支援の必要性を挙げることができる。

授業の方法

講義では講師の作成したパワーポイントを使用し、さらなる説明の必要時には板書も利用する。資料は印刷し配布する。双方向性の講義、学生間のグループワーク、学生の調べ学習とプレゼンテーションも行う。受け身の受講のみではなく、学生が主体となって学ぶスタイルである。

ICT活用

必要時にはGoogleクラスルームを用いている。

実務経験のある教員の教育内容

講師は現役の助産師である。大学病院・クリニック・保健所・助産所での勤務経験を経て、現在の開業助産師としては20年の経験を持つ。また大学院TAの勤務経験ももち、現在は看護学校・大学学部・大学専攻科での講義も行っている。開業する助産院においては、母乳外来を中心に、妊娠期からのかかわりも含め、母子への育児支援を行っている。現代における父親の子育てについて、社会全体でこどもを育てていく必要性について日々の業務からの学びも含め随所で触れる。

課題に対するフィードバックの方法

毎講義終了前に質問に対し対応する時間を設ける。個別の質問や学習方法に対しても指導している。学生プレゼンテーションやグループワーク時は講義内で必要に応じて対応、課題へのコメントはGoogleクラスルームも利用している。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	こどもの発育①妊娠の成立・胎児期 授業ガイダンス、生命の尊厳、妊娠の成立、胎児の発育、胎児の発育に影響を及ぼす因子、妊婦の心理について学習する。	自身の母子手帳の妊娠期の記録を見る。考察したことを自分なりにまとめる。母子手帳を見ることができない学生についてはほかの方法を提示する。内容について提出や発表などは求めていない。(90分)	講義内容の復習と自身での調べ学習、学びのまとめ(90分)
担当教員			
第2回	こどもの発育②こどもの特徴と身体的発育 こどもの区分、こどもに関する用語、定義を学ぶ。こどもの保健の意義、こどもの保健を実施するにあたり大切なことについて考える。	こどもに関する用語とその定義について調べる。こどもの保健とは何か、意義について自分なりに考える。(90分)	講義内容についての復習・乳幼児の発達段階について資料をもとに自己学習(90分)
担当教員			
第3回	こどもの発達①新生児 新生児の定義、特徴、異常、低体重出生児、養護について学習する。新生児人形を用いて抱っこ・更衣・なだめ方のデモンストレーションを行う。	自身の母子手帳より出産時の記録や新生児時期の記録のページを見る。家族や知人への子育てインタビューを行うが、配慮点としては初回講義と同じである。これらより自身で考察する。(90分)	講義内容の復習とまとめ(90分)
担当教員			

第4回	こどもの発達②こどもの運動機能の発達 運動機能の発達について学習する。身体的発育に影響を及ぼす因子について学習する。健やかな発達と発達を促すこどものあそびについて学習する。	一般的なこどもの運動機能の発達について予習する。参考資料は提示する。(90分)	講義内容の復習とまとめ(90分)
担当教員			
第5回	こどもの発達③精神機能の発達 精神分野の発達について学習する。こどもの情緒、社会性、精神発達の評価について、精神発達に影響を及ぼす因子について学習する。	こどもの精神機能の発達について事前学習を行う。家族や知人への子育てインタビューを行い考察する。(90分)	講義内容の復習とまとめ(90分)
担当教員			
第6回	こどもの発達④こどもの精神保健と母子関係 こどものこころの発達における親とのかかわりについて学習する。母性とは何か？産後の母親についてと母子関係について学習する。	母子関係と愛着形成に関する研究論文と文献検索を行い予習する。家族や知人への子育てインタビューからの考察する。(90分)	講義内容の復習とまとめ(90分)
担当教員			

第7回	子育て支援①産後ケアの必要性と子育て支援 健やかな成長を促すための母子の関係性について、現代の育児、社会的背景と関連付ける。母親の孤立や虐待防止に向け、産後ケアの必要性と保育職の役割について学習する。	産後ケアについて調べ学習を実施（90分）	講義内容の復習とまとめ（90分）
担当教員			
第8回	子育て支援②就労と育児・保育施設と親子 保育施設について調べ学習する。学生はこどもを預けて働く父親母親の気持ちを想像しながらロールプレイ形式で育児支援のクラスへ参加する。こどもを預けて働く親の気持ちと生活を想像し学習する。	保育施設についての調べ学習（90分）	講義内のロールプレイ参加後の学びのレポート作成と提出（90分）
担当教員			
第9回	子育て支援③生命倫理と障がいを持つ子供と家族への支援 出生前診断について学習し、生命倫理について意見交換する。また障がいを持って生まれたこどもと家族の手記に基づき意見交換をして学びを深める。	出生前診断についての予習や調べ学習、保育施設のバリアフリーに向けどのような設備や人員配置が必要か考える（90分）	講義内容の復習とまとめを行い、関連するさらなる調べ学習とレポート作成を行う。（90分）
担当教員			

第10回	こどもの健康状態① こどものバイタルサイン、体温調節機能、免疫を中心に学習する。	バイタルサイン、体温調節、免疫を中心に自己学習と予習の実施（90分）	講義内容の復習とまとめ（90分）
担当教員			
第11回	世界のこどもの保健① 世界のこどもの保健について、グループで調べ学習し、内容をまとめ、パワーポイントの作成を行い、発表の練習や準備をする。	個別で世界のこどもの保健についての調べ学習の実施（90分）	グループでの発表準備と練習（90分）
担当教員			
第12回	世界のこどもの保健②学生プレゼンテーション 学生間の発表と意見交換を行い、世界の子どもの保健に関する理解を深める。発表終了次第次回講義の準備（新たなグループワークへ向けて）を行う。	発表準備と練習（90分）	グループワークの振り返りと追加学習、発表資料の修正の実施（90分）
担当教員			

第13回	子どもの健康状態②こどもの疾患② こどもが罹患しやすい代表的な疾患についてグループで調べ学習を行い、発表資料を作成する。	発表準備（90分）	発表準備と修正（90分）
担当教員			
第14回	こどもの健康状態③こどもの疾患③学生プレゼンテーション グループごとでのパワーポイントを用いた発表と意見交換を行う。発表の内容に応じて新たな学習課題の提供や学生からの質問へ対応する。	発表準備と練習（90分）	グループワークの振り返りレポートの作成と発表資料の追加、修正とさらなる学習の実施（90分）
担当教員			
第15回	こどもの疾患のまとめ、本講義のまとめ、終講試験。 前回の講義時間内に終了しなかったグループがある場合は予備の発表の時間とする、その他本講義全体のまとめと終講試験を行う。	試験に向けての全体の復習と自己学習（90分）	講義全体のまとめと復習（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	終講試験の得点による評価。
その他	10	グループワークの調べ準備と発表にあたる4回の講義すべて出席し積極的に参加していた学生への評価。評価基準は講義内で説明する。 さらに課題レポート3回分すべてを提出期限内に提出しレポート内容の要件を満たしていること(講義内で提示)この2点により評価

教科書

なし

参考文献

こどもの保健 第七版/こうの悟郎 編著　/診断と治療社
子どもの保健演習ノート 第三版 /榊原洋一監修 小林美由紀著 /診断と治療社

履修条件・留意事項等

積極的な学習姿勢を歓迎します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　対象の理解						
科目名	こどもの健康と安全(前半)					ナンバリング	3326
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	菅原　美保、横山　佳世						

授業の位置づけ

保育者としての基本的資質、および子どもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期の子どもについての知識を身につけるための科目である。子どもの成長発達に関して保健領域から広く涵養し、保育・教育・子育て支援に対する基礎的な理解を図る。
「子どもの保健」、その他の保育に関わる科目と関連する。

授業の概要

「子どもの保健」で得た専門的知識を保育技術の展開と関連づけ、保健活動の実践について学ぶ。

到達目標

″1. 子どもの成長発育と健康増進、および保健活動について理解することができる。
2. 子どもが罹患しやすい主な疾患について理解し、保育上の対応法を学び、現場での実践を想定し対処することができる。
3. 保育場面における安全性への配慮について理解し、状況に応じて対処することができる。
4. 子どもの成長・発達を理解し、保育場面における安全性への配慮について説明できる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いた講義およびグループワークなどを行う。
演習を通して、子どもの成長・発達の特徴、及び状況に応じた対処を体験的に学ぶ。

ICT活用

双方型授業（Google Formを用いて意見を出し合い議論する。またレポートや課題提出）。

実務経験のある教員の教育内容

小児科・NICUでの臨床経験やCNSの知識を活かした講義を行う（横山）
小児科での臨床経験や知識を活かした講義を行う（菅原）

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス】(菅原) 【子どもの健康と保育の環境】 子どもが心身共にのびのびと健康に発育・発達をするための保育環境について学ぶ。 子どもの健康管理のタイミングと観察のポイントについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第2回	【保育における健康・安全管理】(菅原) 保育における衛生管理、事故防止および安全対策について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第3回	【保育における健康・安全管理:演習】 子どもの事故防止-1 子どもの視野体験 ～チャイルドビジョンを用いて～	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		

第4回	【保育における健康・安全管理：演習】 子どもの事故防止-2 子どもの誤飲、窒息の危険な物体をチェック ～チャイルド・マウスを用いて～	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第5回	【子どもの体調不良などに対する適切な対応】(横山) 体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第6回	【子どもの体調不良などに対する適切な対応:演習】(横山) 体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。 救急蘇生デモンストレーション。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		

第7回	【保育における保健的対応】(菅原) 保育における保健的対応の基本的な考え方。 食物アレルギーにおける対応。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	【保育における保健的対応】(菅原) 慢性疾患児への対応。 医療的ケアの必要な子どもへの対応。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	【集団生活における感染症対策】(横山) 感染症の集団発生の予防について学ぶ。 感染症発生時と罹患後の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第10回	【集団生活における感染症対策：演習】 感染経路を遮断する方法。 正しい手洗い方法の実践～手洗いチェッカーを用いて～	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第11回	【健康および安全の管理と実施体制】(横山) 保育における保健活動の計画および評価。 母子保健・地域保健における自治体との連携。 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第12回	【健康および安全の管理と実施体制：グループワーク①】 子どもへの健康教育について計画。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		

第13回	【健康および安全の管理と実施体制:グループワーク②】 子どもへの健康教育について計画立案。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第14回	【健康および安全の管理と実施体制:グループワーク③】 発表準備。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第15回	【健康および安全の管理と実施体制:グループ発表】 発表とまとめ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習後レポート(4回)20%×4 グループワーク発表(グループ評価)20%
その他	0	

教科書

子どもの健康と安全 改訂1版最新保育士養成講座 第7巻/全国社会福祉協議会

参考文献

子どもの健康と安全演習ノート改訂第3版/小林美由紀/診断と治療社
新版 重症心身障害療育マニュアル/岡田喜篤監修/医歯薬出版

履修条件・留意事項等

評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。他学生の学びを妨げる行為は慎み、講義中の私語は厳禁である。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　対象の理解						
科目名	こどもの健康と安全(後半)					ナンバリング	3326
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	菅原　美保、横山　佳世						

授業の位置づけ

保育者としての基本的資質、および子どもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期の子どもについての知識を身につけるための科目である。子どもの成長発達に関して保健領域から広く涵養し、保育・教育・子育て支援に対する基礎的な理解を図る。
「子どもの保健」、その他の保育に関わる科目と関連する。

授業の概要

「子どもの保健」で得た専門的知識を保育技術の展開と関連づけ、保健活動の実践について学ぶ。

到達目標

1. 子どもの成長発育と健康増進、および保健活動について理解することができる。
2. 子どもが罹患しやすい主な疾患について理解し、保育上の対応法を学び、現場での実践を想定し対処することができる。
3. 保育場面における安全性への配慮について理解し、状況に応じて対処することができる。
4. 子どもの成長・発達を理解し、保育場面における安全性への配慮について説明できる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いた講義およびグループワークなどを行う。
演習を通して、子どもの成長・発達の特徴、及び状況に応じた対処を体験的に学ぶ。

ICT活用

双方型授業（Google Formを用いて意見を出し合い議論する。またレポートや課題提出）。

実務経験のある教員の教育内容

小児科・NICUでの臨床経験やCNSの知識を活かした講義を行う（横山）
小児科での臨床経験や知識を活かした講義を行う（菅原）

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス】(菅原) 【子どもの健康と保育の環境】 子どもが心身共にのびのびと健康に発育・発達をするための保育環境について学ぶ。 子どもの健康管理のタイミングと観察のポイントについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第2回	【保育における健康・安全管理】(菅原) 保育における衛生管理、事故防止および安全対策について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第3回	【保育における健康・安全管理:演習】 子どもの事故防止-1 子どもの視野体験 ～チャイルドビジョンを用いて～	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		

第4回	【保育における健康・安全管理：演習】 子どもの事故防止-2 子どもの誤飲、窒息の危険な物体をチェック ～チャイルド・マウスを用いて～	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第5回	【子どもの体調不良などに対する適切な対応】(横山) 体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第6回	【子どもの体調不良などに対する適切な対応:演習】(横山) 体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。 救急蘇生デモンストレーション。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		

第7回	【保育における保健的対応】(菅原) 保育における保健的対応の基本的な考え方。 食物アレルギーにおける対応。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	【保育における保健的対応】(菅原) 慢性疾患児への対応。 医療的ケアの必要な子どもへの対応。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	【集団生活における感染症対策】(横山) 感染症の集団発生の予防について学ぶ。 感染症発生時と罹患後の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第10回	【集団生活における感染症対策:演習】 感染経路を遮断する方法 正しい手洗い方法の実践～手洗いチェッカーを用いて～	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第11回	【健康および安全の管理と実施体制】(横山) 保育における保健活動の計画および評価。 母子保健・地域保健における自治体との連携。 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第12回	【健康および安全の管理と実施体制:グループワーク①】 子どもへの健康教育について計画。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		

第13回	【健康および安全の管理と実施体制:グループワーク②】 子どもへの健康教育について計画立案。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第14回	【健康および安全の管理と実施体制:グループワーク③】 発表準備。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
第15回	【健康および安全の管理と実施体制:グループ発表】 発表とまとめ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原　美保、横山　佳世		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習後レポート(4回)20%×4 グループワーク発表(グループ評価)20%
その他	0	

教科書

子どもの健康と安全 改訂1版最新保育士養成講座 第7巻/全国社会福祉協議会

参考文献

子どもの健康と安全演習ノート改訂第3版/小林美由紀/診断と治療社
新版 重症心身障害療育マニュアル/岡田喜篤監修/医歯薬出版

履修条件・留意事項等

評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。他学生の学びを妨げる行為は慎み、講義中の私語は厳禁である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 対象の理解						
科目名	こどもの食と栄養Ⅰ					ナンバリング	3330
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小塚 美由記、鈴木 陽子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。」に重点をおいた科目である。また、「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」、「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。」にも関連している。関連科目は「こどもの食と栄養Ⅱ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ」の基礎となる。

授業の概要

こどもの健やかな心身の成長には、食生活が重要である。栄養に関する基本的な知識、こどもの発達段階ごとの栄養に関する留意点、食生活の現状と課題等を学ぶことによって食生活の重要性を理解する。また生涯にわたる心身の健康は、こどもの食生活を中心とする生活環境と深いかかわりがあることを理解する。

到達目標

・小児期にとって、食生活のあり方や栄養素の摂取は、心身の成長に影響を与えることが説明できる。
・小児栄養に関する基礎的な知識を述べることができる。
・小児期に関わる専門職への認識を高め、自己の食生活を振り返り、見直すことができる。
・こどもの食と栄養が、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものであることを述べることができる。

授業の方法

パワーポイントや視聴覚メディア、板書を用いて主に講義形式でおこなう。
アクティブラーニングとして1回目・15回目はグループワークを、8回目・12回目には実習を取り入れる。

ICT活用

Google classroomを活用した双方向授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。小テストは返却時に解説を行う。課題に対しては、適宜指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・学生自身の現在までの食生活と育ちを振り返り、「こどもの食と栄養」を学ぶ意義について学ぶ ・こどもの心身の健康と食生活について、日本人の健康や食生活上の問題を知り、こどもの食生活の現状と課題について学ぶ	シラバスを確認する。教科書P.10～15を読む。(20分)	自分の食生活を「食生活指針」のワークシートで評価する。(25分)
担当教員	小塚　美由記		
第2回	食育基本法について ・国民運動として食育推進の意義と必要性を学ぶ こどもの発育・発達と食生活(1) ・身体発育、精神・運動機能発達と栄養・食生活について学ぶ	食育基本法、第3次食育推進基本計画について調べる。教科書P.16、P171～172を読む。(20分)	各自の母子手帳を調べ、誕生から18歳までの身長と体重を成長曲線上に記入する。(25分)
担当教員	小塚　美由記		
第3回	食育の基本と内容(1) ・保育における食育の意義・目的と基本的考え方 ・発育・発達に応じて育てたい「食べる力」 ・就学前のこどもに対する食育の推進 ・保育所、幼稚園、認定こども園における食育	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚　美由記		

第4回	食育の基本と内容(2) ・食育の内容と計画及び評価 ・食育のための環境づくり ・地域の関係機関や職員間の連携 ・食生活指導及び食を通した保護者への支援	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚　美由記		
第5回	こどもの発育・発達と食生活(2) ・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活について学ぶ	教科書P17～21を読む。(20分)	こどもの発育・発達のワークシートを活用して復習する。 (25分)
担当教員	小塚　美由記		
第6回	栄養に関する基本的知識(1) ・栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識を学ぶ ・栄養とは何を意味するのか ・五大栄養素、食べ物の3つのはたらき、6つの基礎食品 ・栄養生理、エネルギー代謝	教科書P22～35を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		

第7回	栄養に関する基本的知識(2) ・日本人の食事摂取基準について、その意義と活用について学ぶ ・食事構成に関する基礎知識 食事バランスガイドから、自己の食事バランスをチェックする	自分の食事1日分を記録する。 教科書P.36～38を読む。(20分)	日本人の食事摂取基準のワークシートを活用して復習する。 (25分)
担当教員	鈴木　陽子		
第8回	栄養に関する基本的知識(3) ・献立作成・調理の基本を学ぶ ・栄養価の算定 ・食品表示と食品の選択について学ぶ 小テスト1	小テスト範囲である第1～7回までの授業を復習する。 教科書P38～47を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。 (25分)
担当教員	鈴木　陽子		
第9回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(1)妊娠期(胎児期)の栄養と食生活 ・妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活について学ぶ ・妊娠期の栄養と胎児の成長 ・DOHaD仮説 ・授乳期の栄養	教科書P48～61を読む。(30分)	妊娠期の栄養と食生活について、ワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		

第10回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(2)乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 ・乳汁栄養・離乳の必要性と留意点 ・離乳食の進め方の目安 ・乳児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P62～75を読む。(20分)	乳汁栄養についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		
第11回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(3)幼児期の心身の発達と食生活1 ・幼児期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・食事と生活リズムについて ・供食上の注意点 ・間食の役割と必要性 ・う蝕について	教科書P76～81を読む。(20分)	離乳食の進め方についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		
第12回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(4)幼児期の心身の発達と食生活2 ・幼児の献立および調理上の留意点 ・お弁当について ・幼児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P82～89を読む。(20分)	幼児期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		

第13回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(5)学童期・思春期の心身の発達と食生活 ・学童期・思春期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・学童期・思春期の栄養・食生活上の問題と対応について学ぶ ・学校給食 ・栄養教諭制度について	教科書P90～105を読む。(20分)	学童期・思春期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		
第14回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(6)生涯発達と食生活 ・生涯発達と加齢変化 ・成人期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ ・高齢期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ 特別な配慮を要するこどもの食と栄養(1) ・疾病および体調不良の子どもへの対応について学ぶ 小テスト2	小テスト範囲である第9～13回までの授業を復習する。 教科書P106～116、P144～ 148を読む。(20分)	成人期、高齢期の食生活、こどもの疾病についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		
第15回	特別な配慮を要するこどもの食と栄養(2) ・食物アレルギーのあるこどもへの対応について学ぶ ・障がいのあるこどもへの対応について学ぶ	教科書P148～170を読む。(20分)	食物アレルギーのあるこども、障がいのあるこどもへの対応についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	鈴木　陽子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト20%、ワークシート・課題70%、授業の参加態度10%
その他	0	なし

教科書

子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本／太田百合子、堤ちはる編著／羊土社

参考文献

日本人の食事摂取基準[2025年版]／厚生労働省／第一出版
日本食品成分表2025 八訂／医歯薬出版編

履修条件・留意事項等

保育士資格取得の必修科目
学習内容は、後期科目「こどもの食と栄養Ⅱ」に引き継ぐ

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 対象の理解						
科目名	こどもの食と栄養Ⅱ					ナンバリング	3331
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木 将太、米山 知奈						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え，乳幼児期のこども，学童期のこども，障がいを有するこども」のいずれかについての基本的な知識を身につけている。
【知識・技能】」に重点をおいた科目である。
関連科目は「こどもの食と栄養I」であり，「こどもの保健」，「こどもの食育I・II」の基礎となる。

授業の概要

保育者として，食育の実践に必要な栄養学の基本を学ぶ。食育の基本とその内容，食育を推進するため地域の関連機関や施設職員間の連携，食生活 指導及び食を通した保護者への支援などを学ぶ。家庭と児童福祉施設が栄養の連携を深めることで，こどもの健やかな心身の成長が育まれる ことを理解する。更に，特別な配慮を必要とするこどもの食と栄養についても対応ができる力をつける。

到達目標

1) 食および栄養の関連，知識を深めることで，こどもの健やかな心身の成長が育まれることを説明できる
2) 食育推進の重要性を述べることができる
3) 食べることを楽しみながら，実践につなげることができる

授業の方法

講義形式の授業を実施する。
講義内容に応じで，試食や飲料の作成を行う。

ICT活用

Google classroomを活用し，資料の配布，質問の受付・回答，小テスト，課題提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業後に，授業の振り返り課題を配布し，授業内容の復習を行ってもらう。
課題に対するフィードバックは，ルーブリックを用いて行う。
質問は随時受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス】 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ・家庭における食事と栄養について理解する ・児童福祉施設における食事と栄養について理解する	教科書P132~143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む（20分）	授業内で課されたレポートを作成する（25分）
担当教員	佐々木　将太		
第2回	食育・栄養と保育（1） 乳児期の成長・発育と食生活・新生児，乳児の心身の成長と発達を理解する ・乳汁栄養の方法，調乳について学ぶ	教科書P62~75「乳児期の食生活 」を読む（20分）	授業内で課されたレポートを作成する（25分）
担当教員	佐々木　将太		
第3回	食育・栄養と保育（2） 調乳法の実践・調乳，洗浄，消毒を体験し理解する [実施教室は授業内で連絡する]	教科書P65~68「人工栄養」を読む（20分）	授業内で課されたレポートを作成する（25分）
担当教員	米山　知奈		

第4回	食育・栄養と保育 (3) 離乳食の実践・離乳食の意義についてグループで話し合う ・ベビーフードの試食を通して，離乳食の形状や味について説明できる [実施教室は授業内で連絡する]	教科書P68~75「離乳の意義とその実践 」を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	米山　知奈		
第5回	保育所給食 (1) 保育所給食の役割と意義 ・保育所給食の献立について学ぶ	教科書P77~83「幼児期の心身の発達と食生活」を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	佐々木　将太		
第6回	保育所給食 (2) 保育施設に合う食事形態とは ・保育所給食の献立を立てられる	教科書P132~143「家庭や児童福祉施設における食事と栄養」を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	佐々木　将太		

第7回	保育所給食 (3) 成長に合わせた幼児食の必要性 ・偏食の対策についてグループで話し合う	教科書P83~87「幼児期の栄養の問題」を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	佐々木 将太		
第8回	保育所給食(4) 給食の実際・幼児に適した食事と間食を調理実習から学ぶ [実施教室は授業内で連絡する]	配布資料を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	佐々木 将太		
第9回	食育・栄養指導と保育 (1) 幼児に合った献立作成・食品の選択, 調理方法を理解する ・お弁当献立について学ぶ	自分の幼児期のお弁当献立を振り返る (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	米山 知奈		

第10回	食育・栄養指導と保育 (2) バランスのよいお弁当献立 ・食品の選択, 調理法, 喫食までに関する注意事項を学ぶ ・お弁当献立を立てられる	教科書P76~89「幼児期の心身の発達と食生活を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	米山　知奈		
第11回	食育・栄養指導と保育(3) 食に関する指導・栄養と食支援について保護者との連携の必要性を理解する ・幼児期の食生活上の問題についてグループで話し合う	教科書P117~131「食育の基本と内容」を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	米山　知奈		
第12回	食育・栄養指導と保育 (3) 食に関する指導・栄養と食支援について保護者との連携の必要性を理解する ・幼児期の食生活上の問題についてグループで話し合う	教科書P133~143「児童福祉施設における食事と栄養」を読む (20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	米山　知奈		

第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1) 食物アレルギーのある子どもへの対応 ・アレルギーをもつ子どものおやつについてグループで話し合う	これまでの学習内容を復習する 教科書P161~170「食物アレルギーのある子供への対応」を読む(20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	佐々木 将太		
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 経口補液療法の実践 ・正しい手洗いの方法を学ぶ ・経口補液を作成し、理解する [実施教室は授業内で連絡する]	教科書P144~148「体調不良、疾病の子どもへの対応」を読む(20分)	授業内で課されたレポートを作成する (25分)
担当教員	米山 知奈		
第15回	・乳児の調乳と離乳 ・幼児の食習慣 ・バランスのよいお弁当 ・食物アレルギー [授業のまとめ]	1回~14回の授業を復習する (30分)	授業のまとめの資料を見直す(15分)
担当教員	佐々木 将太		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業振り返り課題: 80% 最終レポート: 20%
その他	0	

教科書

①子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本/太田百合子, 堤ちはる編著/羊土社
②日本食品成分表2024 八訂/医歯薬出版編

参考文献

日本人の食事摂取基準[2020年版]/厚生労働省/第一出版

履修条件・留意事項等

保育士資格取得の必修科目
原則として「こどもの食と栄養I」を修得していること
実習がある時は，場所の確認，必要な準備をして臨むこと
成績評価は課題提出となるので，期日を守って提出すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　対象の理解						
科目名	こども家庭支援の心理学					ナンバリング	3334
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡　亜希子						

授業の位置づけ

本科目は、こども発達学科のディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」ことと特に関係がある科目である。「保育者論」「乳幼児心理学」「こども家庭支援論」「子育て支援」に関連する。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。（知識・技能）」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

子どもは社会に生まれ、社会の中で育つ。その中で子どもが最初に出会う最も身近な社会が家庭である。本科目では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解すること、さらに家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達的に理解する。近年の社会の変化に伴う子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、包括的にとらえる視点を習得する。

到達目標

1心理学の基礎的な知識を生涯学習の観点から習得し、乳幼児期の重要性について各時期への移行と発達課題などを挙げることができる。
2家族・家庭の意義と機能について発達をふまえて理解し、子どもと家族を包括的に捉える視点について説明できる。
3子育て家庭を中心とした現代社会の課題を述べることができる。
4子どもの精神保健と課題を述べることができる。

授業の方法

教科書（または動画）を用い、講義形式ですすめる（1~15回目）
各回の一部をグループ学習にあてる。家庭支援に関する課題について、グループごとにプレゼンテーションを行う（2~14回目）

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Webアプリを活用して意見、感想へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	乳児期の発達の特徴と課題	教科書の該当ページを読む（90分）	教科書の復習（90分）
担当教員			
第2回	幼児期前期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第3回	幼児期後期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			

第4回	児童期の発達の特徴と課	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第5回	青年期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第6回	成人期・老年期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			

第7回	子どもの生活・生育環境とその影響 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第8回	子どもの心の健康に関わる問題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第9回	子どもの心の健康に関わる問題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			

第10回	ライフコースと仕事・子育て ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第11回	多様な家庭とその理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第12回	多様な家庭とその理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			

第13回	家族・家庭の意義と機能 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第14回	親子関係・家族関係の理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む（90分）	各グループから提示された課題について理解を深める（90分）
担当教員			
第15回	子育ての経験と親としての育ち まとめ	教科書の該当ページを読む（90分）	到達目標を確認し振り返りを行う（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート40%・発表30% 授業内のリアクションペーパー30%
その他	0	なし

教科書

芝野松次郎ほか『事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版

参考文献

父親ネットワーク北海道『シングルファザー ハンドブック』2018年、
リンク https://fathers-net-hokkaido.org/

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育の計画と評価					ナンバリング	3350
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

「保育の計画と評価」は、ディプロマ・ポリシーに基づき、こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解、乳幼児期のこどもについての知識を身につけるための科目である。さらに、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目でもある。保育方法の理解に関わる分野であり、保育内容へとつながる科目である。

授業の概要

保育は一人ひとりのこどもを理解し、見通しをもちながら、その時期にふさわしい環境を用意し、援助を構成する必要がある。こどもたちの豊かな育ちを実現するためには、その根幹となる保育の計画を理解することが求められる。こどもたちがどのように育ってほしいのかという目標に基づき、その目標を実現するためにどのような活動を展開し、環境を構成するのか。また、保育所保育指針、幼稚園教育要領、保幼連携型認定こども園教育・保育要領の歴史的変遷、全体的な計画から指導計画までの計画の基本を確認する。さらに保育の評価が保育の質を高め、計画をより豊かなものへと変容させる循環構造についても学ぶ。

到達目標

・全体的な計画と指導計画の意義と方法について説明できる。
・各年齢やクラスに応じた指導計画を作成することができる。
・保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について説明できる。

授業の方法

教科書、パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。内容に応じてグループワークも取り入れグループ発表を行う（全3回）

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

保育所での保育士の経験に基づき、現場の状況に即した指導案の書き方について、保育実習および幼稚園実習に向けて実践的授業の取り組みをする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題や質問事項等については時間を設け、授業時に回答する。また、達成度確認を回収後、内容の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要: 保育所保育の根幹となる全体的な計画について考える。	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返りまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	保育の計画と評価の基本1: 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と社会的背景などについて考える。	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を調べておくこと。(90分)	学習内容を振り返りまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	保育の計画と評価の基本2: 保育における計画と評価の意義について理解する。	テキスト第1章1節を読んでおくこと。(90分)	計画と評価の意義についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	保育の計画と評価の基本3: こども理解に基づく保育の計画(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解する。	テキスト第1章3節を読んでおくこと。(90分)	PDCAサイクルについてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	保育所における保育の計画について1: 保育所における保育の目標と計画の基本的な考え方について考え、また、保育所保育指針の内容について理解する。	テキスト第2章1節を読んでおくこと。(90分)	保育所における保育の目標と計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	保育所における保育の計画について2: 全体的な計画と指導計画の繋がりについて考え、全体的な計画と指導計画の作成について理解する。	テキスト第1章5節を読んでおくこと。(90分)	指導計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	保育所、認定こども園における指導計画について1: 指導計画を作成する上での配慮点や留意点について考え、長期計画と短期計画を作成する上での、着目点や保育者の援助について理解する。	テキスト第2章4節を読んでおくこと。(90分)	長期計画と短期計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	保育所、認定こども園における指導計画について2: 0歳児の指導計画を作成する上での配慮点について理解し、発達に沿った計画を実際に計画する。(グループワーク)	テキスト第2章1節を読んでおくこと。(90分)	0歳児の指導計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	保育所、認定こども園における指導計画について3: 1歳から3歳未満児の指導計画を作成する上での配慮点について考え、各年齢に合った計画を実際に作成する。(グループワーク)	テキスト第2章3節を読んでおくこと。(90分)	1歳から3歳未満児の指導計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	保育所、認定こども園、幼稚園における指導計画について1: 3歳以上児の指導計画を作成する上での配慮点について考え、各年齢、異年齢保育の計画を実際に作成し、3歳以上児の特徴に基づく指導計画を理解する。(グループワーク)	テキスト第2章2節を読んでおくこと。(90分)	3歳以上児の指導計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	保育所、認定こども園、幼稚園における指導計画について2: 計画に基づく柔軟な保育の考え方と、臨機応変な保育内容の展開について理解する。	テキスト第2章5節を読んでおくこと。(90分)	保育の考え方についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	保育の評価について1: 保育の記録・省察の重要性と方法について具体的事例を通して学ぶ。	テキスト第5章1節を読んでおくこと。(90分)	記録、省察についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	保育の評価について2: 保育者の自己評価の方法について具体的事例を通して学ぶ。	テキスト第5章2節を読んでおくこと。(90分)	自己評価についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	保育の評価について3: 保育所、認定こども園、幼稚園から小学校への接続の重要性を考え、保育所児童保育要領等の内容及び、発達の連続性を踏まえた記録の書き方について理解する。	テキスト第5章3節を読んでおくこと。(90分)	小学校への接続の意義についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	保育における計画の重要性について: これまでの学びから、こどもの発達に沿った計画の重要性について再確認する。また、作成した計画の内容について、自己評価し保育の質の向上について理解する。	保育の計画と評価の到達目標と自己の理解について振り返りを行う。(90分)	学習内容を振り返りまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題(25%)、達成度確認(25%)、授業への参加態度(50%)
その他	0	なし。

教科書

新・保育の計画と評価 前田和代ほか 教育情報出版

参考文献

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館

履修条件・留意事項等

授業内で実施する課題は、成績評価の対象となるものであるため必ず提出のこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容総論(1組)					ナンバリング	3352
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。
保育内容指導法各科目と関連する科目である。

授業の概要

本科目は、子どもの健やかな発達のために、保育者は子どもの生活をどのようにとらえ、どう働きかければよいのかということを理解するための科目である。保育目標と保育内容との関連、保育内容と小学校以上の科目内容とのとらえ方の違い、保育内容に含まれる養護的内容と教育的内容、保育内容のとらえ方と保育方法との関連、これからの保育内容などについて学ぶ。子どもの心身の発達について理解しておくことが本科目の学習の基礎になる。

到達目標

1.「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連づけて保育内容の説明をすることができる。
2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について論じることができる。
3. 保育の多様な展開について具体的に学び、適用する事ができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物・テキストを使用した講義形式で実施する。
グループワークを複数回行う。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

発達支援センターでの勤務や乳幼児健診における心理相談担当の経験から、就学前のこどもの育ちや環境についての知識を有している。この経験をいかして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	近隣の幼稚園や保育所、既卒の園がどのような保育を実施していたかを話し合う。 ・既卒園のホームページなどを見て現在の保育を確認し当時と比較する。【グループワーク】	近隣の幼稚園・保育所について調べておく。(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の基本および内容の理解 幼稚園の役割、幼稚園における教育の内容について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育の全体構造と保育内容:養護にかかわる内容「養護に関わるねらい及び内容」「教育に関わるねらい及び内容」との関連について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第4回	保育の全体構造と保育内容:教育にかかわる内容 保育所における教育について、領域について、教育に関わるねらいおよび内容について、保育の実施上の配慮事項について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	保育内容の歴史的変遷 :保育所保育指針の歴史的変遷、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、幼稚園と保育所との関係について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	子どもの発達の特性と保育内容:乳幼児期における発達の特性、発達過程に応じた保育、発達過程に応じた保育内容と環境構成について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	個と集団の発達と保育内容【グループワーク】 個と集団の発達、発達過程と保育内容について知る。また、保育実践場面の視聴覚教材を活用し、具体的な個と集団の発達、働きかけを実践的に学ぶ。	配布資料の読了(25分)	個と集団の発達についての表の作成(20分)
担当教員			
第8回	保育における観察と記録、評価:保育における記録、保育における観察・観察方法・評価について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、記録方法や評価について学ぶ。ワークシート及び資料、視聴覚教材、などICTを活用して、具体的・実践的に学ぶ。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	養護と教育が一体的に展開する保育:「養護と教育の一体的な展開」「養護と教育が一体的に展開する保育」について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第10回	環境を通して行う保育【グループワーク】 環境を通して行う保育とは、保育の環境と保育士の役割について知る。また、テキストの他、視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第11回	遊びによる総合的な保育【グループワーク】：乳幼児期の学びとしての遊び、乳幼児期の遊びの特徴について知る。さらに、テキストの他、資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第12回	生活や発達の連続性に考慮した保育：保育課程とは何か、望ましい未来をつくり出す力の基礎＝生活習慣の自立と保育課程、生活習慣の自立に向けた保護者との協働について知る。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			

第13回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育：家庭、地域、小学校等との連携の意義について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、関係機関との連携をふまえた保育について学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第14回	保育指導案の作成：これまでの授業内容を踏まえ、対象年齢、時期、子どもの発達や状態を考えて指導案を作成する。	指導案作成に必要な資料等の準備（25分）	指導案の作成（20分）
担当教員			
第15回	まとめ：模擬保育 これまでの内容を踏まえて作成した指導案による保育を実施し、自己評価をする。	指導案の作成と、模擬保育の準備(25分)	模擬保育の振返りと指導案の改善（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物(40) 授業・グループワークへの参加態度(30) 小テスト(30)
その他	0	

教科書

暮らしの保育 異年齢保育の先に見えてきたもう一つの保育論／宮里六郎／ひとなる書房

参考文献

新基本保育シリーズ14 保育内容総論／公益財団法人児童育成協会編／中央法規
幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館
保育所保育指針解説／厚生労働省編／フレーベル館

履修条件・留意事項等

準備学習及び事後学習をして、講義の内容を深く理解できるよう努力すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容総論(2組)					ナンバリング	3352
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。
保育内容指導法各科目と関連する科目である。

授業の概要

本科目は、子どもの健やかな発達のために、保育者は子どもの生活をどのようにとらえ、どう働きかければよいのかということを理解するための科目である。保育目標と保育内容との関連、保育内容と小学校以上の科目内容とのとらえ方の違い、保育内容に含まれる養護的内容と教育的内容、保育内容のとらえ方と保育方法との関連、これからの保育内容などについて学ぶ。子どもの心身の発達について理解しておくことが本科目の学習の基礎になる。

到達目標

1.「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連づけて保育内容の説明をすることができる。
2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について論じることができる。
3. 保育の多様な展開について具体的に学び、適用する事ができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物・テキストを使用した講義形式で実施する。
グループワークを複数回行う。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

発達支援センターでの勤務や乳幼児健診における心理相談担当の経験から、就学前のこどもの育ちや環境についての知識を有している。この経験をいかして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	近隣の幼稚園や保育所、既卒の園がどのような保育を実施していたかを話し合う。 ・既卒園のホームページなどを見て現在の保育を確認し当時と比較する。【グループワーク】	近隣の幼稚園・保育所について調べておく。(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の基本および内容の理解 幼稚園の役割、幼稚園における教育の内容について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育の全体構造と保育内容:養護にかかわる内容「養護に関わるねらい及び内容」「教育に関わるねらい及び内容」との関連について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第4回	保育の全体構造と保育内容:教育にかかわる内容 保育所における教育について、領域について、教育に関わるねらいおよび内容について、保育の実施上の配慮事項について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	保育内容の歴史的変遷 :保育所保育指針の歴史的変遷、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、幼稚園と保育所との関係について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	子どもの発達の特性と保育内容:乳幼児期における発達の特性、発達過程に応じた保育、発達過程に応じた保育内容と環境構成について知る。	配布資料の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	個と集団の発達と保育内容【グループワーク】 個と集団の発達、発達過程と保育内容について知る。また、保育実践場面の視聴覚教材を活用し、具体的な個と集団の発達、働きかけを実践的に学ぶ。	配布資料の読了（25分）	個と集団の発達についての表の作成(20分)
担当教員			
第8回	保育における観察と記録、評価：保育における記録、保育における観察・観察方法・評価について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、記録方法や評価について学ぶ。ワークシート及び資料、視聴覚教材、などICTを活用して、具体的・実践的に学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第9回	養護と教育が一体的に展開する保育：「養護と教育の一体的な展開」「養護と教育が一体的に展開する保育」について知る。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			

第10回	環境を通して行う保育【グループワーク】 環境を通して行う保育とは、保育の環境と保育士の役割について知る。また、テキストの他、視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第11回	遊びによる総合的な保育【グループワーク】：乳幼児期の学びとしての遊び、乳幼児期の遊びの特徴について知る。さらに、テキストの他、資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第12回	生活や発達の連続性に考慮した保育：保育課程とは何か、望ましい未来をつくり出す力の基礎＝生活習慣の自立と保育課程、生活習慣の自立に向けた保護者との協働について知る。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			

第13回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育：家庭、地域、小学校等との連携の意義について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、関係機関との連携をふまえた保育について学ぶ。	配布資料の読了（25分）	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第14回	保育指導案の作成：これまでの授業内容を踏まえ、対象年齢、時期、子どもの発達や状態を考えて指導案を作成する。	指導案作成に必要な資料等の準備（25分）	指導案の作成（20分）
担当教員			
第15回	まとめ：模擬保育 これまでの内容を踏まえて作成した指導案による保育を実施し、自己評価をする。	指導案の作成と、模擬保育の準備(25分)	模擬保育の振返りと指導案の改善（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物(40) 授業・グループワークへの参加態度(30) 小テスト(30)
その他	0	

教科書

暮らしの保育 異年齢保育の先に見えてきたもう一つの保育論／宮里六郎／ひとなる書房

参考文献

新基本保育シリーズ14 保育内容総論／公益財団法人児童育成協会編／中央法規
幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館
保育所保育指針解説／厚生労働省編／フレーベル館

履修条件・留意事項等

準備学習及び事後学習をして、講義の内容を深く理解できるよう努力すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(健康1)(1組)					ナンバリング	3354
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。

授業の概要

「健康」という言葉は一般的であり、万人が目標とする状況ではあるが、実際に自分が非常に健康だと思っている人は少ない。なぜ少ないのか。健康とは何か、何を持って健康とするのか、健康の定義とは何かを考え、健康を維持・増進していくためには何が必要か、乳幼児期から取り組むべき事・注意することは何かを学ぶ。

到達目標

①こどもの発育・発達、身体諸機能について理解できる。
②保育所・幼稚園で考えられる「健康」とは何かを理解できる。
③運動機能・能力の発達を理解し、様々な運動遊びの種類や工夫の仕方を学び、実践することができる。

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	健康についての認識 自分が考える健康観・他人が思う健康観を理解する	自分の健康観を考えておくこと(20分)	発表された他人の健康観をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第2回	「健康」の定義 「健康」とは何か、何を持って「健康」とするのかを理解する	今までの健康の定義を調べておくこと(20分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 それぞれの違いや特徴を学ぶ	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を事前に読んでおくこと(20分)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第4回	領域「健康」について考える(1) 「ねらい」から考える	領域「健康」の「ねらい」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「ねらい」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第5回	領域「健康」について考える(2) 「内容」から考える	領域「健康」の「内容」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「内容」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第6回	発育・発達について 人間の特徴、発育・発達を規定する要因、発育・発達の原理、特質を理解する	発育と発達の違いについて調べておくこと(20分)	発育と発達の違いについてまとめよく理解すること(25分)
担当教員			

第7回	形態の発育について(1) 体重、身長、発育評価について学ぶ	こどもの平均身長・平均体重はどれくらいかを調べておくこと(20分)	年齢別の平均身長・平均体重をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第8回	形態の発育について(2) その他の形態の発育について学ぶ	「その他」にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	形態の発育についての復習しまとめておくこと(25分)
担当教員			
第9回	機能の発達(1) 呼吸・循環機能の働きを学ぶ	呼吸・循環機能にはどのようなものがあるか調べておくこと(20分)	年齢別の発達状況をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第10回	機能の発達(2) 生理機能の発達について学ぶ	生理機能とは何か調べておくこと(20分)	機能の発達についてまとめておくこと(25分)
担当教員			
第11回	運動遊びの実際 様々な運動能力の関係を学ぶ	運動遊びにはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	年齢に適した運動遊びをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第12回	運動機能の発達について 神経機能と運動機能との関係を学ぶ	運動機能にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	神経機能を運動機能との関係をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第13回	運動能力について 基礎運動能力と反射の関係を学ぶ	基礎運動能力にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	年齢による基礎運動機能の関係をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第14回	伝え方と問いかけの仕方 伝え方と問いかけがいかに難しいかを理解し工夫することを学び	伝え方の難しい点を調べておくこと(20分)	授業以外にも伝え方の方法・工夫をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第15回	まとめ(試験) 「健康1」のまとめと復習	前期14回の資料に目を通しておくこと(20分)	15回の授業を通し「健康」の重要性や今後の課題についてまとめておくこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト
その他	30	レポート等

教科書

適宜プリントを配布する

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は禁止。また、講義中は献体電話、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(健康1)(2組)					ナンバリング	3354
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。
「保育内容総論」と関連。

授業の概要

「健康」という言葉は一般的であり、万人が目標とする状況ではあるが、実際に自分が非常に健康だと思っている人は少ない。なぜ少ないのか。健康とは何か、何をもって健康とするのか、健康の定義とは何かを考え、健康を維持・増進していくためには何が必要か、乳幼児期から取り組むべき事・注意することは何かを学ぶ。

到達目標

①こどもの発育・発達、身体機能について理解できる。
②保育所・幼稚園で考えられる「健康」とは何かを理解できる。
③運動機能・能力の発達を理解し、様々な運動遊びの種類や工夫の仕方を学び、実践することができる。

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	健康についての認識 自分が考える健康観・他人が思う健康観を理解する	自分の健康観を考えておくこと(20分)	発表された他人の健康観をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第2回	「健康」の定義 「健康」とは何か、何をもって「健康」とするのかを理解する	今までの健康の定義を調べておくこと(20分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 それぞれの違いや特徴を学ぶ	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を事前に読んでおくこと(20分)	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第4回	領域「健康」について考える(1) 「ねらい」から考える	領域「健康」の「ねらい」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「ねらい」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第5回	領域「健康」について考える(2) 「内容」から考える	領域「健康」の「内容」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「内容」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第6回	発育・発達について 人間の特徴、発育・発達を規定する要因、発育・発達の原理、特質を理解する	発育と発達の違いについて調べておくこと(20分)	発育と発達の違いについてまとめよく理解すること(25分)
担当教員			

第7回	形態の発育について(1) 体重、身長、発育評価について学ぶ	こどもの平均身長・平均体重はどれくらいかを調べておくこと(20分)	年齢別の平均身長・平均体重をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第8回	形態の発育について(2) その他の形態の発育について学ぶ	「その他」にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	形態の発育についての復習しまとめておくこと(25分)
担当教員			
第9回	機能の発達(1) 呼吸・循環機能の働きを学ぶ	呼吸・循環機能にはどのようなものがあるか調べておくこと(20分)	年齢別の発達状況をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第10回	機能の発達(2) 生理機能の発達について学ぶ	生理機能とは何か調べておくこと(20分)	機能の発達についてまとめておくこと(25分)
担当教員			
第11回	運動遊びの実際 様々な運動能力の関係を学ぶ	運動遊びにはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	年齢に適した運動遊びをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第12回	運動機能の発達について 神経機能と運動機能との関係を学ぶ	運動機能にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	神経機能と運動機能との関係をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第13回	運動能力について 基礎運動能力と反射の関係を学ぶ	基礎運動能力とはどのようなものかを調べておくこと(20分)	年齢による基礎運動機能の関係をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第14回	伝え方と問いかけの仕方 伝え方と問いかけがいかに難しいかを理解し工夫することを学び	伝え方の難しい点を調べておくこと(20分)	授業以外にも伝え方の方法・工夫をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第15回	まとめ(試験) 「健康1」のまとめと復習	前期14回の資料に目を通しておくこと(20分)	15回の授業を通し「健康」の重要性や今後の課題についてまとめておくこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等
その他	30	レポート等

教科書

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(健康2)(1組)					ナンバリング	3355
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。
「保育内容総論」と関連。

授業の概要

こどもの心身の発育・発達について理解すると共に、それらと日常生活や遊び(運動)がこどもの「健康」にどようように影響していくかを学び、今後に活かすことのできる保育者を目指す。

到達目標

①こどもの健康に関する課題や問題点を指摘できる。
②生活リズムの乱れや体力・運動能力の低下など健康に関わる今日的な問題について関心を持ち、各自が課題意識を持つことができる。
③保育所・幼稚園での、安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる。

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと健康1の復習	健康1の資料に目を通しておくこと(20分)	「健康1」に関しての課題を出すのでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第2回	「健康に関する発表」についての調査研究(1) 発表グループ・テーマの決定	発表する内容について各自考えておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第3回	「健康に関する発表」についての調査研究(2) テーマに沿って内容を調査	各自担当する部分の調査をしておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第4回	「健康に関する発表」についての調査研究(3) 調査した内容をまとめる	各自担当する部分の調査をしておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第5回	「健康に関する発表」についての調査研究(4) 調査した内容をまとめる	各自担当する部分の調査をしておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第6回	健康に関しての発表(1) グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			

第7回	健康に関しての発表(2) グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			
第8回	健康に関しての発表(3) グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			
第9回	幼児の基本的生活習慣・生活リズム 生活習慣・生活リズムについて学ぶ	幼児の基本的生活習慣・生活リズムとはどうのようなものかを考えておくこと(20分)	自分の考えていることと実際の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			

第10回	こどもの遊びとメンタルヘルスについて こどもの遊びがメンタルに及ぼす影響を学ぶ	こどもの遊びとメンタルの関係を調べておく(20分)	こどもの遊びがメンタルに及ぼす影響をまとめておく(25分)
担当教員			
第11回	幼児期運動指針について(1) 幼児の運動の内容・必要性について理解する	「幼児期運動指針」につて事前に内容を調べておくこと(20分)	「幼児期運動指針」内容をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第12回	幼児期運動指針について(2) 「幼児期運動指針」が現場でどのように活用されているかを学ぶ	「幼児期運動指針」内容を確認すること(20分)	「幼児期運動指針」が現場でどのように活用されているかをまとめておく(25分)
担当教員			

第13回	応急処置について 簡単な応急処置の方法を学ぶ	自分の知っている応急処置の方法をまとめておくこと(20分)	応急処置の必要性・方法をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第14回	運動遊びを取り入れた指導案の作成と模擬保育の実施。	作成に当たっての参考書・資料等を準備し、事前に内容を考えておくこと(20分)	模擬保育を振り返り、今後の実習等に活かすことが出来るようまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	まとめ(試験) 「健康2」のまとめと復習	前期15回の資料に目を通す(20分)	15回の授業を通し「健康」の重要性や今後の課題についてまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト
その他	30	レポート等

教科書

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(健康2)(2組)					ナンバリング	3355
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。
「保育内容総論」と関連。

授業の概要

こどもの心身の発育・発達について理解すると共に、それらと日常生活や遊び(運動)がこどもの「健康」にどよように影響していくかを学び、今後に活かすことのできる保育者を目指す。

到達目標

①こどもの健康に関する課題や問題点を指摘できる。
②生活リズムの乱れや体力・運動能力の低下など健康に関わる今日的な問題について関心を持ち、各自が課題意識を持つことができる。
③保育所・幼稚園での、安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる。

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと健康1の復習	健康1の資料に目を通しておくこと(20分)	「健康1」に関しての課題を出すのでレポートを作成すること(25分)
担当教員			
第2回	「健康に関する発表」についての調査研究(1) 発表グループ・テーマの決定	発表する内容について各自考えておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第3回	「健康に関する発表」についての調査研究(2) テーマに沿って内容を調査	各自担当する部分の調査をしておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			

第4回	「健康に関する発表」についての調査研究(3) 調査した内容をまとめる	各自担当する部分の調査をしておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第5回	「健康に関する発表」についての調査研究(4) 調査した内容をまとめる	各自担当する部分の調査をしておくこと(20分)	各自担当する部分をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第6回	健康に関しての発表(1) グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			

第7回	健康に関しての発表(2) グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			
第8回	健康に関しての発表(3) グループごとに調査内容を発表 発表を聞き「健康」に関する内容を理解すること	発表者は事前に練習しておくこと(20分)	発表された内容をよく理解しておくこと(25分)
担当教員			
第9回	幼児の基本的生活習慣・生活リズム 生活習慣・生活リズムについて学ぶ	幼児の基本的生活習慣・生活リズムとはどうのようなものかを考えておくこと(20分)	自分の考えていることと実際の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			

第10回	こどもの遊びとメンタルヘルスについて こどもの遊びがメンタルに及ぼす影響を学ぶ	こどもの遊びとメンタルの関係を調べておく(20分)	こどもの遊びがメンタルに及ぼす影響をまとめておく(25分)
担当教員			
第11回	幼児期運動指針について(1) 幼児の運動の内容・必要性について理解する	「幼児期運動指針」につて事前に内容を調べておくこと(20分)	「幼児期運動指針」内容をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第12回	幼児期運動指針について(2) 「幼児期運動指針」が現場でどのように活用されているかを学ぶ	「幼児期運動指針」内容を確認すること(20分)	「幼児期運動指針」が現場でどのように活用されているかをまとめておく(25分)
担当教員			

第13回	応急処置について 簡単な応急処置の方法を学ぶ	自分の知っている応急処置の方法をまとめておくこと(20分)	応急処置の必要性・方法をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第14回	運動遊びを取り入れた指導案の作成と模擬保育の実施。	作成に当たっての参考書・資料等を準備し、事前に内容を考えておくこと(20分)	模擬保育を振り返り、今後の実習等に活かすことが出来るようまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	まとめ(試験) 「健康2」のまとめと復習	前期15回の資料に目を通す(20分)	15回の授業を通し「健康」の重要性や今後の課題についてまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト
その他	30	レポート等

教科書

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(人間関係1)(1組)					ナンバリング	3358
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係2)」の基礎となる。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」ことができるとある。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。特に12回は、保育の中の人間関係のまとめとして、グループ学習を行う。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	領域「人間関係」とは ①幼稚園及び保育所等の保育の計画について理解する。②カリキュラムの特徴について理解する。③5領域ついて理解する。④領域「人間関係」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの領域「人間関係とは」の①～④について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	保育（教育）の基本と人間関係 ①個人内の能力における発達要求の矛盾と人間関係について理解する。②個人間の発達要求の矛盾と人間関係について理解する。③社会的的矛盾について理解する。④幼稚園教育において幼児に身につけさせたい人間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育（教育）の基本と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	乳幼児の発達と人間関係 ①人的環境及び物的環境について理解する。②乳幼児を取り巻く人間関係と「人とのかかわり」について理解する。③「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。④「人の世界」への関心－視覚・聴覚の発達－について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②笑顔と笑顔の相互作用－社会的微笑の意味－について理解する。③生後6か月までの乳幼児の遊びについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②前言語期から言語期への発達過程について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②愛着の発達について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－幼児期－について理解する。②「つもり」の主体として外界とかかわることについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	乳幼児の発達と人間関係 ①言葉によるコミュニケーションについて理解する。②自我の芽生えと自己主張の始まりについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	乳幼児の発達と人間関係 ①愛着の対象の広がりについて理解する。②トラブルと仲間関係について理解する。③協同的学び」と自己調整について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	幼稚園及び認定こども園における領域人間関係 ①幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「教育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	保育所及び認定こども園における領域人間関係 ①乳幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	将来を見通した統合(教育)保育の充実を考える ①統合(教育)保育の意義と課題を理解する。②インテグレーションとインクルージョンを理解する。③障がいのある子どもの指導計画における留意点ついて理解する。	上記、テキストの「将来を見通した統合(教育)保育～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	人間関係を踏まえた幼稚園(保育所)のあり方 ①教育(保育)目的、活動、形態、環境を理解する。②適切な幼稚園(保育所)のあり方を理解する。③幼児期の教育(保育)を計画的に行ううえでの幼児・保育の実態把握の方法について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「人間関係を踏まえた～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(人間関係1)(2組)					ナンバリング	3358
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係2)」の基礎となる。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」ことができるとある。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。特に12回は、保育の中の人間関係のまとめとして、グループ学習を行う。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	領域「人間関係」とは ①幼稚園及び保育所等の保育の計画について理解する。②カリキュラムの特徴について理解する。③5領域ついて理解する。④領域「人間関係」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの領域「人間関係とは」の①～④について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	保育（教育）の基本と人間関係 ①個人内の能力における発達要求の矛盾と人間関係について理解する。②個人間の発達要求の矛盾と人間関係について理解する。③社会的的矛盾について理解する。④幼稚園教育において幼児に身につけさせたい人間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育（教育）の基本と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	乳幼児の発達と人間関係 ①人的環境及び物的環境について理解する。②乳幼児を取り巻く人間関係と「人とのかかわり」について理解する。③「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。④「人の世界」への関心－視覚・聴覚の発達－について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②笑顔と笑顔の相互作用－社会的微笑の意味－について理解する。③生後6か月までの乳幼児の遊びについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②前言語期から言語期への発達過程について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②愛着の発達について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とのかかわり」の発達過程－幼児期－について理解する。②「つもり」の主体として外界とかかわることについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	乳幼児の発達と人間関係 ①言葉によるコミュニケーションについて理解する。②自我の芽生えと自己主張の始まりについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	乳幼児の発達と人間関係 ①愛着の対象の広がりについて理解する。②トラブルと仲間関係について理解する。③協同的学び」と自己調整について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	幼稚園及び認定こども園における領域人間関係 ①幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「教育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	保育所及び認定こども園における領域人間関係 ①乳幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	将来を見通した統合（教育）保育の充実を考える ①統合（教育）保育の意義と課題を理解する。②インテグレーションとインクルージョンを理解する。③障がいのある子どもの指導計画における留意点ついて理解する。	上記、テキストの「将来を見通した統合（教育）保育～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第14回	人間関係を踏まえた幼稚園（保育所）のあり方 ①教育（保育）目的、活動、形態、環境を理解する。②適切な幼稚園（保育所）のあり方を理解する。③幼児期の教育（保育）を計画的に行ううえでの幼児・保育の実態把握の方法について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「人間関係を踏まえた～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。（20分）	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(人間関係2)(1組)					ナンバリング	3359
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係1)」を基礎とし、「幼児の理解」につながる科目である。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」ことができるとある。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	「人間関係」におけるカウンセリングマインドとは ①カウンセリングマインドについて理解する。②教育（保育）におけるカウンセリングマインドについて理解する。③カウンセリングマインドを発揮した教育（保育）について理解する。	テキスト「人間関係におけるカウンセリングマインドとは」①～④を、事前に熟読し、解らない語句などを調べておく。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	将来を見通した統合保育の充実を考える（1） ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②友達や先生に関心を示さない子について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「将来を見通した統合保育の充実を考える(1)」①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	将来を見通した統合保育の充実を考える(2) ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②聴覚障害児に対する教育(保育)について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「将来を見通した統合保育の充実を考える(2)」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(1)―叱ることとほめること― ①子どもに対する保護者や保育者の接し方について理解する。②叱り方について理解する。③ほめ方について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり1」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(2)―対象喪失と記憶― ①対象喪失について理解する。②事例考察について学ぶ。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり2」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	3歳未満児保育における「人とかかわる力」(1) ①3歳未満児にとっての「人とかかわる力」について理解する。②誕生からおおむね二歳までの「人とかかわる力」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	3歳未満児保育における「人とかかわる力」(2) ①「人とかかわる力」を豊かに育てるために3歳未満児保育において大切にしたいことについて理解する。②かかわり方について具体的に理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	集団保育場面における人間関係 ①愛着行動について理解を深める。②友達との信頼関係について理解する。③自己肯定感について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「集団保育場面における人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	幼児保育における「かかわる力」 ①「第3の道」を考え出す力（話し合い）について理解する。 ②年長児のトラブルと仲間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの幼児保育における「かかわる力」「」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第11回	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する。テキストの他、参考資料を準備し、保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなど用いて具体的に立案する。	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する為の参考資料を準備しておく。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第12回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。1 保育者の視点と保育される幼児の視点を実践的に体感する。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第13回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。2 保育者の視点と保育される幼児の視点を体感し、幼児理解を深める。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	異年齢縦割り保育にみる、領域「人間関係」の実践①日常生活②発表会等の取り組み 子どもたち同士が影響し影響されながら成長する異年齢児保育の日常と育まれるものについてICT等を利用した保育の記録方法、ポートフォリオ等の実際等を通して理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	ICTを利用した記録の方法等あらかじめ各自が調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。 人と人とのかかわりの中で成長する子どもの必要な要件についてまとめたり、保育者として専門的にかかわることの意味を確認したりすることを含む。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(人間関係2)(2組)					ナンバリング	3359
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係1)」を基礎とし、「幼児の理解」につながる科目である。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」ことができるとある。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	「人間関係」におけるカウンセリングマインドとは ①カウンセリングマインドについて理解する。②教育（保育）におけるカウンセリングマインドについて理解する。③カウンセリングマインドを発揮した教育（保育）について理解する。	テキスト「人間関係におけるカウンセリングマインドとは」①～④を、事前に熟読し、解らない語句などを調べておく。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	将来を見通した統合保育の充実を考える（1） ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②友達や先生に関心を示さない子について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「将来を見通した統合保育の充実を考える(1)」①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	将来を見通した統合保育の充実を考える(2) ①統合保育に求められる諸課題について理解する。②聴覚障害児に対する教育(保育)について考える。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「将来を見通した統合保育の充実を考える(2)」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(1)―叱ることとほめること― ①子どもに対する保護者や保育者の接し方について理解する。②叱り方について理解する。③ほめ方について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり1」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	生涯発達における乳幼児期のかかわり(2)―対象喪失と記憶― ①対象喪失について理解する。②事例考察について学ぶ。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキスト「生涯発達における乳幼児期のかかわり2」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	3歳未満児保育における「人とかかわる力」(1) ①3歳未満児にとっての「人とかかわる力」について理解する。②誕生からおおむね二歳までの「人とかかわる力」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	3歳未満児保育における「人とかかわる力」(2) ①「人とかかわる力」を豊かに育てるために3歳未満児保育において大切にしたいことについて理解する。②かかわり方について具体的に理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	テキストの「未満児保育における「人とかかわる力」2」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	集団保育場面における人間関係 ①愛着行動について理解を深める。②友達との信頼関係について理解する。③自己肯定感について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「集団保育場面における人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	幼児保育における「かかわる力」 ①「第3の道」を考え出す力（話し合い）について理解する。 ②年長児のトラブルと仲間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの幼児保育における「かかわる力」「」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第11回	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する。テキストの他、参考資料を準備し、保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなど用いて具体的に立案する。	領域「人間関係」を踏まえた指導案を作成する為の参考資料を準備しておく。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第12回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。1 保育者の視点と保育される幼児の視点を実践的に体感する。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第13回	領域「人間関係」を踏まえた立案・作成した指導案を基に、準備物等を予め準備し、模擬保育を行う。2 保育者の視点と保育される幼児の視点を体感し、幼児理解を深める。	指導計画を作成し、演習として実施できるように、準備する。他グループの計画を吟味し、各自が意見を用意しておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	異年齢縦割り保育にみる、領域「人間関係」の実践①日常生活②発表会等の取り組み 子どもたち同士が影響し影響されながら成長する異年齢児保育の日常と育まれるものについてICT等を利用した保育の記録方法、ポートフォリオ等の実際等を通して理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、保育実践場面の映像の提供及び取集等ICTなどを用いて具体的・実践的に学ぶ。	ICTを利用した記録の方法等あらかじめ各自が調べておく。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。 人と人とのかかわりの中で成長する子どもの必要な要件についてまとめたり、保育者として専門的にかかわることの意味を確認したりすることを含む。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(環境1)(前半)					ナンバリング	3362
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	柘植　純一						

授業の位置づけ

主体的・探求的な学習を通じて，変化する社会の中で、教育に求められるニーズ に的確に対応し，より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を養うため，身近な環境に関わり，考えたり扱ったりする中で幼児を取り巻く身近な自然，物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする.「保育内容Ⅲ環境葉2」の基礎となる.

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」で対象とする内容のうち，特に自然環境に重点を置いて学習を進める. 幼児に自然との触れ合いを指導する際に求められる保育者の姿勢，身近な小動物・植物との触れ合いを指導する上での留意点について重点を置きながら考察する. 保育者自身が季節の変化等への感性を磨くとともに身近な動植物に興味や関心を持つことの重要性について考察する. 実際に野外に出て身近な自然と触れ合い観察することにより，身近な動植物への興味や関心を深める機会をもつ.

到達目標

①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる.
②授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる.
③身近な植物を使って遊びを工夫することができる.

授業の方法

ICT活用

植物素材を使った遊びの指導案作成，模擬授業において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし.

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして，学んだことや質問事項に対してコメントを返したり，解説を行ったりする. また、グループ課題に対しては，グループごとに指導・助言を行う.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス，現代の幼児の特徴 この授業の概要，受講上の留意点について話します．またこれから学習を始めるにあたって現在の子どもについて一般的な特徴について考えていきます．	現代の子どもを取り巻く問題点について考えておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			
第2回	身近な植物についての教材研究および草花遊びの指導案作成 大学キャンパス内に自生しているセイヨウタンポポおよびオオイタドリについて，幼児が触れ合う身近な自然物として教材研究を行うとともに草花遊びの模擬保育を行うための指導案を作成します．指導案の作成においてはICT技術を保育構想に効果的に活用することを学修します．	セイヨウタンポポおよびオオイタドリがどんな植物か調べておく．(15分)	作成した指導案を見直す．(30分)
担当教員			
第3回	タンポポを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てタンポポを使った草花遊びの模擬保育を行います．また実際にタンポポの花を観察しながらキク科植物の特徴について理解します．模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います．	前回作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく．(15分)	自分の模擬保育を振返って改善点について考える．(30分)
担当教員			

第4回	身近な自然観察で春を感じる 野外に出て大学周辺の自然観察を行います．視覚だけではなく，聴覚，嗅覚など，五感をしっかり働かせて春を感じましょう．また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し，図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます．	身近な春の植物について調べておく．(15分)	観察した植物について調べるとともに日常生活でも身近な自然に目を向ける．(60分)
担当教員			
第5回	幼稚園教育要領，保育所保育指針の領域「環境」，幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領，保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記述されている領域「環境」のねらいと内容について学習します．	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく．(15分)	配付した資料を見直す．(30分)
担当教員			
第6回	領域「環境」指導に求められる保育者の姿勢 子どもにとって重要な人的環境である保育者の役割について考えます．特に自然を中心とした身近な環境の指導に必要な保育者の姿勢について学習します．	幼児にとって保育者はどのような存在であるべきか考えておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			

第7回	子どもの発達と環境 子どもの発達に伴う身近な環境に対する認識や働きかけ方の変化について学習します.	幼児の発達と環境とのかかわりについて自分なりに調べておく. (15分)	配付した資料を見直して復習する. (30分)
担当教員			
第8回	身近な昆虫 幼児にとって最も身近で興味・関心の対象となりやすい昆虫について学習します. 身近な昆虫の種類, 特徴, 基礎的な分類について学習します.	登下校の際等に出合う昆虫に目を向けておく. (15分)	配付した資料を見直して復習する. (30分)
担当教員			
第9回	身近な小動物との触れ合いの指導法 人間の接し方の違いによる動物の分類, 身近な小動物との触れ合いの意義・ねらい, 保育環境としての小動物について学習します.	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく. (15分)	配付した資料を見直して復習する. (30分)
担当教員			

第10回	保育現場での小動物の飼育 昆虫を中心とした身近な小動物を保育現場で飼育する意義，留意点等について学習します．身近な小動物は基本的には野生動物であり，愛玩動物とは違った接し方が必要であることも心得る必要があります．	保育現場で飼育教材に用いられる小動物について調べておく．(15分)	保育現場で飼育教材に用いられる小動物について調べておく．(15分)
担当教員			
第11回	オオイタドリを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てオオイタドリを使った草花遊びの模擬保育を行います．また，オオイタドリの茎および葉を監察しながら子どもの目の高さで遊びの発展性について考えます．模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います．	作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく．(15分)	自分の模擬保育を振返って改善点について考える．(30分)
担当教員			
第12回	身近な植物との触れ合いの指導法 昆虫等の小動物とともに植物も子ども達が豊かな感性を磨くためにはとても大切な役割を果たします．身近な植物の特徴について学習するとともに，身近な植物との触れ合いの目的，意義について学習します．	日常的な保育で関わる機会のある遊びの材料に用いられる身近な自生植物について調べておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			

第13回	植物栽培 植物は私達にとっては食物としても大切な存在です．子ども達が食物となる植物の栽培に携わり，食物を手に入れる手間や苦労を体験することは自然に対する感謝の気持ちや食べ物を大切にする気持ちを育てる基礎になります．土づくり，種子の植え方等植物栽培の基礎について学習します．	植物栽培の意義について考えておく．(15分)	配付した資料を見直す．(30分)
担当教員			
第14回	身近な自然観察で夏を感じる 大学周辺の自然観察を行います．季節の移り変わりを感じましょう．授業内で勉強した昆虫や植物を実際に自分の目で確認します．また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し，図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます．	第5回の観察記録を見直し，春からの季節の移り変わりを意識しておく．(15分)	観察した自然について調べてまとめる．(60分)
担当教員			
第15回	「生物との触れ合い」の保育現場での問題点 保育現場では広く生物との触れ合い，特に飼育・栽培が取り入れられていますが，保育者の勉強不足や準備不足によって命がおろそかにされていたり，十分な効果が発揮されていなかったりすることが少なくありません．どういうところが良くないのか実例を挙げな	保育現場での飼育の実際について調べておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパー(30%)および復習のための期末レポート(30%)で評価
その他	40	春, 夏の観察レポート(30%), 第3回の指導案(10%)で評価

教科書

教科書は使用しません. 毎回資料を配付します.

参考文献

幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修条件・留意事項等

幼児と自然との触れ合いに興味をもてる．野外観察は日程が変更になる場合があります．

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(環境1)(後半)					ナンバリング	3362
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	柘植　純一						

授業の位置づけ

主体的・探求的な学習を通じて，変化する社会の中で、教育に求められるニーズ に的確に対応し，より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を養うため，身近な環境に関わり，考えたり扱ったりする中で幼児を取り巻く身近な自然，物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする.「保育内容Ⅲ環境葉2」の基礎となる.

授業の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」で対象とする内容のうち，特に自然環境に重点を置いて学習を進める. 幼児に自然との触れ合いを指導する際に求められる保育者の姿勢，身近な小動物・植物との触れ合いを指導する上での留意点について重点を置きながら考察する. 保育者自身が季節の変化等への感性を磨くとともに身近な動植物に興味や関心を持つことの重要性について考察する. 実際に野外に出て身近な自然と触れ合い観察することにより，身近な動植物への興味や関心を深める機会をもつ.

到達目標

①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる.
②授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる.
③身近な植物を使って遊びを工夫することができる.

授業の方法

ICT活用

植物素材を使った遊びの指導案作成，模擬授業において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし.

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして，学んだことや質問事項に対してコメントを返したり，解説を行ったりする. また、グループ課題に対しては，グループごとに指導・助言を行う.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス，現代の幼児の特徴 この授業の概要，受講上の留意点について話します．またこれから学習を始めるにあたって現在の子どもについて一般的な特徴について考えていきます．	現代の子どもを取り巻く問題点について考えておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			
第2回	身近な植物についての教材研究および草花遊びの指導案作成 大学キャンパス内に自生しているセイヨウタンポポおよびオオイタドリについて，幼児が触れ合う身近な自然物として教材研究を行うとともに草花遊びの模擬保育を行うための指導案を作成します．指導案の作成においてはICT技術を保育構想に効果的に活用することを学修します．	セイヨウタンポポおよびオオイタドリがどんな植物か調べておく．(15分)	作成した指導案を見直す．(30分)
担当教員			
第3回	タンポポを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てタンポポを使った草花遊びの模擬保育を行います．また実際にタンポポの花を観察しながらキク科植物の特徴について理解します．模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います．	前回作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく．(15分)	自分の模擬保育を振返って改善点について考える．(30分)
担当教員			

第4回	身近な自然観察で春を感じる 野外に出て大学周辺の自然観察を行います．視覚だけではなく，聴覚，嗅覚など，五感をしっかり働かせて春を感じましょう．また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し，図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます．	身近な春の植物について調べておく．(15分)	観察した植物について調べるとともに日常生活でも身近な自然に目を向ける．(60分)
担当教員			
第5回	幼稚園教育要領，保育所保育指針の領域「環境」，幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領，保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記述されている領域「環境」のねらいと内容について学習します．	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく．(15分)	配付した資料を見直す．(30分)
担当教員			
第6回	領域「環境」指導に求められる保育者の姿勢 子どもにとって重要な人的環境である保育者の役割について考えます．特に自然を中心とした身近な環境の指導に必要な保育者の姿勢について学習します．	幼児にとって保育者はどのような存在であるべきか考えておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			

第7回	子どもの発達と環境 子どもの発達に伴う身近な環境に対する認識や働きかけ方の変化について学習します.	幼児の発達と環境とのかかわりについて自分なりに調べておく. (15分)	配付した資料を見直して復習する. (30分)
担当教員			
第8回	身近な昆虫 幼児にとって最も身近で興味・関心の対象となりやすい昆虫について学習します. 身近な昆虫の種類, 特徴, 基礎的な分類について学習します.	登下校の際等に出合う昆虫に目を向けておく. (15分)	配付した資料を見直して復習する. (30分)
担当教員			
第9回	身近な小動物との触れ合いの指導法 人間の接し方の違いによる動物の分類, 身近な小動物との触れ合いの意義・ねらい, 保育環境としての小動物について学習します.	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく. (15分)	配付した資料を見直して復習する. (30分)
担当教員			

第10回	保育現場での小動物の飼育 昆虫を中心とした身近な小動物を保育現場で飼育する意義，留意点等について学習します．身近な小動物は基本的には野生動物であり，愛玩動物とは違った接し方が必要であることも心得る必要があります．	保育現場で飼育教材に用いられる小動物について調べておく．(15分)	保育現場で飼育教材に用いられる小動物について調べておく．(15分)
担当教員			
第11回	オオイタドリを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てオオイタドリを使った草花遊びの模擬保育を行います．また，オオイタドリの茎および葉を監察しながら子どもの目の高さで遊びの発展性について考えます．模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います．	作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく．(15分)	自分の模擬保育を振返って改善点について考える．(30分)
担当教員			
第12回	身近な植物との触れ合いの指導法 昆虫等の小動物とともに植物も子ども達が豊かな感性を磨くためにはとても大切な役割を果たします．身近な植物の特徴について学習するとともに，身近な植物との触れ合いの目的，意義について学習します．	日常的な保育で関わる機会のある遊びの材料に用いられる身近な自生植物について調べておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			

第13回	植物栽培 植物は私達にとっては食物としても大切な存在です．子ども達が食物となる植物の栽培に携わり，食物を手に入れる手間や苦労を体験することは自然に対する感謝の気持ちや食べ物を大切にする気持ちを育てる基礎になります．土づくり，種子の植え方等植物栽培の基礎について学習します．	植物栽培の意義について考えておく．(15分)	配付した資料を見直す．(30分)
担当教員			
第14回	身近な自然観察で夏を感じる 大学周辺の自然観察を行います．季節の移り変わりを感じましょう．授業内で勉強した昆虫や植物を実際に自分の目で確認します．また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し，図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます．	第5回の観察記録を見直し，春からの季節の移り変わりを意識しておく．(15分)	観察した自然について調べてまとめる．(60分)
担当教員			
第15回	「生物との触れ合い」の保育現場での問題点 保育現場では広く生物との触れ合い，特に飼育・栽培が取り入れられていますが，保育者の勉強不足や準備不足によって命がおろそかにされていたり，十分な効果が発揮されていなかったりすることが少なくありません．どういうところが良くないのか実例を挙げな	保育現場での飼育の実際について調べておく．(15分)	配付した資料を見直して復習する．(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパー(30%)および復習のための期末レポート(30%)で評価
その他	40	春, 夏の観察レポート(30%), 第3回の指導案(10%)で評価

教科書

教科書は使用しません. 毎回資料を配付します.

参考文献

幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修条件・留意事項等

幼児と自然との触れ合いに興味をもてる．野外観察は日程が変更になる場合があります．

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(環境2)(前半)					ナンバリング	3363
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	岡　健吾						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と強く関連する。

授業の概要

子どもは、人や社会、自然など、さまざまな「環境」に取り巻かれて育つ。本講義では、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」に関する基本的・応用的な理論を学んだうえで、子どもの生活をとりまく周囲の「環境」に対する好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに主体的に関わり、その成長を促すための保育実践力を養う。併せて、保育者としての観点から持続可能な社会をつくるための幼児期の環境整備の重要性(ESD)について理解する。

到達目標

①領域「環境」のねらいと内容を理解・説明できる。
②子どもの目線に立った保育環境について議論することができる。
③幼児の発達を踏まえたうえで、「保育内容（環境）」について具体的な保育内容を構想することができる。
④持続可能な社会の形成へ向けた保育環境について議論し、実践することができる。

授業の方法

①パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて方法を説明したのち、演習・実技を行う。
②レスポンスカードを時間内に作成・集約する。
③グループワーク・ワークショップ形式を用いる。
④Google Formを使用して意見を集約・討議する。

ICT活用

①Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
②Google Classroom上で授業資料および関連映像URLを提示し、予習復習の促進を図る。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

①レスポンスカードを回収後、内容の解説を行う。
②単元毎にグループワークの演習内容を総括する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションおよび保育内容「環境」の全体構造解説。	保育内容「環境」に係る具体的な要素について調べておく。(30分)	資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第2回	保育内容「環境」における人的環境(1)コミュニケーション演習～意識共有カードゲーム実践	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第3回	保育内容「環境」における人的環境(2)「人的環境」としての自己理解と他者理解～ワークシート作成	自らの生活環境における個別的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第4回	保育内容「環境」における人的環境(3)「人的環境」と文化・社会・組織～グループとしての意思決定ワーク	自らの生活環境における社会的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第5回	保育内容「環境」における自然環境(1)ネイチャーゲームの構想と自然環境の理解～グループワークと指導案作成	ネイチャーゲームの具体的な内容についてあらかじめ調べておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第6回	保育内容「環境」における自然環境(2)ネイチャーゲームの実践と指導法～グループワークと学び合い	構想したネイチャーゲームの展開方法について、グループ内で役割を明確化しておく。(30分)	実践した内容について、成果と課題を明確にする。(15分)
担当教員			

第7回	保育内容「環境」における物的環境(1)生活環境における「空間」理解と五領域との関連～折り紙製作と遊びの展開方法	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第8回	保育内容「環境」における物的環境(2)子どもが感じる科学「熱」～プラバン製作	プラバン製作のためのデザインと意図を明確にしておく。(30分)	資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第9回	持続可能な社会を担う幼児期の環境教育・ESD(Education for Sustainable Development)と今日的な動向～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第10回	子どもが自然(地域資源)とかかわる意義／保育者としてのインタープリテーションの重要性～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第11回	子どもと動物とのふれあいの意義／ESDとしての食育～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第12回	自然体験を通して広がる人間関係／幼児期の多文化学習～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第13回	文字・数を扱った方時期の森林環境教育／ESD実現をめざした環境構成のポイント～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第14回	保育内容「環境」における物的環境(3)子どもが感じる科学「氷と塩のふしぎな反応」～雪中サッカーでアイスクリーム製作	「融解熱」「溶解熱」「凝固点」についてあらかじめ調べておく。(30分)	資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第15回	まとめと総括的フィードバック～まとめレポート作成	これまでの演習内容をふり返っておく。(15分)	これまでの資料およびワークシートを総括した上で、まとめレポートをふり返る。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元毎のレスポンスカード(20%)、主体的な学習態度・意欲(50%)、まとめレポート(30%)を総合的に評価する。
その他	0	

教科書

降旗信一 他,「持続可能な社会をつくる幼児期のESD論－子どもと環境－」,人言洞, 2024

参考文献

幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(環境2)(後半)					ナンバリング	3363
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	岡　健吾						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と強く関連する。

授業の概要

子どもは、人や社会、自然など、さまざまな「環境」に取り巻かれて育つ。本講義では、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」に関する基本的・応用的な理論を学んだうえで、子どもの生活をとりまく周囲の「環境」に対する好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに主体的に関わり、その成長を促すための保育実践力を養う。併せて、保育者としての観点から持続可能な社会をつくるための幼児期の環境整備の重要性(ESD)について理解する。

到達目標

①領域「環境」のねらいと内容を理解・説明できる。
②子どもの目線に立った保育環境について議論することができる。
③幼児の発達を踏まえたうえで、「保育内容（環境）」について具体的な保育内容を構想することができる。
④持続可能な社会の形成へ向けた保育環境について議論し、実践することができる。

授業の方法

①パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて方法を説明したのち、演習・実技を行う。
②レスポンスカードを時間内に作成・集約する。
③グループワーク・ワークショップ形式を用いる。
④Google Formを使用して意見を集約・討議する。

ICT活用

①Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
②Google Classroom上で授業資料および関連映像URLを提示し、予習復習の促進を図る。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

①レスポンスカードを回収後、内容の解説を行う。
②単元毎にグループワークの演習内容を総括する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションおよび保育内容「環境」の全体構造解説。	保育内容「環境」に係る具体的な要素について調べておく。(30分)	資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第2回	保育内容「環境」における人的環境(1)コミュニケーション演習～意識共有カードゲーム実践	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	資料の見直しに併せて、自分のレスポンスカード記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第3回	保育内容「環境」における人的環境(2)「人的環境」としての自己理解と他者理解～ワークシート作成	自らの生活環境における個別的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第4回	保育内容「環境」における人的環境(3)「人的環境」と文化・社会・組織～グループとしての意思決定ワーク	自らの生活環境における社会的な「人的環境」についてあらかじめ整理しておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第5回	保育内容「環境」における自然環境(1)ネイチャーゲームの構想と自然環境の理解～グループワークと指導案作成	ネイチャーゲームの具体的な内容についてあらかじめ調べておく。(30分)	演習内容および自分のレスポンスカードの記述内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第6回	保育内容「環境」における自然環境(2)ネイチャーゲームの実践と指導法～グループワークと学び合い	構想したネイチャーゲームの展開方法について、グループ内で役割を明確化しておく。(30分)	実践した内容について、成果と課題を明確にする。(15分)
担当教員			

第7回	保育内容「環境」における物的環境(1)生活環境における「空間」理解と五領域との関連～折り紙製作と遊びの展開方法	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(30分)	資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第8回	保育内容「環境」における物的環境(2)子どもが感じる科学「熱」～プラバン製作	プラバン製作のためのデザインと意図を明確にしておく。(30分)	資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第9回	持続可能な社会を担う幼児期の環境教育・ESD(Education for Sustainable Development)と今日的な動向～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第10回	子どもが自然(地域資源)とかかわる意義／保育者としてのインタープリテーションの重要性～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第11回	子どもと動物とのふれあいの意義／ESDとしての食育～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第12回	自然体験を通して広がる人間関係／幼児期の多文化学習～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			

第13回	文字・数を扱った方時期の森林環境教育／ESD実現をめざした環境構成のポイント～グループワーク	教科書の当該部分を精読しておく。(30分)	授業内で作成した資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第14回	保育内容「環境」における物的環境(3)子どもが感じる科学「氷と塩のふしぎな反応」～雪中サッカーでアイスクリーム製作	「融解熱」「溶解熱」「凝固点」についてあらかじめ調べておく。(30分)	資料をもとに演習内容をふり返る。(15分)
担当教員			
第15回	まとめと総括的フィードバック～まとめレポート作成	これまでの演習内容をふり返っておく。(15分)	これまでの資料およびワークシートを総括した上で、まとめレポートをふり返る。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元毎のレスポンスカード(20%)、主体的な学習態度・意欲(50%)、まとめレポート(30%)を総合的に評価する。
その他	0	

教科書

降旗信一 他,「持続可能な社会をつくる幼児期のESD論－子どもと環境－」,人言洞, 2024

参考文献

幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(言葉1)(1組)					ナンバリング	3366
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。
「保育内容指導法(言葉2)」の基礎となる。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し説明することができる。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	子どものことばと育ち（1）―言葉の育ちを支えるもの― ①人に対する関心について理解する。②コミュニケーションへの欲求について理解する。③人の声に対する感受性について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「（1）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	子どものことばと育ち（2）―言葉の育ちを支えるもの― ①大好きな人の存在と交流－伝えたい人がいるということ－について理解する。②伝えたいことがあるということ－内面世界の表現、生活経験の拡張、ことばと表現－について理解する。③ことばを子どもの育ち全体で捉えることについて理解する。	上記、テキストの「（2）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	子どものことばと育ち(3)―ことばはどのような機能を持っているか― ①コミュニケーションの道具としての機能について理解する・思考の道具としての機能について理解する。②行動調整機能について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。	上記、テキストの「(3)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	子どものことばと育ち(4)―ことばはどのような機能を持っているか― ①ことばと保育について理解する。②日常保育場面でのことばについて理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解した上で、保育の構想に活用することを学ぶ。	上記、テキストの「(4)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	領域「言葉」のねらいと内容 ①幼稚園教育要領領域「言葉」についての基本を理解する。②保育所保育指針領域「言葉」についての基本を理解する。③幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「言葉」についての基本を理解する。④生後からおおむね2歳未満の発達過程について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「領域「言葉」のねらいと内容」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	領域「言葉」と他の領域との関係　①領域の捉え方と領域「言葉」の関係の基本を理解する。②おおむね2歳からおおむね6歳までの発達過程について理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	左記、テキストの「領域「言葉」と他の領域～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児期のことばの発達　①乳幼児期の基本を理解する。②出生から6歳以降までの発達の段階の流れを把握する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。また、領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	上記、テキストの「乳幼児期のことばの発達」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(1) ①泣き声から音声言語の出現を理解する。②指差しと初語について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(1)」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(2) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②一語文について理解する。③二語文について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(2)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(3) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②語彙の増加について理解する。③文構造の複雑化と会話の増大について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	上記、テキストの「～(3)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(4) ①幼児期後半の発達段階について理解する。②会話のいっそうの進展について理解する。③ことばの質的な深まりについて理解する。そして、以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。	上記、テキストの「～(4)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	領域「言葉」と指導計画（1） 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第14回	領域「言葉」と指導計画（2） 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。（20分）	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ﾈｵｼﾘｰｽﾞ20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(言葉1)(2組)					ナンバリング	3366
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。
「保育内容指導法(言葉2)」の基礎となる。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し説明することができる。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	子どものことばと育ち（1）―言葉の育ちを支えるもの― ①人に対する関心について理解する。②コミュニケーションへの欲求について理解する。③人の声に対する感受性について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「（1）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	子どものことばと育ち（2）―言葉の育ちを支えるもの― ①大好きな人の存在と交流－伝えたい人がいるということ－について理解する。②伝えたいことがあるということ－内面世界の表現、生活経験の拡張、ことばと表現－について理解する。③ことばを子どもの育ち全体で捉えることについて理解する。	上記、テキストの「（2）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	子どものことばと育ち(3)―ことばはどのような機能を持っているか― ①コミュニケーションの道具としての機能について理解する・思考の道具としての機能について理解する。②行動調整機能について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。	上記、テキストの「(3)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	子どものことばと育ち(4)―ことばはどのような機能を持っているか― ①ことばと保育について理解する。②日常保育場面でのことばについて理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解した上で、保育の構想に活用することを学ぶ。	上記、テキストの「(4)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	領域「言葉」のねらいと内容 ①幼稚園教育要領領域「言葉」についての基本を理解する。②保育所保育指針領域「言葉」についての基本を理解する。③幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「言葉」についての基本を理解する。④生後からおおむね2歳未満の発達過程について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「領域「言葉」のねらいと内容」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	領域「言葉」と他の領域との関係　①領域の捉え方と領域「言葉」の関係の基本を理解する。②おおむね2歳からおおむね6歳までの発達過程について理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	左記、テキストの「領域「言葉」と他の領域～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児期のことばの発達　①乳幼児期の基本を理解する。②出生から6歳以降までの発達の段階の流れを把握する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。また、領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	上記、テキストの「乳幼児期のことばの発達」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(1) ①泣き声から音声言語の出現を理解する。②指差しと初語について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(1)」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(2) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②一語文について理解する。③二語文について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(2)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(3) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②語彙の増加について理解する。③文構造の複雑化と会話の増大について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	上記、テキストの「～(3)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	ことばはどのように育つのかーことばの発達ー(4) ①幼児期後半の発達段階について理解する。②会話のいっそうの進展について理解する。③ことばの質的な深まりについて理解する。そして、以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。	上記、テキストの「～(4)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	領域「言葉」と指導計画(1) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	領域「言葉」と指導計画(2) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。
『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(言葉2)(1組)					ナンバリング	3367
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。
「保育内容指導法(言葉1)」を基礎とし、「幼児の理解」に繋がる科目である。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し説明することができる。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	子どものことばと保育者（1） ①書きことばへの関心ついて理解する。②音節分解について理解する。③音韻抽出について理解する。 そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「（1）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	子どものことばと保育者（2） ①保育者の関わりの諸問題について理解する。②子どもから学ぶ姿勢について理解する。③挨拶やしつけについて考える。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「（2）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(1) ①子どものことばの問題を捉えるために注目すべき力の育ちについて理解する。②見立て遊びについて理解する。③ふり遊びについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(2) ①保育者がどのように関わると良いか理解する。②どのような点に気をつけるべきかについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	うたやふれあいを楽しむ遊び ①言葉との関連性に基づきながら「わらべ歌」を考える。②わらべ歌を行う際に留意することについて理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することを学ぶ。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(1) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を通して遊びを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(2) ①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を行う際に留意することを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(3) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこそして発表会への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(4) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこ以外の展開を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(5) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②「絵本:おおきなかぶ」から小学校教科国語科「大きなかぶ」を理解する。以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(6) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②絵本読みから製作活動への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(7)　①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②「絵本:はらぺこあおむし」の指導計画を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(8)　①絵本の歴史について理解する。②直観教育について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ﾈｵｼﾘｰｽﾞ20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(言葉2)(2組)					ナンバリング	3367
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。
「保育内容指導法(言葉1)」を基礎とし、「幼児の理解」に繋がる科目である。

授業の概要

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。

到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、説明することができる。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。

授業の方法

テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど） 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	子どものことばと保育者（1） ①書きことばへの関心ついて理解する。②音節分解について理解する。③音韻抽出について理解する。 そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「（1）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			
第3回	子どものことばと保育者（2） ①保育者の関わりの諸問題について理解する。②子どもから学ぶ姿勢について理解する。③挨拶やしつけについて考える。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「（2）～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。（25分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（20分）
担当教員			

第4回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(1) ①子どものことばの問題を捉えるために注目すべき力の育ちについて理解する。②見立て遊びについて理解する。③ふり遊びについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり(2) ①保育者がどのように関わると良いか理解する。②どのような点に気をつけるべきかについて理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	うたやふれあいを楽しむ遊び ①言葉との関連性に基づきながら「わらべ歌」を考える。②わらべ歌を行う際に留意することについて理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することを学ぶ。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第7回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(1)　①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を通して遊びを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(2)　①言葉との関連性に基づきながら「かるた遊び」を考える。②「かるた遊び」を行う際に留意することを理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(3) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこそして発表会への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第10回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(4) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②絵本読みから劇ごっこ以外の展開を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第11回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(5) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:おおきなかぶ」を考える。②「絵本:おおきなかぶ」から小学校教科国語科「大きなかぶ」を理解する。以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(6) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②絵本読みから製作活動への展開を理解する。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第13回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(7) ①言葉との関連性に基づきながら「絵本:はらぺこあおむし」を考える。②「絵本:はらぺこあおむし」の指導計画を考える。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	絵と言葉の豊かな世界を楽しむ(8) ①絵本の歴史について理解する。②直観教育について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編, ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(音楽表現1)(1組)					ナンバリング	3370
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。
②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ幼児音楽」「幼児と表現」と関連し、「保育内容指導法（音楽表現2）」「教科教育法 音楽」「総合表現音楽」の基礎となる。

授業の概要

こどもは日常生活の中で、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。保育者がこどもの豊かな感性や表現を導き出すためには、保育者自身が豊かな表現者であることが望ましい。本授業では、保育者がこどもの音楽表現において適切な援助をするために、音楽的側面におけるこどもの発達について理解を深め、こどもの“遊び”としての音楽を主体的に体験し、自らの感性を高め、そのうえで指導法について深く考察し、こどもの発達に準じた指導を身につけるための基礎を学ぶ。

到達目標

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらい、および内容について把握し、述べることができる
・こどもの発達について音楽的側面から知識を深め、発達に準じた音楽活動を考えることができる
・教材研究や楽譜を読み解くための基礎となる音楽通論を確認し、メロディーにスリーコードによる簡単な和音付けができる
・音や音楽によるさまざまな表現について学び、保育者として必要な基本的技能を身につけ、積極的に実践できる
・音楽表現における情報機器の活用や教材の工夫などについて、幼児の体験との関連を考慮した具体的な指導場面を考えることができる

授業の方法

①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディアなどを使用する。
②講義・演習（実技含む）の両形式を織り交ぜてすすめる。
③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。

ICT活用

本学の環境に適した、タブレット端末（あるいはスマートフォンなど）を用いた実践を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについてはコメントなどを記した後に返却し、実技においては随時行う。
模擬保育については、優れている点や改善点などをコメントするほか、学生による相互評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス～保育内容「表現」の概説 これからの授業の流れや留意点を説明し、感性と表現に関する領域「表現」について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	こどもと音楽1：音・音楽の概念、領域「表現」のねらい、内容について 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストに沿って学ぶ	テキスト巻末のとじ込み資料(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に目を通し、P13～20を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育における領域「表現」の根幹について、テキストを通して個々の理解を深めるための復習をする。(15分)
担当教員			
第3回	こどもと音楽2：こどもの発達について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP21～28を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもの発達や音楽表現の特性の変遷について、テキストを見直しまとめる。(最低15分)
担当教員			

第4回	こどもと音楽3:こどもの音楽表現、および評価について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP39～45、P50～52を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	生活や遊びの中でのこどもの音楽表現について、テキストを見直し、自身の経験も加えてまとめる。(15分)
担当教員			
第5回	こどもと音楽4: 情報機器及び教材の活用について 幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用や教材の工夫について、実践を通して学ぶ	テキストのP34 ～35を読むほか、幼児の保育・教育現場のICT活用について調べる。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育・教育現場のICT活用について更に調べ、学習を深める。(15分)
担当教員			
第6回	コードネーム1:音楽通論の確認、コードネームの基本について 主に鍵盤楽器で状況に即した演奏ができるように、コードネームの基礎について実践を通して学ぶ	読譜の基本となる記号や理論、音程と音階、調性と和音の復習、テキストのP71～73を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(20分)	音楽の基礎知識を確認しながら、特にハ長調の音階と主要三和音について理解した上で、コードの展開とカデンツを繰り返し実践する。(25分)
担当教員			

第7回	コードネーム2: コードによる演奏実践、コードの作成 コードネームによる演奏実践と、メロディーにスリーコードを付ける方法について実践を通して学ぶ	スリーコードとカデンツを鍵盤楽器で練習、及び弾き歌いの課題を予習する。(15分)	こどもの歌に使用される頻度が高い「ヘ長調、ト長調、ニ長調」について、スリーコード、カデンツを繰り返し実践する。(30分)
担当教員			
第8回	表現活動1:言葉と歌唱表現 こどもの歌における言葉と歌唱表現について考察し、実践を通して学ぶ	テキストのP74～77、P81～83、P126～130を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもと一緒に歌いたい歌を1曲選択し、曲が生まれた歴史や背景を調べる。(最低15分)
担当教員			
第9回	表現活動2:ピアノ伴奏法 楽曲に適した伴奏形の工夫、および旋律と伴奏が表現する音楽のイメージを探り、こどもの歌う心を引き出す伴奏法を実践・考察する	テキストのP67～70を読み、弾き歌いの課題を予習する。(20分)	「おべんとう」「せんせいとおともだち」について、どのようなどのような演奏がこどもの歌の伴奏として好ましいか考え、実践する。(25分)
担当教員			

第10回	表現活動3:身体表現 リズム遊び、ボディーパーカッション、手遊び歌、わらべうたなどを取り上げ、グループワークによる教材研究に取り組み、保育を想定した実践発表を行う	テキストのP89～96を読み、弾き歌いの課題を予習する。(25分)	手あそびなどを用いた幼稚園での実践を想定し、内容や構成を書き出す。(20分)
担当教員			
第11回	指導案の作成について 模擬保育を想定した指導案をグループワークで作成し、次回からの模擬保育に備える(情報機器等の活用、教材の工夫を含む)	テキストのP151～166を読む。指導案作成のための資料を準備し、幼稚園での実践を想定した内容を構成、書き出しておく。及び弾き歌いの課題を予習する。 (30分)	グループ討議を基に、模擬保育の自身の役割を理解し、シミュレーションする。(15分)
担当教員			
第12回	模擬保育1 作成した指導案をもとに模擬保育(ICTの活用を含む)を体験し、指導法とともにこどもの遊びとしての音楽表現について考察する	テキストのP167～170を読む。受講生を幼児に見立てた模擬保育の事前準備・イメージ作りをする。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる準備をする。(最低15分)
担当教員			

第13回	模擬保育2、振り返り 前回に引き続き模擬保育（ICTの活用を含む）を体験し、模擬保育全体の振り返りを行う 表現活動4：音の響きを聴く1～ミュージックベルの導入 音の響きを聴き取るトレーニング、および協働による音楽づくりのためのグループワーク準備を行う	引き続き模擬保育の準備をする。拍子の数え方と音符・休符の長さについて再度復習する。及び弾き歌いの課題を予習する。（30分）	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる。グループ活動における自身の役割について振り返る。（最低15分）
担当教員			
第14回	表現活動5：音の響きを聴く2～ミュージックベルによる合奏 音の響きを聴き取り、協働による音楽づくりをグループワークにより深め、次回の発表に備える	楽曲の全体像をイメージし、心の中で拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び弾き歌いの課題を予習する。（30分）	仲間との音楽づくりのポイントをまとめ、グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。（最低15分）
担当教員			
第15回	表現活動6：音の響きを聴く3～ミュージックベルによる研究発表 聴き手を意識した研究発表をグループ毎に行い、ミュージックベルによる演奏表現の振り返りを行う こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を考え、演奏の準備を進める。（15分）	アンサンブルを通して経験した音楽の楽しみと、これまでに学んだこどもの発達に準じた指導の基礎についてまとめる。（最低30分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(15%) 弾き歌いの確認課題(15%) 指導案・模擬保育(15%)
その他	40	レポート課題

教科書

表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー／石井玲子 編／教育情報出版
※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる
こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社

参考文献

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
おんがくのしくみ／今川恭子 他／教育芸術社
その他、授業の中で適宜配布、紹介する

履修条件・留意事項等

五線ノートを必ず用意すること(1年次使用のノートでよい)。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(音楽表現1)(2組)					ナンバリング	3370
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。
②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ幼児音楽」「幼児と表現」と関連し、「保育内容指導法（音楽表現2）」「教科教育法 音楽」「総合表現音楽」の基礎となる。

授業の概要

こどもは日常生活の中で、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。保育者がこどもの豊かな感性や表現を導き出すためには、保育者自身が豊かな表現者であることが望ましい。本授業では、保育者がこどもの音楽表現において適切な援助をするために、音楽的側面におけるこどもの発達について理解を深め、こどもの“遊び”としての音楽を主体的に体験し、自らの感性を高め、そのうえで指導法について深く考察し、こどもの発達に準じた指導を身につけるための基礎を学ぶ。

到達目標

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらい、および内容について把握し、述べることができる
・こどもの発達について音楽的側面から知識を深め、発達に準じた音楽活動を考えることができる
・教材研究や楽譜を読み解くための基礎となる音楽通論を確認し、メロディーにスリーコードによる簡単な和音付けができる
・音や音楽によるさまざまな表現について学び、保育者として必要な基本的技能を身につけ、積極的に実践できる
・音楽表現における情報機器の活用や教材の工夫などについて、幼児の体験との関連を考慮した具体的な指導場面を考えることができる

授業の方法

①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディアなどを使用する。
②講義・演習（実技含む）の両形式を織り交ぜてすすめる。
③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。

ICT活用

本学の環境に適した、タブレット端末（あるいはスマートフォンなど）を用いた実践を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについてはコメントなどを記した後に返却し、実技においては随時行う。
模擬保育については、優れている点や改善点などをコメントするほか、学生による相互評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス～保育内容「表現」の概説 これからの授業の流れや留意点を説明し、感性と表現に関する領域「表現」について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	こどもと音楽1：音・音楽の概念、領域「表現」のねらい、内容について 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストに沿って学ぶ	テキスト巻末のとじ込み資料(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に目を通し、P13～20を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育における領域「表現」の根幹について、テキストを通して個々の理解を深めるための復習をする。(15分)
担当教員			
第3回	こどもと音楽2：こどもの発達について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP21～28を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもの発達や音楽表現の特性の変遷について、テキストを見直しまとめる。(最低15分)
担当教員			

第4回	こどもと音楽3:こどもの音楽表現、および評価について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP39～45、P50～52を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	生活や遊びの中でのこどもの音楽表現について、テキストを見直し、自身の経験も加えてまとめる。(15分)
担当教員			
第5回	こどもと音楽4: 情報機器及び教材の活用について 幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用や教材の工夫について、実践を通して学ぶ	テキストのP34 ～35を読むほか、幼児の保育・教育現場のICT活用について調べる。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育・教育現場のICT活用について更に調べ、学習を深める。(15分)
担当教員			
第6回	コードネーム1:音楽通論の確認、コードネームの基本について 主に鍵盤楽器で状況に即した演奏ができるように、コードネームの基礎について実践を通して学ぶ	読譜の基本となる記号や理論、音程と音階、調性と和音の復習、テキストのP71～73を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(20分)	音楽の基礎知識を確認しながら、特にハ長調の音階と主要三和音について理解した上で、コードの展開とカデンツを繰り返し実践する。(25分)
担当教員			

第7回	コードネーム2: コードによる演奏実践、コードの作成 コードネームによる演奏実践と、メロディーにスリーコードを付ける方法について実践を通して学ぶ	スリーコードとカデンツを鍵盤楽器で練習、及び弾き歌いの課題を予習する。(15分)	こどもの歌に使用される頻度が高い「ヘ長調、ト長調、ニ長調」について、スリーコード、カデンツを繰り返し実践する。(30分)
担当教員			
第8回	表現活動1:言葉と歌唱表現 こどもの歌における言葉と歌唱表現について考察し、実践を通して学ぶ	テキストのP74～77、P81～83、P126～130を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもと一緒に歌いたい歌を1曲選択し、曲が生まれた歴史や背景を調べる。(最低15分)
担当教員			
第9回	表現活動2:ピアノ伴奏法 楽曲に適した伴奏形の工夫、および旋律と伴奏が表現する音楽のイメージを探り、こどもの歌う心を引き出す伴奏法を実践・考察する	テキストのP67～70を読み、弾き歌いの課題を予習する。(20分)	「おべんとう」「せんせいとおともだち」について、どのようなどのような演奏がこどもの歌の伴奏として好ましいか考え、実践する。(25分)
担当教員			

第10回	表現活動3:身体表現 リズム遊び、ボディーパーカッション、手遊び歌、わらべうたなどを取り上げ、グループワークによる教材研究に取り組み、保育を想定した実践発表を行う	テキストのP89～96を読み、弾き歌いの課題を予習する。(25分)	手あそびなどを用いた幼稚園での実践を想定し、内容や構成を書き出す。(20分)
担当教員			
第11回	指導案の作成について 模擬保育を想定した指導案をグループワークで作成し、次回からの模擬保育に備える(情報機器等の活用、教材の工夫を含む)	テキストのP151～166を読む。指導案作成のための資料を準備し、幼稚園での実践を想定した内容を構成、書き出しておく。及び弾き歌いの課題を予習する。 (30分)	グループ討議を基に、模擬保育の自身の役割を理解し、シミュレーションする。(15分)
担当教員			
第12回	模擬保育1 作成した指導案をもとに模擬保育(ICTの活用を含む)を体験し、指導法とともにこどもの遊びとしての音楽表現について考察する	テキストのP167～170を読む。受講生を幼児に見立てた模擬保育の事前準備・イメージ作りをする。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる準備をする。(最低15分)
担当教員			

第13回	模擬保育2、振り返り 前回に引き続き模擬保育（ICTの活用を含む）を体験し、模擬保育全体の振り返りを行う 表現活動4：音の響きを聴く1～ミュージックベルの導入 音の響きを聴き取るトレーニング、および協働による音楽づくりのためのグループワーク準備を行う	引き続き模擬保育の準備をする。拍子の数え方と音符・休符の長さについて再度復習する。及び弾き歌いの課題を予習する。（30分）	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる。グループ活動における自身の役割について振り返る。（最低15分）
担当教員			
第14回	表現活動5：音の響きを聴く2～ミュージックベルによる合奏 音の響きを聴き取り、協働による音楽づくりをグループワークにより深め、次回の発表に備える	楽曲の全体像をイメージし、心の中で拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び弾き歌いの課題を予習する。（30分）	仲間との音楽づくりのポイントをまとめ、グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。（最低15分）
担当教員			
第15回	表現活動6：音の響きを聴く3～ミュージックベルによる研究発表 聴き手を意識した研究発表をグループ毎に行い、ミュージックベルによる演奏表現の振り返りを行う こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を考え、演奏の準備を進める。（15分）	アンサンブルを通して経験した音楽の楽しみと、これまでに学んだこどもの発達に準じた指導の基礎についてまとめる。（最低30分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(15%) 弾き歌いの確認課題(15%) 指導案・模擬保育(15%)
その他	40	レポート課題

教科書

表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー／石井玲子 編／教育情報出版
※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる
こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社

参考文献

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
おんがくのしくみ／今川恭子 他／教育芸術社
その他、授業の中で適宜配布、紹介する

履修条件・留意事項等

五線ノートを必ず用意すること(1年次使用のノートでよい)。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(音楽表現2)(1組)					ナンバリング	3371
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。
②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ幼児音楽」「幼児と表現」「保育内容指導法（音楽表現1）」と関連し、「教科教育法 音楽」「総合表現音楽」の基礎となる。

授業の概要

こどもの音楽表現を支援するためには、知識・技能のほかに、他との協調性やコミュニケーション力など、学生自身が身につけたい要素がある。音楽においてこれらを身につける方法の一つとして、アンサンブル教育が挙げられる。本時は、アンサンブルを通した音楽の専門的知識と技能のさらなる向上と、こどもと保育者が音楽の楽しみを共有する方法、くわえて教育・保育において育みたい資質・能力に対する理解や、具体的な指導場面を想定した教育・保育を構想する能力を伸ばすとともに、自身の豊かな感性と人間性を育むことを目指す。

到達目標

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらいや内容について把握し、こどもの発達に準じた音楽活動に結びつけて考えることができる
・主体的・対話的で深い学びがどのようなものであるか、さまざまな音楽活動を通して自ら考えることができる
・器楽奏法の基本を身につけ、身近な楽器の演奏や指導ができる
・アンサンブル活動を通して、客観的に自身を振り返ることができる
・楽曲の簡単な編曲法を学び、こどもの発達に即した楽器構成を考えて、自ら楽譜に記すことができる

授業の方法

①板書、プリント配布の他、視聴覚メディアなどを使用する。
②講義・演習（実技含む）の両形式を織り交ぜてすすめる。
③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。

ICT活用

本学の環境に適した、タブレット端末（あるいはスマートフォンなど）を用いた実践を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについては、コメントなどを記した後に返却する。
実技については、その場で優れた点や改善点をコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:授業の概要、アンサンブル教育について これからの授業の流れや留意点を説明し、アンサンブル教育の重要性について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	アンサンブルの基礎1:楽器遊びについて 打楽器を中心としたこどもの楽器遊びについて、映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP50～52、P97～98、P106～114、P117～120を読み、予習する。(30分)	テキストを読み返し、ポイントをまとめ、復習する。(15分)
担当教員			
第3回	アンサンブルの基礎2:手作り楽器について 身近な素材を用いた手作り楽器の制作を通して、幼児の表現活動について考察する (注意点)手作り楽器の材料となる物品を各自必ず用意すること	テキストのP97～98、P115～116を読み、予習する。手作り楽器作成の準備をする。(15分)	ポートフォリオを作成する。(最低30分)
担当教員			

第4回	アンサンブルの基礎3：器楽奏法の基礎（特別講義） 身近な打楽器の基本奏法と、こどもが安全に楽器遊びをするための楽器の取り扱い方を学ぶ （注意点）外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意のこと	テキストのP99～102、事前配布するプリントに目を通し、予習する。（30分）	学んだ内容を自身のプリントに書き込むなど、知識や留意点を忘れないよう復習する。（15分）
担当教員			
第5回	アンサンブル表現法1：器楽によるアンサンブル1～導入 身近な楽器を用いた器楽合奏について、グループワークを通して探究する	器楽奏法の基本について、プリントなどを通して予習する。（30分）	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。（15分）
担当教員			
第6回	アンサンブル表現法2：器楽によるアンサンブル2～発展 前回に引き続きグループワークを行い、表現の内容を深めることを探究する	前回の事後学習の結果から、自身に足りないない内容を事前に研究し、仲間との音楽作りがスムーズに進むよう計画を立てる。（30分）	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。（15分）
担当教員			

第7回	アンサンブル表現法3:こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために1～即興の基本 即興演奏表現の基礎となるスリーコードを確認し、歩く・走る・飛ぶ・スキップなど、こどもの表現活動に必要なリズムパターンの基本について、実践を通して学ぶ	テキストのP46～49を読み、鍵盤楽器で実践する。P71～72を読み、コードネームによる和音付けの基本(スリーコード)を復習する。(30分)	歩く、走る、スキップするなど、こどもの動きに合わせたリズム・パターンを鍵盤で繰り返し実践する。(最低15分)
担当教員			
第8回	アンサンブル表現法4:こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために2～曲想とテンポ 基本的なリズムパターンをもとに、曲想の違いによるテンポの変化について検証する	テキストのP46～49に再度目を通し、鍵盤楽器で実践する。(30分)	さまざまな曲想の基本的なリズムパターンの伴奏形を復習し、実践する。(最低15分)
担当教員			
第9回	アンサンブルの応用1:教材研究1～ピアノの伴奏付け 指定曲の詩とメロディーから楽曲の持つイメージを読み取り、こどもたちが音楽する楽しみを感じることができるような楽器構成を考え、これまで学習したすべてを用いながらピアノ伴奏を考察する	伴奏創作の基本となるスリーコード、カデンツ、調性などについて、実践しながら確認する。(30分)	自分で書いた作品を弾き、イメージ通りのコードと正しい記譜であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			

第10回	アンサンブルの応用2：教材研究2～打楽器を用いたアレンジについて1（ピアノ伴奏と打楽器のリズム） ピアノ伴奏と打楽器のリズムの関係を考慮しながら、アレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、使用する打楽器についてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。（30分）	作品を弾き、内容を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、正しい記譜であるかなどを確認する。（15分）
担当教員			
第11回	アンサンブルの応用3：教材研究3～打楽器を用いたアレンジについて2（打楽器パートの創作） 前回に引き続き、打楽器を用いたアレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。（30分）	作品を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、楽しめる内容であるかなどを確認する。（15分）
担当教員			
第12回	アンサンブルの応用4：教材研究4～打楽器を用いたアレンジについて3（仕上げ） 演奏者の立場から楽譜を推敲し、打楽器を用いたアレンジ作品を仕上げる	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかどうか考察する。（30分）	自身が書いた作品のコピーを用意しておき、弾き歌いの練習をする。（15分）
担当教員			

第13回	アンサンブルの応用5:演奏実践研究1～アレンジ作品の楽譜の読み取り アレンジ作品の試演会に向け、アレンジ作品の楽譜の読み取りと合奏練習をグループ毎に進める	本授業のための楽譜を当日配布するので準備はないが、これまで学習したスリーコード、カデンツなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。(15分)
担当教員			
第14回	アンサンブルの応用6:演奏実践研究2～客観的演奏研究 聴き手を意識した合奏練習を進め、客観的に振り返りながら演奏表現について探求する	楽曲の全体像をイメージし、拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び主要調のスリーコードなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。(15分)
担当教員			
第15回	アンサンブルの応用7:演奏実践研究3～アレンジ作品試演会 これまで身につけた知識・技術をすべて用いて、自らを振り返りつつ、感性豊かな演奏表現を目指す こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を打ち合わせ、聴き手が楽しめる演奏となるよう準備を進める。(15分)	アンサンブルの楽しみと、他者との活動に必要と考えられるポイント、こどもの目を通した自身について考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(20%) ピアノのコード付け(15%)
その他	50	レポート課題(50%)

教科書

表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―／石井玲子 編／教育情報出版
※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる
こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社

参考文献

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
保育者のためのリズム遊び／木許隆 他／音楽之友社
その他、授業の中で適宜配布、紹介する

履修条件・留意事項等

五線ノートを必ず用意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(音楽表現2)(2組)					ナンバリング	3371
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。
②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ幼児音楽」「幼児と表現」「保育内容指導法（音楽表現1）」と関連し、「教科教育法 音楽」「総合表現音楽」の基礎となる。

授業の概要

こどもの音楽表現を支援するためには、知識・技能のほかに、他との協調性やコミュニケーション力など、学生自身が身につけたい要素がある。音楽においてこれらを身につける方法の一つとして、アンサンブル教育が挙げられる。本時は、アンサンブルを通した音楽の専門的知識と技能のさらなる向上と、こどもと保育者が音楽の楽しみを共有する方法、くわえて教育・保育において育みたい資質・能力に対する理解や、具体的な指導場面を想定した教育・保育を構想する能力を伸ばすとともに、自身の豊かな感性と人間性を育むことを目指す。

到達目標

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらいや内容について把握し、こどもの発達に準じた音楽活動に結びつけて考えることができる
・主体的・対話的で深い学びがどのようなものであるか、さまざまな音楽活動を通して自ら考えることができる
・器楽奏法の基本を身につけ、身近な楽器の演奏や指導ができる
・アンサンブル活動を通して、客観的に自身を振り返ることができる
・楽曲の簡単な編曲法を学び、こどもの発達に即した楽器構成を考えて、自ら楽譜に記すことができる

授業の方法

①板書、プリント配布の他、視聴覚メディアなどを使用する。
②講義・演習（実技含む）の両形式を織り交ぜてすすめる。
③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。

ICT活用

本学の環境に適した、タブレット端末（あるいはスマートフォンなど）を用いた実践を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについては、コメントなどを記した後に返却する。
実技については、その場で優れた点や改善点をコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:授業の概要、アンサンブル教育について これからの授業の流れや留意点を説明し、アンサンブル教育の重要性について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	アンサンブルの基礎1:楽器遊びについて 打楽器を中心としたこどもの楽器遊びについて、映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP50～52、P97～98、P106～114、P117～120を読み、予習する。(30分)	テキストを読み返し、ポイントをまとめ、復習する。(15分)
担当教員			
第3回	アンサンブルの基礎2:手作り楽器について 身近な素材を用いた手作り楽器の制作を通して、幼児の表現活動について考察する (注意点)手作り楽器の材料となる物品を各自必ず用意すること	テキストのP97～98、P115～116を読み、予習する。手作り楽器作成の準備をする。(15分)	ポートフォリオを作成する。(最低30分)
担当教員			

第4回	アンサンブルの基礎3：器楽奏法の基礎（特別講義） 身近な打楽器の基本奏法と、こどもが安全に楽器遊びをするための楽器の取り扱い方を学ぶ （注意点）外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意のこと	テキストのP99～102、事前配布するプリントに目を通し、予習する。（30分）	学んだ内容を自身のプリントに書き込むなど、知識や留意点を忘れないよう復習する。（15分）
担当教員			
第5回	アンサンブル表現法1：器楽によるアンサンブル1～導入 身近な楽器を用いた器楽合奏について、グループワークを通して探究する	器楽奏法の基本について、プリントなどを通して予習する。（30分）	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。（15分）
担当教員			
第6回	アンサンブル表現法2：器楽によるアンサンブル2～発展 前回に引き続きグループワークを行い、表現の内容を深めることを探究する	前回の事後学習の結果から、自身に足りないない内容を事前に研究し、仲間との音楽作りがスムーズに進むよう計画を立てる。（30分）	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。（15分）
担当教員			

第7回	アンサンブル表現法3:こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために1～即興の基本 即興演奏表現の基礎となるスリーコードを確認し、歩く・走る・飛ぶ・スキップなど、こどもの表現活動に必要なリズムパターンの基本について、実践を通して学ぶ	テキストのP46～49を読み、鍵盤楽器で実践する。P71～72を読み、コードネームによる和音付けの基本(スリーコード)を復習する。(30分)	歩く、走る、スキップするなど、こどもの動きに合わせたリズム・パターンを鍵盤で繰り返し実践する。(最低15分)
担当教員			
第8回	アンサンブル表現法4:こどもの音楽表現とピアノのアンサンブルのために2～曲想とテンポ 基本的なリズムパターンをもとに、曲想の違いによるテンポの変化について検証する	テキストのP46～49に再度目を通し、鍵盤楽器で実践する。(30分)	さまざまな曲想の基本的なリズムパターンの伴奏形を復習し、実践する。(最低15分)
担当教員			
第9回	アンサンブルの応用1:教材研究1～ピアノの伴奏付け 指定曲の詩とメロディーから楽曲の持つイメージを読み取り、こどもたちが音楽する楽しみを感じることができるような楽器構成を考え、これまで学習したすべてを用いながらピアノ伴奏を考察する	伴奏創作の基本となるスリーコード、カデンツ、調性などについて、実践しながら確認する。(30分)	自分で書いた作品を弾き、イメージ通りのコードと正しい記譜であるかなどを確認する。(15分)
担当教員			

第10回	アンサンブルの応用2：教材研究2～打楽器を用いたアレンジについて1（ピアノ伴奏と打楽器のリズム） ピアノ伴奏と打楽器のリズムの関係を考慮しながら、アレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、使用する打楽器についてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。（30分）	作品を弾き、内容を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、正しい記譜であるかなどを確認する。（15分）
担当教員			
第11回	アンサンブルの応用3：教材研究3～打楽器を用いたアレンジについて2（打楽器パートの創作） 前回に引き続き、打楽器を用いたアレンジ作品の創作を行う	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかなどを考察する。（30分）	作品を見直し、こどもの音楽表現に適しているか、楽しめる内容であるかなどを確認する。（15分）
担当教員			
第12回	アンサンブルの応用4：教材研究4～打楽器を用いたアレンジについて3（仕上げ） 演奏者の立場から楽譜を推敲し、打楽器を用いたアレンジ作品を仕上げる	作品がどのように演奏されるかイメージし、器楽合奏としてこどもの音楽表現に適しているかどうか考察する。（30分）	自身が書いた作品のコピーを用意しておき、弾き歌いの練習をする。（15分）
担当教員			

第13回	アンサンブルの応用5:演奏実践研究1～アレンジ作品の楽譜の読み取り アレンジ作品の試演会に向け、アレンジ作品の楽譜の読み取りと合奏練習をグループ毎に進める	本授業のための楽譜を当日配布するので準備はないが、これまで学習したスリーコード、カデンツなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ活動における自身の役割や仲間との音楽づくりについて、ポイントをまとめる。(15分)
担当教員			
第14回	アンサンブルの応用6:演奏実践研究2～客観的演奏研究 聴き手を意識した合奏練習を進め、客観的に振り返りながら演奏表現について探求する	楽曲の全体像をイメージし、拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び主要調のスリーコードなどを繰り返し実践する。(30分)	グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。(15分)
担当教員			
第15回	アンサンブルの応用7:演奏実践研究3～アレンジ作品試演会 これまで身につけた知識・技術をすべて用いて、自らを振り返りつつ、感性豊かな演奏表現を目指す こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を打ち合わせ、聴き手が楽しめる演奏となるよう準備を進める。(15分)	アンサンブルの楽しみと、他者との活動に必要と考えられるポイント、こどもの目を通した自身について考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(20%) ピアノのコード付け(15%)
その他	50	レポート課題(50%)

教科書

表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―／石井玲子 編／教育情報出版
※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる
こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社

参考文献

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
保育者のためのリズム遊び／木許隆 他／音楽之友社
その他、授業の中で適宜配布、紹介する

履修条件・留意事項等

五線ノートを必ず用意すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(造形表現1)(1組)					ナンバリング	3374
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。こどもの描画活動に対する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う。ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と特に関係のある科目である。「表現Ⅱ造形表現」「教科教育法図画工作」の基礎となる。

授業の概要

子どもの造形活動は、自由な遊びや保育者が用意する共通体験活動が考えられる。これらの活動では、子ども一人ひとりの個性が生かされ、楽しく造形活動が行われる保育が必要となる。そのため保育現場で求められる表現の基礎的技法を修得し、技法を高める作品制作等を行う。

到達目標

1子どもの人間形成において絵画制作の重要性を理解しそれを説明できる。
2実技実践を通して「領域 表現」の内容を理解し保育者として実践できる。
3こどもが創造的に表現ができる環境についての理解を深め、それを説明できる。

授業の方法

授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。
後半は絵の具を使って描画活動を実践する。

ICT活用

2回～15回までワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用して導入とまとめ・鑑賞を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:「幼児造形と美術」こどもにとって絵画制作、また表現とは何かという考察を促しながら年間を通しての「絵画制作」の講義進行を説明する。	教科書p1～p7まで読んでおく。(25分)	幼児造形と美術についてワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	絵画制作:表現技法 紙遊び―切り絵、幼児造形領域において広く実践されている紙遊び「切り紙、折り紙」を行う。はさみの特性や紙素材の特徴を理解する。	教科書p8～p9まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―ドロッピング 色が現れる面白さ良さを理解する。保育への展開を考察する。	教科書p10～p11まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―流し絵、吹き絵 流し絵と吹き絵の特徴をとらえ、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p12～p13まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―染め 変化する模様の特色を理解し、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p14～p15まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめておく。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―フィンガーペインティング1 色彩理論の基礎を学びながら絵の具に直接触れる活動の意義を考察する。	教科書p16～p17まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―フィンガーペインティング2 表現への展開 前回学習したことを踏まえ、絵の具に直接触れる活動の可能性を探求する。	教科書p18～p19まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―身近な素材を使った表現 ティッシュとペンを使った演習。現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p20～p21まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	描画活動の授業作り1「絵の具あそび」を主題にした指導案を作成する。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p81～p86まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	描画活動の授業作り2「絵の具あそび」を主題にした模擬授業を行う。線の形の多様さ、重なりやにじみなどの効果に気づきその面白さを探求する。	発表の準備をする。指導案を用意しておく。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第11回	絵画制作:表現技法 クレヨンを使った表現―目隠し絵 見ないで描く事で得られるイメージの意外性に気づきその面白さを探求する。	教科書p23～p27まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	幼児造形表現の原理 ―幼児造形表現の発達と様式 DVDを鑑賞し、幼児造形表現の発達段階について理解を深めその特徴である様式をまとめる。	教科書p28～p31まで読んでおく。(25分)	描く活動の発達段階と様式をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			

第13回	仕掛け絵：紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作（試作） ポップアップカードの基本構造（平行折、V字折）を理解する。	教科書p32～p42まで読んでおく。（25分）	授業内容をスケッチブックにまとめる。（20分）
担当教員			
第14回	仕掛け絵：紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作「思いを伝える形」 開閉時に仕掛けがあるグリーティング・カードの制作をする。	教科書p127～p133まで読んでおく。（25分）	ワークシートを完成させる。（20分）
担当教員			
第15回	仕掛け絵：紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作（仕上げ・完成） コンセプトの実現に向けて工夫している点を確認していく。パソコンやデジタルカメラを使用したポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。	材料を準備する。（25分）	作品を完成させ、授業内容をスケッチブックにまとめる。（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブックの内容・作品制作提出過程をみる
その他	20	ポップアップカード

教科書

保育をひらく造形表現 ／槇 英子 ／萌文書林

参考文献

保育所保育指針 解説書／フレーベル館
プロジェクト型保育の実践研究／角尾和子／北大路書房

履修条件・留意事項等

【各自用意するもの】スケッチブック,水彩絵の具,筆,雑巾,クレパス,のり,はさみ,ファイル（クリアポケットファイル15ポケット程度）
※準備物の詳細はオリエンテーション時に伝える
※プリント類は必ずファイルに保管し造形表現2へつなげる

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(造形表現1)(2組)					ナンバリング	3374
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。こどもの描画活動に対する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う。ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と特に関係のある科目である。「表現Ⅱ造形表現」「教科教育法図画工作」の基礎となる。

授業の概要

子どもの造形活動は、自由な遊びや保育者が用意する共通体験活動が考えられる。これらの活動では、子ども一人ひとりの個性が生かされ、楽しく造形活動が行われる保育が必要となる。そのため保育現場で求められる表現の基礎的技法を修得し、技法を高める作品制作等を行う。

到達目標

1子どもの人間形成において絵画制作の重要性を理解しそれを説明できる。
2実技実践を通して「領域 表現」の内容を理解し保育者として実践できる。
3こどもが創造的に表現ができる環境についての理解を深め、それを説明できる。

授業の方法

授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。
後半は絵の具を使って描画活動を実践する。

ICT活用

2回～15回までワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用して導入とまとめ・鑑賞を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:「幼児造形と美術」こどもにとって絵画制作、また表現とは何かという考察を促しながら年間を通しての「絵画制作」の講義進行を説明する。	教科書p1～p7まで読んでおく。(25分)	幼児造形と美術についてワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	絵画制作:表現技法 紙遊び―切り絵、幼児造形領域において広く実践されている紙遊び「切り紙、折り紙」を行う。はさみの特性や紙素材の特徴を理解する。	教科書p8～p9まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―ドロッピング 色が現れる面白さ良さを理解する。保育への展開を考察する。	教科書p10～p11まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―流し絵、吹き絵 流し絵と吹き絵の特徴をとらえ、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p12～p13まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―染め 変化する模様の特色を理解し、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p14～p15まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめておく。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―フィンガーペインティング1 色彩理論の基礎を学びながら絵の具に直接触れる活動の意義を考察する。	教科書p16～p17まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―フィンガーペインティング2 表現への展開 前回学習したことを踏まえ、絵の具に直接触れる活動の可能性を探求する。	教科書p18～p19まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ―身近な素材を使った表現 ティッシュとペンを使った演習。現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p20～p21まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	描画活動の授業作り1「絵の具あそび」を主題にした指導案を作成する。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p81～p86まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	描画活動の授業作り2「絵の具あそび」を主題にした模擬授業を行う。線の形の多様さ、重なりやにじみなどの効果に気づきその面白さを探求する。	発表の準備をする。指導案を用意しておく。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第11回	絵画制作:表現技法 クレヨンを使った表現―目隠し絵 見ないで描く事で得られるイメージの意外性に気づきその面白さを探求する。	教科書p23～p27まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	幼児造形表現の原理 ―幼児造形表現の発達と様式 DVDを鑑賞し、幼児造形表現の発達段階について理解を深めその特徴である様式をまとめる。	教科書p28～p31まで読んでおく。(25分)	描く活動の発達段階と様式をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			

第13回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作（試作） ポップアップカードの基本構造（平行折、V字折）を理解する。	教科書p32～p42まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作「思いを伝える形」 開閉時に仕掛けがあるグリーティング・カードの制作をする。	教科書p127～p133まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作（仕上げ・完成） コンセプトの実現に向けて工夫している点を確認していく。パソコンやデジタルカメラを使用したポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。	材料を準備する。(25分)	作品を完成させ、授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブックの内容・作品制作提出過程をみる
その他	20	ポップアップカード

教科書

保育をひらく造形表現 ／槇 英子 ／萌文書林

参考文献

保育所保育指針 解説書／フレーベル館
プロジェクト型保育の実践研究／角尾和子／北大路書房

履修条件・留意事項等

【各自用意するもの】スケッチブック,水彩絵の具,筆,雑巾,クレパス,のり,はさみ,ファイル（クリアポケットファイル15ポケット程度）
※準備物の詳細はオリエンテーション時に伝える
※プリント類は必ずファイルに保管し造形表現2へつなげる

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(造形表現2)(1組)					ナンバリング	3375
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。「保育内容指導法（造形表現1）」を基礎とし、こどもの描画活動に関する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う科目である。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係のある科目である。「表現Ⅱ造形表現1，2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。

授業の概要

子どもの造形活動では、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる環境を整えることが重要である。そのためには、保育者が遊びの概念を理解し、楽しく造形活動が行える能力が必要である。本科目では「領域 表現」に関する保育者の資質・能力を身につけるための表現技法の習得や、子どもが楽しめる絵本制作等を行う。

到達目標

1様々な実践例を通して論理的かつ柔軟な感性を身に付け指導法を相対化できる。
2子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方の仮説を立て実践できる。
3子どものニーズや社会の状況に合わせた表現のための環境を考え続けることができる。

授業の方法

授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。
授業後半は絵の具を使って描画活動を実践する。

ICT活用

2回～15回まで投影機を使用し説明する。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:保育内容指導法(造形表現1)を振り返り、絵画制作の活動についての理解を深める。	教科書p43～p50まで読んでおく。(25分)	前期学んだことを振り返りワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	仕掛け絵 ―動く口、動く目 顔をテーマに仕掛け絵を制作する保育者として指導する際のポイントをまとめさせる。	教科書p51～p60まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ― デカルコマニー 転写(合せ絵)することでできる図から遊びへの展開を考察する。	教科書p61～p70まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	絵画制作:表現技法 ― 糸引き絵 技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p71～p80まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現① ステンドグラス絵を制作する。この活動の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p87～p96まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現②(バチック) クレヨンが水をはじく特性を理解し、実際の保育に展開できるようにする。	教科書p97～p99まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	絵画制作:表現技法 ― 写し絵とスクラッチ クレヨンの特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p100～p101まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 ― ステンシルと暈し絵 クレヨンの特徴をとらえ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p102～p103まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	絵画制作:表現技法 ― マーブリング マーブリング技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p81～p86まで読んでおく。(25分)	教科書p104～p105まで読んでおく。(25分)
担当教員			

第10回	絵画制作:表現技法 ーフロッタージュ フロッタージュ技法の特徴を理解し、保育における適切な導入方法の考察もする。	教科書p106～p107まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第11回	描画活動の授業作り1ー「スタンピング」を取り入れた指導案の作成。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p128～p131まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	描画活動の授業作り2ー「スタンピング」を取り入れた模擬授業を行なう。各班の発表を振り返り保育の現場で展開できる論理的な技術力を身につける。活動を振り返るために有効なデジタルカメラの使用法とまとめとしてのポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。)	模擬授業の準備をする。指導案を用意する。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			

第13回	絵本制作 ―絵本の研究とテーマの検討 制作1 既存の絵本の中にある物語の構造を分析しその特徴を理解する。	任意の絵本を用意する。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第14回	絵本制作 ―テーマの決定と技法の検討 制作 2 テーマにあった表現技法、素材の研究をし工夫をする。	テーマにあった画材の準備をする。(25分)	絵本製作を進める。(20分)
担当教員			
第15回	絵本制作 ― 完成、発表と鑑賞 / 本講義まとめ 完成した絵本を鑑賞することで多様な価値を認識できるようにする。	発表に向けて準備する。(25分)	振り返りシートをまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブック・作品制作提出過程をみる
その他	50	作品提出（絵本）レポート「子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方について」(800字以上)

教科書

保育をひらく造形表現／槇 英子 ／萌文書林

参考文献

創造的人間形成のために ／鬼丸 ／吉宏頸草書房
幼稚園教育要領／文部科学省

履修条件・留意事項等

大前提として忘れ物をしない（前期と同じ）。配布物や作成したプリント類は必ずファイリングし表現Ⅱ造形1につなげる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	保育内容指導法(造形表現2)(2組)					ナンバリング	3375
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。「保育内容Ⅵ絵画制作1」を基礎とし、こどもの描画活動に関する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う科目である。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「表現Ⅱ造形表現1，2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。

授業の概要

子どもの造形活動では、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる環境を整えることが重要である。そのためには、保育者が遊びの概念を理解し、楽しく造形活動が行える能力が必要である。本科目では「領域 表現」に関する保育者の資質・能力を身につけるための表現技法の習得や、子どもが楽しめる絵本制作等を行う。

到達目標

1様々な実践例を通して論理的かつ柔軟な感性を身に付け指導法を相対化できる。
2子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方の仮説を立て実践できる。
3子どものニーズや社会の状況に合わせた表現のための環境を考え続けることができる。

授業の方法

授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。
授業後半は絵の具を使って描画活動を実践する。

ICT活用

2回～15回まで投影機を使用し説明する。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ等に評価をつけて返却する。製作物や発表に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:保育内容指導法(造形表現1)を振り返り、絵画制作の活動についての理解を深める。	教科書p43～p50まで読んでおく。(25分)	前期学んだことを振り返りワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第2回	仕掛け絵 ―動く口、動く目 顔をテーマに仕掛け絵を制作する保育者として指導する際のポイントをまとめさせる。	教科書p51～p60まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ― デカルコマニー 転写(合せ絵)することでできる図から遊びへの展開を考察する。	教科書p61～p70まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第4回	絵画制作:表現技法 ― 糸引き絵 技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p71～p80まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現① ステンドグラス絵を制作する。この活動の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p87～p96まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 ― クレヨンと水彩絵の具を使った表現②(バチック) クレヨンが水をはじく特性を理解し、実際の保育に展開できるようにする。	教科書p97～p99まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	絵画制作:表現技法 ― 写し絵とスクラッチ クレヨンの特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p100～p101まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 ― ステンシルと暈し絵 クレヨンの特徴をとらえ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p102～p103まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	絵画制作:表現技法 ― マーブリング マーブリング技法の特徴をつかみ実際の保育に展開できるようにする。	教科書p104～p105まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第10回	絵画制作:表現技法 ―フロッタージュ フロッタージュ技法の特徴を理解し、保育における適切な導入方法の考察もする。	教科書p106～p107まで読んでおく。(25分	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第11回	描画活動の授業作り1－「スタンピング」を取り入れた指導案の作成。保育の現場における導入方法を考察させる。	教科書p128～p131まで読んでおく。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第12回	描画活動の授業作り2－「スタンピング」を取り入れた模擬授業を行なう。各班の発表を振り返り保育の現場で展開できる論理的な技術力を身につける。活動を振り返るために有効なデジタルカメラの使用法とまとめとしてのポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。)	模擬授業の準備をする。指導案を用意する。(25分)	発表内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			

第13回	絵本制作 ―絵本の研究とテーマの検討 制作1 既存の絵本の中にある物語の構造を分析しその特徴を理解する。	任意の絵本を用意する。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第14回	絵本制作 ―テーマの決定と技法の検討 制作 2 テーマにあった表現技法、素材の研究をし工夫をする。	テーマにあった画材の準備をする。(25分)	絵本製作を進める。(20分)
担当教員			
第15回	絵本制作 ― 完成、発表と鑑賞 / 本講義まとめ 完成した絵本を鑑賞することで多様な価値を認識できるようにする。	発表に向けて準備する。(25分)	振り返りシートをまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブック・作品制作提出過程をみる
その他	50	作品提出（絵本）レポート「子どもの感性の発達に理想的な絵画制作のあり方について」(800字以上)

教科書

保育をひらく造形表現／槇 英子 ／萌文書林

参考文献

創造的人間形成のために ／鬼丸 ／吉宏頸草書房
幼稚園教育要領／文部科学省

履修条件・留意事項等

大前提として忘れ物をしない（前期と同じ）。配布物や作成したプリント類は必ずファイリングし表現Ⅱ造形1につなげる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	社会的養護Ⅱ(前半)					ナンバリング	3378
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	堀　允千						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」に関係がある科目である。また、「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」ことにも関係する。
「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」と関連する。

授業の概要

子どもが中心の社会的養育の基準が確立されつつあるが、未だ課題は多く、これからの私たちがどう舵取りをしていくかが肝要である。
家族と離れて生活することを余儀なくされた子ども達にとって、社会的養護(養育)を担う施設の職員や里親はどのような存在になりえるのか。求められるものとして、単に家庭に代わる代替機能や再養育機能だけではなく、対応が難しい子どもへの高い専門性、実家族との関係修復も挙げられる。さらに今後は施設の専門性を活用し周辺地域に働きかける地域養育全体の中核的存在もより求められるようになってきたことも視野に入れておかなければならない。
本演習を通し、保育や教育現場でも対峙することになる社会的養護児童に、どう向き合うかを考え、「子どもの最善の利益」を保障することができる専門性を身に付けていく。

到達目標

社会全体を把握しながら、同時に児童（家庭）個々のニーズに対応できる専門性を身に付ける。また、実際の現場で知識を応用することができる。
虐待防止に向けた取り組みを実践していくための基盤となる視点を身に付けることができる。

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式を基本とするが、体験学習を積極的に取り入れる。また、グループワーク・発表を実施する。
視聴覚メディアを活用する。

ICT活用

講義中の意見集約や発言の補助として、個人の所有するICT端末を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

児童養護施設での勤務経験（15年）を活かし、社会的養護で保護が必要な児童の実情、対応方法について授業講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、全講義でのコメントシートに書かれた質問への回答を、講義内に反映する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1　ガイダンス、概要説明:授業の進め方、評価方法の確認、科目を通しての到達目標などを説明する。 児童養護施設の現状・実態について概略的説明を行う。	社会的養護の教科書を見直すこと。(20分)	社会的養護に関連する記事を探すこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第2回	2　社会的養護の現状①:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。児童が保護され、社会的養護において保護される経緯を説明する。また、支援計画を含めた支援の流れと日常生活支援、退所への経緯を説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第3回	3　社会的養護の現状②:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。法制度、子どもの権利条約、人権擁護の観点から学ぶ。連携機関として、児童相談所の機能・一時保護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第4回	4　社会的養護の現状③:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。“社会的養育”という観点から、施設養護と家庭養護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第5回	5　社会的養護の現状④:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。自立支援として、入所児童の退所に向けた取り組み、リービングケア、アフターケアについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	退所前後の支援についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第6回	6　社会的養護の現状⑤:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。被虐待、発達障がい、愛着障がいについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	発達障がい等についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第7回	7　具体的な支援方法・専門技術について①：講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。専門性の必要性について説明する。学習・誤学習、施設における心理職の活用と治療的支援について説明する。ペアレントトレーニングについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	ペアレントトレーニングについてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第8回	8　具体的な支援方法・専門技術について②：講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。怒りの感情について、“怒り”に対する対処法、アンガーマネジメントについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	アンガーマネジメントについてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第9回	9　具体的な支援方法・専門技術について③：講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。性問題の増加、性教育の必要性、性教育から“生” 教育への変遷について説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	性問題についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第10回	10　社会的養護の課題と展望：講義 今後の児童養護施設等の機能強化、里親制度、地域支援、児童家庭支援センターの役割（「新しい社会的養育ビジョン」）についての説明を行う。などについて説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第11回	11　社会的養護におけるアセスメント①：グループワーク 架空のケースをテーマとして、グループにてケース検討、及びアセスメントを行う。発表に向けての資料を作成する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第12回	12　社会的養護におけるアセスメント②：発表 前回のグループワークの結果について発表を行う。それぞれの発表についてのコメントを行う。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第13回	13　社会的養護におけるアセスメント③:映像鑑賞 社会的養護で育った子どもたちの様子が記録された映像資料を鑑賞する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第14回	14　社会的養護におけるアセスメント④:講義 前回の資料映像についての感想を元に、グループで討議、発表と解説をする	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	授業全体をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第15回	15　最終テスト・レポート作成:授業の総括として、設問形式による小テストと記述方式による小レポートを実施する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内のグループワーク・発表、授業への参加態度（30%） 最終テスト・レポート（70%）
その他	0	なし

教科書
使用しない
参考文献

社会的養護 / 吉田眞理 / 萌文書林
保育士をめざす人の社会的養護内容 / 辰巳隆・岡本眞幸 / みらい

履修条件・留意事項等

この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。
映像資料の鑑賞を実施する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　保育方法の理解						
科目名	社会的養護Ⅱ（後半）					ナンバリング	3378
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	堀　允千						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」に関係がある科目である。また、「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」ことにも関係する。
「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」と関連する。

授業の概要

子どもが中心の社会的養育の基準が確立されつつあるが、未だ課題は多く、これからの私たちがどう舵取りをしていくかが肝要である。
家族と離れて生活することを余儀なくされた子ども達にとって、社会的養護（養育）を担う施設の職員や里親はどのような存在になりえるのか。求められるものとして、単に家庭に代わる代替機能や再養育機能だけではなく、対応が難しい子どもへの高い専門性、実家族との関係修復も挙げられる。さらに今後は施設の専門性を活用し周辺地域に働きかける地域養育全体の中核的存在もより求められるようになってきたことも視野に入れておかなければならない。
本演習を通し、保育や教育現場でも対峙することになる社会的養護児童に、どう向き合うかを考え、「子どもの最善の利益」を保障することができる専門性を身に付けていく。

到達目標

社会全体を把握しながら、同時に児童（家庭）個々のニーズに対応できる専門性を身に付ける。また、実際の現場で知識を応用することができる。
虐待防止に向けた取り組みを実践していくための基盤となる視点を身に付けることができる。

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式を基本とするが、体験学習を積極的に取り入れる。また、グループワーク・発表を実施する。
視聴覚メディアを活用する。

ICT活用

講義中の意見集約や発言の補助として、個人の所有するICT端末を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

児童養護施設での勤務経験（15年）を活かし、社会的養護で保護が必要な児童の実情、対応方法について授業講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、全講義でのコメントシートに書かれた質問への回答を、講義内に反映する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1　ガイダンス、概要説明:授業の進め方、評価方法の確認、科目を通しての到達目標などを説明する。 児童養護施設の現状・実態について概略的説明を行う。	社会的養護の教科書を見直すこと。(20分)	社会的養護に関連する記事を探すこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第2回	2　社会的養護の現状①:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。児童が保護され、社会的養護において保護される経緯を説明する。また、支援計画を含めた支援の流れと日常生活支援、退所への経緯を説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第3回	3　社会的養護の現状②:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。法制度、子どもの権利条約、人権擁護の観点から学ぶ。連携機関として、児童相談所の機能・一時保護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第4回	4　社会的養護の現状③:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。“社会的養育”という観点から、施設養護と家庭養護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第5回	5　社会的養護の現状④:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。自立支援として、入所児童の退所に向けた取り組み、リービングケア、アフターケアについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	退所前後の支援についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第6回	6　社会的養護の現状⑤:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。被虐待、発達障がい、愛着障がいについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	発達障がい等についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第7回	7　具体的な支援方法・専門技術について①：講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。専門性の必要性について説明する。学習・誤学習、施設における心理職の活用と治療的支援について説明する。ペアレントトレーニングについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	ペアレントトレーニングについてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第8回	8　具体的な支援方法・専門技術について②：講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。怒りの感情について、“怒り”に対する対処法、アンガーマネジメントについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	アンガーマネジメントについてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第9回	9　具体的な支援方法・専門技術について③：講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。性問題の増加、性教育の必要性、性教育から“生” 教育への変遷について説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	性問題についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第10回	10　社会的養護の課題と展望：講義 今後の児童養護施設等の機能強化、里親制度、地域支援、児童家庭支援センターの役割（「新しい社会的養育ビジョン」）についての説明を行う。などについて説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第11回	11　社会的養護におけるアセスメント①：グループワーク 架空のケースをテーマとして、グループにてケース検討、及びアセスメントを行う。発表に向けての資料を作成する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第12回	12　社会的養護におけるアセスメント②：発表 前回のグループワークの結果について発表を行う。それぞれの発表についてのコメントを行う。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		

第13回	13　社会的養護におけるアセスメント③:映像鑑賞 社会的養護で育った子どもたちの様子が記録された映像資料を鑑賞する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第14回	14　社会的養護におけるアセスメント④:講義 前回の資料映像についての感想を元に、グループで討議、発表と解説をする	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	授業全体をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
第15回	15　最終テスト・レポート作成:授業の総括として、設問形式による小テストと記述方式による小レポートを実施する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀　允千		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内のグループワーク・発表、授業への参加態度（30%） 最終テスト・レポート（70%）
その他	0	なし

教科書

使用しない

参考文献

社会的養護 / 吉田眞理 / 萌文書林
保育士をめざす人の社会的養護内容 / 辰巳隆・岡本眞幸 / みらい

履修条件・留意事項等

この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。
映像資料の鑑賞を実施する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 保育方法の理解						
科目名	乳児保育Ⅰ					ナンバリング	3380
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小林 美花						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている（知識・技能）、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる（思考・判断・表現）」と関係する科目である。

授業の概要

乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び保育所等における保育士の役割について概説し、その上で乳児保育の現代的課題や現状、他機関との連携について理解する。さらに、3歳未満児の発育、発達について学び、具体的な保育内容についても理解する。

到達目標

1）乳児保育の意義と歴史的変遷及び役割について説明することができる。
2）保育所や乳児院などにおける、乳児保育の現状と課題を挙げることができる。
3）乳児保育における保護者との関わりや、関係機関との連携について説明できる。
4）乳児保育における計画の意義について説明できる。

授業の方法

教科書、パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い理解を深める。適宜、グループワークを通して、保育内容を検討する。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

保育所において12年間の保育士としての職務から、乳児期のこどもの発達理解を踏まえた関わり、子育て支援に携わる保育士の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題等の内容や質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要: 授業の概要、到達目標などを説明。乳児保育の役割について知る。	保育所保育指針保育の内容乳児保育を見返しておくこと。(90分)	乳児保育の動向ついて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	乳児保育の意義と目的1: 乳児保育の歴史的変遷について学び、乳児保育の意義と目的について考える。	テキスト第Ⅰ部1.2章を読んでおくこと。(90分)	乳児保育の歴史的変遷についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	乳児保育の意義と目的2: 乳児保育における養護と教育について知る。	テキスト第Ⅰ部2章を読んでおくこと。(90分)	養護と教育とはどのようなことかについて、まとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	乳児保育の現状と課題1: 保育所における乳児保育の現状と課題について、事例を通して考える。	テキスト第Ⅰ部3章を読んでおくこと。(90分)	乳児保育の現状についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	乳児保育の現状と課題2: 小規模保育所や家庭的保育、乳児院などにおける乳児保育の内容や課題について知る。	テキスト第Ⅲ部10章2節を読んでおくこと。(90分)	小規模保育所や家庭的保育、乳児院の課題についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	乳児保育の現状と課題3: 子育て支援の現状と役割について、事例から考える。	テキスト第Ⅲ部9章2節を読んでおくこと。(90分)	子育て支援の現状についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	3歳未満児の発達と保育内容1: 3歳未満児の発育・発達について学び、人生の土台となる重要な時期の愛着形成の重要性について知る。	テキスト第Ⅱ部4章1～5節を読んでおくこと。(90分)	3歳未満児の発育・発達についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	3歳未満児の発達と保育内容2: 3歳未満児の1日の流れを知り、最善の環境について考える。	テキスト第Ⅱ部5章を読んでおくこと。(90分)	3歳未満児の1日の流れについてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	3歳未満児の発達と保育内容3: 3歳未満児の生活の中での遊びの重要性について学ぶ。	テキスト第Ⅱ部6章を読んでおくこと。(90分)	遊びについてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	3歳未満児の発達と保育内容4: 3歳未満児の発達をより促すための関わりや配慮点について知る。さらに、3歳以上への接続と、保育士同士の連携について学ぶ。	テキスト第Ⅱ部7章を読んでおくこと。(90分)	保育士同士の連携についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	3歳未満児の発達と保育内容5: 全体的な計画に基づく乳児保育の計画の意義と役割、評価について学ぶ。	テキスト第Ⅱ部8章を読んでおくこと。(90分)	全体的な計画についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	乳児保育における連携と協働1: 乳児保育における保育士の役割について知り、職員間の連携と保育の質の向上のための連携について学ぶ。	テキスト第Ⅲ部9章1節を読んでおくこと。(90分)	保育の質とは何かについてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	乳児保育における連携と協働2: 子どもを中心とした子育てについて事例から考える。さらに、子育て支援の意義について学ぶ。	テキスト第Ⅲ部9章3節を読んでおくこと。(90分)	子育て支援についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	乳児保育における連携と協働3: 地域社会について事例から考え、各関係機関との連携の重要性について学ぶ。	地域社会について調べておくこと。(90分)	学習内容を振り返りまとめること。(90分)
担当教員			
第15回	今後の乳児保育の課題と展望: 乳児保育の現状を踏まえた課題と、展望について考える。	これまでまとめたものを振り返ること。(90分)	乳児保育についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で実施する課題(25%) ・授業達成度確認(25%) ・授業への参加態度(50%)
その他	0	なし。

教科書

乳児保育 ー子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー第3版 入江慶太ほか 教育情報出版

参考文献

発達の扉上 白石正久 かもがわ出版
写真で描く乳児保育の実践 伊藤美保子・西隆太朗 ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

授業内課題等は成績評価の対象となるため、必ず提出すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 保育方法の理解						
科目名	乳児保育Ⅱ(前半)					ナンバリング	3381
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林 美花						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている(知識・技能)、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる(思考・判断・表現)」と関係する科目である。「保育の内容と方法」の領域に該当した「保育士資格取得必修科目」であり、ディプロマポリシー「保育実習I-2」をふまえ、「保育実習II」の基礎となるものである。

授業の概要

3歳未満児の発育・発達の過程、特性を踏まえた援助と関わりや、こどもの最善の環境を考慮した生活や具体的な遊びの内容について理解することが目的である。更に、こどもの発達をより促すための指導計画の作成についても理解する。

到達目標

1)3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。
2)養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児のこどもの生活や遊び、保育の方法、環境について説明できる。
3)乳児保育における配慮の実際について説明できる。
4)乳児保育にふさわしい記録を理解し、計画を立案できる。

授業の方法

テキスト、パワーポイントと配布教材を用いた講義形式と、グループワーク形式を併用して進める。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

保育所での12年間の保育士経験から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえた関わり、保護者への支援、子育て支援に携わる保育士等の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題等による質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(本講の概要や方法, および成績評価について) ・乳児保育Ⅰを振り返り、乳児保育の実際について考える。	乳児保育Ⅰの資料など振り返っておくこと。(25分)	乳児保育Ⅰの資料をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	乳児保育の基本1: 集団生活の中で安心して生活することの意味を考え、子どもと保育士等との関係について理解する。	テキスト第Ⅰ部3章2節を読んでおくこと。(25分)	子どもと保育士等の関係についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第3回	乳児保育の基本2: 乳児保育における一人一人に応じた援助について考え、受容的・応答的な関わりについて理解する。	テキスト第Ⅰ部1章3節を読んでおくこと。(25分)	受容的・応答的な関わりについてまとめておくこと。(25 分)
担当教員			

第4回	乳児保育の基本3: 乳児保育における主体性とはどのようなことか考え、主体性の尊重について理解する。	テキスト第Ⅰ部3章5節を読んでおくこと。(25分)	主体性についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第5回	乳児保育の基本4: 乳児期の体験の重要性を考え、体験と学びの芽生えの関係について理解する。	テキスト第Ⅰ部3章4節を読んでおくこと。(25分)	乳児期の体験についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	乳児保育における生活と遊びの実際1: 3歳未満児の1日の生活の流れを知り、最善の保育環境について理解する。	テキスト第Ⅱ部4.5.6.7章を読んでおくこと。(25分)	3歳未満児の1日の流れについてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第7回	乳児保育における生活と遊びの実際2: 集団生活の中で安心でき、自ら遊びに向かう環境について考え、探索活動が十分できる環境について理解する。	テキスト第Ⅱ部6.章2.3節を読んでおくこと。(25分)	探索活動の重要性についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	乳児保育における生活と遊びの実際3: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた、基本的生活場面での授乳、おむつ交換等具体的な援助について実践できる。	テキスト第Ⅱ部8章1節を読んでおくこと。(25分)	具体的な援助の実際についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	乳児保育における生活と遊びの実際4: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びの内容について考え、実際に遊びを実践できる。	テキスト第Ⅱ部6.7章5節を読んでおくこと。(25分)	3歳未満児の遊びの内容についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	乳児保育における生活と遊びの実際5: 乳児保育における子ども同士の関係性について考え、子ども同士の関係を育む保育者の誘導、関わり方について理解する。	テキスト第Ⅱ部6.7章4節を読んでおくこと。(25分)	子ども同士の関係についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	乳児保育における配慮の実際1: 長時間保育について考え、集団及び長時間保育の中での安心できる環境について理解する。	テキスト第Ⅰ部6章1節を読んでおくこと。(25分)	長時間保育についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	乳児保育における配慮の実際2: 乳児保育における異年齢保育の役割を考え、集団保育のメリットとデメリットについて理解する。	テキスト第Ⅰ部3章4.5節を読んでおくこと。(25分)	異年齢保育についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	乳児保育における配慮の実際3: 乳児保育におけるクラス編成について考え、クラス移行時での配慮について理解する。	事前に配布した配布資料を読んでおくこと。(25分)	クラス移行時の配慮についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	乳児保育における計画の実際1: 乳児保育における計画の意義を考え、実際に長期計画と短期計画を作成する。(グループワーク)	テキスト第Ⅱ部8章2節を読んでおくこと。(25分)	長期計画と短期計画についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	乳児保育における計画の実際2: 乳児期の個別計画の重要性について考え、実際に個別計画を作成する。また、乳児保育における記録と評価についても理解する。	テキスト第Ⅱ部8章3節を読んでおくこと。(25分)	個別計画についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で実施する課題(25%) ・授業中の作業や討議への参加度(25%) ・授業への参加態度(50%)
その他	0	なし。

教科書

乳児保育−子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み−入江慶太ほか 教育情報出版

参考文献

伊藤美保子・西隆太朗.写真で描く乳児保育の実践 子どもの世界を見つめてミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

授業内で実施する課題等は、成績評価の対象となるため、必ず提出すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 保育方法の理解						
科目名	乳児保育Ⅱ(後半)					ナンバリング	3381
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林 美花						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている(知識・技能)、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる(思考・判断・表現)」と関係する科目である。「保育の内容と方法」の領域に該当した「保育士資格取得必修科目」であり、ディプロマポリシー「保育実習I-2」をふまえ、「保育実習II」の基礎となるものである。

授業の概要

3歳未満児の発育・発達の過程、特性を踏まえた援助と関わりや、こどもの最善の環境を考慮した生活や具体的な遊びの内容について理解することが目的である。更に、こどもの発達をより促すための指導計画の作成についても理解する。

到達目標

1)3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。
2)養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児のこどもの生活や遊び、保育の方法、環境について説明できる。
3)乳児保育における配慮の実際について説明できる。
4)乳児保育にふさわしい記録を理解し、計画を立案できる。

授業の方法

テキスト、パワーポイントと配布教材を用いた講義形式と、グループワーク形式を併用して進める。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

保育所での12年間の保育士経験から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえた関わり、保護者への支援、子育て支援に携わる保育士等の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題等による質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(本講の概要や方法, および成績評価について) ・乳児保育Ⅰを振り返り、乳児保育の実際について考える。	乳児保育Ⅰの資料など振り返っておくこと。(25分)	乳児保育Ⅰの資料をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	乳児保育の基本1: 集団生活の中で安心して生活することの意味を考え、子どもと保育士等との関係について理解する。	テキスト第Ⅰ部3章2節を読んでおくこと。(25分)	子どもと保育士等の関係についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第3回	乳児保育の基本2: 乳児保育における一人一人に応じた援助について考え、受容的・応答的な関わりについて理解する。	テキスト第Ⅰ部1章3節を読んでおくこと。(25分)	受容的・応答的な関わりについてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第4回	乳児保育の基本3: 乳児保育における主体性とはどのようなことか考え、主体性の尊重について理解する。	テキスト第Ⅰ部3章5節を読んでおくこと。(25分)	主体性についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第5回	乳児保育の基本4: 乳児期の体験の重要性を考え、体験と学びの芽生えの関係について理解する。	テキスト第Ⅰ部3章4節を読んでおくこと。(25分)	乳児期の体験についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	乳児保育における生活と遊びの実際1: 3歳未満児の1日の生活の流れを知り、最善の保育環境について理解する。	テキスト第Ⅱ部4.5.6.7章を読んでおくこと。(25分)	3歳未満児の1日の流れについてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第7回	乳児保育における生活と遊びの実際2: 集団生活の中で安心でき、自ら遊びに向かう環境について考え、探索活動が十分できる環境について理解する。	テキスト第Ⅱ部6.章2.3節を読んでおくこと。(25分)	探索活動の重要性についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	乳児保育における生活と遊びの実際3: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた、基本的生活場面での授乳、おむつ交換等具体的な援助について実践できる。	テキスト第Ⅱ部8章1節を読んでおくこと。(25分)	具体的な援助の実際についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	乳児保育における生活と遊びの実際4: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びの内容について考え、実際に遊びを実践できる。	テキスト第Ⅱ部6.7章5節を読んでおくこと。(25分)	3歳未満児の遊びの内容についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	乳児保育における生活と遊びの実際5: 乳児保育における子ども同士の関係性について考え、子ども同士の関係を育む保育者の誘導、関わり方について理解する。	テキスト第Ⅱ部6.7章4節を読んでおくこと。(25分)	子ども同士の関係についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	乳児保育における配慮の実際1: 長時間保育について考え、集団及び長時間保育の中での安心できる環境について理解する。	テキスト第Ⅰ部6章1節を読んでおくこと。(25分)	長時間保育についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	乳児保育における配慮の実際2: 乳児保育における異年齢保育の役割を考え、集団保育のメリットとデメリットについて理解する。	テキスト第Ⅰ部3章4.5節を読んでおくこと。(25分)	異年齢保育についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	乳児保育における配慮の実際3: 乳児保育におけるクラス編成について考え、クラス移行時での配慮について理解する。	事前に配布した配布資料を読んでおくこと。(25分)	クラス移行時の配慮についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	乳児保育における計画の実際1: 乳児保育における計画の意義を考え、実際に長期計画と短期計画を作成する。(グループワーク)	テキスト第Ⅱ部8章2節を読んでおくこと。(25分)	長期計画と短期計画についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	乳児保育における計画の実際2: 乳児期の個別計画の重要性について考え、実際に個別計画を作成する。また、乳児保育における記録と評価についても理解する。	テキスト第Ⅱ部8章3節を読んでおくこと。(25分)	個別計画についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で実施する課題(25%) ・授業中の作業や討議への参加度(25%) ・授業への参加態度(50%)
その他	0	なし。

教科書

乳児保育−子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み−入江慶太ほか 教育情報出版

参考文献

伊藤美保子・西隆太朗.写真で描く乳児保育の実践 子どもの世界を見つめてミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

授業内で実施する課題等は、成績評価の対象となるため、必ず提出すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅰ幼児音楽(1組)					ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、運野　朱美、奥村　果歩						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育の在り方を考え続けることができる」(思考・判断・表現)に特に関係がある科目である。学生が将来、保育者・教育者として、子ども達と音楽活動を行うときに必要なピアノ演奏の基礎的な力を身につける科目である。(知識・技能)
子育て支援者として必要な基本的な技能・表現力を身につけるための科目である。(知識・技能)
「基礎音楽」の発展となり、「保育内容指導法(音楽表現1，2)」、「教科教育法音楽」、「総合表現音楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

この授業では、学生が将来保育者・教育者として子どもたちと音楽活動を行うときに必要となるピアノ演奏の基礎的な力を身につける。さらに、子どもの音楽遊びにおいてイメージをひろげ、感性を養うための保育の展開に必要となる「弾き歌い」の知識や技術を実践的に習得する。
授業は初級(鍵盤楽器未経験者)クラスと中・上級クラス(鍵盤楽器経験者)に分け、実技指導を行う。それぞれのレベルに合った教材を用い、初級クラスはグループレッスン、中・上級クラスは個人レッスンを中心として実技指導を行う。弾き歌いの練習も加え、豊かな表現力を養う。

到達目標

ピアノ(鍵盤楽器)の学習においては、初心者と経験者は個人差が大きいため、それぞれの到達目標を示す。
初級(初心者)
・バイエル1～80番を教材とし、基本的な読譜能力と演奏技術を習得し、実践できる。
・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。
中・上級(経験者)
・バイエルの中で今まで弾いたことのない曲があれば弾くことができる。
・ブルクミュラー 25の練習曲、ソナチネ・アルバム等を教材として演奏技術、表現力をつけることができる。
・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。

授業の方法

ピアノ初心者(初級)の学生はML教室を使用してグループレッスンから始め、学習が進んだら必要に応じて個人レッスンを行う。
ピアノ経験者(中、上級)の学生は音楽室と練習室を使用して個人レッスンを行う。

ICT活用

google classroomを活用して演奏に関する情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして実技テスト後に担当教員から講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 担当教員との相談 初級（西野、奥村） 中上級（今井、三上、運野） ・鍵盤楽器の経験の有無、読譜能力を調べるために実施したアンケートに基づいてクラス分けをする。 ・授業に使用する楽器、練習室に関しての説明と注意。 ・それぞれのクラスの担当教官と今後の課題について相談する。	・ピアノ初心者はバイエルの目次を読んでおく。 ・ピアノ経験者は1曲練習しておく。（25分）	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（20分）
担当教員			
第2回	初級 ・ピアノ譜の読譜に関する基礎知識の説明 ・バイエル1番（音符の長さ、拍子、右手のみの演奏） ・バイエル2番（音符の長さ、拍子、左手のみの演奏） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第3回	初級 ・バイエル3～10番（両手でユニゾンの演奏、右手は旋律で左手は伴奏） ・バイエル11～15番（両手の練習、フレーズ感を持って弾く） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第4回	初級 ・バイエル16～18番（速度標語にあった演奏、レガート奏法） ・バイエル19～21番（レガート奏法） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第5回	初級 ・バイエル22～25番（対位法的な伴奏） ・バイエル26～31番（スラー、タイ） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第6回	初級 ・バイエル32～36番（レガート奏法、フレーズ感） ・バイエル37～40番（手のポジション移動） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第7回	初級 ・バイエル41～44番（手のポジション移動、全音符から8分音符までの練習） ・バイエル45～47番（8分音符の練習） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第8回	初級 ・バイエル51～54番（8分の6拍子） ・バイエル55～57番（ヘ音記号、強弱） ・「こどもの歌曲」より『かえるの合唱』『大きな栗の木のしたで』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第9回	初級 ・バイエル58～59番（8分の3拍子） ・バイエル60～61番（対位法的な音楽、付点） ・「こどもの歌曲」より『むすんでひらいて』『きらきらぼし』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第10回	初級 ・バイエル62～64番（スタッカート、4手連弾） ・バイエル65～66番（ハ長調の音階、指くぐり） ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 後期実技試験の課題曲を発表。学生は指導教員と相談して課題曲の中から選曲をする。	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第11回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル67～69番（重音の練習） ・バイエル70～72番（ト長調） ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『森のくまさん』『たなばたさま』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第12回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル73～74番（臨時記号、三連符） ・バイエル75～76番（ニ長調） ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『ジングルベル』『きよしこのよる』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第13回	初級 ・初級クラス全員で音楽室のグランドピアノを使用して試験課題曲の演奏を聴き合い、グランドピアノと人前の演奏に慣れる ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 中上級 ・中上級グループに分かれて音楽室のグランドピアノを使用して試験課題曲の演奏を聴き合い、グランドピアノと人前の演奏に慣れる ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員			
第14回	まとめ ・実技試験による確認 試験終了後に各担当教員からの講評を受ける。 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。試験日が次回にあたる学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ ・実技試験による確認 試験終了後に各担当教員からの講評を受ける。 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。試験が終了した学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	・授業態度 ・予習復習等の自主的学習態度 ・毎授業での課題演奏の達成度
その他	70	第14、15回の授業で実技試験を行う

教科書

バイエル ピアノ教則本 New Edition /伊藤康英 編/ 音楽之友社
ブルクミュラー25の練習曲 /北村知恵 校訂・解説/全音楽譜出版社
ソナチネ・アルバム1/ 全音楽譜出版社出版部 編/全音楽譜出版社
実用 こどもの歌曲200選 /松山 祐士 編 /ドレミ出版社

参考文献

ソナチネ・アルバム2/ 全音楽譜出版社出版部 編/全音楽譜出版社

履修条件・留意事項等

各自、事前学習、事後学習に十分に取り組んで授業に臨むこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅰ幼児音楽(2組)					ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、運野　朱美、奥村　果歩						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育の在り方を考え続けることができる」(思考・判断・表現)に特に関係がある科目である。学生が将来、保育者・教育者として、子ども達と音楽活動を行うときに必要なピアノ演奏の基礎的な力を身につける科目である。(知識・技能)
子育て支援者として必要な基本的な技能・表現力を身につけるための科目である。(知識・技能)
「基礎音楽」の発展となり、「保育内容指導法(音楽表現1，2)」、「教科教育法音楽」、「総合表現音楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

この授業では、学生が将来保育者・教育者として子どもたちと音楽活動を行うときに必要となるピアノ演奏の基礎的な力を身につける。さらに、子どもの音楽遊びにおいてイメージをひろげ、感性を養うための保育の展開に必要となる「弾き歌い」の知識や技術を実践的に習得する。
授業は初級(鍵盤楽器未経験者)クラスと中・上級クラス(鍵盤楽器経験者)に分け、実技指導を行う。それぞれのレベルに合った教材を用い、初級クラスはグループレッスン、中・上級クラスは個人レッスンを中心として実技指導を行う。弾き歌いの練習も加え、豊かな表現力を養う。

到達目標

ピアノ(鍵盤楽器)の学習においては、初心者と経験者は個人差が大きいため、それぞれの到達目標を示す。
初級(初心者)
・バイエル1～80番を教材とし、基本的な読譜能力と演奏技術を習得し、実践できる。
・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。
中・上級(経験者)
・バイエルの中で今まで弾いたことのない曲があれば弾くことができる。
・ブルクミュラー 25の練習曲、ソナチネ・アルバム等を教材として演奏技術、表現力をつけることができる。
・簡単な「こどもの歌」の弾き歌いができる。

授業の方法

ピアノ初心者(初級)の学生はML教室を使用してグループレッスンから始め、学習が進んだら必要に応じて個人レッスンを行う。
ピアノ経験者(中、上級)の学生は音楽室と練習室を使用して個人レッスンを行う。

ICT活用

google classroomを活用して演奏に関する情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして実技テスト後に担当教員から講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 担当教員との相談 初級（西野、奥村） 中上級（今井、三上、運野） ・鍵盤楽器の経験の有無、読譜能力を調べるために実施したアンケートに基づいてクラス分けをする。 ・授業に使用する楽器、練習室に関しての説明と注意。 ・それぞれのクラスの担当教官と今後の課題について相談する。	・ピアノ初心者はバイエルの目次を読んでおく。 ・ピアノ経験者は1曲練習しておく。（25分）	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（20分）
担当教員			
第2回	初級 ・ピアノ譜の読譜に関する基礎知識の説明 ・バイエル1番（音符の長さ、拍子、右手のみの演奏） ・バイエル2番（音符の長さ、拍子、左手のみの演奏） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第3回	初級 ・バイエル3～10番（両手でユニゾンの演奏、右手は旋律で左手は伴奏） ・バイエル11～15番（両手の練習、フレーズ感を持って弾く） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第4回	初級 ・バイエル16～18番（速度標語にあった演奏、レガート奏法） ・バイエル19～21番（レガート奏法） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第5回	初級 ・バイエル22～25番（対位法的な伴奏） ・バイエル26～31番（スラー、タイ） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第6回	初級 ・バイエル32～36番（レガート奏法、フレーズ感） ・バイエル37～40番（手のポジション移動） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第7回	初級 ・バイエル41～44番（手のポジション移動、全音符から8分音符までの練習） ・バイエル45～47番（8分音符の練習） 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム1」より指定された曲	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第8回	初級 ・バイエル51～54番（8分の6拍子） ・バイエル55～57番（ヘ音記号、強弱） ・「こどもの歌曲」より『かえるの合唱』『大きな栗の木のしたで』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第9回	初級 ・バイエル58～59番（8分の3拍子） ・バイエル60～61番（対位法的な音楽、付点） ・「こどもの歌曲」より『むすんでひらいて』『きらきらぼし』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第10回	初級 ・バイエル62～64番（スタッカート、4手連弾） ・バイエル65～66番（ハ長調の音階、指くぐり） ・「こどもの歌曲」より『チューリップ』『おべんとう』 中上級 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 後期実技試験の課題曲を発表。学生は指導教員と相談し課題曲の中からの選曲をする。	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第11回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル67～69番（重音の練習） ・バイエル70～72番（ト長調） ・「こどもの歌曲」より『おかえりのうた』『うみ』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『森のくまさん』『たなばたさま』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			
第12回	初級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・バイエル73～74番（臨時記号、三連符） ・バイエル75～76番（ニ長調） ・「こどもの歌曲」より『こぎつね』『とんぼのめがね』 中上級 ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 ・「ブルクミュラー 25の練習曲」「ソナチネ・アルバム」より指定された曲 ・「こどもの歌曲」より『ジングルベル』『きよしこのよる』	担当の教員が指示した課題を練習しておく。（25分）	指導内容を確認して練習しておく。（20分）
担当教員			

第13回	初級 ・初級クラス全員で音楽室のグランドピアノを使用して試験課題曲の演奏を聴き合い、グランドピアノと人前の演奏に慣れる ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。 中上級 ・中上級グループに分かれて音楽室のグランドピアノを使用して試験課題曲の演奏を聴き合い、グランドピアノと人前の演奏に慣れる ・実技試験の課題曲を練習し、指導を受ける。	担当の教員が指示した課題を練習しておく。(25分)	指導内容を確認して練習しておく。(20分)
担当教員			
第14回	まとめ ・実技試験による確認 試験終了後に各担当教員からの講評を受ける。 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。試験日が次回にあたる学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ ・実技試験による確認 試験終了後に各担当教員からの講評を受ける。 試験は人前での演奏に慣れるため、発表会形式にする。試験が終了した学生は見学する。	実技試験の課題曲を練習しておく。(25分)	実技試験の演奏の結果をふまえて練習する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	・授業態度 ・予習復習等の自主的学習態度 ・毎授業での課題演奏の達成度
その他	70	第14、15回の授業で実技試験を行う

教科書

バイエル ピアノ教則本 New Edition /伊藤康英 編/ 音楽之友社
ブルクミュラー25の練習曲 /北村知恵 校訂・解説/全音楽譜出版社
ソナチネ・アルバム1/ 全音楽譜出版社出版部 編/全音楽譜出版社
実用 こどもの歌曲200選 /松山 祐士 編 /ドレミ出版社

参考文献

ソナチネ・アルバム2/ 全音楽譜出版社出版部 編/全音楽譜出版社

履修条件・留意事項等

各自、事前学習、事後学習に十分に取り組んで授業に臨むこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅱ造形(1組)					ナンバリング	3404
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

保育に必要な表現力を身につけ、表現方法の理解に関する科目である。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得に必須の科目であり、こどもの造形表現に関する理解と保育者・教育者としての実践力を身につける科目である。また、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」ではおもに絵で表す活動を中心に学んできたが、本科目では素材への理解を深めながら立体表現を中心に制作する。「教科教育法 図画工作」の基礎となる。

授業の概要

造形表現活動は、自分の思いを何らかの形や色彩、その他の表現方法で表す活動である。子どもは結果よりも活動自体を楽しむ傾向にあり、それは環境へ自ら働きかけて遊びながら表現し、表現しながら遊んでいる。保育においてはこのプロセスを大切にし感性や想像力を働かせ創造性を育むことが大切である。ここでは、子どもの造形表現の理解を深め、保育者としての表現力も習得する。

到達目標

1造形表現と子どもの関係を理解しそれを説明できる。
2子どもの感性を豊かにする造形表現を実践できる。
3.こどもの造形表現についての基礎的な指導ができる。

授業の方法

配布物やDVDなどを通してテーマへの理解を深め制作への動機付けを行う。
各テーマごとに作品を制作し、制作したものはポートフォリオにまとめ活動を振り返り素材や創造性への理解を深める。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用してデータ取集や編集、活動報告を行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオに評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション～社会の中の造形表現 我々の身の回りにある造形表現(美術作品)について考察をしていく。社会の中にある美術館やパブリックアートなどが担う役割について理解を深めて行く。	社会の中の造形について調べる(25分)	授業内容をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	描画表現―観察から想像する 身のまわりのものを観察することから想像を膨らますことをテーマに絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性と関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	こどもの自由な発想を保障する保育者のかかわりについてまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	描画表現―観察からイメージをつかむ(詩の朗読から) 「不思議」をテーマに身のまわりのものを観察し絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性と関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	不思議をテーマにした作品を完成させる。(20分)
担当教員			

第4回	描画表現―キャラクターについて①(導入) テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。友達のキャラクターを制作するにあたり、ワークシートに友達の特長をまとめる。	キャラクターについて調べる(25分)	キャラクターについてのワークシートをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	描画表現―キャラクターについて②(展開～完成) テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。前回の講義でまとめた友達の特徴からイメージを膨らましオリジナルのキャラクターを作成する。	日本のキャラクター文化について調べておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第6回	素材と関わる表現―紙との関わりからイメージを膨らます①(導入) 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。紙の特徴をつかみ次回の講義で作る「新種の生き物」のアイデアスケッチをワークシートにまとめる	子どもの造形活動について調べる。(25分)	アイデアスケッチを完成させる。(20分)
担当教員			

第7回	素材と関わる表現―紙との関わりからイメージを膨らます②(展開) 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。前回の講義で作成したワークシートを元に自立する「新種の生き物」を色画用紙を使って制作する。	不要になった紙などの材料を集めておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第8回	素材と関わる表現―紙との関わりからイメージを膨らます③(完成) 完成したオリジナルの「新種の生き物」を撮影する。それぞれの作品に合った場所で撮影し自作の物語をつくりポートフォリオにまとめる。	作品が自立するように調整しておく。(25分)	ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第9回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る①(導入) 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をし、風の力を利用した造形やゴム等の動力を使って飛ばす造形について考察する。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	飛ぶ造形について調べる(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る②（展開） 前回まとめたワークシートをもとに紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をする。飛ぶための形を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	不要になったカップなどの材料を用意する。（25分）	次回必要な材料を確認する。（20分）
担当教員			
第11回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る③（完成） 完成したオリジナルUFOを実際に飛ばしてみる。実際の活動の様子を撮影し、自作のUFOの物語りをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、紙皿を使った造形活動の指導案を作成する。	必要な材料を準備しておく。（25分）	作品を完成させポートフォリオにまとめる。（20分）
担当教員			
第12回	楽しい造形遊び ～走るものを作る①（導入） 子どもは身近な材料を自分の世界に持ち込んで楽しめる。ここでは、紙を中心にやさしくつくれて遊べる車輪が動くオリジナルカーの作品づくりをする。車輪の構造を理解しアイデアをワークシートにまとめる。	車輪が回る構造を調べておく（25分）	ワークシートにアイデアをまとめる。（20分）
担当教員			

第13回	楽しい造形遊び ～走るものを作る②(展開) 前回作成したワークシートを元にオリジナルカーの制作をする。既成概念にとらわれず思いつきを積極的に取り入れながら柔軟に制作を進める。車輪の動く構造を完成させる。	材料を準備しておく。(25分)	次回必要な材料を確認する。(20分)
担当教員			
第14回	楽しい造形遊び ～走るものを作る③(完成) 前回に引き続きオリジナルカーの制作をする。色、形、素材を工夫しながら完成させる。車輪の動く構造が出来ているか確認する。	必要な材料を準備しておく。(25分)	車輪が回るか確認し作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	楽しい造形遊び ～走るものを作る④(まとめ) ダンボールを使って坂道を作り完成したオリジナルカーを実際に走らせる。実際の活動の様子を撮影し、オリジナルカーのコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、車輪の動く造形活動の指導案を作成する。	車輪が回るように調整しておく。(25分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	作品（期限内提出、制作条件の理解、制作の取組、作品内容）
その他	50	ポートフォリオ（制作のまとめ、内容の報告）。指導案（こどもや環境への配慮）

教科書

なし

参考文献

●授業時に資料配布・参考作品を提示　●文部科学省「幼稚園 教育要領」

履修条件・留意事項等

作成したポートフォリオや資料、ワークシートを記録・保管できるA4サイズのクリアポケットファイル（15ポケット以上）を用意しておく。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅱ造形(2組)					ナンバリング	3404
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

保育に必要な表現力を身につけ、表現方法の理解に関する科目である。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得に必須の科目であり、こどもの造形表現に関する理解と保育者・教育者としての実践力を身につける科目である。また、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」ではおもに絵で表す活動を中心に学んできたが、本科目では素材への理解を深めながら立体表現を中心に制作する。「教科教育法 図画工作」の基礎となる。

授業の概要

造形表現活動は、自分の思いを何らかの形や色彩、その他の表現方法で表す活動である。子どもは結果よりも活動自体を楽しむ傾向にあり、それは環境へ自ら働きかけて遊びながら表現し、表現しながら遊んでいる。保育においてはこのプロセスを大切にし感性や想像力を働かせ創造性を育むことが大切である。ここでは、子どもの造形表現の理解を深め、保育者としての表現力も習得する。

到達目標

1造形表現と子どもの関係を理解しそれを説明できる。
2子どもの感性を豊かにする造形表現を実践できる。
3.こどもの造形表現についての基礎的な指導ができる。

授業の方法

配布物やDVDなどを通してテーマへの理解を深め制作への動機付けを行う。
各テーマごとに作品を制作し、制作したものはポートフォリオにまとめ活動を振り返り素材や創造性への理解を深める。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用してデータ取集や編集、活動報告を行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオに評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション～社会の中の造形表現 我々の身の回りにある造形表現(美術作品)について考察をしていく。社会の中にある美術館やパブリックアートなどが担う役割について理解を深めて行く。	社会の中の造形について調べる。(25分)	授業内容をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	描画表現―観察から想像する 身のまわりのものを観察することから想像を膨らますことをテーマに絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性と関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	こどもの自由な発想を保障する保育者のかかわりについてまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	描画表現―観察からイメージをつかむ(詩の朗読から) 「不思議」をテーマに身のまわりのものを観察し絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性と関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	不思議をテーマにした作品を完成させる。(20分)
担当教員			

第4回	描画表現―キャラクターについて①(導入) テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。友達のキャラクターを制作するにあたり、ワークシートに友達の特長をまとめる。	キャラクターについて調べる。(25分)	キャラクターについてのワークシートをまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	描画表現―キャラクターについて②(展開～完成) テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。前回の講義でまとめた友達の特徴からイメージを膨らましオリジナルのキャラクターを作成する。	日本のキャラクター文化について調べておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第6回	素材と関わる表現―紙との関わりからイメージを膨らます①(導入) 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。紙の特徴をつかみ次回の講義で作る「新種の生き物」のアイデアスケッチをワークシートにまとめる	子どもの造形表現について調べる。(25分)	アイデアスケッチを完成させる。(20分)
担当教員			

第7回	素材と関わる表現―紙との関わりからイメージを膨らます②(展開) 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。前回の講義で作成したワークシートを元に自立する「新種の生き物」を色画用紙を使って制作する。	不要になった紙などの材料を集めておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第8回	素材と関わる表現―紙との関わりからイメージを膨らます③(完成) 完成したオリジナルの「新種の生き物」を撮影する。それぞれの作品に合った場所で撮影し自作の物語をつくりポートフォリオにまとめる。	作品が自立するように調整しておく。(25分)	ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第9回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る①(展開) 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をし、風の力を利用した造形やゴム等の動力を使って飛ばす造形について考察する。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	飛ぶ造形について調べる。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			

第10回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る②（展開） 前回まとめたワークシートをもとに紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をする。飛ぶための形を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	不要になったカップなどの材料を用意する。（25分）	次回必要な材料を確認する。（20分）
担当教員			
第11回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る③（完成） 完成したオリジナルUFOを実際に飛ばしてみる。実際の活動の様子を撮影し、自作のUFOの物語りをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、紙皿を使った造形活動の指導案を作成する。	必要な材料を準備しておく。（25分）	作品を完成させポートフォリオにまとめる。（20分）
担当教員			
第12回	楽しい造形遊び ～走るものを作る①（導入） 子どもは身近な材料を自分の世界に持ち込んで楽しめる。ここでは、紙を中心にやさしくつくれて遊べる車輪が動くオリジナルカーの作品づくりをする。車輪の構造を理解しアイデアをワークシートにまとめる。	車輪が回る構造を調べておく（25分）	ワークシートにアイデアをまとめる。（20分）
担当教員			

第13回	楽しい造形遊び ～走るものを作る②（展開） 前回作成したワークシートを元にオリジナルカーの制作をする。既成概念にとらわれず思いつきを積極的に取り入れながら柔軟に制作を進める。車輪の動く構造を完成させる。	材料を準備しておく。（25分）	次回必要な材料を確認する。（20分）
担当教員			
第14回	楽しい造形遊び ～走るものを作る③（完成） 前回に引き続きオリジナルカーの制作をする。色、形、素材を工夫しながら完成させる。車輪の動く構造が出来ているか確認する。	必要な材料を準備しておく。（25分）	車輪が回るか確認し作品を完成させる。（20分）
担当教員			
第15回	楽しい造形遊び ～走るものを作る④（まとめ） ダンボールを使って坂道を作り完成したオリジナルカーを実際に走らせる。実際の活動の様子を撮影し、オリジナルカーのコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、車輪の動く造形活動の指導案を作成する。	車輪が回るように調整しておく。（25分）	授業内容をポートフォリオにまとめる。（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	作品（期限内提出、制作条件の理解、制作の取組、作品内容）
その他	50	ポートフォリオ（制作のまとめ、内容の報告）。指導案（こどもや環境への配慮）

教科書
なし

参考文献

●授業時に資料配布・参考作品を提示　●文部科学省「幼稚園 教育要領」

履修条件・留意事項等

作成したポートフォリオや資料、ワークシートを記録・保管できるA4サイズのクリアポケットファイル（15ポケット以上）を用意しておく。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅲ身体表現1（前半）					ナンバリング	3408
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	細田　洋介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの乳幼児期・学童期のこどもの基本的な知識、こどもの特徴と発達へのニーズを見極め対応できる教育的能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連がある科目です。

授業の概要

保育者・教育者には幼児や児童と「触れ合う」コミュニケーションが求められます。そのためには、まず自らが身体表現を実践しながら、いかに身体や声が機能するかを理解する必要があります。
また、他者と協働する「演劇教育」の手法を軸として、コミュニケーション能力の指導を実践的に学びます。

到達目標

1. シアターゲーム・コミュニケーションゲームを通じて他者とつながる意識を獲得し、他者の表現を理解し尊重することができる。

2. 身体による表現手段ならびにコミュニケーション手段を多様に使うことができ、こどもたちが受け入れやすい手段を選択することができる。

3. グループ制作の手法を理解し、こどもたちの身体表現の基礎的な指導ができる。

授業の方法

シアターゲーム・コミュニケーションゲームを実際に体験し、その目的や方法を解説することで理解を深める。また、課題となる作品制作と発表を通じて、他者へどのように表現が伝わるか、あるいは伝わらないかを考察し意見交換を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

舞台演出家、児童向け演劇ワークショップ講師としての実務経験を活かし、身体表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じて個別にコメントに対して返信するほか、重要事項については授業で取り上げて説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【イントロダクション】 授業概要と演劇教育についての説明を行い、本授業でのルールを確認する。 アイスブレイクとして、シアターゲーム・コミュニケーションゲームを行う。	シラバスを事前に読んでおく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第2回	【シアターゲーム・1】 他者とコンタクトを取りやすくするためのシアターゲーム(コミュニケーションゲーム)を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第3回	【シアターゲーム・2】 主に身体を使ったシアターゲームを行う。 また、怪我などをしないように簡単な準備体操を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			

第4回	【シアターゲーム・3】 主に声を使ったシアターゲームを行う。 また、喉を痛めないように簡単な発声練習を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員			
第5回	【シアターゲーム・4】 複合的なシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員			
第6回	【シアターゲーム・5】 他者を演じるシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員			

第7回	【絵本の読み聞かせ・1】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ練習をする。	前回渡されたテキストを熟読し、内容を理解しておく。(15分)	自分が担当するパートの音読練習をしておく。 また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員			
第8回	【絵本の読み聞かせ・2】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ発表をする。	自分が担当するパートの音読練習をしておく。 また、発声練習も自分でやってみる。(15分)	発表した際の反応を振り返り、どのような工夫をすればさらに良いものになったかを考える。(30分)
担当教員			
第9回	【絵本を劇にする・1】 読み聞かせで使用した絵本を使い、グループごとに場面を身体のみで表現する。 またセリフも考えてみる。	文章だけでなく、背景の絵にどんなものが描かれているのか眺めておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし方について、発表の際にもらった意見を振り返り、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員			

第10回	【絵本を劇にする・2】 前回作った場面をブラッシュアップし、さらに前後の場面をつくる。 各グループごとに発表を行う。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし方について、発表の際にもらった意見を振り返り、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員			
第11回	【絵本を劇にする・3＆七夕ゲーム】 前回までにつくった場面をさらにブラッシュアップさせる。 七夕の時期にちなみんだシアターゲームを行う。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	各場面がつながったイメージをシミュレーションしておく。(30分)
担当教員			
第12回	【絵本を劇にする・4】 各グループで作った場面をつなげ、一つの物語をつくる。 つなぎ方について意見交換を行い、練習する。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	練習・発表で出された意見をまとめ、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員			

第13回	【絵本を劇にする・5】 最終的なブラッシュアップを行い、全体で発表を行う。 発表後は自分たちで意見交換をする。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	発表後の意見交換を振り返り、表現方法や制作過程の課題を考察しておく。(30分)
担当教員			
第14回	【それぞれの身体表現・準備】 各人・各グループで発表する身体表現作品についての準備・練習を行う。	各々の作品についてアイディアをまとめておく。(15分)	各々の作品についてアイディアの整理や使用品の準備をしておく(30分)
担当教員			
第15回	【それぞれの身体表現・発表会】 各人・各グループで用意してきた身体表現作品を発表する。 発表者以外はそれを見学する。	各々の作品発表を練習しておく。(15分)	各々が発表した身体表現作品の魅力や不足点を考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	・出席状況 ・授業への参加姿勢、発言姿勢 ・課題発表
その他	30	コメントシート記載内容

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

動きやすい服装（パンツスタイル）で受講してください。
ケガ等防止のため上靴の使用をお願いします。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅲ身体表現1(後半)					ナンバリング	3408
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	細田　洋介						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの乳幼児期・学童期のこどもの基本的な知識、こどもの特徴と発達へのニーズを見極め対応できる教育的能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連がある科目です。

授業の概要

保育者・教育者には幼児や児童と「触れ合う」コミュニケーションが求められます。そのためには、まず自らが身体表現を実践しながら、いかに身体や声が機能するかを理解する必要があります。
また、他者と協働する「演劇教育」の手法を軸として、コミュニケーション能力の指導を実践的に学びます。

到達目標

1. シアターゲーム・コミュニケーションゲームを通じて他者とつながる意識を獲得し、他者の表現を理解し尊重することができる。

2. 身体による表現手段ならびにコミュニケーション手段を多様に使うことができ、こどもたちが受け入れやすい手段を選択することができる。

3. グループ制作の手法を理解し、こどもたちの身体表現の基礎的な指導ができる。

授業の方法

シアターゲーム・コミュニケーションゲームを実際に体験し、その目的や方法を解説することで理解を深める。また、課題となる作品制作と発表を通じて、他者へどのように表現が伝わるか、あるいは伝わらないかを考察し意見交換を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

舞台演出家、児童向け演劇ワークショップ講師としての実務経験を活かし、身体表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じて個別にコメントに対して返信するほか、重要事項については授業で取り上げて説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【イントロダクション】 授業概要と演劇教育についての説明を行い、本授業でのルールを確認する。 アイスブレイクとして、シアターゲーム・コミュニケーションゲームを行う。	シラバスを事前に読んでおく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第2回	【シアターゲーム・1】 他者とコンタクトを取りやすくするためのシアターゲーム(コミュニケーションゲーム)を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第3回	【シアターゲーム・2】 主に身体を使ったシアターゲームを行う。 また、怪我などをしないように簡単な準備体操を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員	細田　洋介		

第4回	【シアターゲーム・3】 主に声を使ったシアターゲームを行う。 また、喉を痛めないように簡単な発声練習を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第5回	【シアターゲーム・4】 複合的なシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第6回	【シアターゲーム・5】 他者を演じるシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員	細田　洋介		

第7回	【絵本の読み聞かせ・1】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ練習をする。	前回渡されたテキストを熟読し、内容を理解しておく。(15分)	自分が担当するパートの音読練習をしておく。 また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第8回	【絵本の読み聞かせ・2】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ発表をする。	自分が担当するパートの音読練習をしておく。 また、発声練習も自分でやってみる。(15分)	発表した際の反応を振り返り、どのような工夫をすればさらに良いものになったかを考える。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第9回	【絵本を劇にする・1】 読み聞かせで使用した絵本を使い、グループごとに場面を身体のみで表現する。 またセリフも考えてみる。	文章だけでなく、背景の絵にどんなものが描かれているのか眺めておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし方について、発表の際にもらった意見を振り返り、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員	細田　洋介		

第10回	【絵本を劇にする・2】 前回作った場面をブラッシュアップし、さらに前後の場面をつくる。 各グループごとに発表を行う。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし方について、発表の際にもらった意見を振り返り、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第11回	【絵本を劇にする・3＆七夕ゲーム】 前回までにつくった場面をさらにブラッシュアップさせる。 七夕の時期にちなみんだシアターゲームを行う。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	各場面がつながったイメージをシミュレーションしておく。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第12回	【絵本を劇にする・4】 各グループで作った場面をつなげ、一つの物語をつくる。 つなぎ方について意見交換を行い、練習する。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	練習・発表で出された意見をまとめ、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員	細田　洋介		

第13回	【絵本を劇にする・5】 最終的なブラッシュアップを行い、全体で発表を行う。 発表後は自分たちで意見交換をする。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	発表後の意見交換を振り返り、表現方法や制作過程の課題を考察しておく。(30分)
担当教員	細田　洋介		
第14回	【それぞれの身体表現・準備】 各人・各グループで発表する身体表現作品についての準備・練習を行う。	各々の作品についてアイディアをまとめておく。(15分)	各々の作品についてアイディアの整理や使用品の準備をしておく(30分)
担当教員	細田　洋介		
第15回	【それぞれの身体表現・発表会】 各人・各グループで用意してきた身体表現作品を発表する。 発表者以外はそれを見学する。	各々の作品発表を練習しておく。(15分)	各々が発表した身体表現作品の魅力や不足点を考察する。(30分)
担当教員	細田　洋介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	・出席状況 ・授業への参加姿勢、発言姿勢 ・課題発表
その他	30	コメントシート記載内容

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

動きやすい服装（パンツスタイル）で受講してください。
ケガ等防止のため上靴の使用をお願いします。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅳ日本語表現(1組)					ナンバリング	3412
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている(知識・技能)」ための科目である。
さらにディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につける【思考・判断・表現】」ための科目である。また、初年次教育の一環として、保育・教育活動に役立つ日本語表現のスキルを身につけるための科目であり、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎となる科目として位置付けられる。

授業の概要

社会で求められる能力は、「感じる力」「考える力」「想像する力」などの言葉による「理解力」と、これらを言葉で適切に表す「表現力」である。幼児は、母語としての日本語に初めて触れ、保育士の指導で国語の能力を身に付けていく。したがって、学生は、日々、言語感覚を磨き、確かで豊かな表現とは何かを理解しておく必要がある。表現の基礎力を培うために、会話や話し合いの事例や、様々な文例や作品から日本語の機微に触れ、適切な表現を理解させる。また、演習を通して、確かで豊かな言語表現力を身に付けさせる。

到達目標

1 幼児の日本語表現の特徴を知り、表現力を高めるかかわり方ができる。
2 円滑なコミュニケーションに心がけ、グループ学習に生かすことができる。
3 言葉による適切な表現を理解し、伝え方を工夫することができる。
4 言葉による表現力を確かにするために、自学自習を積極的に行うことができる。
5 保育に役立つ日本語表現力をレポートやディカッションなどで活用することができる。

授業の方法

授業形態は、演習を中心にグループワークやディカッションなどを織り交ぜて行う。主にパワーポイントと配布物、そして視聴覚メディアを活用しながら行い、毎回、TPO に合った事例を提示し、日本語表現の重要性に気付くようにする。可能な限り、学生が主体的・対話的・深い学び（＝アクティブラーニング）ができるような工夫をする。具体的には、ディスカッション、ロールプレイ・バズセッションなどを取り入れる。
課題に対するフィードバックは、毎回授業の振り返り文やメモについてコメントを書く。また、必要に応じてルーブリック評価も取り入れる。

ICT活用

毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいようにする。日本語表現に関連した動画を視聴し、互いに意見を述べ合う活動を設定する。ロールプレイを行っている様子を録画し、それをもとにディスカッションやシェアリングを行う。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教員として、国語教育を推進してきた経験を生かし、日本語表現の重要性や豊かな日本語表現の活用法などについて授業を行う。また、文章表現や文字・書写教育についての実践研究を繰り返してきたことから、その知見を生かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

演習におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。また、全体にフィードバックした方が良い内容は、回収後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】テキストp10-18 保育者として適切な日本語表現にするために必要なことについて理解する。 話す・聞く・読む・ 書くの技術を磨く。基礎となる豊かな教養と日本語表現力を身に付けることが目的となる。 15回の授業を通して、大学の講義、演習、実習で必要な日本語表現力を学ぶ。	事前にテキスト全体に目を通し、日本語表現に対する自分なりの考えをまとめておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木　雅哉		
第2回	【会話表現(基礎編)1・2】テキストp20－25 、p93-103 保育者として保育現場での「聞き取りやすい話し方の基本」「あいさつの仕方」について理解し、日常生活にも生かすことを学ぶ。 保育者として相手・目的意識を持ちながら、手紙全般の書き方、様式、時候の挨拶などの書き方を学ぶ。 また、実習や参観に行った時に礼状の書き方を学び身に付ける。	テキストp20~25を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第3回	【会話表現(基礎3)】テキストp26－30 保育者として、いろいろな場面を想定し、保護者や上司との会話場面をロールプレイなどで敬語の使い方を学ぶ。 また、実習先や職場での話し方の工夫やクッション言葉の使い方を知ることで、円滑なコミュニケーションが取れることを理解する。	テキストp26~30を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第4回	【会話表現(応用編)1･2･3･4】 テキストp32－42 保育者として「保育者の発声」「自己紹介の仕方」「実習先とのやりとり」「保育現場での話し方」などの日本語表現スキルを学ぶ。	テキストp32~42を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第5回	【会話表現(応用編)5･6･7】 テキストp46－54 保育者として「子どもへの声がけ」の仕方を学ぶ。また、「就職面接」時の事前準備、面接内容、実際の質問例などを踏まえて、ロールプレイを行い、面接で重要なポイントを理解する。	テキストp46-54を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第6回	【会話表(応用編)7･8】 テキストp55-56 保育者として「保育現場での電話」について理解し、日常生活に生かしていくことを学ぶ。 送り迎え時の保護者とのやり取りや保護者との電話マナー、電話での話し方の基本をロールプレイなどを通して理解する。	テキストp55~56を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第7回	【文章表現(基礎編)1･2】 テキストp58－65 保育者としての「正しい文字の書き方」「正しい表記の仕方」をしっかりと理解する。 また、「正しい文字、美しい文字、文字を書く際の基本的な留意点」を演習を通して学ぶ。	テキストp58-65を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第8回	【文章表現(基礎編)3･4 テキストp66－76 保育者としての「文章作成上の留意点」「文章表現への生かし方」を学ぶ。 特に、当て字、差別用語、不快用語、隠語、重複表現に留意して書くことを知る。 また、文章の基本的な書き方である「一文を短く書く」「句読点を正しく打つ」などに注意して書くことを理解する。	テキストp66~76を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第9回	【文章表現(応用編)1】 テキストp78-87 保育士のたまごとして、保育実習に行くときのために「実習日誌」の基本的な書き方について理解する。 演習を通して、注意したい表現に気を付けながら、実習日誌の書き方を身に付ける。	テキストp76~87を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第10回	【文章表現(応用編)2】 テキストp88-92 保育士のたまごとして、指導計画の書き方について理解し、文章表現に生かすことを学ぶ。 指導計画の種類や計画際の留意点などを意識し、演習を通してその書き方を学ぶ。	テキストp88-92を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第11回	【文章表現(応用編)3・4】テキストp93-106 保育者としての「ハガキの書き方」や「文章表現に生かす術」を学ぶ。 「メールの書き方」「メールの種類」などについて、演習を通して理解する。	テキストp104~106を読んでくること。 普段、自分や友人がどのようなメールの書き方をしているか考え、調べてくること。テキストp100~103 を読んでおくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第12回	【文章表現(応用編)5・6】 テキストp106-113 保育者として将来就職する時のために、履歴書の書く方と小論文の基本的な書き方を身に付ける。 また、原稿用紙の書き方や履歴書や小論文を書く時の留意点を理解する。	テキストp106-113を読み、自分の考えをまとめてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第13回	【文章表現(応用編)7】テキストp114-124 、p125-132 小論文のテーマや具体例を確認し、保育者としての問題意識について学ぶ。 保育者として「連絡帳の書き方」について理解し、演習を通して連絡帳の書き方を学ぶ。 また、連絡帳のメリット、デメリットについて討論し、よりよい書き方を身に付ける。	テキストp114~132を読み、自分の考えをまとめてくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第14回	【文章表現(応用編)8】 テキストp133-138 保育者としての「園だよりの書き方」について理解し、演習を通して実際に書いてみる。 また、1～15回までの日本語表現の学びを振り返り、自身の日本語表現力を再確認し、自己評価する。	テキストp133~138を読み、自分の考えをまとめてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第15回	【文章表現(まとめ)】 これまでの学んだことをテキストに沿って振り返る。 小論文のポイントを確認後、小論文テストのテーマを理解したうえで、文章表現を工夫しながら書きまとめる。 また、これまで学んできた文章表現法を反芻しながら、再確認する。 小論文の留意点(原稿用紙の使い方、構想、叙述、推敲) 小論文は800字以内で書く。	テキストp112-124を読んでくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物　●5点(小課題とメモ)×14回＝70点　●30点(小論文)(15回目)
その他	0	なし

教科書

改訂 保育者になるための国語表現　田上貞一郎　萌文書林　2023年4月1日改訂版

参考文献

適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・評価は、演習問題、提出文章など毎回の提出物による。
・提出物は、添削後に返却するので文章表現力の向上に役立てる。
・筆記用具は、濃い鉛筆もしくはペンとする。
・辞書の持ち込みは可とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	表現Ⅳ日本語表現(2組)					ナンバリング	3412
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、
同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている(知識・技能)」ための科目である。
さらにディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、
協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につける【思考・判断・表現】」ための科目である。
また、初年次教育の一環として、保育・教育活動に役立つ日本語表現のスキルを身につけるための科目であり、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎となる科目として位置付けられる。

授業の概要

社会で求められる能力は、「感じる力」「考える力」「想像する力」などの言葉による「理解力」と、これらを言葉で適切に表す「表現力」である。
幼児は、母語としての日本語に初めて触れ、保育士の指導で国語の能力を身に付けていく。
したがって、学生は、日々、言語感覚を磨き、確かで豊かな表現とは何かを理解しておく必要がある。表現の基礎力を培うために、
会話や話し合いの事例や、様々な文例や作品から日本語の機微に触れ、適切な表現を理解させる。また、演習を通して、確かで豊かな言語表現力を身に付けさせる。

到達目標

1 幼児の日本語表現の特徴を知り、表現力を高めるかかわり方ができる。
2 円滑なコミュニケーションに心がけ、グループ学習に生かすことができる。
3 言葉による適切な表現を理解し、伝え方を工夫することができる。
4 言葉による表現力を確かにするために、自学自習を積極的に行うことができる。
5 保育に役立つ日本語表現力をレポートやディカッションなどで活用することができる。

授業の方法

授業形態は、演習を中心にグループワークやディカッションなどを織り交ぜて行う。主にパワーポイントと配布物、そして視聴覚メディア
を活用しながら行い、毎回、TPO に合った事例を提示し、日本語表現の重要性に気付くようにする。
可能な限り、学生が主体的・対話的・深い学び（＝アクティブラーニング）ができるような工夫をする。
具体的には、ディスカッション、ロールプレイ・バズセッションなどを取り入れる。課題に対するフィードバックは、毎回授業の振り返り文やメモについてコメントを書く。
また、必要に応じてルーブリック評価も取り入れる。

ICT活用

毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいようにする。日本語表現に関連した動画を視聴し、互いに意見を述べ合う活動を設定する。
ロールプレイを行っている様子を録画し、それをもとにディスカッションやシェアリングを行う。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教員として、国語教育を推進してきた経験を生かし、日本語表現の重要性や豊かな日本語表現の活用法などについて授業を行う。
また、文章表現や文字・書写教育についての実践研究を繰り返してきたことから、その知見を生かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

演習におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。
また、全体にフィードバックした方が良い内容は、回収後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】テキストp10-18 保育者として適切な日本語表現にするために必要なことについて理解する。 話す・聞く・読む・ 書くの技術を磨く。基礎となる豊かな教養と日本語表現力を身に付けることが目的となる。 15回の授業を通して、大学の講義、演習、実習で必要な日本語表現力を学ぶ。	事前にテキスト全体に目を通し、日本語表現に対する自分なりの考えをまとめておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	【会話表現(基礎編)1・2】テキストp20－25 、p93-103 保育者として保育現場での「聞き取りやすい話し方の基本」「あいさつの仕方」について理解し、日常生活にも生かすことを学ぶ。 保育者として相手・目的意識を持ちながら、手紙全般の書き方、様式、時候の挨拶などの書き方を学ぶ。 また、実習や参観に行った時に礼状の書き方を学び身に付ける。	テキストp20~25を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第3回	【会話表現(基礎3)】テキストp26－30 保育者として、いろいろな場面を想定し、保護者や上司との会話場面をロールプレイなどで敬語の使い方を学ぶ。 また、実習先や職場での話し方の工夫やクッション言葉の使い方を知ることで、円滑なコミュニケーションが取れることを理解する。	テキストp26~30を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第4回	【会話表現(応用編)1･2･3･4】 テキストp32－42 保育者として「保育者の発声」「自己紹介の仕方」「実習先とのやりとり」「保育現場での話し方」などの日本語表現スキルを学ぶ。	テキストp32~42を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第5回	【会話表現(応用編)5･6･7】 テキストp46－54 保育者として「子どもへの声がけ」の仕方を学ぶ。また、「就職面接」時の事前準備、面接内容、実際の質問例などを踏まえて、ロールプレイを行い、面接で重要なポイントを理解する。	テキストp46-54を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第6回	【会話表(応用編)7･8】 テキストp55-56 保育者として「保育現場での電話」について理解し、日常生活に生かしていくことを学ぶ。 送り迎え時の保護者とのやり取りや保護者との電話マナー、電話での話し方の基本をロールプレイなどを通して理解する。	テキストp55~56を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第7回	【文章表現(基礎編)1･2】 テキストp58－65 保育者としての「正しい文字の書き方」「正しい表記の仕方」をしっかりと理解する。 また、「正しい文字、美しい文字、文字を書く際の基本的な留意点」を演習を通して学ぶ。	テキストp58-65を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第8回	【文章表現(基礎編)3･4 テキストp66－76 保育者としての「文章作成上の留意点」「文章表現への生かし方」を学ぶ。 特に、当て字、差別用語、不快用語、隠語、重複表現に留意して書くことを知る。 また、文章の基本的な書き方である「一文を短く書く」「句読点を正しく打つ」などに注意して書くことを理解する。	テキストp66~76を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第9回	【文章表現(応用編)1】 テキストp78-87 保育士のたまごとして、保育実習に行くときのために「実習日誌」の基本的な書き方について理解する。 演習を通して、注意したい表現に気を付けながら、実習日誌の書き方を身に付ける。	テキストp78~87を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第10回	【文章表現(応用編)1】 テキストp88-92 保育士のたまごとして、指導計画の書き方について理解し、文章表現に生かすことを学ぶ。 指導計画の種類や計画際の留意点などを意識し、演習を通してその書き方を学ぶ。	テキストp88-92を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第11回	【文章表現(応用編)3・4】テキストp93-106 保育者としての「ハガキの書き方」や「文章表現に生かす術」を学ぶ。 「メールの書き方」「メールの種類」「履歴書の基本的な書き方」などについて、演習を通して理解する。	テキストp93~106を読んでくること。 普段、自分や友人がどのようなメールの書き方をしているか考え、調べてくること。テキストp100~103 を読んでおくこと。	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第12回	【文章表現(応用編)5・6】 テキストp106-113 保育者として将来就職する時のために、履歴書の書く方と小論文の基本的な書き方を身に付ける。 また、原稿用紙の書き方や履歴書や小論文を書く時の留意点を理解する。	テキストp106-113を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第13回	【文章表現(応用編)7】テキストp114-124 、p125-132 小論文のテーマや具体例を確認し、保育者としての問題意識について学ぶ。 保育者として「連絡帳の書き方」について理解し、演習を通して連絡帳の書き方を学ぶ。 また、連絡帳のメリット、デメリットについて討論し、よりよい書き方を身に付ける。	テキストp114~132を読んでくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第14回	【文章表現(応用編)8】 テキストp133-138 保育者としての「園だよりの書き方」について理解し、演習を通して実際に書いてみる。 また、1～15回までの日本語表現の学びを振り返り、自身の日本語表現力を再確認し、自己評価する。	テキストp133~138を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第15回	これまでの学んだことをテキストに沿って振り返る。 小論文のポイントを確認後、小論文テストのテーマを理解したうえで、文章表現を工夫しながら書きまとめる。 また、これまで学んできた文章表現法を反芻しながら、再確認する。 小論文の留意点(原稿用紙の使い方、構想、叙述、推敲) 小論文は800字以内で書く。	テキストp112-124を読んでくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物　●5点(小課題とメモ)×14回＝70点　●30点(小論文)(15回目)
その他	0	なし

教科書

改訂 保育者になるための国語表現　田上貞一郎　萌文書林 2023年4月1日改訂版

参考文献

適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・評価は、演習問題、提出文章など毎回の提出物による。
・提出物は、添削後に返却するので文章表現力の向上に役立てる。
・筆記用具は、濃い鉛筆もしくはペンとする。
・辞書の持ち込みは可とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　表現方法の理解						
科目名	総合表現音楽Ⅰ（前半）					ナンバリング	3416
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠、西野　美穂、伊藤　庸子						

授業の位置づけ

①こどもの保育・教育に関する専門科目「表現方法の理解」分野の科目であり、音楽表現分野の一素養としての基礎力の獲得と、人間的コミュニケーション能力を身につけ、学び・考え続け、実行しようとする意欲・態度と感性を身につけるための科目である。
②これまで履修した音楽関連科目のすべてと関連し、「総合表現音楽Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

これまでのこどもに関する学びを総合的に活用し、保育者・教育者を目指す学生は、音楽的素養を身につける必要性がある。こどもの“遊び”としての音楽の特徴を理解し、歌唱や楽器演奏などの技術習得のほか、音楽の多様性を認識して、複合的な活動の手法も身につけなければならない。歌唱や鍵盤楽器の実践にくわえ、音楽領域でのレパートリーを広げられるような学生自身の意識と感性の向上を目指す。

到達目標

こどもの遊びの一つである音楽の領域で、保育者・教育者に必要とされるピアノ演奏と弾き歌いについて、課題曲を保育士・幼稚園教諭志望と小学校・特別支援学校教諭志望の2グループに分け、現場で必要な実践力を養い、レパートリーの拡充を図る。
○ 反復練習と意欲的な取り組みにより、読譜の困難を軽減する
○ 音楽の基礎知識を確認し、楽譜に書かれている内容を読み取ることができる
○ 楽曲における音楽的表現を学び、演奏に反映させられるよう意識をすることができる
○ 鍵盤楽器の基礎的技能の向上を実感できる

授業の方法

①②各担当教員のグループに分かれ、実技の個人レッスン形式ですすめる。
③主に、レッスン時のディスカッション（聴講学生を含む）を行う。

ICT活用

タブレット端末などを用いた双方向型授業を行う場合がある。また自身の演奏を動画で撮影し、見る・聴き直すことを通して学習を進めることがある。

実務経験のある教員の教育内容

全教員の音楽表現活動・教授経験を活かし、学生自身が興味をもって音楽に取り組み、確実な技術が身につけられるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員グループのレッスン中に、随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス～授業内容の概説 これからの授業の流れや留意点を説明した後、各担当教員のクラスに分かれ, 各々が準備した楽曲を演奏した後、課題曲を決定する ※幼保志望の【課題曲グループ】については、ガイダンス時に詳細を説明します	担当教員との打ち合わせに必要な、任意のピアノ曲、あるいは弾き歌いの曲を少なくとも1曲準備すること。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第2回	レッスン1:弾き歌い・ソロ曲の学習1 (幼保)【課題曲グループ1】の学習①～園生活・行事・季節(春)の歌などを中心に学習 (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第3回	レッスン2:弾き歌い・ソロ曲の学習2 (幼保)【課題曲グループ1】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第4回	レッスン3：弾き歌い・ソロ曲の学習3 (幼保)【課題曲グループ1】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第5回	レッスン4：弾き歌い・ソロ曲の学習4 (幼保)【課題曲グループ1】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第6回	レッスン5：弾き歌い・ソロ曲の学習5 (幼保)【課題曲グループ2】の学習①～園生活・行事・季節(夏)の歌などを中心に (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第7回	レッスン6：弾き歌い・ソロ曲の学習6 （幼保）【課題曲グループ2】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること （小特）中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。（30分）	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。（15分）
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第8回	レッスン7：弾き歌い・ソロ曲の学習7 （幼保）【課題曲グループ2】の学習③・ソロ曲の学習①～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること （小特）中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。（30分）	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。（15分）
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第9回	レッスン8：弾き歌い・ソロ曲の学習8 （幼保）【課題曲グループ2】の学習④・ソロ曲の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること （小特）中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。（30分）	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。（15分）
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第10回	レッスン9:弾き歌い・ソロ曲の学習9～丁寧な譜読みを心がけた練習をすること (幼保)試験課題曲の学習① (小特)試験課題曲の学習①	実技試験課題曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第11回	レッスン10:弾き歌い・ソロ曲の学習10～確実な演奏を目指して、頭と耳を使った練習をすること (幼保)試験課題曲の学習② (小特)試験課題曲の学習②	引き続き、実技試験課題曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第12回	レッスン11:弾き歌い・ソロ曲の学習11～演奏中のさまざまな問題にも対応できるよう、練習を続けること (幼保)試験課題曲の学習③ (小特)試験課題曲の学習③	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第13回	レッスン12:弾き歌い・ソロ曲の学習12～実技試験に向けた楽曲演奏の仕上げ (幼保)試験課題曲の学習④ (小特)試験課題曲の学習④	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第14回	実技試験1 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	試験終了者・未終了者ともに、反省点・気づいた点などを実践し、確認・改善する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第15回	実技試験2、まとめ 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要 全体の講評とまとめ	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	これまで学んだことを忘れないよう、根気よく、頭と心を使った練習を夏季休業中も継続すること。(最低15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	15	受講姿勢や意欲、自主練習の取り組み
その他	85	ピアノ実技試験 ※現場の日常的な音楽活動においては、1度限りの演奏に集中して臨むことが求められる

教科書

(幼保系)こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社
(小特系)2年次「教科教育法 音楽」で使用のテキスト
(全履修者)1年次使用のピアノのテキスト など
その他テキストの詳細は、ガイダンス時に説明する。

参考文献

明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌／全国大学音楽教育学会 編著／音楽之友社
音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 伴奏編／教育出版 他

履修条件・留意事項等

確実な技術などを習得することを目的としているので、「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」を継続して受講することが望ましい。
学習進度は、各々の習得度などにより異なることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 表現方法の理解						
科目名	総合表現音楽Ⅰ(後半)					ナンバリング	3416
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由惠、西野 美穂、伊藤 庸子						

授業の位置づけ

①こどもの保育・教育に関する専門科目「表現方法の理解」分野の科目であり、音楽表現分野の一素養としての基礎力の獲得と、人間的コミュニケーション能力を身につけ、学び・考え続け、実行しようとする意欲・態度と感性を身につけるための科目である。
②これまで履修した音楽関連科目のすべてと関連し、「総合表現音楽Ⅱ」の基礎となる。

授業の概要

これまでのこどもに関する学びを総合的に活用し、保育者・教育者を目指す学生は、音楽的素養を身につける必要性がある。こどもの“遊び”としての音楽の特徴を理解し、歌唱や楽器演奏などの技術習得のほか、音楽の多様性を認識して、複合的な活動の手法も身につけなければならない。歌唱や鍵盤楽器の実践にくわえ、音楽領域でのレパートリーを広げられるような学生自身の意識と感性の向上を目指す。

到達目標

こどもの遊びの一つである音楽の領域で、保育者・教育者に必要とされるピアノ演奏と弾き歌いについて、課題曲を保育士・幼稚園教諭志望と小学校・特別支援学校教諭志望の2グループに分け、現場で必要な実践力を養い、レパートリーの拡充を図る。
○ 反復練習と意欲的な取り組みにより、読譜の困難を軽減する
○ 音楽の基礎知識を確認し、楽譜に書かれている内容を読み取ることができる
○ 楽曲における音楽的表現を学び、演奏に反映させられるよう意識をすることができる
○ 鍵盤楽器の基礎的技能の向上を実感できる

授業の方法

①②各担当教員のグループに分かれ、実技の個人レッスン形式ですすめる。
③主に、レッスン時のディスカッション（聴講学生を含む）を行う。

ICT活用

タブレット端末などを用いた双方向型授業を行う場合がある。また自身の演奏を動画で撮影し、見る・聴き直すことを通して学習を進めることがある。

実務経験のある教員の教育内容

全教員の音楽表現活動・教授経験を活かし、学生自身が興味をもって音楽に取り組み、確実な技術が身につけられるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員グループのレッスン中に、随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス～授業内容の概説 これからの授業の流れや留意点を説明した後、各担当教員のクラスに分かれ, 各々が準備した楽曲を演奏した後、課題曲を決定する ※幼保志望の【課題曲グループ】については、ガイダンス時に詳細を説明します	担当教員との打ち合わせに必要な、任意のピアノ曲、あるいは弾き歌いの曲を少なくとも1曲準備すること。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第2回	レッスン1:弾き歌い・ソロ曲の学習1 (幼保)【課題曲グループ1】の学習①～園生活・行事・季節(春)の歌などを中心に学習 (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第3回	レッスン2:弾き歌い・ソロ曲の学習2 (幼保)【課題曲グループ1】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第4回	レッスン3：弾き歌い・ソロ曲の学習3 (幼保)【課題曲グループ1】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第5回	レッスン4：弾き歌い・ソロ曲の学習4 (幼保)【課題曲グループ1】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第6回	レッスン5：弾き歌い・ソロ曲の学習5 (幼保)【課題曲グループ2】の学習①～園生活・行事・季節(夏)の歌などを中心に (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第7回	レッスン6：弾き歌い・ソロ曲の学習6 (幼保)【課題曲グループ2】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第8回	レッスン7：弾き歌い・ソロ曲の学習7 (幼保)【課題曲グループ2】の学習③・ソロ曲の学習①～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第9回	レッスン8：弾き歌い・ソロ曲の学習8 (幼保)【課題曲グループ2】の学習④・ソロ曲の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第10回	レッスン9:弾き歌い・ソロ曲の学習9～丁寧な譜読みを心がけた練習をすること (幼保)試験課題曲の学習① (小特)試験課題曲の学習①	実技試験課題曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第11回	レッスン10:弾き歌い・ソロ曲の学習10～確実な演奏を目指して、頭と耳を使った練習をすること (幼保)試験課題曲の学習② (小特)試験課題曲の学習②	引き続き、実技試験課題曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第12回	レッスン11:弾き歌い・ソロ曲の学習11～演奏中のさまざまな問題にも対応できるよう、練習を続けること (幼保)試験課題曲の学習③ (小特)試験課題曲の学習③	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		

第13回	レッスン12:弾き歌い・ソロ曲の学習12～実技試験に向けた楽曲演奏の仕上げ (幼保)試験課題曲の学習④ (小特)試験課題曲の学習④	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第14回	実技試験1 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	試験終了者・未終了者ともに、反省点・気づいた点などを実践し、確認・改善する。(15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
第15回	実技試験2、まとめ 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要 全体の講評とまとめ	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	これまで学んだことを忘れないよう、根気よく、頭と心を使った練習を夏季休業中も継続すること。(最低15分)
担当教員	西野　美穂、今井　由惠、伊藤　庸子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	15	受講姿勢や意欲、自主練習の取り組み
その他	85	ピアノ実技試験 ※現場の日常的な音楽活動においては、1度限りの演奏に集中して臨むことが求められる

教科書

(幼保系)こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社
(小特系)2年次「教科教育法 音楽」で使用のテキスト
(全履修者)1年次使用のピアノのテキスト など
その他テキストの詳細は、ガイダンス時に説明する。

参考文献

明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌／全国大学音楽教育学会 編著／音楽之友社
音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 伴奏編／教育出版 他

履修条件・留意事項等

確実な技術などを習得することを目的としているので、「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」を継続して受講することが望ましい。
学習進度は、各々の習得度などにより異なることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と健康(1組)					ナンバリング	3430
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。
「保育内容総論」と関連。

授業の概要

こどもの心身の発達と健康との関連を理解するとともに、遊び(運動)が健康におよぼす影響を理解し、実践できる保育者をめざす。

到達目標

①　こどもの健康に関する問題点や課題を理解する
②　こどもの発育・発達、身体機能について理解する
③　運動機能・能力の発達を理解し、運動遊びや健康との関連を理解する
④　幼稚園での安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

調査・発表等において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	健康についての認識 健康の定義	健康の定義を調べておく(90分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	こどもらしさ こどもらしさとは何かを学ぶ	「こどもらしさ」とは何かを自分なりに考えておく(90分)	自分の考えと実際の内容を整理する(90分)
担当教員			
第3回	こどもの健康な育ち 健康な育ちとは何かを学ぶ	「健康な育ち」とは何かを自分なりに考えておく(90分)	自分の考えと実際の内容を整理する(90分)
担当教員			

第4回	こどもの健康課題 現代っ子の健康に係わる問題点とは何かを学ぶ	現代っ子の健康に係わる問題点は何かを考えておく(90分)	授業内容以外にも問題点は無いかをまとめる(90分)
担当教員			
第5回	こどもと情報機器 こどもにとって情報機器がどのように影響するかを学ぶ	こどもにとっての情報機器のメリット・デメリットを考えておく(90分)	授業内容以外にもメリット・デメリットが無いかをまとめる(90分)
担当教員			
第6回	安全管理と安全教育 「リスク」と「ハザード」について学ぶ	「リスク」と「ハザード」の違いについて調べておく(90分)	保育現場でのリスクとハザードについてまとめる(90分)
担当教員			

第7回	運動遊びの実際 発達段階に合った遊びを学ぶ	発達段階に合った遊びを調べておく(90分)	発達段階に合った遊びをまとめる(90分)
担当教員			
第8回	まとめ まとめと復習（試験）	前期7回分の資料に目を通し復習・学習しておく(90分)	前期7回分の内容を確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等
その他	30	レポート等

教科書

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と健康(2組)					ナンバリング	3430
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	平岡　英樹						

授業の位置づけ

こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。
「保育内容総論」と関連。

授業の概要

こどもの心身の発達と健康との関連を理解するとともに、遊び(運動)が健康におよぼす影響を理解し、実践できる保育者をめざす。

到達目標

①　こどもの健康に関する問題点や課題を理解する
②　こどもの発育・発達、身体機能について理解する
③　運動機能・能力の発達を理解し、運動遊びや健康との関連を理解する
④　幼稚園での安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる

授業の方法

パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。
グループワークとグループ発表を行う。
フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。

ICT活用

調査・発表等において効果的に活用するように工夫する.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	健康についての認識 健康の定義	健康の定義を調べておく(90分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておく(90分)
担当教員			
第2回	こどもらしさ こどもらしさとは何かを学ぶ	「こどもらしさ」とは何かを自分なりに考えておく(90分)	自分の考えと実際の内容を整理する(90分)
担当教員			
第3回	こどもの健康な育ち 健康な育ちとは何かを学ぶ	「健康な育ち」とは何かを自分なりに考えておく(90分)	自分の考えと実際の内容を整理する(90分)
担当教員			

第4回	こどもの健康課題 現代っ子の健康に係わる問題点とは何かを学ぶ	現代っ子の健康に係わる問題点は何かを考えておく(90分)	授業内容以外にも問題点は無いかをまとめる(90分)
担当教員			
第5回	こどもと情報機器 こどもにとって情報機器がどのように影響するかを学ぶ	こどもにとっての情報機器のメリット・デメリットを考えておく(90分)	授業内容以外にもメリット・デメリットが無いかをまとめる(90分)
担当教員			
第6回	安全管理と安全教育 「リスク」と「ハザード」について学ぶ	「リスク」と「ハザード」の違いについて調べておく(90分)	保育現場でのリスクとハザードについてまとめる(90分)
担当教員			

第7回	運動遊びの実際 発達段階に合った遊びを学ぶ	発達段階に合った遊びを調べておく(90分)	発達段階に合った遊びをまとめる(90分)
担当教員			
第8回	まとめ まとめと復習（試験）	前期7回分の資料に目を通し復習・学習しておく(90分)	前期7回分の内容を確認する(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等
その他	30	レポート等

教科書

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と人間関係					ナンバリング	3432
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーに示されている、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」科目であるとともに、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」」ようになる科目である。そして、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける科目である。

授業の概要

幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」と示されている。そのような幼児を育成するために、幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解し、また、幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解し、そして、保育者は何をすべきかを考え、実際に行動・実践できるようになるための授業である。

到達目標

「幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解していること」「人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解していること」「乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できること」「幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できること」「自立心の育ち・協同性の育ち・道徳性や規範意識の芽生え・家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できること」である。

授業の方法

配布印刷物等を用いて授業をすすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。第4回授業においては、グループ協議及び発表等を行う。また、理解度確認テストを実施する。次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなどの解説）	シラバスを十分に確認しておくこと。（90分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（90分）
担当教員			
第2回	親子やきょうだい関係について現代的特徴と課題を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90）
担当教員			
第3回	地域における子ども同士の関わり等，幼児を取り巻く人間関係について、現代的特徴と課題を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）
担当教員			

第4回	幼稚園教育において育みたい資質能力を領域「人間関係」の視点から考察し、大学生活で求められる人と関わる力との関連について考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(90分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連づけて理解する。	講義の内容を事前に調べておくこと。(90分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	幼稚園生活における決まりにはどのようなものがあるか等について、それぞれの決まりが幼児にとってどのような意味をもつか考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(90分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	集団の中で見られる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係の発達を理解する。	講義の内容を事前に調べておくこと。(90分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	授業のまとめ 資料・返却された課題・小テストなどを確認し、復習を行う。	まとめに向けて、・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(90分)	すべての返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(90)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題（40％）・提出物（30％）・発表内容（30％）
その他	0	なし

教科書

『新版・遊びの指導』同文書院

参考文献

『最新保育小六法・資料集2025』ミネルヴァ書房，2025年4月発行予定（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する）。

履修条件・留意事項等

本授業は、幼稚園教員免許を取得する者の必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と環境(1組)					ナンバリング	3434
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、教育に求められるニーズに対応し、より適切な幼児教育の在り方を考え、より良い教育環境と教育実践を実現するために、不断に学び実行しようとする意欲と態度を育成するための科目である。
幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

授業の概要

幼稚園教育要領における領域「環境」の内容について理解を深める。幼児を取り巻く環境や環境との関わりについて、背景となる専門的事項を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した指導方法を身につける。特に、我々を取り巻く自然環境について、それらの観察や調査、教材の開発などを通して自然を科学的にとらえ探求する方法を学ぶ。自然との触れ合いを指導する際の保育者の姿勢や留意点についても理解する。保育者自身が自然環境に対する感性を磨くとともに、身近な自然に興味や関心を持つよう、実際に野外に出て身近な自然と触れ合う機会をもつ。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な指導方法を構想する方法を身につける。

到達目標

1. 保育者自らが自然を理解することで、子どもが自然を通じて主体的に遊べる方法を実施できる。
2. 身近な動植物の観察などの自然体験を通して、子どもが動植物に親しみ、生命の尊さを理解し尊重するようになるための方法を実施できる。
3. 地球環境の現状や課題を理解し、子どもが理解できるよう表現する方法を実施できる。

授業の方法

講義においては、ハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して解説する。野外での観察や遊びなど身近な自然に触れ合う体験を多く取り入れるとともに、アクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークや発表を行う。授業の内容に関する課題を、GoogleFormや制作物・フィールドノートの形式で課し、コメントを加えて返却する。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォーム（Google Classroomなど）を活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。また、検索機能を活用した資料の調査による自主学習を行う。タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させるとともに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、Google Driveを活用したデータの共有やGoogle Formを用いた双方向授業や課題提出を行う。
授業に関連した生成AIの活用も取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育や環境教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして、「環境」の指導法について、自然科学の視点を中心に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、理解度を確認し、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 　授業の進め方、授業計画、評価の方法など 環境問題と環境教育の現状 　環境問題、SDGsの考え方、環境教育の在り方など 領域「環境」のねらい 　幼児をとりまく環境の重要性、自然を愛する心情、生命尊重、自然以外の環境など	幼稚園教育要領解説の『3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」』について読んで、理解しておく。(90分)	環境教育に関する課題を完成させる。(課題1) (90分)
担当教員			
第2回	身近な自然の観察 大学周辺の自然観察を行う。実際の動植物に触れ、興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、学生同士で交流するとともに、図鑑やICTを活用した調べ方の基礎を学ぶ。 当日の天候によっては他の授業との入れ替えを行う。	観察で予想される動植物を調べておく。(90分)	自然観察のフィールドノートを整理し提出する。(90分)
担当教員			
第3回	自然観察の指導法 前回の自然観察をふまえ、観察する対象や場所・活動内容や活動記録・自然観察実施上の留意事項などについて、グループで意見を交流し発表する。 第2回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	前回の自然観察の記録の整理しておく。(90分)	自然観察に関する課題を完成させる。(課題2) (90分)
担当教員			

第4回	大学周辺の野外のフィールドにおいて自然の素材を使ったものづくりや自然を使った遊びを体験する。 ネイチャーゲームや草花を使ったものづくりを体験するとともに、グループであらたなゲームやものづくりを考案する。 当日の天候によっては他の授業との入れ替えを行う。	書籍やネットからネイチャーゲームや自然の素材を使ったものづくりを調べておく。(90分)	考案したネイチャーゲームまたはものづくりの教材を作成する。(課題3) (90分)
担当教員			
第5回	前回の授業で考案したネイチャーゲームまたはものづくりを発表し、他の学生を子ども役にして実施し、お互いに評価する。 第2・4回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	発表するネイチャーゲームまたはものづくりの準備を行う。(90分)	発表したネイチャーゲームまたはものづくりの相互評価を行う。(90分)
担当教員			
第6回	畑や水槽を使って動植物の飼育と栽培の意義や方法を学ぶ。 　畑の管理と植物の栽培方法、水生動物の飼育方法、動物の飼育上の留意事項などについて説明する。 第2・4回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	栽培したい植物あるいは飼育したい動物について調べておく。(90分)	自分が着目した動植物の飼育栽培についてまとめる。(課題4) (90分)
担当教員			

第7回	幼児を取り巻くその他の環境について、指導内容、指導方法、指導事例を学ぶ。 　文化や伝統、身近な物、文字、数量と図形、施設、情報などについて、教材や指導方法を説明する。 第2・4回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	自然環境以外の素材で取り上げることができる教材について、実践例を調べておく。(90分)	街中から幼児が興味・関心を持ちそうな行事、図形や物を探してフィールドノートに記録する。(90分)
担当教員			
第8回	前回の事後学習で記録したものを使った指導内容を、グループで交流するとともに、グループでまとめて発表する。 発表を受けて、留意事項や工夫の仕方など全体で交流する。交流においては必要に応じてICTを活用する。	前回の事後学習で記録した図形や物の指導内容を考える。(90分)	全体の授業を通して、「環境」の指導に当たって重要と考えたことを整理して提出する。(課題5)(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(60%) フィールドノートや作成物など提出物の内容(30%) 発表や交流など授業への参加状況(10%)
その他	0	なし

教科書

教科書は使用しない。配布資料を活用する。

参考文献

幼稚園教育要領解説

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭一種免許状必修
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と環境(2組)					ナンバリング	3434
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、教育に求められるニーズに対応し、より適切な幼児教育の在り方を考え、より良い教育環境と教育実践を実現するために、不断に学び実行しようとする意欲と態度を育成するための科目である。
幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

授業の概要

幼稚園教育要領における領域「環境」の内容について理解を深める。幼児を取り巻く環境や環境との関わりについて、背景となる専門的事項を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した指導方法を身につける。特に、我々を取り巻く自然環境について、それらの観察や調査、教材の開発などを通して自然を科学的にとらえ探求する方法を学ぶ。自然との触れ合いを指導する際の保育者の姿勢や留意点についても理解する。保育者自身が自然環境に対する感性を磨くとともに、身近な自然に興味や関心を持つよう、実際に野外に出て身近な自然と触れ合う機会をもつ。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な指導方法を構想する方法を身につける。

到達目標

1. 保育者自らが自然を理解することで、子どもが自然を通じて主体的に遊べる方法を実施できる。
2. 身近な動植物の観察などの自然体験を通して、子どもが動植物に親しみ、生命の尊さを理解し尊重するようになるための方法を実施できる。
3. 地球環境の現状や課題を理解し、子どもが理解できるよう表現する方法を実施できる。

授業の方法

講義においては、ハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して解説する。野外での観察や遊びなど身近な自然に触れ合う体験を多く取り入れるとともに、アクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークや発表を行う。授業の内容に関する課題を、GoogleFormや制作物・フィールドノートの形式で課し、コメントを加えて返却する。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォーム（Google Classroomなど）を活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。また、検索機能を活用した資料の調査による自主学習を行う。タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させるとともに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、Google Driveを活用したデータの共有やGoogle Formを用いた双方向授業や課題提出を行う。
授業に関連した生成AIの活用も取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育や環境教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして、「環境」の指導法について、自然科学の視点を中心に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、理解度を確認し、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 　授業の進め方、授業計画、評価の方法など 環境問題と環境教育の現状 　環境問題、SDGsの考え方、環境教育の在り方など 領域「環境」のねらい 　幼児をとりまく環境の重要性、自然を愛する心情、生命尊重、自然以外の環境など	幼稚園教育要領解説の『3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」』について読んで、理解しておく。(90分)	環境教育に関する課題を完成させる。(課題1) (90分)
担当教員			
第2回	身近な自然の観察 大学周辺の自然観察を行う。実際の動植物に触れ、興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、学生同士で交流するとともに、図鑑やICTを活用した調べ方の基礎を学ぶ。 当日の天候によっては他の授業との入れ替えを行う。	観察で予想される動植物を調べておく。(90分)	自然観察のフィールドノートを整理し提出する。(90分)
担当教員			
第3回	自然観察の指導法 前回の自然観察をふまえ、観察する対象や場所・活動内容や活動記録・自然観察実施上の留意事項などについて、グループで意見を交流し発表する。 第2回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	前回の自然観察の記録の整理しておく。(90分)	自然観察に関する課題を完成させる。(課題2) (90分)
担当教員			

第4回	大学周辺の野外のフィールドにおいて自然の素材を使ったものづくりや自然を使った遊びを体験する。 ネイチャーゲームや草花を使ったものづくりを体験するとともに、グループであらたなゲームやものづくりを考案する。 当日の天候によっては他の授業との入れ替えを行う。	書籍やネットからネイチャーゲームや自然の素材を使ったものづくりを調べておく。(90分)	考案したネイチャーゲームまたはものづくりの教材を作成する。(課題3) (90分)
担当教員			
第5回	前回の授業で考案したネイチャーゲームまたはものづくりを発表し、他の学生を子ども役にして実施し、お互いに評価する。 第2・4回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	発表するネイチャーゲームまたはものづくりの準備を行う。(90分)	発表したネイチャーゲームまたはものづくりの相互評価を行う。(90分)
担当教員			
第6回	畑や水槽を使って動植物の飼育と栽培の意義や方法を学ぶ。 　畑の管理と植物の栽培方法、水生動物の飼育方法、動物の飼育上の留意事項などについて説明する。 第2・4回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	栽培したい植物あるいは飼育したい動物について調べておく。(90分)	自分が着目した動植物の飼育栽培についてまとめる。(課題4) (90分)
担当教員			

第7回	幼児を取り巻くその他の環境について、指導内容、指導方法、指導事例を学ぶ。 　文化や伝統、身近な物、文字、数量と図形、施設、情報などについて、教材や指導方法を説明する。 第2・4回の授業の実施状況によっては他の授業との入れ替えを行う。	自然環境以外の素材で取り上げることができる教材について、実践例を調べておく。(90分)	街中から幼児が興味・関心を持ちそうな行事、図形や物を探してフィールドノートに記録する。(90分)
担当教員			
第8回	前回の事後学習で記録したものを使った指導内容を、グループで交流するとともに、グループでまとめて発表する。 発表を受けて、留意事項や工夫の仕方など全体で交流する。交流においては必要に応じてICTを活用する。	前回の事後学習で記録した図形や物の指導内容を考える。(90分)	全体の授業を通して、「環境」の指導に当たって重要と考えたことを整理して提出する。(課題5)(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(60%) フィールドノートや作成物など提出物の内容(30%) 発表や交流など授業への参加状況(10%)
その他	0	なし

教科書

教科書は使用しない。配布資料を活用する。

参考文献

幼稚園教育要領解説

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭一種免許状必修
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と言葉					ナンバリング	3436
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーに示されている、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」科目であるとともに、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」」ようになる科目である。そして、領域「言葉」の指導の基盤となる，幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける科目である。

授業の概要

幼稚園教育要領において 領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」と示されている。そのような幼児を育成するために、人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、また、言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、そして、幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、加えて、保育者は何をすべきかを考え、実際に行動・実践できるようになるための授業である。

到達目標

「人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できること」「乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できること」「言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できること」「言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付けること」「言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できること」「児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付けること」「幼児の発達における児童文化財の意義について理解すること」である。

授業の方法

配布印刷物等を用いて授業をすすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。第5回授業においては、グループ協議及び発表等を行う。また、理解度確認テストを実施する。次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなどの解説）	シラバスを十分に確認しておくこと。（90分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（90分）
担当教員			
第2回	言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくか理解する。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）
担当教員			
第3回	言葉の意義や機能について、「言葉による伝え合い」（コミュニケーションとしての機能）を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解を深める。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）
担当教員			

第4回	言葉の意義や機能について、「文字の意味や役割」（文字の機能）を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解を深める。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）
担当教員			
第5回	しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験するとともに、言葉遊びと幼児の言葉の発達とその関連を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）
担当教員			
第6回	絵本などの児童文化財の中に描かれている幼児の姿を読み解くことで、幼児理解を深めるとともに、幼児にとっての児童文化財の意義を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。（90分）	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。（90分）
担当教員			

第7回	絵本などの児童文化財を実際に読んだり、演じたりすることで、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(90分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	授業のまとめ 資料・返却された課題・小テストなどを確認し、復習を行う。	まとめに向けて、・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題（40％）・提出物（30％）・発表内容（30％）
その他	0	なし

教科書

テキスト無し。
随時、課題及び資料を配布する。

参考文献

『最新保育小六法・資料集 2025』大豆生田啓友他編，ミネルヴァ書房。

履修条件・留意事項等

本授業は、幼稚園教員免許を取得する者の必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　幼稚園領域に関する科目						
科目名	幼児と表現					ナンバリング	3437
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	今井　由惠、笠見　康大						

授業の位置づけ

①幼稚園の領域に関する専門的事項を学ぶ専門科目であり、ディプロマポリシーの特に「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、幼児期のこどもについての基本的な知識」、また「多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質」を身につけるための科目である。
②主に保育内容指導法（音楽表現・造形表現）の基礎となる。

授業の概要

幼稚園教育要領の領域「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている。これらを実現するためには、教諭自身が豊かな表現者であることが望ましい。本講義では、領域「表現」に関する、こどもの表現の姿やその発達およびそれを促す要因、こどもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて学び、多様な表現活動への理解を深め、こどもの表現活動を支援するための知識・技能を身につける。

到達目標

・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。
・表現を生成する過程について理解している。
・幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
・様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
・身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現方法を理解している。
・協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
・様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

授業の方法

①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディア、ICTなどを使用する。
②講義・演習（実技含む）の両形式を織り交ぜてすすめる。
③グループワーク、学生による発表などを行う（第4回）。

ICT活用

Googleクラスルームを活用し、場合によっては双方向型授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。（今井）
高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。（笠見）

課題に対するフィードバックの方法

各回のリアクションペーパーに対するコメントは、授業の中でまとめて、または個別に返却する。（今井）
各回のリアクションペーパーについて、コメントを記載し返却する。（笠見）

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(授業構成・内容について説明) 領域「表現」のねらい、内容、位置づけ、および表現を生成する過程について学ぶ。	テキスト添付の「幼稚園教育要領」の表現に関する部分と、テキスト「第1章」を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井　由惠		
第2回	幼児の音楽表現の発達段階について、映像資料や事例を通して学ぶ。	テキスト「第2章」と配布資料を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井　由惠		
第3回	身近な自然や環境の中の音素材に触れ、「感じる・みる・聴く・楽しむ」ことを幼児の視点で分析し、教諭として幼児の素朴な表現を感受することを考察する。	テキスト「第4章」と配布資料を読み、理解を深められるよう準備すること。(90分)	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。(90分)
担当教員	今井　由惠		

第4回	協働による音楽表現（アンサンブル）、伝承遊びとしてのわらべうたについて学ぶ。	テキスト「第6～10章」のうちの事前提示箇所を読み、理解を深められるよう準備すること。（90分）	本時の講義内容について振り返り、リアクションペーパーにまとめる。（90分）
担当教員	今井　由惠		
第5回	幼児の造形活動を「発達的側面」「特徴・特質的側面」「造形的・美的側面」から学ぶ。	保育所保育指針及び幼稚園教育要領の領域「表現」について読んでおく。（90分）	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。（90分）
担当教員	笠見　康大		
第6回	幼児の豊かな経験と創造的環境について考察する。	子どもの頃の遊びについてまとめておく。（90分）	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。（90分）
担当教員	笠見　康大		

第7回	感じたことや考えたことを色や形を使って表出することについて考察する。	子どもの頃の造形体験についてまとめておく。(90分)	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。(90分)
担当教員	笠見　康大		
第8回	幼児の多様な表現の保証と意味づくりに参加できる教諭の資質・能力について考察する。 領域「表現」のまとめ。	社会の中の「多様性」「創造性」について調べておく。(90分)	本時の講義内容について振り返り考えをまとめる。(90分)
担当教員	笠見　康大		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	リアクションペーパーの提出・内容（40%）、レポート課題（60%）
その他	0	なし

教科書

表現者を育てるための保育内容『音楽表現』―音遊びから音楽表現へ―／石井玲子編／教育情報出版（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を含む）
保育をひらく造形表現／槇英子著／萌文書林

参考文献

幼稚園教育要領解説 平成30年3月／文部科学省／フレーベル館
新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現／無藤隆監修／萌文書林

履修条件・留意事項等

本授業は、幼稚園教員免許状を取得する者の必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教科科目						
科目名	国語科概論					ナンバリング	3440
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、
より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる【思考・判断・表現】」ための科目である。
より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけ、
国語科における「果たす役割」や「今日的な課題」をふまえながら、学習指導要領や教科書等を検討することで言語能力を高めていく。
教職原論、教科教育法国語、教育実習指導Ⅱ、教育実習Ⅱの基礎として位置づけられる。

授業の概要

国語科がすべての教科の基本と言われる意味は何か。国語科の今日的な課題は何か。国語の教科書はどのような意図で編集され、扱う留意点は何か。そんな疑問や課題に答えていくような講義を展開する。国語科の果たすべき役割を系統的にたどりながら国語科の重要性を再認識する.。また、2020年に学習指導要領が改訂になるため、具体的な授業場面と新旧の学習指導要領とを結び付け、主体的・対話的で深い学びとは何かを理解し学びを深める。なお、自己課題をもって積極的に自学を行うよう、図書館やメディアコーナー、コンピュータ・ラボラトリーの利用を習得する。

到達目標

1 国語科教育の目標についてしっかり捉えて、説明したり論じたりできる。
2 国語科がすべての教科の基本となる意味を自分自身の言語生活と結びつけて考えることができる。
3 学習指導要領は、言語生活の実態や社会的な要請をふまえ、こどもの発達段階にそって系統的、構造的に 書 かれていることを把握し、新学習指導要領の趣旨と内容を説明することができる。
4 学習指導要領の趣旨を生かして編集されている教科書について考えを深め、意見を述べることができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で進めるが、一部アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）も取り入れていく。
講義の終わりには小課題を実施するとも、感想・質問・内省の文等を書く。
事前事後課題についての質問等を取り上げ、共通理解を図る。
理解しやすいように実物投影機やデジタル教科書などを活用する。

ICT活用

国語教育に関する動画を視聴した上で、質疑応答を行う。
また、パワーポイント等を活用し、国語科学習指導要領についての解説を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教員としての30数年の経験をもとに、国語教育の今日的課題や教授法についての授業を行う。
また、小学校国語教育における授業協力者、アドバイザーとして各学校や研究団体に所属し授業構築をしてきた経験や、書写書道の研究団体において長年実践研究してきた経緯があり、国語教育全般について幅広い知識、知見を有している。
この経験を生かして講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対して評価し、コメントを返す。
また、全体にフィードバックした方が良い内容は、回収後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 国語教育とは何か、国語科学習指導要領とは何かについて知る。 「国語科概論」の目標、概要、評価について や「国語科」のねらいについて学ぶ。 また、「国語教育」と「日本語教育」の違いとは何か、「言語能力」の基本的な押さえを理解する。	国語科学習指導要領を全体に目を通してくること。(90分)	「小学校学習指導要領解説国語編」 第1章総説編(以後、「解説編」と記す)P1-P2を読み直しまとめる(90分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	【国語科教育の今日的な課題】 国語科教育の今日的な課題について考える。国語科教育の今日的な課題を話し合い、プリントにまとめ、その背景を理解する。 特に 国際化、学力の低下、教育力の低下などについて問題意識を持ち、国語科の果たす役割について理解を深める。	国語科学習指導要領の「解説編」P1-P5を読んでくること。(90分)	国語科学習指導要領の「総則の要点 やキーワードをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	【国語科学習指導要領の趣旨】 学習指導要領「国語科」の趣旨を読み取ったり、学習指導要領のあゆみや趣旨を知る。 また、学習指導要領と教科書との関係について理解する。 一方で新学習指導要領と現行の指導要領を比較し、時代の要請と改定のあゆみ、不易としての言語能力、教科書の生かし方を学ぶ。	「解説編」P5-P10をしっかりと読み、考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			

第4回	【学習指導要領「国語科」の目標と内容】 新学習指導要領と現行の指導要領を比較しながら、目標及び内容、指導事項の概要をとらえる。 児童の発達段階と今日的な課題をふまえた目標と内容を理解する。 幼稚園教育、中学校教育との関連で学習指導要領を理解し、自分なりの考えをまとめる。	「解説編」P11-P40を読み自分の考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第5回	【低学年の目標と内容 ～教科書2年～】 低学年の特徴と目標をしっかり押さえた上で、教科書内容と指導事項とを結び付け、低学年の学習について理解を深める。 具体的な単元を取り上げながら解説し、指導法を学ぶ。 また、実際にグループで単元構成や授業内容を検討し合う。	解説編 P41-P75を読み自分の考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第6回	【中学年の目標と内容 ～教科書4年～】 中学年の特徴と目標をしっかり押さえた上で、教科書内容と指導事項とを結び付け、中学年の学習についての理解を深める。 具体的な単元を取り上げながら解説し、指導法を学ぶ。また、相手・目的意識、文の中心、段落相互の関係について理解する。	解説編 P76-P113を読み自分の考えをまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			

第7回	【高学年の目標と内容 ～教科書6年～】 高学年の特徴と目標をしっかり押さえた上で、教科書内容と指導事項とを結び付け、高学年の学習についての理解を深める。 具体的な単元を取り上げながら解説し、指導法を学ぶ。 また、形式的操作、広い視野、隠喩、メタ言語的思考についても理解する。	解説編 P115-P152を読み自分の考えをまとめてくること。（90分）	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。（90分）
担当教員			
第8回	【「話すこと・聞くこと」の指導】 国語科の2年，4年，6年の教科書を活用しながら「解説編」の話すこと・聞くことの内容について理解する。 こどもの生活場面に生きる指導について考えを深め、教科書と学習指導要領との関連性を考察する。	「解説編」P202及びP203を読んでくること。（90分）	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。（90分）
担当教員			
第9回	【「書くこと」の指導】 国語科の2年，4年，6年の教科書を活用しながら、「解説編」の書くことの内容について理解する。 こどもの生活場面に生きる書く指導について考えを深め、学習指導案と学習指導要領との関連性を考察する。 また、他教科との関連も確認する。	「解説編」P204及びP205を読んでくること。（90分）	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。（90分）
担当教員			

第10回	【「読むこと」の指導】 国語科の2年，4年，6年の教科書を活用しながら、「解説編」の読むことの内容について理解する。 こどもの生活場面に生きる読む指導について考えを深め、学習指導案と学習指導要領との関連性を考察する。 また、読書指導や並行読書との関連性も学ぶ。	「解説編」P206及びP207を読んでくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第11回	【教科書の全体構成と系統性、デジタル教科書の可能性】 1年間の国語の学びと単元構成構築の仕方を学び、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと3領域の関連指導について理解する。 また、話すこと・聞くこと・書くことの領域別特徴を知る。各学年間の系統性についてグループワークを行い理解を深める。	デジタル教科書について調べてくること。 「解説編」P202からP207を読んでくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。(90分)
担当教員			
第12回	【書写の指導(硬筆と毛筆)】 国語科の中での「書写学習」の役割を知る。 また、書写における文字に関する指導が書くこととの領域の指導と結びついていることをモニターを見ながら交流し合い理解する。 「硬筆」と「毛筆」の特徴などに触れながら書写指導の意義について、実習を交えて学ぶ。	小学校の時に受けた書写指導についてまとめてくること。(90分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。 鉛筆やチョークの持ち方について、実物で確かめてみること。(90分)
担当教員			

第13回	【「伝統的な言語文化に関する事項」について】 教科書2年，4年，6年の「解説編」について学び、単元の中にどのように位置付いているかを理解する。 また、古典、言葉の特徴やきまり、文字に関する事項についての指導の在り方について理解を深める。 小論文のテーマ確認と解説を通して小論文の書き方を理解する。 【読書指導の充実】 教科書2年， 4年，6年の読書指導に関する関する単元について検討し、具体的な指導方法を学ぶ。 また、現在行われている読書指導とその課題について考察する。 並行読書のあり方や国語における読書の広がり、司書教諭の役割、他教科との関連、朝読書、 地域図書館とのつながりなどについても理解を深める。	「解説編」p152-53 p88-90 p126-127までをしっかり読んでくること。(45分) 読書に関して調べてくること。事後これまでの授業をふりかえり、最終時の課題について構想を練ること。(45分)	配布プリントの重要箇所をマーキングしたり、要点をまとめたりすること。 小論文テストに備えること(90分)
担当教員			
第14回	【現場に聞く】 日々教壇に立つ「現職教員」から、国語学習をすすめる上でのポイントや現代の子どもたちの実態、 課題や問題点とそれに対応するための教授法などを聞く。	教員に聞きたいこと、質問事項等をまとめておく。(90分)	講義を聞いて感じたこと、実践に生かしていきたいことをまとめる。 小論文に備える。(90分)
担当教員			
第15回	【小論文として国語教育のあり方をまとめる】 これまでの講義を振り返り、国語科概論の趣旨を再確認する。講義からの学びを踏まえて小論文を書く。 小論文のテーマは「今日的課題と新学習指導要領を踏まえ、自分が教壇に立った時に、 どのような授業や言語活動を行いたいか自分の考えを具体的に述べよ」このテーマに沿って文章にまとめる。	学習指導要領を踏まえ、小論文についての構想や内容をまとめておくこと。(90分)	これまでに配布プされたプリントの見直す。 学習指導要領を読み直すこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回のメモと小課題5点×14=70点 (1-14) 小論文課題30点×1=30点 (最終回)
その他	0	なし

教科書

・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省
・小学校国語1年上 かざぐるま(光村)
・小学校国語2年下 たんぽぽ(光村)
・小学校国語4年下 かがやき(光村)
・小学校国語6年　創造(光村)
・小学校国語科(書写)3年 (光村)

参考文献

・適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・座席は固定とする。
・筆記用具は鉛筆もしくはシャープペンシルとする。また、第12回「書写」については、別途指示する。
・辞書の持ち込みは可。

備考欄

・外部講師招聘の都合により、授業順が変わることがある。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教科科目						
科目名	社会科概論					ナンバリング	3442
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

授業「社会科概論」(以下、本授業)は、「教科教育法社会」の基礎科目として、教育(学校、幼稚園)と社会の関係にかかわる課題を認識し、これまでの日本における社会科教育の実践と理論に学びながら、意欲的に考察するための科目である。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関係する。
また、小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「生活科概論」や「小学校教育実習」とも接続する科目である。

授業の概要

①本授業は、子どもの獲得する「社会認識」及び「社会参画」と、教育における「社会科」の課題に関わる知見を学ぶ。(知識・理解)
②そして、「主体的・対話的で深い学び」を実践するための技能を修得する。(技能)
③さらに、良き「学び手」としての教師となるため、授業に対し主体的に参加する姿勢を身につける。(態度)

到達目標

①本授業を通して、受講生は小学校「社会科」において必要とされる子どもの「学び」に関する教育学の基本的な知見を理解し、説明することができる。（知識・理解）
②「社会科」に関し、理論と実践を結びつけて思考することができる。（技能）
③「主体的・対話的で深い学び」について関心を持って考え、積極的に表現できる。（態度）

授業の方法

①パワーポイントと配布印刷物を用いる。
②講義形式を中心とするが、アクティブラーニングを取り入れ、小学校社会科についての認識の自己獲得をめざす。
③小テストを2回行い、基本的な知識の定着を図る。
④レスポンスシート等による受講生の意見を講義の中で紹介し、対話型の学びを行う。積極的にグループワークを取り入れる。

ICT活用

①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする（紙面にて配布も行う）。
②レポート提出は原則Googleドキュメントにて行う。
③小テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。
④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。近年は教科書執筆にも携わり、学習指導要領を基にした学習指導についての執筆も行ってきた。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

リフレクションシートから、論点を選び、全体に紹介する。また、G-classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加えることで、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. オリエンテーション:授業のすすめ方、授業を通して身につけてもらいたい資質、課題、評価について説明する。 2. 社会科とは何かについて被教育経験を通して対話する。	シラバスを読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. 授業の動画や板書の写真などをもとに分析し、社会科という教科の概要や特徴をつかむ。	小学校学習指導要領 各教科 第2章社会科の「目標」部分を読み、何を意味しているかを自分なりに整理しておく(90分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する。(45分) 小テスト①の学習を、復習中心に行う。(45分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	1. 小テストによる知識の定着① 2. 小学校の社会科の学習内容について、機能と内容を軸に分析を行い、社会科学習の各学年の連続性についてつかむ。	小学校学習指導要領 各教科 第2章社会科の各学年の「内容」部分を読み、どのような学習内容が排列されているかを自分なりに整理しておく。(90分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する。(45分) 小テストの学習を、復習中心に行う。(45分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	1. 社会科の歴史①日本国憲法の公布から1947年学習指導要領試案および、それに伴って生まれた新教科「社会科」と「初期社会科」について概要を理解し、目指した子ども像について対話する。 2. 1955年学習指導要領による戦後初期社会科からの転換について理解し、一般社会と社会科の関係性について考察する。	指定された範囲の小テストに向け基礎的知識を確認しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. 社会科の歴史②1955年学習指導要領から1989年学習指導要領改定までの、社会科教育の変化について、その歴史的背景とともに理解し、目指した子ども像について対話する。特に低学年社会科の廃止と生活科の新設について、その意義と議論について理解し、社会科、生活科および総合的な学習の時間の指導にどのような連続性があるのかを考察する。	前回までの資料を読むとともに、高度経済成長期からオイルショック、バブル経済とその崩壊までの社会の流れを調べ、社会科教育との関連について自分なりの考察をしておく。(90分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する。(45分) 小テストの学習を、復習中心に行う。(45分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	1.フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2.社会科教育の現代的議論 2018年学習指導要領改定に伴う、社会科の構想について理解し、現在目指そうとしている「公民的資質」について対話を深める。とくに社会科が「構成主義」であることについて多角的に考察する。	指定された範囲の小テストに向け基礎的知識を確認しておくこと。(45分) 2018学習指導要領総説を読み、教育全体の方向について考えをまとめておく。(45分)	配布プリントを復習し、レスポンスシートを記入・提出する。(45分) 小テストの学習を、復習中心に行う。(45分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	1.小テスト② 2.小学校の社会科の授業ビデオを視聴し、これまで授業で理解してきた社会科の理念や学習の理論を視点に分析を行い、グループワークを中心に対話をする。	指定された範囲の小テストに向け基礎的知識を確認しておくこと。(45分) 事前資料を配布するので、第7回で視聴する社会科の授業がどのようなものなのか資料から想定すること(45分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する。(90分)
担当教員	佐々木　英明		
第8回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. SDGsと社会科の授業づくりの関係について、その意義や具体的な実践例について考察する。とくにSDGsは「環境問題」にとどまるものではなく、地球のあらゆる生命の持続の問題であり、人権や経済偏重社会の問題であることを踏まえ、社会科教育の役割について公民的資質の育成という目標と照らし合わせながら捉えていく。	SDGsについて次のことを調べて理解しておく(90分) ・SDGsは何の略称であるか、また日本では何と訳されているか。 ・国連で採択されたのは何年のことか。 ・到達目標にはどういったものがあるか。	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、レスポンスシートを記入・提出する。(45分) 提出用の課題に取り組み、期日までに提出する。(45分)
担当教員	佐々木　英明		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30％ 授業参加度10％ 授業ごとのレスポンスシートの内容30％ 提出課題の内容 30％
その他	0	

教科書

・小学校学習指導要領解説社会編 文部科学省（ダウンロード可能）

参考文献

・「初等社会科教育」唐木清志、永田忠道2021（協同出版）
・「これからの社会科教育はどうあるべきか」澤井陽介、中田正弘、加藤寿朗、宋實直樹2023（東洋館出版社）
・「21世紀に求められる社会的な見方・考え方」井田仁康、唐木清志、國分麻里、村井大介（帝国書院）
・「社会科固有の授業理論30の提言～総合的学習との関係を明確にする視点～」岩田一彦2001（明治図書）
そのほか、授業中に適宜紹介し、活用する。

履修条件・留意事項等

レポート等の課題は提出期限を厳守する。
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教科科目						
科目名	理科概論(1組)					ナンバリング	3444
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」ための科目である。
小学校理科の目標と内容について、学習指導要領解説理科編や学校で使用されている教科書を参考にしながら、小学校3年生～6年生までの主な観察や実験を、学生自身が実際に行いながら習得する。
小学校教員一種免許状取得のためには必修であり、この科目の後「教科教育法 理科」を履修しなければならない。

授業の概要

小学校教師として、小学校理科の目標及び内容について、小学校学習指導要領解説理科編を参考にしながら理解を深める。また、理解したことを、児童と同じ視点に立ち、自然の様々な事象や現象に対して疑問を抱いたり、不思議さを感じたりしながら、具体的事象・現象について観察・実験することで科学的充実感を感じられるように展開する。
①教科の内容・特性や位置づけを理解し、指導計画を作成する技能を身につける。(知識・理解・技能)
②教科の意義や果たす役割について検討し説明する。(思考・判断・表現)
③わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)

到達目標

①小学校理科の学習において、授業の基準となっている学習指導要領の趣旨や教科書の内容の理解を通して、理科の目標と内容を把握するとともに、望ましい授業づくりについて工夫することができる。
②小学校理科の目標を実現するための授業の在り方や、「自然を愛する心情」、「主体的に問題解決しようとする態度」を培う指導の在り方について、実際の観察や実験を通して探ることができる。

授業の方法

教科理科の意義や役割、目標などについて解説する。また、小学校理科の内容を学年順に取り上げて解説する。
指導教員は、小学校理科の解説において、観察・実験の実習やハンドアウト・プレゼンテーションソフトを活用する。
ほとんどの活動は少人数のグループで行い、相互に意見交換したり発表を行い学びを深める。

ICT活用

プレゼンテーションソフトやGoogle Classroomなどの教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。検索機能を活用した資料の調査や、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、Google Driveなどを活用したデータの共有やGoogle Formなどにより意見を集約した双方向授業や課題提出を行う。また、ScratchとMicrobitを組み合わせて理科におけるプログラミング教育について取り上げる。授業に関連した生成AIの活用法についても取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション 過去に自分が受けた理科の授業を振り返りながら、児童が疑問を持ったり、主体的に学ぶ授業とはどんな授業なのかを考えさせる。自分たちの体験をもとに、3，4人の小グループで話し合い発表する。 ・「教科書と学習指導要領」 使用されている教科書が、どのような法律や規準によって作られているのか、また学習指導要領と教科書との関係について解説する。	シラバスを読み授業内容を把握する。(90分)	オリエンテーション資料を確認する。 小学校学習指導要領と教科書との関係について課題(課題1)を提出する。(90分)
担当教員			
第2回	「幼稚園、小学校生活科、中学校理科の学習の流れと内容の概観」 幼稚園の「環境」及び小学校1，2年生活科と3年生からの小学校理科との関連、また小学校理科と中学校理科の内容を概観して、内容のつながりや系統性について解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(野外観察)を行い、効果的な指導法を検討する。なお、天候の状況によっては他の授業と内容を入れ替える。	幼稚園の「環境」について、幼稚園教育要領を読んでおく。また、小学校学習指導要領の第2章第5節を読んでおく。(90分)	小学校生活科や中学校理科とのつながり、野外観察の方法や配慮事項について課題(課題2)を提出する。(90分)
担当教員			
第3回	「教科『理科』の意義と身に付ける力」 理科の教科が何のためにあるのか、理科の学習でどんな力を身に付けようとしているのか、そのためには理科の授業はどうあるべきかについて、科学者の業績、開発された科学技術などを通して意見交換を行う。 少人数のグループに分かれ、小学校理科の基本的な観察・実験の操作(顕微鏡などを用いた観察方法)を行い、効果的な指導法を検討する。	自分が知っている科学者の業績、開発された科学技術などの例を調べておく。(90分)	理科教育の意義と顕微鏡などを用いた観察方法について課題(課題3)を提出する。(90分)
担当教員			

第4回	「小学校理科の目標と内容」 理科の目標と内容について概観する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科の基本的な観察・実験（計量・計測）や小学校理科におけるプログラミングを行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学数指導要領理科編の第2章第1節を読んでおく。（90分）	小学校理科の目標と内容、計測・軽量の方法やプログラミング教育について課題（課題4）を提出する。（90分）
担当教員			
第5回	3年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科3年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、3年生理科の目標と内容について確認しておく。（90分）	小学校理科の3年生の内容について課題（課題5）を提出する。（90分）
担当教員			
第6回	4年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科4年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、4年生理科の目標と内容について確認しておく。（90分）	小学校理科の4年生の内容について課題（課題6）を提出する。（90分）
担当教員			

第7回	5年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科5年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、5年生理科の目標と内容について確認しておく。(90分)	小学校理科の5年生の内容について課題(課題7)を提出する。(90分)
担当教員			
第8回	6年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科6年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、6年生理科の目標と内容について確認しておく。(90分)	小学校理科の6年生の内容について課題(課題8)を提出する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(80%) グループで行う活動への参加・協力の状況(10%) 授業中の意欲・態度(10%)
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用
生活科教科書上下
幼稚園教育要領解説(環境)
小学校学習指導要領解説生活編
中学校学習指導要領解説理科編

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状必修
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教科科目						
科目名	理科概論(2組)					ナンバリング	3444
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」ための科目である。
小学校理科の目標と内容について、学習指導要領解説理科編や学校で使用されている教科書を参考にしながら、小学校3年生～6年生までの主な観察や実験を、学生自身が実際に行いながら習得する。
小学校教員一種免許状取得のためには必修であり、この科目の後「教科教育法 理科」を履修しなければならない。

授業の概要

小学校教師として、小学校理科の目標及び内容について、小学校学習指導要領解説理科編を参考にしながら理解を深める。また、理解したことを、児童と同じ視点に立ち、自然の様々な事象や現象に対して疑問を抱いたり、不思議さを感じたりしながら、具体的事象・現象について観察・実験することで科学的充実感を感じられるように展開する。
①教科の内容・特性や位置づけを理解し、指導計画を作成する技能を身につける。(知識・理解・技能)
②教科の意義や果たす役割について検討し説明する。(思考・判断・表現)
③わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)

到達目標

①小学校理科の学習において、授業の基準となっている学習指導要領の趣旨や教科書の内容の理解を通して、理科の目標と内容を把握するとともに、望ましい授業づくりについて工夫することができる。
②小学校理科の目標を実現するための授業の在り方や、「自然を愛する心情」、「主体的に問題解決しようとする態度」を培う指導の在り方について、実際の観察や実験を通して探ることができる。

授業の方法

教科理科の意義や役割、目標などについて解説する。また、小学校理科の内容を学年順に取り上げて解説する。
指導教員は、小学校理科の解説において、観察・実験の実習やハンドアウト・プレゼンテーションソフトを活用する。
ほとんどの活動は少人数のグループで行い、相互に意見交換したり発表を行い学びを深める。

ICT活用

プレゼンテーションソフトやGoogle Classroomなどの教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。検索機能を活用した資料の調査や、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、Google Driveなどを活用したデータの共有やGoogle Formなどにより意見を集約した双方向授業や課題提出を行う。また、ScratchとMicrobitを組み合わせて理科におけるプログラミング教育について取り上げる。授業に関連した生成AIの活用法についても取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション 過去に自分が受けた理科の授業を振り返りながら、児童が疑問を持ったり、主体的に学ぶ授業とはどんな授業なのかを考えさせる。自分たちの体験をもとに、3，4人の小グループで話し合い発表する。 ・「教科書と学習指導要領」 使用されている教科書が、どのような法律や規準によって作られているのか、また学習指導要領と教科書との関係について解説する。	シラバスを読み授業内容を把握する。(90分)	オリエンテーション資料を確認する。 小学校学習指導要領と教科書との関係について課題(課題1)を提出する。(90分)
担当教員			
第2回	「幼稚園、小学校生活科、中学校理科の学習の流れと内容の概観」 幼稚園の「環境」及び小学校1，2年生活科と3年生からの小学校理科との関連、また小学校理科と中学校理科の内容を概観して、内容のつながりや系統性について解説する。 小学校理科の基本的な観察・実験の操作(野外観察)を行い、効果的な指導法を検討する。なお、天候の状況によっては他の授業と内容を入れ替える。	幼稚園の「環境」について、幼稚園教育要領を読んでおく。また、小学校学習指導要領の第2章第5節を読んでおく。(90分)	小学校生活科や中学校理科とのつながり、野外観察の方法や配慮事項について課題(課題2)を提出する。(90分)
担当教員			
第3回	「教科『理科』の意義と身に付ける力」 理科の教科が何のためにあるのか、理科の学習でどんな力を身に付けようとしているのか、そのためには理科の授業はどうあるべきかについて、科学者の業績、開発された科学技術などを通して意見交換を行う。 少人数のグループに分かれ、小学校理科の基本的な観察・実験の操作(顕微鏡などを用いた観察方法)を行い、効果的な指導法を検討する。	自分が知っている科学者の業績、開発された科学技術などの例を調べておく。(90分)	理科教育の意義と顕微鏡などを用いた観察方法について課題(課題3)を提出する。(90分)
担当教員			

第4回	「小学校理科の目標と内容」 理科の目標と内容について概観する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科の基本的な観察・実験（計量・計測）や小学校理科におけるプログラミングを行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学数指導要領理科編の第2章第1節を読んでおく。（90分）	小学校理科の目標と内容、計測・軽量の方法やプログラミング教育について課題（課題4）を提出する。（90分）
担当教員			
第5回	3年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科3年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、3年生理科の目標と内容について確認しておく。（90分）	小学校理科の3年生の内容について課題（課題5）を提出する。（90分）
担当教員			
第6回	4年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科4年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、4年生理科の目標と内容について確認しておく。（90分）	小学校理科の4年生の内容について課題（課題6）を提出する。（90分）
担当教員			

第7回	5年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科5年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、5年生理科の目標と内容について確認しておく。(90分)	小学校理科の5年生の内容について課題(課題7)を提出する。(90分)
担当教員			
第8回	6年生の内容構成について、他学年とのつながりや系統性を重視して解説する。 少人数のグループに分かれ、小学校理科6年生の基本的な観察・実験を行い、効果的な指導法を検討する。	小学校学習指導要領解説理科編を読み、6年生理科の目標と内容について確認しておく。(90分)	小学校理科の6年生の内容について課題(課題8)を提出する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(80%) グループで行う活動への参加・協力の状況(10%) 授業中の意欲・態度(10%)
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用
生活科教科書上下
幼稚園教育要領解説(環境)
小学校学習指導要領解説生活編
中学校学習指導要領解説理科編

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状必修
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教科科目						
科目名	算数科概論					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	常田　拓孝						

授業の位置づけ

専門科目のうち，小学校・幼稚園教科科目に関する科目である。将来算数科を指導するにあたって，必要で基本的な数学的視点，考察力を取り上げる。これまで学習してきた算数・数学の主要な内容の中から，基本的な概念や性質などを取り上げ，それらの発展と関連について学ぶ授業である。変化する社会の中で，教育に求められるニーズに的確に対応し，より適切な教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目である。
授業での学修成果が教科教育法の学修へとつながる。

授業の概要

小学校算数科で児童が学習する内容について再確認するとともに，関連性，発展性の観点から見直し，小学校算数科の内容がどのように関連しているかについて学ぶ。
人類の遺産として形成されてきた数学的成果を整理し，算数科で指導するにあたっての基礎的数学の能力が身につくよう授業を展開する。

到達目標

1 算数科における指導内容について述べることができる。
2 算数科を指導するにあたり基本的な数学的概念についてその内容を説明できる。
3「数と計算」,「図形」,「測定」,「変化と関係」,「データの活用」の内容について述 べることができる。
4 人間の営みと数学の関係について説明できる。

授業の方法

教科書及び配布物を用いて，講義形式及びグループワークでの学修を進める。

ICT活用

適宜，グーグルクラスルーム等のプラットフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

中学校教員を務め，算数・数学教育に関して幅広い知識を有している。算数科の指導内容に数学的背景，算数のよさやおもしろさを味わえる教材や指導方法について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー，小テストを読み，コメントを記すことによって学修へのフィードバックとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 】授業の進め方について理解する。【整数の意味について】小学校算数科で学ぶ整数について説明できる。(担当常田拓孝)	小学校学習指導要領算数科の目標について読み込んでおくこと。(90分)	講義資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第2回	整数の表現にについて】整数の表現のうち,「十進法位取り記数法」について, その根拠となる数学的概念を説明できる。(担当 常田拓孝)	小学校学習指導要領算数科 各学年「A 数と式」を読み込んでおくこと。(90分)	講義資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第3回	【加法減法の意味 その1 加法】算数科で学ぶ「たし算」について, その根拠となる数学的概念について説明できる。(担当 常田拓孝)	小学校学習指導要領算数科 各学年「A 数と式」を読み込んでおくこと。(90分)	講義資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第4回	【加法減法の意味 その2 減法】算数科で学ぶ数「ひき算」について，その根拠となる数学的概念について説明できる。(担当 常田拓孝)	小学校学習指導要領算数科 各学年「A 数と式」を読み込んでおくこと。(90分)	講義資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第5回	【加法・減法の計算の仕方】算数科で学ぶ「加法・減法の計算の仕方」について，そのねらいや計算の仕方を説明できる。(担当 常田拓孝)	小学校学習指導要領算数科 各学年「A 数と式」を読み込んでおくこと。(90分)	講義資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		
第6回	【乗法・除法の意味】算数科で学ぶ「乗法・除法」について，そのねらいや計算の仕方を説明できる。(担当 常田拓孝)	小学校学習指導要領算数科 各学年「A 数と式」を読み込んでおくこと。(90分)	講義資料の復習をすること。(90分)
担当教員	常田　拓孝		

第7回	【量の概念】算数科で学ぶ「量」について，その特徴や性質を説明できる。（担当 常田拓孝）	小学校学習指導要領算数科 各学年「C 測定 変化と関係 関数」を読み込んでおくこと。（90分）	講義資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		
第8回	【測定の概念】算数科で学「測定」について，その特徴や性質を説明できる。（担当 常田拓孝）	小学校学習指導要領算数科 各学年「C測定 D データの活用」を読み込んでおくこと。（90分）	講義資料の復習をすること。（90分）
担当教員	常田　拓孝		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	講義資料の復習をすること。（90分）

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	リアクションペーパー
その他	40	小テスト

教科書

なし

参考文献

1 小学校学習指導要領(平成29年告示)／文部科学省
2 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編／文部科学省

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教科科目						
科目名	英語科概論					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦、石尾　直子						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」に関連する。また、「教科教育法英語」の基礎となる科目である。

授業の概要

授業実践に必要な基礎英語力を身につけ、それを活用できる力を養う。英語を導入している世界の国々を調べ、日本との相違点をグループ毎に発表する。また、聞く力、話す力（やり取り・発表）、読む力、書く力を授業場面を意識しながら、英語教材をどのように活用していくかペアワークでプレゼンテーションを行う。クラスイングリッシュの練習も行い、聞く力や話す力のスキル向上を目指す。レポート課題もあり。

到達目標

″小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。
児童期の第二言語習得の特徴について理解する。
児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解する。
異文化理解は、授業場面に活用して応用することができるようにする。″

授業の方法

パワーポイントで作成した資料を提示し、動画も取り入れて、ペアワーク、グループワークの活動を多く活用して授業を進めていく。アクティブラーニングの手法を多く取り入れる。

ICT活用

ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かす。

実務経験のある教員の教育内容

″（釣晴彦）高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。
（石尾直子）放課後児童デイサービスにおける英語の指導、北広島市内小学校における外国語活動の指導に長年携わってきた経験を活かし、学生への指導に生かす。″

課題に対するフィードバックの方法

オンラインで常に課題をフィードバックしていく。Google classroomなどを介してフィードバックも行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	″(講義ガイダンス) 講義内容やプレゼンテーションの方法、課題に関して説明する。(担当 釣)″	英語学習の意義と必要性に関して自分の考えをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣 晴彦		
第2回	″(外国語活動・外国語科の目的) 小学校における外国語活動及び外国語科の目的を理解し、中学校との接続について考える。(担当 石尾)″	学習指導要領の与えられた箇所を読んで学習しておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾 直子		
第3回	″(学習指導要領の改訂について) グループワーク。それぞれのグループの意見を発表する。(担当 釣)″	教育事情と英語教育を調べてまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣 晴彦		

第4回	″(言語取得理論と英語教育) 前回の講義の継続。グループワークで発表。(担当 釣)″	教育事情と英語教育を調べてまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣 晴彦		
第5回	″(異文化理解教育としての英語教育) 世界の英語事情を比較して、日本の異文化理解教育を理解する。(担当 釣)″	世界の国の教育事情と日本の英語教育の状況をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣 晴彦		
第6回	″(国際理解教育と英語教育) 世界の国の教育事情を調べてグループごとに発表する。(担当 釣)″	与えられた資料を読み第二言語の取得方法をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣 晴彦		

第7回	″(英語の母音と子音の発音) アルファベットの発音から、日本語の音の違いを学ぶ。(担当 石尾)″	日本語と英語の音声の相違点をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣 晴彦		
第8回	″(英語の音とスペリングの関係) フォニックスの手法を学習して、効果的な活用を学ぶ。(担当 石尾)″	フォニックスとは何かを調べてまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾 直子		
第9回	″(ALTとのティームティーチングの在り方) ALTとのティームティーチングの在り方について学ぶ。(担当 石尾)″	ALTのティームティーチングとは何かまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾 直子		

第10回	″(外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツ1) 外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツを学ぶ。(担当 石尾)″	教材として活用できる歌・チャンツをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾　直子		
第11回	″(外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツ2) 外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツを学ぶ。(担当 石尾)″	教材として活用できる歌・チャンツをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾　直子		
第12回	″(外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動1) 外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動を学ぶ。(担当 石尾)″	教材として活用できる絵本をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾　直子		

第13回	″(外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動2) 外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動を学ぶ。(担当 釣)″	教材として活用できる絵本をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	石尾　直子		
第14回	″(外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動3) 外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動を学ぶ。(担当 釣)″	絵本の活用のプレゼンテーションを行うのでまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣　晴彦		
第15回	″(まとめ) 講義で学んだことをまとめる。(担当 釣)″	これまで学習してきたことをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員	釣　晴彦		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション3回 50% 課題レポート2回 50%
その他	0	特になし。

教科書

″小学校学習指導要領
小学校学習指導要領解説 外国語・外国語活動編
改訂版 小学校英語科教育法ー理論と実践ー 金森強″

参考文献

講義内で適宜配布する。

履修条件・留意事項等

事前、事後学習は必ず行うこと。課題などの提出期限は厳守すること。

備考欄

外部講師として石尾直子さんを招聘して、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年の活動方法を実践的に学ぶ。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	教育経営論					ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田　和彦						

授業の位置づけ

本科目である教育経営論は教職課程に位置づけられ、教員免許を取得するための必修教科である。また本科目は 教職科目のうち「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を扱う授業である。教職を希望する者にとって、教育制度を理解することは不可欠であり、教育課程の編成、教育方法の理論と実践との関連を重視し教職課程の総合知を獲得できるよう授業を位置づける。

授業の概要

近年、国際化グローバル化の進展に伴い、我が国の次代を担う人材の育成のため、教育制度の改革がなされてきた経緯がある。特に教育制度の改革による学習指導要領の改訂により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と新しい学習指導要領により教育活動が実施される。教育法制度、学校教育の制度や学校経営及び学級経経営、教職員制度、社会教育の意義と進展さらに学校教育との連携の意義などの基盤的知識を理解し教職への意識づけを高める授業とする。

到達目標

①今日的な学校教育、社会教育の制度や教育機関における組織の在り方について理解することができる。（知識・技能）
②組織や教育制度の課題・改善策について理解を深め表現することができる。（思考・判断・表現）
③学習課題の解決のため、他者と協力し学習を深めることができる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。

ICT活用

・Google classroom、Google formを活用して、毎時の気づきの言語化、把握やフィードバック等を行う。
・Google form、Google Gemini等を活用して、受講生のふりかえりや意見の集約を行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校の教諭・校長と北海道教育委員会や国立青少年教育施設等における社会教育行政の経験を有しており、双方の制度や法体系、連携や組織経営の在り方などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
・受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義の全体像や学び方をはじめ、公教育の原理や理念を理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公教育の原理や理念についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	教育制度の変遷 明治期以降の教育の変遷について概観し、時代と教育制度との関係について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、教育制度についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	現行の教育制度1 教育基本法や学校教育法、社会教育法など現行の教育制度を構成する法体系について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、教育の法体系についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	現行の教育制度2 公教育推進上の教育行政の役割や仕組み、教育施策の現状等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、教育行政の役割や仕組み、教育施策の現状等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	学校経営上の今日的な課題1 社会や子どもを巡る諸課題等の変化を踏まえた指導の在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会や子どもを巡る諸課題等の変化を踏まえた指導の在り方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	学校経営上の今日的な課題2 社会や子どもの変化と教育制度上の諸課題について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会や子どもの変化と教育制度上の諸課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	学校経営の実際1 学校における組織マネジメントの基本と学校経営方針の在り方や学校評価について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校経営の基本的事項についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	学校経営の実際2 学校における職員研修や分掌、服務、人事評価等の人事管理の基本、在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、職員研修や分掌、服務、人事評価等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学校経営の実際3 学校における働き方改革などタイムマネジメントの在り方や教育格差の現状等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料、ノートをもとに、働き方改革、教育格差等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	学校経営の実際4 学校における安全管理の基本や在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料、ノートをもとに、安心・安全な学校づくりについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	学校経営の実際5 学年・学級経営、校務分掌の基本や在り方について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学年・学級経営、校務分掌の基本的事項についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	学校経営の実際6 学校と社会教育など、学校を巡るステークホルダーとの関係性や連携・協働の重要性等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校と外部との連携についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	学校と地域との連携 学校と地域とが連携した教育活動の実情や課題等について理解できる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校と地域との連携についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、教育制度の意義や今日的な課題等について理解できる。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	小テストをふりかえり、不明確な点や疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ 講義全体をふりかえり、社会の要請に対応した学校づくりとそれに対する自身の貢献について討議し、本科目のまとめを行う。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	講義全体を通しての学びや気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 60% ②小テスト(14回目) 30% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	

教科書

なし

参考文献

・文部科学省ホームページ
・北海道教育委員会ホームページ
・恵庭市ホームページ 等
※その他、適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りスマートホンまたはPCを持参する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	特別支援教育基礎論					ナンバリング	3521
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。特別な教育的ニーズに応じた支援のための基本的資質、教育的能力を身につけ、共生社会の実現に向け、歴史的背景や国際的な動向を踏まえながら、より適切な教育のあり方を考え続ける指導者の基礎となるものである。特別支援教育総論や知的障害教育につながるものである。

授業の概要

共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の歴史や制度を踏まえながら、特別支援教育の全体像について理解する。また、様々な困難さのある幼児・児童及び生徒が、安心感・充実感をもって集団に参加しながら、将来の社会参加・自立に必要な知識・技能を定着・活用できるような支援のあり方を理解する。

到達目標

1. 特別支援教育の理念や目的を理解し、個別の教育的支援について説明することができる。
2. 共生社会の実現にむけたインクルーシブ教育が重視されている理由を説明することができる。
3. 障害者差別解消法など、社会的な支援の実際を理解し、障害と支援を関連付けて記述することができる。
4. 個別の教育的支援を行う支援者として、共生社会の重要性を説明することができる。

授業の方法

ICT機器や映像を多用しながら、これまでの経緯や動向、今日的課題についてよりわかりやすく授業を進めるように工夫し、教育現場における実態も紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導計画作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。

ICT活用

パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームや「ふきだしくん」を効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション：特殊教育時代を振り返り、特別支援教育が目指す共生社会実現の意義と重要性について、全8回の講義を通して学ぶことを理解する。	障がいについて、自分なりの考えをまとめておく。(90分)	共生社会について整理し、意義と役割について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	インクルーシブ教育の理念や目的について、歴史や世界的な情勢を踏まえながら理解する。	共生社会について整理し、インクルーシブ教育について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	障害者差別解消法における合理的配慮について学習し、具体的な事例をもとに実際場面での運用について理解する。	「障害者差別解消法」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第4回	特別支援教育の校内支援体制と対象となる障がい種別や学習上、生活上の困難について理解する。	特別支援教育の校内支援体制と対象となる障がい種や程度について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第5回	ICF(国際生活機能分類)について学習し、活動と参加という社会的側面から「障がい」をとらえる必要性について理解する。	ICFや「障がい」の様々な捉え方について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第6回	障がい児教育の歴史と共生社会の実現に向けた課題について、資料映像を視聴しながら考察する(前半)。	特別支援教育の推進上の課題について考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第7回	障がい児教育の歴史と共生社会の実現に向けた課題について、資料映像を視聴しながら考察する(後半)。	特別支援教育の推進上の課題について考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第8回	授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる。(最終レポートの作成)	1～7回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第8回で実施する最終レポート作成(70%) 毎回提出する振り返りシート(15%) 授業への参加度・出席態度(15%)
その他	0	なし

教科書

なし(適時資料を配布する)

参考文献

「はじめての特別支援教育」柘植雅義・渡部匡隆・二宮真一・納富恵子編 有斐閣 2014

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得の必修科目である。
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	教育課程の編成と実施					ナンバリング	3504
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

本科目では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育に関わる者として、一人一人の子どもの特徴と発達へのニーズを見極め、それに対応できる教育的能力を身に付けることを目指している。
授業においては、現代教育の課題を見つめ、それらに対応した教育課程編成の在り方や社会に開かれた教育課程の実際などに関する探究を行う。また、本科目は、幼稚園教諭および小学校教諭免許を取得するうえで必修の教職科目であり、「教育基礎論」や「教育方法論」との連続性のもと、「教育実習指導Ⅰ・Ⅱ」に接続する科目である。

授業の概要

本授業では、現代の学校教育の課題を認識し、学習指導要領を踏まえた教育課程編成に関わる知見や方法を学ぶ。
また、教育課程を編成する上で重要となる、「資質・能力の三つの柱」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」)について理解し、幼稚園・学校における教育の全体計画について、考えや意見を交流しながら考察する。
さらに、地域の教育力を生かした学習環境の充実やカリキュラム・マネジメントの意義について理解し、意欲的に調査を行い自らの意見等を積極的に交流・発表する。

到達目標

○教育に係る法令や規則を理解し、幼稚園教育要領や学習指導要領について説明できるとともに、教育課程編成の重要性や編成・実施の方法などについて理解し、説明することができる。
○子どもを取り巻く課題を認識し、施策や制度面の改善方策について意見を持ち、説明できる。
○子どもの健やかな成長を育む幼稚園づくり、学校づくりに向けた方策を考え、説明できるとともに、社会に開かれた教育課程の在り方への関心を持ち、対話的な活動に意欲的に参加できる。

授業の方法

○本授業では、プレゼンテーションソフトを活用し、適宜印刷物も用いて説明する。
○提出課題に見る学生の問題意識を拾い上げ、フィードバックしながら、双方向あるいは対話的に授業をすすめるとともに、グループワークなどを通じて意見の交流を行う。
○毎時間の最後にフォームを活用した振り返りを行い、次の授業では意見の共有しながら、考察を深める。

ICT活用

グーグル等のプラットフォームを活用し、フォームによる意見集約を行うとともに、ミート等による遠隔授業も必要に応じて取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として、教科指導（英語）、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、教育課程編成の意義や実際の編成方法等の理解を促すとともに、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。また、学生の意見等を紹介することによって、学生同士が相互に学び合えるようフィードバックを適切に行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方、毎時間の振り返り、課題や評価について説明する。 ・教育課程編成の意義について学習する。	・シラバスを読んで理解しておくこと。教育課程について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第2回	◎教育に関係する各種法令・規則について ・幼稚園教育要領や学習指導要領の法的根拠について学習する。 ・保育者、教育者として必要な資質・能力について学習する。	・関係する法令について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第3回	◎教育課程編成の基本について ・週時程や時間割から見えてくる学校の姿について学習する。 ・小学校における教育課程の特徴について、学習し、考察する。	・学校教育法施行規則 別表第一（第五十一条関係）について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		

第4回	◎幼児教育に係る教育課程について ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の共通点や違いについて学習する。 ・幼児教育の課題について、考察する。	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第5回	◎幼児教育の現状と課題について ・少子化の現状について学習する。 ・幼児教育のカリキュラム編成の視点から、保育の現状について学習し、考察する。	・日本の少子化対策と他国の対策について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第6回	◎小学校における教育課程編成について ・学校の教育目標の設定方法について学習する。 ・都道府県と市町村の教育目標との関係について学習し、考察する。	・北海道教育推進計画、恵庭市学校教育基本方針について調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		

第7回	◎PDCAサイクルを意識した教育課程編成について ・遠足等の学校行事の立案から実施、反省までの流れなどについて学習する。 ・行事計画の作成方法を学び、考察する。	・遠足を行うために準備しておく事柄について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	◎社会に開かれた教育課程について ・保育所、幼稚園、小学校の地域連携について学習する。 ・学校等の情報発信の方法などについて学習し、考察する。	・複数の学校のHPを閲覧し、地域とのかかわりの視点からそれぞれの特徴を調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	◎コミュニティースクールについて ・導入の趣旨や意義について学習する。 ・恵庭市内小学校の取組を学習し、考察する。ゲストティーチャーを迎え具体的な実践事例を学ぶ。	・学校運営協議会制度について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	◎学力について ・全国学力学習状況等調査について学習する。 ・市町村ごとの結果発表の状況を学習し、考察する。	・令和4年度実施全国学力学習状況等調査の北海道の結果、自分の出身市町村や小学校の結果などを調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	◎学力と体力について ・学力や体力の向上を意図した教育課程編成について考察する。 ・課題解決に向けた学校や学級の取組について学習し、考察する。	直近の全国体力運動能力等調査における北海道の結果について調べて、全国的な位置について考察しておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	◎隠れたカリキュラムについて ・学びにくさを感じている児童への対応や読書活動の推進など、小学校の実践について学習する。 ・子どもたちの指導に生きる隠れたカリキュラムの実践について学習し、考察する。	・学習環境や子どもたちの意欲などを向上させるものであり、教育課程編成上では見えてこない取組について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	◎地域の教育力について ・地域の教育力を幼児教育や小学校教育に取り込んでいる事例について学習する。 ・保育園、幼稚園、小学校が地域に与える影響などについて考察する。	・地域と学校等が連携して行っている取組を調べておくこと。（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第14回	◎教育課程の管理について ・学校等の説明責任について理解する。 ・担任としての教育課程の進行管理の必要性を理解し、考察する。	・カリキュラムマネジメントについて調べておくこと（90分）	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。（90分）
担当教員	相馬　哲也		
第15回	◎教育課程の編成と実施についてもまとめ ・これまでの学習を振り返り、具体的な保育者像、教師像を描く。	・事前に指示された課題に対して取り組むこと。（120分）	・15回の振り返りを行い、配布物等の整理を行うこと。（60分）
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況（20%）、振り返りシートの内容（50%）、課題（30%）
その他	0	なし

教科書

適宜資料を配布する。

参考文献

・幼稚園教育要領解説 文部科学省
・保育所保育指針 厚生労働省
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省
・小学校学習指導要領 総則編 文部科学省

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	生徒指導の意義と内容					ナンバリング	3506
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。また、進路指導・キャリア教育は、児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を通してキャリア発達を促す教育である。本科目は、それらの意義や機能を捉え、実践的な指導力を身に付けるとともに、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考え続ける姿勢を身に付けることなどをねらいとしている。子どもの心身の成長・発達及び学童期の子どもの心理等についての知識を身に付けるための科目でもあり、「教育相談論Ⅰ、Ⅱ」、「青年心理学」、「道徳教育の指導法」と関連する。

授業の概要

本授業では、生徒指導提要（令和4年12月）の考え方に基づき、生徒指導の意義や構造、教育課程における位置付け、児童生徒理解の方法や教育相談の進め方、学校における生徒指導体制の確立について学習するとともに、生徒指導上の今日的な課題である、いじめ、暴力行為、少年非行、児童虐待、自殺、不登校等の問題への対応方法、家庭・地域・関係機関との連携の在り方について、具体的な事例や実践例をもとに学習する。また、学校における安全教育や命を大切にする指導についても理解を深める。このほか、進路指導・キャリア教育の意義や内容について学習するとともに、ガイダンスの機能を生かした指導の在り方について学習し、教員に求められる実践的な指導力を身に付ける。また、教育実習実施前に、児童との接し方について必要な指導を行う。

到達目標

1. 生徒指導の意義と課題、教育課程における位置付けについて説明することができる。
2. 児童生徒の発達の特徴や児童生徒理解の方法、教育相談の進め方について説明することができる。
3. いじめ、暴力行為、少年非行、児童虐待、自殺、不登校等の問題について、安心安全な学校づくりの視点も加え、未然防止や対応方法について説明することができる。
4. 生徒指導における学校と家庭・地域・関係機関との連携の在り方について説明することができる。
5. 進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における位置付けについて説明することができる。
6. キャリア教育の進め方、ガイダンスの機能を生かした指導の在り方について説明することができる。

授業の方法

・プレゼンテーションソフトによる説明と配布資料により、講義形式を基本に進める。
・グーグルクラスルームのフォームの機能を用い、学生の考えや意見を適時に集約し、反映させる。
・グループワークとグループ発表、学生によるプレゼンテーションを取り入れて行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトを活用した事例研究を行うとともに、グーグルクラスルームのフォームの機能の活用により、学生の考えを把握し、タイムリーにフィードバックする。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として、教科指導（英語）、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては、北海道いじめ不登校等対策本部会議の運営に関わるとともに、小中高等学校の生徒指導上の諸課題への対応について、教員等に指導助言を行ってきた。こうした経験を活かし、、生徒指導上の諸問題への対応の仕方、積極的な生徒指導の在り方、家庭・地域・関係機関との連携等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、学生からのフォームでの回答を全体に還元しながら、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎ オリエンテーション及び生徒指導の基礎について ・生徒指導、進路指導・キャリア教育について学ぶ意義を確認するとともに、授業の概要、到達目標、授業の方法、授業計画等を把握し、学習に見通しをもつ。 ・各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解するとともに、生徒指導の意義と構造について学習し、理解する。	・シラバス及び生徒指導提要（令和4年12月）（以降 教科書）まえがきから目次を読んでおくこと。p12~p23を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、生徒指導、進路指導・キャリア教育について学習する意義及び生徒指導の意義と構造についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第2回	◎ 生徒指導の方法について ・児童生徒理解や組織的対応など生徒指導の方法について学習する。 ・生徒指導の方法や取組上の留意点について学習し、考察する。	・教科書のp23～p38を読んでおくこと。(90分)	・ 配布資料を復習し、生徒指導の意義と構造、生徒指導の方法や取組上の留意点についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第3回	◎生徒指導と教育課程について ・教育課程における生徒指導の位置付けについて学習する。 ・教科等と関連した生徒指導の充実について学習し、考察する。	・教科書のp39~p67を読んでおくこと。(90分)	・ 配布資料を復習し、教育課程における生徒指導の位置付け、教科等と関連した生徒指導の充実についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第4回	◎チーム学校による生徒指導体制について ・生徒指導体制、教育相談体制、学校安全及び危機管理体制について学習する。 ・家庭や地域との連携の在り方について学習し、考察する。	・教科書のp68~p118を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、生徒指導に係る様々な体制整備及び家庭や地域との連携の在り方についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第5回	◎個別の課題に対する生徒指導～いじめ～について ・いじめの防止等のための基本的な方針が策定された背景などについて学習する。 ・いじめの未然防止に向けた取組について、意見を出し合い、考察する。	・教科書のp119~p140を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、いじめの防止等のための施策等を整理するとともに、いじめの未然防止に向けた学校、学級の取組についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第6回	◎個別の課題に対する生徒指導～暴力行為と少年非行～について ・暴力行為や少年非行の未然防止、早期発見・早期対応の視点等について学習する。 ・関係機関等との連携等について学習し、考察する。	・教科書のp141~p170を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、問題行動の未然防止、早期発見・早期対応の視点等について整理するとともに、関係機関等との連携等についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第7回	◎個別の課題に対する生徒指導～児童虐待～について ・児童虐待が発生する背景等について学習する。 ・児童虐待を発見した際の対応などについて学習し、考察する。	・教科書のp171~p188を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、児童虐待が発生する背景及び児童虐待を発見した際の対応などについてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	◎個別の課題に対する生徒指導～自殺・不登校～について ・自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造及び命を大切にする指導のあり方について学習する。 ・不登校対応に求められる学校の組織体制などについて学習し、考察する。	・教科書のp189~p239を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、自殺予防や不登校対応に関して、学校の対応や担任の取組についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	◎個別の課題に対する生徒指導～インターネット・携帯電話に関わる問題及び性に関する課題～について ・インターネット等を介しての問題行動の現状や対策について学習する。 ・性に関する課題に関して保護者対応や関係機関との連携について学習し、考察する。	・教科書のp240~p267を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、情報活用リテラシーに関する指導や性に関する課題に関して、関係機関との連携等についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	◎個別の課題に対する生徒指導～多様な背景を持つ児童生徒への指導～について ・発達障害等に関する理解と対応について学習する。 ・支援を要する家庭への対応等について学習し、考察する。	・教科書のp268~p289を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、多様な背景を持つ児童生徒への指導についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	◎ 生徒指導に関する法制度及び学校と家庭・地域・関係機関との連携について ・保護者や地域との信頼関係構築に向けた学校や教員の取組について学習する。 ・児童生徒や家庭を支援する各種制度等について学習し、考察する。	・これまで学習した内容から子どもを取り巻く法律・規則及び各種制度について調べておくこと(90分)	配布資料を復習し、生徒指導や家庭支援に関する法制度をまとめておくこと。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	◎ 進路指導・キャリア教育の意義と原理について ・進路指導・キャリア教育の意義と内容、教育課程における位置付けについて学習する。 ・進路指導・キャリア教育の指導計画の作成、家庭や関係機関との連携について学習し、考察する	・これまで自分が受けてきた進路指導、キャリア教育を振り返るとともに、学習指導要領等での扱いについて調べておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、進路指導・キャリア教育の意義と内容についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	◎ キャリア発達課題に基づくキャリア教育について ・キャリア発達課題に基づく、発達段階に応じたキャリア教育の進め方を学習するとともに、キャリア教育の視点を持ったカリキュラムマネジメントの意義を理解する。 ・ガイダンスの機能を生かした指導の意義や留意点について学習し、考察する。	・キャリア教育の意義について調べておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、キャリア発達を踏まえたキャリア教育の進め方についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第14回	◎ 進路探索の基礎を養う指導と相談について ・職業に関する体験的学習の計画立案やポートフォリオを活用した指導の在り方について学習する。 ・キャリア・カウンセリングの基本的な考え方とその実際について学習し、考察する。	・これまで体験したインターンシップ等の職業体験について、自分が受けた影響などをまとめること。(90分)	・配布資料を復習し、職業体験の計画立案についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第15回	◎ 生徒指導、進路指導・キャリア教育についての学習のまとめ ・生徒指導の意義と課題、進路指導・キャリア教育の意義と内容についてまとめ、学習の成果を確認する。学校における安全教育、命を大切にする指導、信頼される教員としての在り方などについても指導する。	・これまで学んだことのまとめを整理し、課題に取り組んでおくこと。(90分)	・授業での指示を受け、課題に取り組み、学習の総まとめを行うこと。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組(20%)、振り返りシートの内容(50%)、課題提出(30%)
その他	0	

教科書

生徒指導提要(令和4年12月)／文部科学省 (WEB版)

参考文献

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 / 小学校 特別活動 / 国立教育政策研究所 / 東洋館出版社
その他、必要に応じて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	幼児の理解					ナンバリング	3508
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーにおいては、主に「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と関係する科目である。後期開講の「教育相談の基礎と方法」と関連する。

授業の概要

子どもを理解することは、保育者の重要な役割といえる。なぜなら、保育者はひとりひとりの子どもの内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向けながら、保育を展開していくためである。子どもを理解するための観察や記録について理解を深めつつ、その方法を具体的な実践例から考えていく。また、子どもの行為の意味を保護者と共有していくことと、子どもの育ちの関連について理解する。

到達目標

1. 子どもの行為の意味や発達段階について理論的に説明することができる。
2. 子どもの理解を深めるための観察と記録の意義と方法を学び、実践することができる。
3. 子ども理解の方法を具体的な実践事例から学び、実践することができる。

授業の方法

授業担当者が作成した資料を受講生に配布する。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開する。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行う。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による行動分析を行う。ここでは、保育場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、子どもの行動に関する理解を深める。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに教育相談機関、精神科病院等での臨床経験を有している。また、本学子育て教育地域支援センターにおいても臨床実践を続けてきた。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果のフィードバックを行う。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・保育における子ども理解の意義: 授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行う。また、「子ども理解とは何か」についてグループによる体験学習を通して考えを深める。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握する。(90分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解する。(90分)
担当教員			
第2回	子どもに対するかかわりと共感的理解: 子どもとのかかわりにおける共感的理解の意義と方法について学ぶ。また、共感的な話の聴き方や子どもとのかかわり方についてロールプレイを通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	共感というキーワードについて心理学的視点から整理する。(90分)
担当教員			
第3回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達: 人的環境としての保育者が子どもの発達に及ぼす影響について学ぶ。また、子どもと保育者のかかわりから生じる相互作用について討論を通して考えを深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			

第4回	子どもの集団での経験と育ち: 遊びのおける子ども同士のかかわり、子どもの遊びへの援助と社会性の育ちについて学ぶ。はじめて集団での活動を経験した幼児の事例について、グループによる討議を通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第5回	子どもを理解するための方法(1)観察: 保育において子どもの行動を観察するための方法について学ぶ。また、「意図的観察」について体験学習を通して理解を深める。	観察というキーワードについて調べる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第6回	子どもを理解するための方法(2)記録: 保育における記録の意義と方法について学ぶ。また、保育場面の記録について体験学習を通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			

第7回	子どもを理解するための方法(3)省察・評価: 保育における省察・評価の意義と方法について学習する。クリッカーを用いた子どもの行動観察、省察、評価を体験し、その結果に基づいてレポートを作成する。	省察・評価というキーワードについて調べる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第8回	子どもの理解と援助の実際(1): 職員間の対話、協働について学ぶ。保育カンファレンスについて事例を通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第9回	子どもの理解と援助の実際(2): 発達の課題に応じた子どもの理解・援助について学ぶ。幼児教育の現場における援助の実際について、ゲストスピーカーによる話題提供を通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			

第10回	子どもの理解と援助の実際(3): 保護者との情報共有の必要性とその方法について学ぶ。保護者役と保育者役のロールプレイを通して情報共有の進め方について理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第11回	子どもの理解と保育現場でのカウンセリング: 保育実践における子ども理解に基づくカウンセリングについて学ぶ。子どもや保護者を対象としたカウンセリングの実際について、ゲストスピーカーによる話題提供を通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第12回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助: 保育場面における特別な配慮を要する子どもの援助の理解と実際について事例を通して学ぶ。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			

第13回	専門機関との子ども理解の共有: 保育者と専門機関との連携、子ども理解の共有について事例を通して学ぶ。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第14回	発達の連続性と就学への支援: 発達の連続性について学び、就学へ向けた支援について、事例に基づいたロールプレイを通して理解を深める。	関連文献を読んで概要をまとめる。(90分)	配布資料について専門用語を中心にして整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学習のまとめと成果の確認: 全体のまとめを行い、これまでの学びをふりかえる。また、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行う。	講義を通して学んできたことについて自分の考えを整理する。(90分)	配布資料および関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	講義・グループによる体験学習等の参加状況及び講義内容に関係するレポートの作成によって評価する。
その他	25	クリッカーを用いた子どもの行動分析及び所定の書式で作成した「分析体験レポート」によって評価する。

教科書

教科書は使用しない。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布する。

参考文献

子どもの理解と援助 清水益治・無藤隆編著 北大路書房
子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点からー 青木久子・間藤侑・河邉貴子著 萌文書林
教育現場の「コンピテンシー評価」ー見えない能力の評価を考えるー 渡部信一編著 ナカニシヤ出版

履修条件・留意事項等

講義内で配布するレポート用紙・学習シートについては、学習成果及び出席状況の確認を行うため、各回の講義終了時までに必ず提出してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	道徳教育の指導法					ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

道徳教育を学びながら人間としてよりよい生き方を追求し、学校の教育活動全体で行われる道徳教育とその要として行われる「特別の教科 道徳」の授業について学ぶ。ディプロマポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度をみにつけている」ことと関連する。また、小学校教員免許取得に必要な教職科目である。

授業の概要

道徳教育と道徳科の授業についての学びをもとに幼保・小・中のつながりを意識した道徳の授業ができ、道徳教育を推進していける力を修得する。道徳性の芽生えと道徳教育についての基礎知識を身につけ、その重要性について認識を深める。要となる道徳科の学習指導案作成と模擬授業や主体的で協動的な学習を通して、教員として必要な道徳教育の資質と具体的なスキルを身につける。

到達目標

1. 幼稚園・保育園における道徳性の芽生えからつながる小学校の道徳教育の目標・内容及び具体的な取組や学習指導法の基本的な活用と中学校の道徳へのつながりを説明できる。
2. 小学生の心に届き、心に響く授業構想と授業ができるよう、道徳性の育成に資する道徳学習指導案を作成でき、授業ができる。
3. 自己の道徳性を見つめること（メタ認知）ができるとともに、他者と協力的・論理的思考により、自らの道徳性育成への意欲を高めていけるようになることを身に付け、それを保育・教育の実践に生かすことができる。

授業の方法

指定した教科書をもとに、授業ではさらに内容を深めるようスライドの提示や資料を配布して講義式の授業を行い、内容によっては受講者同士の交流を行う。また、模擬授業の構想ではグループでの演習方式を取り入れ、知識や技能の自己獲得を図る。
授業の後にはリフレクションシートを提出し、授業内容の定着とより深い考察を通して、教師としての力量形成につなげる。

ICT活用

①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。
②レスポンスシート等の提出は原則Googleドキュメントにて行う。
③Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。勤務校において、研究部長、教務主任を務めた際には学習指導要領改訂に伴って誕生した「特別の教科 道徳」の特色を踏まえ、指導要領改訂の趣旨及び道徳所見の書き方について研修会を主催した他、道徳教育全体計画及び別葉の作成を総括した。以上の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された指導案、レポートについては個別にコメントを通してフィードバックを行う。
模擬授業終了後にはその授業の価値について授業ごとに解説をつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 授業方法、授業計画、評価、についての説明を行う。 2. 受講者の「道徳教育」の被教育経験について交流する。 3. 小学校道徳の模擬授業を通し、この授業で身につけたい道徳教育の「技法」について提示する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」 P10～21を読んでおくこと。(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	1.道徳教育の歴史について触れ、その設置目的とその後の授業展開の議論を概括する。 2.「特別の教科道徳」の目標、目的、道徳性について具体的なイメージを持てるように学び、理解を深める。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」 P21～P71を読んでおくこと。(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	1.道徳性の議論として、「モラルジレンマ」を取り上げ、道徳教育の授業方法について理解を深める。 2.「読み物教材」と呼ばれる道徳の教材について分析をし、道徳の価値項目に迫る授業の方法について理解する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」 P90～P91を読んでおくこと。(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	1.「問題解決的な道徳」と呼ばれる道徳の授業方法を概括し、それに関わる教材について分析をし、道徳の価値項目に迫る授業の方法について理解する。 2.「体験学習を取り入れた道徳」と呼ばれる道徳の授業方法を概括し、それに関わる教材について分析をし、道徳の価値項目に迫る授業の方法について理解する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P92～P93を読んでおくこと。(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	1.道徳の学習指導案について、記述すべき内容と作成手順について理解を深める。 2.児童の発達段階や個に応じた道徳性の育成に資する指導方法について、具体的な取組み事例をもとに学習する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P78～P80を読んでおくこと。(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(60分) 小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく(30分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	グループワークによる道徳の授業授業づくり① 指定したいくつかの共通教材より選択した受講者でグループを作成し、模擬授業の指導案を作成する演習を行う。指導案作成後は模擬授業の準備を行う。	小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく。(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	グループワークによる道徳の授業授業づくり② 指定したいくつかの共通教材より選択した受講者でグループを作成し、模擬授業の指導案を作成する演習を行う。指導案作成後は模擬授業の準備を行う。	小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく。(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	グループワークによる道徳の模擬授業① 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	グループワークによる道徳の模擬授業② 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	グループワークによる道徳の模擬授業③ 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	グループワークによる道徳の模擬授業④ 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	グループワークによる道徳の模擬授業⑤ 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	グループワークによる道徳の模擬授業⑥ 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	道徳の授業づくりと実践～教材選びと指導案作成 これまでの授業、グループワークをもとに、自分で教材を選び内容項目を設定し、道徳の指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。	指導案の作成及の準備をする。(90分)	指導案の完成に向けた作業を進める。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	道徳の授業づくりと実践～教材選びと指導案作成 これまでの授業、グループワークをもとに、自分で教材を選び内容項目を設定し、道徳の指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。 ・道徳の授業と、道徳教育との関係について整理し、まとめる。	指導案を作成する。(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度 20%(発言、グループワークでの積極性等) グループワークでの模擬授業30%(授業後のレポートを中心に評価する) 自主選択授業指導案提出30% 提出課題20 %(各授業で課すリフレクションシートの内容等)
その他	0	

教科書

・小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 文部科学省 (ダウンロードをしておくこと)
・道徳4「きみがいちばん光るとき」光村図書

参考文献

平成29年版学習指導要領(ダウンロード可能)
小学校新学習指導要領「道徳の授業づくり」坂本哲彦 2018 明治図書
小学校新学習指導要領ポイント想整理「特別の教科 道徳」永田繁雄 2017 東洋館出版社

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法					ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

本科目は特別活動及び総合的な学習の時間の意義を理解し、授業方法などを学ぶとともに、変化の激しい現代社会において求められる実践的な指導力を身に付けるための科目である。「道徳教育の指導法」や各教科の教科教育法と関連付けられ、「生徒指導の意義と内容」の基礎となる。

授業の概要

特別活動の教育課程における位置付けと各教科等との関連、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の特質について学ぶとともに、取組の評価・改善や家庭・地域等との連携の在り方などについて学ぶ。
総合的な学習の時間が教育課程において果たす役割や各教科等との関連について学ぶとともに、主体的・対話的で深い学びを実現できる探究的な学習の過程を踏まえた単元計画の作成などについて学ぶ

到達目標

(1)特別活動の意義、目標及び内容を理解し、説明できるとともに、特別活動の指導の在り方を理解し、話合い活動等の指導計画を作成できる。併せて、特別活動の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解し、説明できる。
(2)総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解し、説明できるとともに、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付け、具体的な指導計画を作成できる。併せて、総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解し、説明できる。

授業の方法

プレゼンテーション資料、文部科学省学習指導要領等を教材として講義形式で授業を進める。グループワークと発表の場面を設定するとともに、フォームの機能を活用して学生の意見等を集約し振り返りを行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる事例研究等を行うとともに、フォームの機能を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として教科指導（英語）、生徒指導に従事したほか、教育行政において、特別活動や総合的な学習の時間の意義や教育課程上に位置づけなどについて学校等に指導・助言を行った。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームを活用し、適宜フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 特別活動の意義と内容等、望ましい集団活動による人間関係形成について	シラバスと小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省(WEB版)第1章を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第2回	学級活動・児童会活動の目標及び内容、具体的な活動事例について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省(WEB版)の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第3回	クラブ活動・学校行事の目標及び内容。具体的な活動事例について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省(WEB版)の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第4回	合意形成に向けた話合い活動等、社会参画に繋がる資質能力の育成の意義について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省（WEB版）の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第5回	特別活動の充実に向けた関係機関等との連携及び指導計画の事例について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省（WEB版）の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第6回	特別活動の指導計画及び話合い活動の指導案の作成について	指導案を作成すること。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第7回	指導案の交流及び模擬授業	指導案の説明原稿を作成すること。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	特別活動のまとめ及び総合的な学習の時間の趣旨について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省(WEB版)の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	総合的な学習の時間の目標及び内容、教科横断的な学習の意義について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省(WEB版)の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	総合的な学習の時間の全体計画とその実践事例について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省（WEB版）の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	総合的な学習の時間の単元計画とその実践事例について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省（WEB版）の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	探究的な学習の過程の具体例及び子どもの学習状況に関する評価の方法等について	授業で指示のあった小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省（WEB版）の該当部分を読んでおくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	総合的な学習の時間の単元計画に基づく指導案の作成について	指導案を作成すること。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第14回	指導案の交流及び模擬授業	指導案の説明原稿を作成すること。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
第15回	総合的な学習の時間のまとめ	学習内容のまとめを作成しておくこと。(90分)	配布資料により復習すること。(90分)
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎時間の振り返り、取組状況の報告(30%)、指導案の作成(30%)、指導案の紹介もしくは模擬授業への取組状況(20%)、まとめのレポート等(20%)
その他	0	

教科書

小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省(WEB版)
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省(WEB版)

参考文献

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校総合的な学習の時間
（国立教育政策研究所）

履修条件・留意事項等

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	教育方法論					ナンバリング	3514
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

①授業「教育方法論」(以下、本授業)は、ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」ことと強く関係する科目である。
②本授業は、小学校教諭、幼稚園教諭免許を取得するうえで必修の教職科目であり、「教育基礎論」や「教育課程の編成と実施」との連続性のもと、小学校教育実習、幼稚園教育実習に接続する科目である。

授業の概要

幼稚園、小学校において、子どもの「声」を聴き、学ぶ姿を見とる教師のあり方について対話的に学び合う。学生自身がこれまで受けてきた一斉授業方式の被教育経験を編み直し、21世紀にふさわしい教育者として「主体的・対話的で深い学び」を実践できる技能を習得する。そのために、授業は基本、アクティブラーニングを軸に、学修者が、能動的に学修に参加する姿勢を身につけるよう展開する。

到達目標

①学生は具体的な実践例をもとに、教育方法とはどういうことを意味するか理解することができる。（知識）
②学生は具体的な実践例をもとに、多様な教育方法の理念を生かして、自身の教育活動を創造することができる。（技能）
③教育方法の理念を捉え、「学び続ける教師」としての自覚を持つことができる。（態度）

授業の方法

基本的にアクティブラーニングの手法をもって授業を行う。
①テキストを活用し、事前に読み、簡単にまとめたものを基に対話を基にした授業を行う。
②多彩な教育方法を学ぶためゲストスピーカーによる講話を行い、終了後は質疑応答、小レポートを提出する。
③その他必要な資料はスライド等で提示し、グループワークを交えながら学びを深める。

ICT活用

①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。
②レポート提出はGoogleclassroomを介して行う。
③理解度確認テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。
④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。近年は教科書執筆にも携わり、学習指導要領を基にした学習指導についての執筆も行ってきた。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートについては各回ともいくつか紹介し、コメントを付す。
提出を必要とする課題にはルーブリック評価を設定し、受講生が取り組む目的を明確にする。提出後は総評を付して返却を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・テキストのP3～P8「はじめに」をもとに、本授業のガイダンスを行う。 ・教育方法と呼ばれるものの具体例を元に、その考察を行う。	テキストをp.3-8までを読み、授業で考えたい問いや疑問を捉えておく。(90分)	テキストの第1章を読み、内容を捉えておく。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	テキストの第1章をもとに、教育方法論とはどういうものなのかを、対話を通して明らかにしていく。特に現代の教育の諸課題が何かや、自分の教育体験をもとに考えを深める。	テキスト第1章を読み、対話したい問いを立てる。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、小レポートを作成する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	小学校の教育実践の具体例を捉え、そこの底流にある教育方法の理念について、グループワークを通して深める。	テキスト第2章を読み、概要を捉えておく。(60分) 自身の小学校の経験等を想起し、「教育方法」としてどんな理念が見えるかを考察しておく(30分)	今日の教育実践の事例や、グループでの対話を振り返り、小レポートを作成する(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	テキストの第2章をもとに、「教え」と「学び」の関係性について、対話を通して明らかにしていく。特に教育の方法の変化について、その妥当性や意味を深める。	テキスト第2章を読み、対話したい問いを立てる。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、小レポートを作成する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	幼稚園の教育実践の具体例を捉え、そこの底流にある教育方法の理念について、グループワークを通して深める。	テキスト第4章を読み、概要を捉えておく。(60分) 自身の幼稚園・保育園の経験等を想起し、「教育方法」としてどんな理念が見えるかを考察しておく(30分)	今日の教育実践の事例や、グループでの対話を振り返り、小レポートを作成する(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	テキストの第4章をもとに、「体験学習」「経験主義」について、対話を通して明らかにしていく。	テキスト第4章を読み、対話したい問いを立てる。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、小レポートを作成する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	幼稚園や学校以外の教育実践の具体例を捉え、そこの底流にある教育方法の理念について、グループワークを通して深める。	テキスト第6章を読み、概要を捉えておく。(60分) 自身の学校以外の教育に関する経験等を想起し、「教育方法」としてどんな理念が見えるかを考察しておく(30分)	今日の教育実践の事例や、グループでの対話を振り返り、小レポートを作成する(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	テキストの第6章をもとに、教育方法の捉え方について対話を通して明らかにしていく。本授業のまとめを行う。	テキスト第6章を読み、対話したい問いを立てる。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、小レポートを作成する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業での小レポートの作成(60%) 事前のテキスト購読への取り組み(20%) 授業参加度(20%)
その他	0	

教科書

『教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと』汐見稔幸 河出新書 2021

参考文献

『教育とは何か』大田堯 岩波新書 1990
『人間教育のために』梶田叡一 金子書房 2016
他適宜紹介をします。

履修条件・留意事項等

備考欄

・必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きし、学生の皆さんと対話する時間を設けます。
・実践事例とその検討を第3・5・7回の授業で行う際は、テキスト講読で得られた知見も関連させながら深めていきます。

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	ICTを活用した教育の理論と方法					ナンバリング	未定
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

「ICTを活用した教育の理論と方法」は、教育(学校・幼稚園)におけるICTの活用に関わる現状と課題を認識し、これまでの教育のIT化やGIGAスクール構想の理念等に学びながら、意欲的に考察し、実践力を養うための科目である。
ディプロマポリシーにおける「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する。
また、幼稚園教諭、小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「教科教育法」「幼稚園および小学校教育実習」と接続する科目である。

授業の概要

教育現場におけるICT(情報通信技術Information and Communication Technology)の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。具体的には授業における児童及び教員のICT活用、校務でのICT活用、学習評価に関する活用などを取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について具体的な指導法や教育課程上の取り扱いについて解説する。その上で現在ICT教育で取り上げられている議論も踏まえ、その利活用について多面的に考察していく。本科目では実際に学生によるタブレット等の操作も行い、1人1台端末時代の教育に即応するスキルについても身につけていく。

到達目標

・教育現場におけるICT活用に意義や理論、学習活動の方法、校務での活用等について理解し、説明することができる。(知識)
・学校現場での利活用を踏まえたICT機器の操作ができる。(技能)
・ICTを活用した教育についての理論と実践を結びつけて考察する態度を身につけることができる。(態度)

授業の方法

①資料を配布し、対応するスライドをもとに授業を行う。
②教育現場でのICT機器活用の様子について写真や動画等を視聴し、理解を深める。
③第4回～第7回は各自PCを持参し、グループワークによる実技を行う。
④理解度確認テストを1回行い、基本的な知識の定着を図る。
⑤授業で課す簡単な調査や制作物などは適宜提出する(授業内で指示する)。

ICT活用

①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。
②レポート提出はGoogleドキュメントにて行う。
③理解度確認テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。
④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(社会・理科)、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め、コロナ禍における研究実践を推進した他、勤務校においてはGIGAスクール構想を受けICT教育の責任者を担った経験をもつ。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは回答後すぐに答えが確認できるように、Googleフォームにて行う。課題のレポートはGoogleにて提出する。
小レポートについては各回ともいくつか紹介し、コメントを付す。
提出を必要とする課題にはルーブリック評価を設定し、受講生が取り組む目的を明確にする。提出後は総評を付して返却を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.授業のガイダンス 2.Society5.0に関する議論、経済産業省による「未来の教室」と文部科学省のGIGAスクール構想について説明する。さらに、Steam教育の概要について理解し、教育におけるICTの位置づけについて捉える。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	小レポートの作成および、資料を整理し、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	1. 子どもの生活世界とICTの議論について様々な角度から取り上げて考察する。 2.一人一台端末による学習環境の変化とそれに伴う実践事例について理解する。 3.教育現場での情報化による学校の変化や、校務での活用の実際について理解する。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	小レポートの作成および、資料を整理し、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	1.令和の日本型学校「個別最適な学びと協働的な学び」における、ICTの役割について理解を深める。 2.ICTを活用した遠隔教育の実際と活用について理解する。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	小レポートの作成および、資料を整理し、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	理解度確認テストを行う。 一人一台端末と教育活動での利活用の実際① 実技演習として、Google Workspace for Educationの操作を行う。教師側、生徒側双方の操作の違いについて理解し課題の設定、回収、評価までの演習を行ってみる。※充電されたパソコンを持参のこと	理解度確認テストの準備をしておく(30分) インターネットでGoogle Workspace for Educationの概要や操作方法について検索し、予習しておく(60分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際② 様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、特に活用されるGoogleフォームの作成、スライド、ドキュメント、スプレッドシートの活用やofficeとの連携について実践的に理解する。※充電されたパソコンを持参のこと	配られた資料について事前に読み、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際③ 様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、実際の教科や教育活動場面を想定し、その場面において学習者が活用するワークシート等を作成してみることを通して、理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと	小学校の授業での一人一台端末の活用例について文部科学省StuDX Style Steamライブラリー、EdTechライブラリー等のサイト等で調べ、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際④ プログラミング教育について理解する。アンプラグドによるプログラミング教育を通したプログラミング的思考とはどういうものかを理解するとともに、具体的なプログラミング操作としてのscratchを取り上げ実際にプログラムを組む活動を通して理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと これまでの実技を踏まえて、デジタル教材の作成を各自行う。	各自PC等でScratchのサイトに接続し、アカウントを作成しログイン処理をしておくこと。配布資料を事前に読み、疑問などを整理しておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	メディアリテラシーの問題、学校でのICT機器活用に関しての課題、授業の画一化の課題を取り上げるとともに、デジタルシチズンシップの概念と具体的な実践について触れ、教育でのICT活用について多面的に理解を深める。	インターネット等でシラバスで示した語句について検索を行い、疑問点を整理しておく(90分)	これまでの資料、テキストなどを読み返し、レポート課題を進める(90分)
担当教員	佐々木 英明		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度（実技演習の取り組み、教材作成による提出物など）40% 小レポート提出 40% 理解度確認テスト 20%
その他	0	

教科書

なし。必要な資料は授業にて配布する。

参考文献

「ICT活用の理論と実践」稲垣忠/佐藤和紀編著 2021年 北大路書房
「オンライン脳」川島隆太 著 2022年 アスコム
「教育DXで未来の教室をつくろう」 2021年 浅野大介著 学陽書房
「第四次産業革命と教育の未来: ポストコロナ時代のICT教育」 佐藤学 著 2021年 岩波ブックレット
「情報通信技術を活用した教育の理論および方法」2023年 実教出版
「ICTを使いこなせる教員養成講座」信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター 編著 さくら社 2023年
「社会科プロ発！"ICT活用"ヒント辞典～授業アップデートのアイデア50～」佐々木英明・山方貴順 編著 学芸みらい社

履修条件・留意事項等

毎回の授業ではインターネット・学内Wi-Fiにつながる端末（スマートフォン、タブレット）を持参のこと。
特に第4回～第7回授業は、十分に充電されたパソコンを各自持参のこと。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	教育相談の基礎と方法(1組)					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

この授業は、こども発達学科における小学校・幼稚園教職科目として指定されています。ここでは、教育相談の成り立ちや教育相談の基礎理論の学習を深め、課題解決発展型の取組ができる力を修得していきます。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている」に関わる科目です。

授業の概要

今日、いじめ、不登校、学級崩壊の問題に代表されるように、学校はさまざまな問題を抱えています。このような学校現場の状況に教師として適切に対処していくためには、教科の指導力と合わせて児童・生徒の心の問題に対処できる力が求められています。この演習では、教育相談の成り立ち、教育相談の基礎理論についての学習を深め、教育相談に関わる関係者(保護者を含む)と適切な連携を取り、課題解決発展型の取組ができる力を習得することを意図した学習を展開します。

到達目標

1.　教育相談について、基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。
2.　集団遊戯療法に関するロールプレイ・行動観察・分析の体験学習を通して、児童生徒理解のための観察力を高めることができる。
3.　教育相談における学校と関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。

授業の方法

この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレィ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握すること。(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解すること。(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは、「私の偏愛マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、教育相談に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自己理解というキーワードを心理学的視点から整理すること。(30分)	完成させたマップを通して自己理解を深めること。(15分)
担当教員			
第3回	教育相談と臨床心理学(1):教育相談と臨床心理学の歴史と背景について学びます。ここでは、教育相談と臨床心理学の成り立ちについて理解を深めます。また、教育相談に関わる学校組織の構成、学校と臨床心理学の専門職のかかわりについても学びます。	関連文献を読んで概要をまとめること。(30分)	配布資料について専門用語を中心にして整理すること。(15分)
担当教員			

第4回	教育相談と臨床心理学(2)：児童生徒理解にかかわるパーソナリティの発達に関する理論を学習します。ここでは、主として、ユングおよびフロイトによる学説について理解を深めます。	パーソナリティというキーワードについて調べること。(25分)	配布資料を読んで専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第5回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(1)：来談者中心療法の理論について学習します。ここでは、ロジャーズの提唱した来談者中心療法の理論について教育相談事例を交えながら実践的に学びます。自己概念と経験の一致・不一致に関しては、具体的な事例を想定して、相談の進め方について理解を深めます。	来談者中心療法について調べること。(20分)	事例に対する自分の考えをまとめること。(25分)
担当教員			
第6回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(2)：心理アセスメントについて学習します。ここでは、教育相談・カウンセリングにおける心理アセスメントの位置づけ、方法、流れについて学びます。また、知能検査、性格検査の活用については、実際の検査の体験学習を通して理解を深めます。	心理アセスメントというキーワードについて調べること。(20分)	関連文献を読んで概要をまとめること。(25分)
担当教員			

第7回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(1):学校における教育相談と生徒指導との関わりについて学習します。ここでは、児童生徒理解の視点から、学校心理学における心理教育的援助サービスの構造についても学びを深めます。	学校心理学というキーワードについて整理すること。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第8回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(2):スクールカウンセリングにおける「発達の視点」について学習します。ここでは、臨床発達支援の視点による児童生徒理解のあり方について学びます。ブロンフェンブレンナーが提唱した生態学的システム論についても、事例を通して理解を深めます。	生態学的システム論について調べること。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第9回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(3):スクールカウンセリングに関わって、ゲストスピーカーを招聘し、さまざまな特性の児童生徒の理解と支援の実際について学びます。ここでは、特に、障がいのある児童生徒における学校生活、対人関係などに関する具体的な相談事例を検討することを通して、これからのスクールカウンセリングのあり方について学びを深めます。	児童生徒理解に関して学んだことを整理すること。(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(25分)
担当教員			

第10回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(1):児童を対象とした集団遊戯療法の理論について学びます。ここでは、教育相談に関わって、心理療法と遊戯療法との関係性について理解を深めます。また、文献講読を通して「関係力育成プログラム」の理論の枠組みを学習します。	遊戯療法というキーワードについて調べること。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(15分)
担当教員			
第11回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(2):教育相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレィ実習を行います。ここでは、教育相談の事例を想定し、対象児童の状態像をイメージした「関係力育成プログラム」に基づくロールプレィを実施します。子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	課題レポートを作成すること。(30分)	B-S評定スケールによる評価を行うこと。(15分)
担当教員			
第12回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(3):教育相談の事例を想定した集団遊戯療法のロールプレィに基づいて行動観察を行います。ここでは、ロールプレィにおける行動に関して、クリッカーを用いた分析の方法を学びます。また、これらの学習の成果についてレポート作成を行います。	関連文献を読んで概要をまとめること。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(15分)
担当教員			

第13回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(1)：教育相談における学級担任、保護者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等のさまざまな立場とそれらの連携・協働について理解を深めます。また、関係機関と学校・教師との協力関係について討論を通して学びます。	スクールカウンセラーの役割について調べること。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第14回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(2)：教育相談における関係機関との連携・協働について、事例を関する分析および討論を通して学習します。ここでは保護者との連携・協働についても、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること。(30分)	配布資料について専門用語を中心にまとめること。(15分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理すること。(25分)	配布資料および関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行うこと。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関係するレポート作成によって評価します。
その他	25	集団遊戯療法に関しては「クリッカーによる行動分析」および所定の書式で作成した「ロールプレイ体験レポート」によって評価します。

教科書

教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。

参考文献

教師のための教育相談-日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援 西本絹子著 萌文書林
教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 西見奈子編著 萌文書林
高度情報化時代の学びと教育 渡部信一編著 東北大学出版会
生徒指導提要(改訂版) 文部科学省

履修条件・留意事項等

この演習では、教育相談に関する、ロールプレィ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校・幼稚園教職科目						
科目名	教育相談の基礎と方法(2組)					ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

この授業は、こども発達学科における小学校・幼稚園教職科目として指定されています。ここでは、教育相談の成り立ちや教育相談の基礎理論の学習を深め、課題解決発展型の取組ができる力を修得していきます。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている」に関わる科目です。

授業の概要

今日、いじめ、不登校、学級崩壊の問題に代表されるように、学校はさまざまな問題を抱えています。このような学校現場の状況に教師として適切に対処していくためには、教科の指導力と合わせて児童・生徒の心の問題に対処できる力が求められています。この演習では、教育相談の成り立ち、教育相談の基礎理論についての学習を深め、教育相談に関わる関係者(保護者を含む)と適切な連携を取り、課題解決発展型の取組ができる力を習得することを意図した学習を展開します。

到達目標

1.　教育相談について、基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。
2.　集団遊戯療法に関するロールプレイ・行動観察・分析の体験学習を通して、児童生徒理解のための観察力を高めることができる。
3.　教育相談における学校と関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。

授業の方法

この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレィ学習、クリッカーを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握すること。(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解すること。(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは、「私の偏愛マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、教育相談に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自己理解というキーワードを心理学的視点から整理すること。(30分)	完成させたマップを通して自己理解を深めること。(15分)
担当教員			
第3回	教育相談と臨床心理学(1):教育相談と臨床心理学の歴史と背景について学びます。ここでは、教育相談と臨床心理学の成り立ちについて理解を深めます。また、教育相談に関わる学校組織の構成、学校と臨床心理学の専門職のかかわりについても学びます。	関連文献を読んで概要をまとめること。(30分)	配布資料について専門用語を中心にして整理すること。(15分)
担当教員			

第4回	教育相談と臨床心理学(2):児童生徒理解にかかわるパーソナリティの発達に関する理論を学習します。ここでは、主として、ユングおよびフロイトによる学説について理解を深めます。	パーソナリティというキーワードについて調べること。(25分)	配布資料を読んで専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第5回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(1):来談者中心療法の理論について学習します。ここでは、ロジャーズの提唱した来談者中心療法の理論について教育相談事例を交えながら実践的に学びます。自己概念と経験の一致・不一致に関しては、具体的な事例を想定して、相談の進め方について理解を深めます。	来談者中心療法について調べること。(20分)	事例に対する自分の考えをまとめること。(25分)
担当教員			
第6回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(2):心理アセスメントについて学習します。ここでは、教育相談・カウンセリングにおける心理アセスメントの位置づけ、方法、流れについて学びます。また、知能検査、性格検査の活用については、実際の検査の体験学習を通して理解を深めます。	心理アセスメントというキーワードについて調べること。(20分)	関連文献を読んで概要をまとめること。(25分)
担当教員			

第7回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(1):学校における教育相談と生徒指導との関わりについて学習します。ここでは、児童生徒理解の視点から、学校心理学における心理教育的援助サービスの構造についても学びを深めます。	学校心理学というキーワードについて整理すること。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第8回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(2):スクールカウンセリングにおける「発達の視点」について学習します。ここでは、臨床発達支援の視点による児童生徒理解のあり方について学びます。ブロンフェンブレンナーが提唱した生態学的システム論についても、事例を通して理解を深めます。	生態学的システム論について調べること。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第9回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(3):スクールカウンセリングに関わって、ゲストスピーカーを招聘し、さまざまな特性の児童生徒の理解と支援の実際について学びます。ここでは、特に、障がいのある児童生徒における学校生活、対人関係などに関する具体的な相談事例を検討することを通して、これからのスクールカウンセリングのあり方について学びを深めます。	児童生徒理解に関して学んだことを整理すること。(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(25分)
担当教員			

第10回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(1):児童を対象とした集団遊戯療法の理論について学びます。ここでは、教育相談に関わって、心理療法と遊戯療法との関係性について理解を深めます。また、文献講読を通して「関係力育成プログラム」の理論の枠組みを学習します。	遊戯療法というキーワードについて調べること。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(15分)
担当教員			
第11回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(2):教育相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレィ実習を行います。ここでは、教育相談の事例を想定し、対象児童の状態像をイメージした「関係力育成プログラム」に基づくロールプレィを実施します。子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	課題レポートを作成すること。(30分)	B-S評定スケールによる評価を行うこと。(15分)
担当教員			
第12回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(3):教育相談の事例を想定した集団遊戯療法のロールプレィに基づいて行動観察を行います。ここでは、ロールプレィにおける行動に関して、クリッカーを用いた分析の方法を学びます。また、これらの学習の成果についてレポート作成を行います。	関連文献を読んで概要をまとめること。(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(15分)
担当教員			

第13回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(1)：教育相談における学級担任、保護者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等のさまざまな立場とそれらの連携・協働について理解を深めます。また、関係機関と学校・教師との協力関係について討論を通して学びます。	スクールカウンセラーの役割について調べること。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること。(20分)
担当教員			
第14回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(2)：教育相談における関係機関との連携・協働について、事例を関する分析および討論を通して学習します。ここでは保護者との連携・協働についても、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること。(30分)	配布資料について専門用語を中心にまとめること。(15分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理すること。(25分)	配布資料および関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行うこと。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関係するレポート作成によって評価します。
その他	25	集団遊戯療法に関しては「クリッカーによる行動分析」および所定の書式で作成した「ロールプレイ体験レポート」によって評価します。

教科書

教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。

参考文献

教師のための教育相談-日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援 西本絹子著 萌文書林
教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 西見奈子編著 萌文書林
高度情報化時代の学びと教育 渡部信一編著 東北大学出版会
生徒指導提要(改訂版) 文部科学省

履修条件・留意事項等

この演習では、教育相談に関する、ロールプレィ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 国語					ナンバリング	3540
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

「国語科概論」に続き、小学校における国語科教育を、授業実践の視点からより深化させる科目である。
　ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育のあり方を考え続けることができる（思考・判断・表現）」ことと特に関係がある科目である。また「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）」ことも関係する。

授業の概要

・小学校国語科教育の目標、内容、指導方法、評価の理論と実際の指導に関する知識を「学習指導要領の理念」に基づき理解する。
・プロフェッショナル教師の講話を聴講し、教育現場に臨む態度を身につける。
・学習指導案の作成・模擬授業実施・自己評価・相互評価の経験による授業構築・実践技能を習得する。

到達目標

・学習指導要領の目標・内容の持つ理念を授業づくりに応用できる。
・児童の発達段階と実態を考慮した指導案作成や授業実践ができる。
・自己や他者の授業実践を正しくフィードバックし、授業づくりの改善に応用できる。
・ICT機器を効果的に活用する方法を理解し、授業実践に応用できる。

授業の方法

・教材配信システムを用いて配信したハンドアウト教材、板書、OHC等の視聴覚メディア等を使用した講義 形式での説明に基づき、グループワーク（模擬授業）や自己・相互評価を行う。
・授業後半は模擬授業の計画立案・実施のグループワーク中心に行う。
・自己・相互評価（フィードバック）を模擬授業に対して行う。

ICT活用

・電子黒板等の活用による模擬授業を通し、国語科における効果的なICT活用について討議する。

実務経験のある教員の教育内容

・公立小学校での担任経験や研究団体での研究成果を生かし、学校教育、特に国語科・書写書道教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かして多面的な視野に基づく初等の国語教育指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した指導案と模擬授業の内容に関して教員・学生による相互評価・自己評価を行い、その内容を全員でシェアする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【学習指導要領を通じて国語科教育（書写を含む）を知ろう】 小学校国語科の目標・内容・理念・歴史を具現する「学習指導要領」の理念を、〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の目標や内容から理解する。	課題の事前予習（教科書の準備・一読）（90分）	授業の要点・課題の整理（90分）
担当教員	佐々木　雅哉		
第2回	【教育課程・年間指導計画について理解しよう】 学習指導要領「総則」、「国語」（書写を含む）などから教育課程や年間指導計画（教育内容・方法・評価等）立案の意義と実際について理解する。	課題の事前予習（教科書の準備・一読）（90分）	授業の要点・課題の整理（90分）
担当教員			
第3回	【学習指導案について理解しよう】 授業指導案の形式と書き方について理解する。 「良い授業」とは何か 「教師の役割」「国語科の役割」	課題の事前予習（90分）	授業の要点・課題の整理（90分）
担当教員			

第4回	【指導案づくり(1)】 授業のつくり方 指導案の立案の仕方 様々な例や方法論に基づき指導案作成への理解を深める。	課題の事前予習(教科書の準備・一読)(90分)	授業の要点・課題の整理(90分)
担当教員			
第5回	【指導案づくり(2)】 模擬授業の計画を立てよう ・研究教材によるグループ分け ・研究方法の共有 ・模擬授業の全体計画立案	課題の事前予習(教科書の準備・配信教材の一読・指導案作成)(90分)	授業の要点・課題の整理(90分)
担当教員			
第6回	【教材研究1】 ・グループワークによる教材研究	課題の事前予習(90分)	授業の要点・課題の整理 (図書館の資料やICTを授業に活かすという視点を持ち、指導案作成のための教材研究を進める)(90分)
担当教員			

第7回	【教材研究2】 ・グループワークによる教材研究	課題の事前予習。(教科書の準備)(90分)	授業の要点・課題の整理(図書館の資料を活かすという視点を持ち、指導案を完成させていく。外部講師への質問等準備。)(90分)
担当教員			
第8回	【プロから学ぼう】 現役教師の出張授業の内容から国語科授業の実態を理解する。	課題の事前予習・外部講師への質問等準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・外部講師への礼状作成。(90分)
担当教員			
第9回	【模擬授業1】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う	課題の事前予習 指導案研究(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員			

第10回	【模擬授業2】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う ・授業観察を行い、相互評価する	指導案研究(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員			
第11回	【模擬授業3】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う ・授業観察を行い、相互評価する	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員			
第12回	【模擬授業4】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う ・授業観察を行い、相互評価する	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員			

第13回	【模擬授業5】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う ・授業観察を行い、相互評価する	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員			
第14回	【模擬授業6】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う ・授業観察を行い、相互評価する	課題の事前予習・模擬授業準備。(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・次回模擬授業準備(90分)
担当教員			
第15回	【模擬授業7】 ・3つのグループより、1人25分程度の授業を行う ・授業観察を行い、相互評価する	課題の事前予習・模擬授業準備. 総フィードバックの準備(90分)	授業の要点・課題の整理・模擬授業相互評価・総フィードバック(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指定された授業内課題:50%、模擬授業と授業作り:50%。 出席率を評価対象とする。
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 ―平成30年2月28日初版発行／文部科学省／東洋館出版社
国語科概論で使用した教科書を使用する。

参考文献

履修条件・留意事項等

履修条件：小学校の教員免許状取得を目指す者。
留意事項等：招聘講師の都合等、状況に応じて授業の順番や内容を変更する場合がある。
授業時間外にも、国語科指導に有益な問題を出すことがあるので、積極的に取り組むこと。
出席数を満たし、かつ模擬授業の構成・実施に参加し、上記課題等を提出した者を評価対象とする。
受講者数により、講義、また模擬授業の形態を変更することがある。

備考欄

国語科概論等で購入したもの以外の教科書を使用するときは、各自で準備・購入すること。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 小学校教職科目						
科目名	教科教育法 社会					ナンバリング	3542
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 英明						

授業の位置づけ

1 授業「教科教育法 社会」(以下、本授業)は、社会科における教育目標、育成を目指す資質能力を理解し、当該教科の学習内容について背景となる現代社会の持つ課題を認識し、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業を構想できる力を身につける科目である。
2 また、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」と関連する科目である。
3 小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「生活科概論」、「社会科概論」、「小学校教育実習」と接続する科目である。

授業の概要

1 本授業は、現代における「社会科」の課題を探究し、豊かな授業実践を創造するための知見を学ぶ。(知識・理解)
2 そして、「主体的・対話的で深い学び」を実践するためのスキルを養成する。(技能)
3 さらに、教師自身が良き「学び手」となるため、探究的な活動に参加する意欲的態度を養成する。(意欲・態度)

到達目標

1 平成29年版小学校学習指導要領「社会科」の目標及び、主な内容、全体構造とそれに対応した授業方法について理解し、説明することができる。（知識・技能）
2 現代日本における「社会科」の課題に対応した授業づくりを構想できる。（技能）
3 現代日本における「社会科」の授業づくりへの探究的姿勢をもって参加できる。（態度）

授業の方法

1 パワーポイントと配布印刷物を用いて授業を進める。
2 小学校における社会科授業の具体例を示すため、模擬授業等の形を取り入れる。説明的な内容は講義形式で進める。
3 毎回の講義ではレスポンスシートの作成と紹介を行う。
4 実践的な内容理解を深め、実践力を身につけるため、ほとんどの授業において、グループワークを行う。

ICT活用

1 資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。
2 レポート提出はGoogleドキュメントにて行う。
3 Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。近年は教科書執筆にも携わり、学習指導要領を基にした学習指導についての執筆も行ってきた。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

リフレクションシートから、論点を選び、全体に紹介する。また、G-classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加えることで、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 授業方法、授業計画、評価、についての説明を行う。 2. 受講者の「社会科教育」の被教育経験について交流する。 3. 模擬授業を通し、この授業で身につけたい社会科教育の「技法」について提示する。	シラバスを読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	1. フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2. 子どもの発達・認識の広がりかたと社会科の授業について、小学校3年生「町探検」の授業を通して概括する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答。 2. 地域産業の授業の計画実践～小学校中学年における、産業学習～① 主に、農業の学習について、北海道の農業について概括しながら模擬授業をして、授業方法を学習する。 3. レスポンスシートの作成・提出	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 地域産業の授業の計画と実践～小学校中学年における、産業学習～② 主に、工業の学習について、地域の工業について概括しながら模擬授業をして、授業方法を学習する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習しておく。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. SDGsの視点からの、ライフラインの現状と課題、及び授業化について 小学校4年生ではゴミ・水道の学習単元がある。SDGsの視点から地域持続の問題を、ライフライン問題から掘り下げて授業をする方法について学習する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 社会科見学・体験学習の意義と授業方法 社会科においては見学・体験といった身体性を生かした学習が効果的であり、また必要である。その意義と方法について理解し、授業の構想を立てることができるようにする。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 子どもの社会認識を育てるための地域史の授業① 小学校4年生の地域史の単元について、北海道の歴史の特性（続縄文文化・アイヌ民族・開拓史）を踏まえた授業の展開について考察する。 3. レスポンスシートの作成・提出	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。（90分）	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第8回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 子どもの社会認識を育てるための地域史の授業② アイヌ文化伝承者の方の話を通して、北海道の歴史や文化の認識を深める。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。（90分）	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。（90分）
担当教員	佐々木　英明		
第9回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 子どもの社会認識を育てるための地域史の授業③ 北海道の産業史、アイヌ民族に関する授業を通してして、社会認識を育む社会科教育について考察する。 3. 提出課題①の説明	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。（90分）	提出課題①に取り組む。（90分）
担当教員	佐々木　英明		

第10回	地域を捉える教師の視点とその方法 自分のゆかりのある地域について、産業、歴史、数値データを調べ、教材研究を行う。(提出課題①)	提出課題①に向けて下調べを行っておく。(90分)	提出課題①を作成し提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	1.リスクを授業化する理論と方法①～防災教育～ 自然災害を想定した単元、授業作りの実践と方法について学習をする。 2.社会科の指導計画作成の方法、学習指導案の作成方法について提示し、これまでの講義内容を踏まえて、指導計画案・学習指導案の作成行う(提出課題②に向けた準備)	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。また、授業構想に向けた準備を行う。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	1.レスポンスシートの紹介と質疑応答 2.リスクを授業化する理論と方法②～現代的課題に即応する社会科授業づくり～ 感染症などの現代的課題に即応した単元、授業作りの実践と方法について学習をする。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	1.レスポンスシートの紹介と質疑応答 2.日本の産業学習の典型を捉える 小学校5年生の社会科で扱われる日本の産業学習について模擬授業などを踏まえながら、育成したい資質・能力とは何かについて考察する。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	1. レスポンスシートの紹介と質疑応答 2. 主権者教育をめざした小学校社会科の授業 小学校6年、日本国憲法の授業を通して、主権者教育の方法について学ぶ。	シラバスを読み該当する箇所の指導要領解説を読み、要点を整理しておくこと。(90分)	配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめ、レスポンスシートを提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	1.フィードバック:前回のレスポンスシート内容から全体で考えることを共有する。 2.小学6年生の歴史学習における、歴史上の人物の扱いと、その授業方法についての考察。	これまでの講義資料を読み返し、自身の社会科指導計画・指導案の構想を立てる。(90分)	社会科指導計画・学習指導案の作成を行い期日までに提出する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の提出課題 50% 授業後のレスポンスシートの提出度 40% 授業への参加度 10%
その他	0	

教科書

・「小学校学習指導要領解説社会編」文部科学省（2019）（HPでダウンロード可能）
授業内でテキスト及び必要な資料を印刷配布する。

参考文献

・「これからの社会科教育はどうあるべきか」澤井陽介・中田正弘・加藤寿朗・宗實直樹 東洋館出版社 2023
・「社会科教科書のわかる教え方 5・6年」峯明秀監修・佐々木英明編著 学芸みらい社 2022
・「社会科教科書のわかる教え方 3・4年」峯明秀監修・山方貴順編著 学芸みらい社 2022
・「『～のはずなのに、なぜ？』を教材化する社会科学習」澤井陽介監修・北海道社会科教育連盟編集 東洋館出版社 2022
・「社会科授業にSDGs挿入ネタ65」峯明秀・西口卓磨編著 学芸みらい社 2022
・「小学校学習指導要領」文部科学省（2019）（HPでダウンロード可能）

履修条件・留意事項等

レポートなどの課題は締め切りを守ること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 算数					ナンバリング	3544
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	但木　功、丹尾　春彦、櫻田　和也						

授業の位置づけ

授業の目的は、算数科の目標・指導内容・指導方法・評価に関する基礎的な理解、子どものつまずきの予想や適切な指導方法の判断と実践等、算数科を指導する教員に求められる資質・能力を育成することであり、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」に位置づき「算数概論」を基礎とする科目である。

授業の概要

算数科のねらいと算数科の指導の本質を理解するために、学習指導要領を分析したり教科書や学習プランから具体的な事例を挙げたりすることで、算数科で育みたい「数学的に考える資質・能力」について学ぶ。また、実際の授業の様子を紹介したり、模擬授業を行ったりすることで、実践上の課題や留意事項について考える授業にする。

到達目標

1. 算数科の教科は複数あり、教科書の違いによって単元の配置やアプローチの仕方が異なることを知ったり、現在使用している教科書と過去の教科書を比較したりすることで教材研究や指導案づくりに役立つことを理解することができる。　2. いろいろな指導方法があることを理解し、子どもが興味をもち、主体的に授業に参加できるようなプランづくりを考えることができる。
3. 学習指導要領に基づいて算数科の目標や内容を理解することができる。また、模擬授業を通して教材研究の仕方や授業づくり、指導案の作成の仕方について学ぶことができる。

授業の方法

配布印刷物をもとに講義形式で行いますが、実践上あるいは今日的な課題については、学修者へ意見を求めたり、学修者からの質問を授業に取り入れたりしながら学修者と共に考えるような授業にします。また、3～4人程度のグループをつくり、協働で教材研究を行い、指導案を作って25分程度の模擬授業を行ってもらいます。

ICT活用

ICTを活用した実践例を紹介したり、実際に使ったりする。

実務経験のある教員の教育内容

30年以上北海道地区数学教育協議会に所属し、教科書の指導内容を比較・検討しながら年間2～3本の実践記録をつくってきた。算数を研究する学校に勤務した際は、研究担当として授業づくりに積極的に関わってきた。これらの経験を生かし、「教科教育法 算数」について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業後、学修者に「授業後のポイント並びに質問」を書いてもらい、次の授業の初めに取り上げたり、次回以降の講義の内容に付け加えたりする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①オリエンテーション（本講義の目的と概要、評価について） ②小学校学習指導要領～算数編～について1 　算数科のいくつかの単元を取り上げ、指導要領の改訂にともないどのように変遷してきたかを学ぶ。 ③教室実践の紹介	シラバスを読んで学習内容について確認しておくこと。（90分）	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。（90分）
担当教員	但木　功		
第2回	①小学校学習指導要領～算数編～について2 現行の指導要領の特徴について学ぶ ②教室実践の紹介	前回の授業で使った資料を読んだり授業を振り返ったりしておくこと。（90分）	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。（90分）
担当教員	但木　功		
第3回	低学年の授業実践 その1　2年:かけ算 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書（2年:かけ算）の指導内容を確認しておくこと。（90分）	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。（90分）
担当教員	丹尾　春彦		

第4回	低学年の授業実践 その2　　2年:水のかさ ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(2年:水のかさ)の指導内容を確認しておくこと。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	丹尾　春彦		
第5回	中学年の授業実践 その1　3･4年:小数 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書3･4年:小数)の指導内容を確認しておくこと。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	櫻田　和也		
第6回	中学年の授業実践 その2　　4年:面積 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(4年:面積)の指導内容を確認しておくこと。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	櫻田　和也		

第7回	高学年の授業実践　5年:多角形の面積、6年:比例 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(5年:四角形や三角形の面積、6年:比例)の内容を確認しておくこと。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	但木　功		
第8回	算数の授業づくりのポイント ①授業づくりと教材研究 ②中学数学を見据えて(整数の見方) ③校内研究の実際、授業の紹介(指導案案) ④模擬授業に向けて、学年:単元名を決定する。	グループごとで、図書館に所蔵してある算数科の教科書(教育出版)を参照し、模擬授業の単元を決めておくこと。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	但木　功		
第9回	①指導案の作成と模擬授業の計画　その1 ②グループで模擬授業の分担を決め、授業に向けて準備する。	模擬授業に向けて、グループで準備を進める。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	但木　功		

第10回	①指導案の作成と模擬授業の計画　その2 ②グループで模擬授業の分担を決め、授業に向けて準備する。　③模擬授業の方法、順番を確認する。	模擬授業に向けて、グループで準備を進める。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	但木　功		
第11回	①模擬授業の実施と相互評価1（3グループ） グループごとに模擬授業を行う。1授業25分程度、授業後に10分交流。	模擬授業に向けて、グループで準備を進める。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	但木　功		
第12回	①模擬授業の実施と相互評価2(3グループ) グループごとに模擬授業を行う。1授業25分程度、授業後に10分交流。	グループで模擬授業に向けた準備を進める。(90分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(90分)
担当教員	但木　功		

第13回	①模擬授業の実施と相互評価3（3グループ） グループごとに模擬授業を行う。1授業20分程度、授業後に10分交流。	グループで模擬授業に向けた準備を進める。（90分）	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。（90分）
担当教員	但木　功		
第14回	①模擬授業の実施と相互評価4（3グループ） グループごとに模擬授業を行う。1授業20分程度、授業後に10分交流。	グループで模擬授業に向けた準備を進める。（90分）	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。（90分）
担当教員	但木　功		
第15回	①まとめとこれからの算数教育について ICTを活用した授業の紹介や使い方について ②授業のまとめ	これまでの資料を読んでおくこと（90分）	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。（90分）
担当教員	但木　功		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○各講義における受講の様子、出席状況…20% ○各課題への取り組み状況…40% ○指導案づくり・模擬授業の様子、授業後のレポート…40%
その他	0	なし

教科書

「小学校学習指導要領（文部科学省）」「小学校学習指導要領解説算数編（文部科学省）」備考欄のURLからダウンロードをし、閲覧できるようにしておいてください。

参考文献

指導要領　https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf　　指導要領解説算数編 https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002607_04.pdf

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 理科(1組)					ナンバリング	3546
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。
小学校教諭一種免許状取得のための必修科目であり、事前に理科概論を履修していることが望ましい。

授業の概要

本科目においては、理科概論で学習した、小学校理科の目標、内容の理解を踏まえて、観察・実験の指導法や理科の教材について学習、研究すること中心とする。また、指導案作りや模擬授業を通して、小学校理科の授業づくりについて学ぶ。
①教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現)
③教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)

到達目標

① 理科教材の学習や研究を通して、理科の目標・内容・意義を述べることができる。
② 指導案作りや模擬授業を通して、主体的・対話的な理科の授業を指導できる。

授業の方法

グループ活動を通して小学校理科で取り上げるべき観察・実験を、学生が児童の目線に立って体験することにより、より効果的な指導法を考える。
学生が作成した指導計画に基づいて、模擬授業を行う活動を中心に授業を進める。指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、GoogleFormを用いた学生同士の相互評価も行わせる。
全模擬授業の指導計画集を作成する。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォーム（Google Classroomなど）を活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。また、検索機能を活用した資料の調査を行う。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、Google Driveなどを活用したデータの共有やGoogle Formなどを活用した双方向授業や課題提出を行う。授業に関連した生成AIの活用法についても取り上げる。

実務経験のある教員の教育内容

教育委員会において理科教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして観察や実験を取り入れた小学校理科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。
作成した指導計画を相互評価して、模擬授業について優れている点や改善点をフィードバックする。
模擬授業の指導計画集を作成し、授業後も様々な機会に自他の模擬授業を振り返る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明)。 理科教育の特徴や重点である観察・実験の重視、問題解決の過程、科学的に探求する心、理科を学ぶ意義について再確認させる。理科の授業における情報機器の活用やICT教育について説明する。 指導計画の作成と模擬授業を実施する内容を選択させる。	シラバスを読み授業の内容を理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題1)を提出する。(90分)
担当教員			
第2回	小学校理科3・4年生についての内容を確認し、授業作りについて学ぶ。 数人のグループを編成して観察・実験を行い、授業の工夫や発展的内容について考えさせる。	小学校学習指導要領理科編の3・4年生理科の内容を読んで理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題2)を提出する。(90分)
担当教員			
第3回	小学校理科5年生についての内容を確認し、授業作りについて学ぶ。 数人のグループを編成して観察・実験を行い、授業の工夫や発展的内容について考えさせる。	小学校学習指導要領理科編の5年生理科の内容を読んで理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題3)を提出する。(90分)
担当教員			

第4回	小学校理科6年生についての内容を確認し、授業作りについて学ぶ。 数人のグループを編成して観察・実験を行い、授業の工夫や発展的内容について考えさせる。	小学校学習指導要領理科編の6年生理科の内容を読んで理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題4)を提出する。(90分)
担当教員			
第5回	班で模擬授業を行う内容を決定し、指導計画の作成と模擬授業の準備を行う。	学習指導要領理科編と小学校理科の教科書を調べ、班で模擬授業を行う単元を決める。(90分)	班で模擬授業の指導計画を完成させ、模擬授業で必要な器具や教材をリストアップするとともに、授業の進め方を考える。(90分)
担当教員			
第6回	3年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第7回	3年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第8回	4年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第9回	4年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第10回	5年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第11回	5年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第12回	6年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第13回	6年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第14回	実施した模擬授業についての要点整理(ねらいの焦点化、時間配分、意欲を高める指導法、ICT機器の活用など)を行う。 教員からの指導や学生同士の相互評価の内容を踏まえ、指導計画を修正する。	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画の改善点を検討する。また、模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。(90分)	要点整理の結果を踏まえ、指導計画を修正し指導計画集の原稿を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	北海道教育委員会と連携し、郡部の小中学校における科学教育振興のための取組を学ぶ。 移動理科教室のコンテンツを理解する。 移動理科教室の設備としてのサイエンスカーを見学し、その役割を理解するとともに、移動理科教室の教育的効果について考える。	指導計画と模擬授業の改善点を整理し、発表の準備をしておく。(90分)	指導計画集の原稿の最終確認を行い提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導計画(20%) 模擬授業(40%) 課題(20%) 相互評価票の提出状況(10%) 班における指導計画や模擬授業への貢献度(10%)
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社 ※「理科概論」に引き続いて使用する。

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用
教科書の指導書3, 4, 5, 6年用

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状必修

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 理科(2組)					ナンバリング	3546
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。
小学校教諭一種免許状取得のための必修科目であり、事前に理科概論を履修していることが望ましい。

授業の概要

本科目においては、理科概論で学習した、小学校理科の目標、内容の理解を踏まえて、観察・実験の指導法や理科の教材について学習、研究すること中心とする。また、指導案作りや模擬授業を通して、小学校理科の授業づくりについて学ぶ。
①教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現)
③教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)

到達目標

① 理科教材の学習や研究を通して、理科の目標・内容・意義を述べることができる。
② 指導案作りや模擬授業を通して、主体的・対話的な理科の授業を指導できる。

授業の方法

グループ活動を通して小学校理科で取り上げるべき観察・実験を、学生が児童の目線に立って体験することにより、より効果的な指導法を考える。
学生が作成した指導計画に基づいて、模擬授業を行う活動を中心に授業を進める。指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、GoogleFormを用いて学生同士の相互評価も行わせる。
全模擬授業の指導計画集を作成する。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォーム（Google Classroomなど）を活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。また、検索機能を活用した資料の調査を行う。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、Google Driveなどを活用したデータの共有やGoogle Formなどを活用した双方向授業や課題提出を行う。
授業に関連した生成AIの活用法についても取り上げる。

実務経験のある教員の教育内容

教育委員会において理科教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして観察や実験を取り入れた小学校理科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。
作成した指導計画を相互評価して、模擬授業について優れている点や改善点をフィードバックする。
模擬授業の指導計画集を作成し、授業後も様々な機会に自他の模擬授業を振り返る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明)。 理科教育の特徴や重点である観察・実験の重視、問題解決の過程、科学的に探求する心、理科を学ぶ意義について再確認させる。理科の授業における情報機器の活用やICT教育について説明する。 指導計画の作成と模擬授業を実施する内容を選択させる。	シラバスを読み授業の内容を理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題1)を提出する。(90分)
担当教員			
第2回	小学校理科3・4年生についての内容を確認し、授業作りについて学ぶ。 数人のグループを編成して観察・実験を行い、授業の工夫や発展的内容について考えさせる。	小学校学習指導要領理科編の3・4年生理科の内容を読んで理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題2)を提出する。(90分)
担当教員			
第3回	小学校理科5年生についての内容を確認し、授業作りについて学ぶ。 数人のグループを編成して観察・実験を行い、授業の工夫や発展的内容について考えさせる。	小学校学習指導要領理科編の5年生理科の内容を読んで理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題3)を提出する。(90分)
担当教員			

第4回	小学校理科6年生についての内容を確認し、授業作りについて学ぶ。 数人のグループを編成して観察・実験を行い、授業の工夫や発展的内容について考えさせる。	小学校学習指導要領理科編の6年生理科の内容を読んで理解しておく。(90分)	本日の授業の内容を振り返る課題(課題4)を提出する。(90分)
担当教員			
第5回	班で模擬授業を行う内容を決定し、指導計画の作成と模擬授業の準備を行う。	学習指導要領理科編と小学校理科の教科書を調べ、班で模擬授業を行う単元を決める。(90分)	班で模擬授業の指導計画を完成させ、模擬授業で必要な器具や教材をリストアップするとともに、授業の進め方を考える。(90分)
担当教員			
第6回	3年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第7回	3年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第8回	4年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第9回	4年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第10回	5年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第11回	5年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第12回	6年生A区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第13回	6年生B区分について、数人の班で30分の模擬授業を実施する。 観察・実験の工夫点や安全面への配慮、児童が楽しく意欲的に取り組む指導の方法を考えさせる。 相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	模擬授業を行う学生は、授業の進め方の確認と教材の準備を行う。 その他の学生は、事前に配布される指導計画を読んで内容を理解するとともに、指導計画の相互評価をしておく。(90分)	模擬授業を行った学生は、教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 その他の学生は、模擬授業の相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第14回	実施した模擬授業についての要点整理(ねらいの焦点化、時間配分、学習意欲を高める指導法、ICT機器の活用など)を行う。 教員からの指導や学生同士の相互評価の内容を踏まえ、指導計画を修正する。	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画の改善点を検討する。また、模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。(90分)	要点整理の結果を踏まえ、指導計画を修正し指導計画集の原稿を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	北海道教育委員会と連携し、郡部の小中学校における科学教育振興のための取組を学ぶ。 移動理科教室のコンテンツを理解する。 移動理科教室の設備としてのサイエンスカーを見学し、その役割を理解するとともに、移動理科教室の教育的効果について考える。	指導計画と模擬授業の改善点を整理し、発表の準備をしておく。(90分)	指導計画集の原稿の最終確認を行い提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導計画(20%) 模擬授業(40%) 相互評価票の提出状況(10%) 課題(20%) 班における指導計画や模擬授業への貢献度(10%)
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社 ※「理科概論」に引き続いて使用する。

参考文献

小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用
教科書の指導書3, 4, 5, 6年用

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状必修

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 生活(1組)					ナンバリング	3548
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。
小学校教諭一種免許状取得のために必修の科目である。

授業の概要

小学校の教育課程における生活科の意義や特性について理解する。また、指導計画や学習指導のあり方等について学ぶ。小学校低学年における生活科教育の果たす役割を具体的な活動や体験を通して学ぶ。さらに、小学校生活科の目標、内容の理解を踏まえて、生活科の教材について学習、研究し、指導計画作りや模擬授業を通して、小学校生活科の授業づくりについて学ぶ。
①生活科の意義、内容、特性を理解する。(知識・理解・技能)
②教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
③模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現)
④教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)

到達目標

①学習指導要領や教科書の内容の理解を通して、生活科の目標・内容を述べることができる。
②生活科の授業づくりや教材の学習・研究を通して、目標を実現するための望ましい授業づくりを工夫できる。
③指導計画作りや模擬授業を通して、児童が主体的に学ぶ授業を指導できる。

授業の方法

生活科の意義や特性、内容について、ハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して解説する。学生は生活科の内容の中から、興味・関心ある単元を選択し、プレゼンテーションソフトで発表を行う。学生はグループで作成した指導計画に基づいて模擬授業を行い、指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、指導教員からのアドバイスと、GoogleFormによる学生同士の相互評価を受け、教科指導力の向上につなげる。

ICT活用

プレゼンテーションソフトやGoogle Classroomなどの教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。検索機能を活用した資料の調査を行うとともに、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるようGoogle Drive 等を用いたデータの共有や、Google Formなどを用いた双方向授業や課題提出を行う。
授業に関して生成AIの活用法を考える。

実務経験のある教員の教育内容

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、教科指導に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校生活科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学生の発表については、教員からの評価を行うとともに、他の学生からの質問・感想をフィードバックする。提出された課題については、講評を付記して返却する。作成した指導計画や模擬授業について、教師からの評価と学生の相互評価を行い、優れている点や改善点をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明) ・生活科の授業の振り返り 自分が受けた生活科の授業を振り返り、理想的な生活科の授業について考える。自分の体験をもとに、小グループで話し合って発表する。 ・生活科学習における情報機器の活用やICT教育について説明する。 ・学習内容(1)～(9)について、発表を行う内容を考える。	シラバスを読み授業内容を確認する。(90分)	理想的な生活科の授業について考えたことや他の学生の発表をまとめて(課題1)提出する。(90分)
担当教員			
第2回	森林や川を利用してフィールドワークを行い、自然を観察したり四季の変化に気付かせる授業の内容や指導法を習得する。季節によって生活が変わることや、それを取り入れて生活を楽しむための授業の工夫や配慮について考える。ネイチャーゲームなどを通して、自然に親しむ授業の工夫や配慮について考える。 天候によっては他の授業と入れ替える。	小学校学習指導要領生活編P38～41を熟読し、内容の(5)について理解する。(90分)	フィールドワークで理解したことや考察したことをまとめて(課題2)提出する。(90分)
担当教員			
第3回	駅や公共施設を利用してフィールドワークを行い、それらの良さや役割を理解する授業の内容や指導法を習得する。身の回りにはみんなで使う施設とそれを支えている人々がいることを理解し、大切に正しく利用しようとするための授業の工夫や配慮について考える。自分が生活する地域で働いたりしている人々について考える授業の内容や指導法を習得する。自分の生活が様々な人や場所と関わっていることや、地域に適切に接したり、安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。 天候によっては他の授業と入れ替える。	小学校学習指導要領生活編P33～38を熟読し、内容の(3)(4)について理解する。(90分)	フィールドワークで理解したことや考察したことをまとめて(課題3)提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			

第4回	内容(1) 学校と生活 発表者は当該単元の内容について発表する。 学内やキャンパスを使って、学校生活に関わる授業の内容や指導法を習得する。学校生活を支えている人々について考えることや、楽しく安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。 内容(2) 家庭と生活 発表者は当該単元の内容について発表する。 家族のことや自分でできることについて考える授業の内容や指導法を習得する。自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活する態度を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P29～33を熟読し、内容の(1)(2)について理解する。(90分)	内容の(1)(2)についての課題(課題4)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			
第5回	内容(3) 地域と生活 発表者は当該単元の内容について発表する。 自分が生活する地域で働いたりしている人々について考える授業の内容や指導法を習得する。自分の生活が様々な人や場所と関わっていることや地域に適切に接したり、安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。 内容(4) 公共物や公共施設の利用 発表者は当該単元の内容について発表する。 駅や公共施設の良さや役割を理解する授業の内容や指導法を習得する。身の回りにはみんなで使う施設とそれを支えている人々がいることを理解し、大切に正しく利用しようとするための授業の工夫や配慮について考える。	「せいかつか かつどうずかん」と教科書の該当する内容を熟読し、内容の(3)(4)について理解する。(90分)	内容の(3)(4)についての課題(課題5)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			
第6回	内容(5) 季節の変化と生活内容 発表者は当該単元の内容について発表する。 第2回の授業を振り返る。 内容(6) 自然や物を使った遊び 発表者は当該単元の内容について発表する。 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりして遊ぶ活動を取り入れた授業の内容や指導法を習得する。自然を利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、みんなと楽しみながら遊ぶための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P41～43を熟読し、内容の(6)について理解する。(90分)	内容の(5)(6)についての課題(課題6)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			

第7回	内容(7) 動植物の飼育・栽培 発表者は当該単元の内容について発表する。 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらが育つ場所、変化や成長の様子を理解する授業の内容や指導法を習得する。それらが生命を持っていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち大切にしようとする気持ちを育てるための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P43～46を熟読し、内容の(7)について理解する。(90分)	内容の(7)についての課題(課題7)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			
第8回	内容(8) 生活や出来事の伝え合い 発表者は当該単元の内容について発表する。 自分たちの生活や地域の出来事を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝える内容や方法を選んだりできる授業の内容や指導法を習得する。身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かり、進んで触れ合い交流しようとする態度を育てるための授業の工夫や配慮について考える。 内容(9) 自分の成長 発表者は当該単元の内容について発表する。 自分自身を振り返る活動を取り入れた授業の内容や指導法を習得する。自分や支えてくれた人々について考え、自分の成長がわかるとともに、支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活しようとするための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P46～51を熟読し、内容の(8)(9)について理解する。(90分)	内容の(8)(9)についての課題(課題8)を提出する。 模擬授業の準備を行う。(90分)
担当教員			
第9回	内容の(1)「学校と生活」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			

第10回	内容の(2)「家庭と生活」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			
第11回	内容の(3)「地域と生活」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			
第12回	内容の(6)「自然や物を使った遊び」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			

第13回	内容の(8)「生活や出来事の伝え合い」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			
第14回	内容の(9)「自分の成長」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第15回	生活科の授業づくりについての要点整理をしながら、自分が作成した指導計画の改善を行う。改善した指導計画を全体でまとめ指導計画集を作成する。 単元の指導計画の作成、内容の留意点など、学習指導要領解説書の要点を解説する。	生活科の授業づくりについて、これまでの配布資料や教師からの評価と相互評価の内容を確認する。(90分)	改善した指導計画を提出する。 指導計画集を作成する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導計画(10%) 模擬授業(20%) 相互評価の取組状況(10%) 課題・フィールドノート等(40%) 単元の内容の発表(10%) 授業に取り組む姿勢・態度(10%)
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領解説 生活編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校生活科教科書 上、下
教科書用指導書
「せいかつか かつどうずかん」

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状必修

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 生活(2組)					ナンバリング	3548
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑　純						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。
小学校教諭一種免許状取得のために必修の科目である。

授業の概要

小学校の教育課程における生活科の意義や特性について理解する。また、指導計画や学習指導のあり方等について学ぶ。小学校低学年における生活科教育の果たす役割を具体的な活動や体験を通して学ぶ。さらに、小学校生活科の目標、内容の理解を踏まえて、生活科の教材について学習、研究し、指導計画作りや模擬授業を通して、小学校生活科の授業づくりについて学ぶ。
①生活科の意義、内容、特性を理解する。(知識・理解・技能)
②教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
③模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現)
④教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)

到達目標

①学習指導要領や教科書の内容の理解を通して、生活科の目標・内容を述べることができる。
②生活科の授業づくりや教材の学習・研究を通して、目標を実現するための望ましい授業づくりを工夫できる。
③指導計画作りや模擬授業を通して、児童が主体的に学ぶ授業を指導できる。

授業の方法

生活科の意義や特性、内容について、ハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して解説する。学生は生活科の内容の中から、興味・関心ある単元を選択し、プレゼンテーションソフトで発表を行う。学生はグループで作成した指導計画に基づいて模擬授業を行い、指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、指導教員からのアドバイスと、GoogleFormによる学生同士の相互評価を受け、教科指導力の向上につなげる。

ICT活用

プレゼンテーションソフトやGoogle Classroomなどの教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。検索機能を活用した資料の調査を行うとともに、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるようGoogle Drive 等を用いたデータの共有や、GooGoogle Formなどを用いた双方向授業や課題提出を行う。
授業に関して生成AIの活用法を考える。

実務経験のある教員の教育内容

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、教科指導に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校生活科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学生の発表については、教員からの評価を行うとともに、他の学生からの質問・感想をフィードバックする。提出された課題については、講評を付記して返却する。作成した指導計画や模擬授業について、教師からの評価と学生の相互評価を行い、優れている点や改善点をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明) ・生活科の授業の振り返り 自分が受けた生活科の授業を振り返り、理想的な生活科の授業について考える。自分の体験をもとに、小グループで話し合って発表する。 ・生活科学習における情報機器の活用やICT教育について説明する。 ・学習内容(1)～(9)について、発表を行う内容を考える。	シラバスを読み授業内容を確認する。(90分)	理想的な生活科の授業について考えたことや他の学生の発表をまとめて(課題1)提出する。(90分)
担当教員			
第2回	森林や川を利用してフィールドワークを行い、自然を観察したり四季の変化に気付かせる授業の内容や指導法を習得する。季節によって生活が変わることや、それを取り入れて生活を楽しむための授業の工夫や配慮について考える。ネイチャーゲームなどを通して、自然に親しむ授業の工夫や配慮について考える。 天候によっては他の授業と入れ替える。	小学校学習指導要領生活編P38～41を熟読し、内容の(5)について理解する。(90分)	フィールドワークで理解したことや考察したことをまとめて(課題2)提出する。(90分)
担当教員			
第3回	駅や公共施設を利用してフィールドワークを行い、それらの良さや役割を理解する授業の内容や指導法を習得する。身の回りにはみんなで使う施設とそれを支えている人々がいることを理解し、大切に正しく利用しようとするための授業の工夫や配慮について考える。自分が生活する地域で働いたりしている人々について考える授業の内容や指導法を習得する。自分の生活が様々な人や場所と関わっていることや、地域に適切に接したり、安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。 天候によっては他の授業と入れ替える。	小学校学習指導要領生活編P33～38を熟読し、内容の(3)(4)について理解する。(90分)	フィールドワークで理解したことや考察したことをまとめて(課題3)提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			

第4回	内容(1) 学校と生活 発表者は当該単元の内容について発表する。 学内やキャンパスを使って、学校生活に関わる授業の内容や指導法を習得する。学校生活を支えている人々について考えることや、楽しく安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。 内容(2) 家庭と生活 発表者は当該単元の内容について発表する。 家族のことや自分でできることについて考える授業の内容や指導法を習得する。自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活する態度を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P29～33を熟読し、内容の(1)(2)について理解する。(90分)	内容の(1)(2)についての課題(課題4)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			
第5回	内容(3) 地域と生活 発表者は当該単元の内容について発表する。 自分が生活する地域で働いたりしている人々について考える授業の内容や指導法を習得する。自分の生活が様々な人や場所と関わっていることや地域に適切に接したり、安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。 内容(4) 公共物や公共施設の利用 発表者は当該単元の内容について発表する。 駅や公共施設の良さや役割を理解する授業の内容や指導法を習得する。身の回りにはみんなで使う施設とそれを支えている人々がいることを理解し、大切に正しく利用しようとするための授業の工夫や配慮について考える。	「せいかつか かつどうずかん」と教科書の該当する内容を熟読し、内容の(3)(4)について理解する。(90分)	内容の(3)(4)についての課題(課題5)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			
第6回	内容(5) 季節の変化と生活内容 発表者は当該単元の内容について発表する。 第2回の授業を振り返る。 内容(6) 自然や物を使った遊び 発表者は当該単元の内容について発表する。 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりして遊ぶ活動を取り入れた授業の内容や指導法を習得する。自然を利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、みんなと楽しみながら遊ぶための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P41～43を熟読し、内容の(6)について理解する。(90分)	内容の(5)(6)についての課題(課題6)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			

第7回	内容(7) 動植物の飼育・栽培 発表者は当該単元の内容について発表する。 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらが育つ場所、変化や成長の様子を理解する授業の内容や指導法を習得する。それらが生命を持っていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち大切にしようとする気持ちを育てるための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P43～46を熟読し、内容の(7)について理解する。(90分)	内容の(7)についての課題(課題7)を提出する。 次の授業での発表者は発表の準備をする。(90分)
担当教員			
第8回	内容(8) 生活や出来事の伝え合い 発表者は当該単元の内容について発表する。 自分たちの生活や地域の出来事を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝える内容や方法を選んだりできる授業の内容や指導法を習得する。身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かり、進んで触れ合い交流しようとする態度を育てるための授業の工夫や配慮について考える。 内容(9) 自分の成長 発表者は当該単元の内容について発表する。 自分自身を振り返る活動を取り入れた授業の内容や指導法を習得する。自分や支えてくれた人々について考え、自分の成長がわかるとともに、支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活しようとするための授業の工夫や配慮について考える。	小学校学習指導要領生活編 P46～51を熟読し、内容の(8)(9)について理解する。(90分)	内容の(8)(9)についての課題(課題8)を提出する。 模擬授業の準備を行う。(90分)
担当教員			
第9回	内容の(1)「学校と生活」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			

第10回	内容の(2)「家庭と生活」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			
第11回	内容の(3)「地域と生活」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			
第12回	内容の(6)「自然や物を使った遊び」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			

第13回	内容の(8)「生活や出来事の伝え合い」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業の準備あるいはまとめを行う。(90分)
担当教員			
第14回	内容の(9)「自分の成長」の模擬授業 30分×2班	授業を行う班の指導計画を読み評価を行う。 模擬授業の準備を行う。(90分)	授業を行った班の授業の評価を行い提出する。 模擬授業のまとめを行う。(90分)
担当教員			
第15回	生活科の授業づくりについての要点整理をしながら、自分が作成した指導計画の改善を行う。改善した指導計画を全体でまとめ指導計画集を作成する。 単元の指導計画の作成、内容の留意点など、学習指導要領解説書の要点を解説する。	生活科の授業づくりについて、これまでの配布資料や教師からの評価と相互評価の内容を確認する。(90分)	改善した指導計画を提出する。 指導計画集を作成する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業の指導計画(10%) 模擬授業(20%) 相互評価の取組状況(10%) 課題・フィールドノート等(40%) 単元の内容の発表(10%) 授業に取り組む姿勢・態度(10%)
その他	0	なし

教科書

小学校学習指導要領解説 生活編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社

参考文献

小学校生活科教科書 上、下
教科書用指導書
「せいかつか かつどうずかん」

履修条件・留意事項等

小学校教諭一種免許状必修

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 音楽					ナンバリング	3550
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①こどもの教育に関する専門科目「小学校教職科目」分野の科目であり、教育者としての教育的能力、成長・発達を支援するための基本的資質、より適切な教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度を身に付けるための科目である。
②「教職入門」「基礎音楽」「表現Ⅰ幼児音楽」「保育内容指導法（音楽表現1・2）」と関連し、実技に関しては「総合表現音楽」に連続する。

授業の概要

小学校の教科音楽における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科音楽の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。あわせて、教員が音楽の楽しみを伝える授業を展開するために必要な、自身の豊かな感性を育むことを目指す。

到達目標

・学習指導要領における音楽科の目標、主な内容、全体構造などについて把握し、述べることができる
・指導上の留意点、および学習評価の方法について理解し、実践を想定した考察ができるようになる
・指導案作りや模擬授業を通し、表現と鑑賞、〔共通事項〕を関連付けた授業構成を考えることができるようになる
・歌唱共通教材の実技と指導法、及び身近な楽器の奏法と指導法を身に付け、積極的な実践ができる
・効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた、情報機器の活用や教材の工夫などを考察し、実践できるようになる

授業の方法

①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディア、ICTなどを使用する。
②講義・演習（実技含む）の両形式を織り交ぜてすすめる。
③グループワーク、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。

ICT活用

本学の環境に適した、タブレット端末（あるいはスマートフォンなど）や電子黒板を用いた実践を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストにおいてはコメントなどを記した後に返却し、実技においては随時行う。
模擬授業については、優れている点や改善点などをコメントするほか、学生による相互評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:授業の概説、および教育実習と教員採用試験までの見通しをたてる	ガイダンスまでに、テキストP8～11とP114～115、解説書P1～8を熟読する。(90分)	テキストを読み直し、これまでに出会った教師について振り返り、自身が目指す教師像についてまとめる(次週提出)。(90分)
担当教員			
第2回	初等科音楽の概説1:音楽科の目標、指導内容 小学校における音楽科の目標と指導内容について、学習指導要領に沿って学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:うみ、かたつむり、日のまる (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第3回	初等科音楽の概説2:〔共通事項〕、情報機器の活用と教材の工夫について 〔共通事項〕、情報機器および教材の活用について、学習指導要領とテキスト、実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:ひらいたひらいた、かくれんぼ、春がきた (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			

第4回	初等科音楽の概説3:学習指導計画・音楽学習の評価、および「今日的課題」について 学習指導計画、教育評価と他教科等との関連や校種間の連携などの諸課題について、テキストに沿って学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:虫のこえ、夕やけこやけ（120分）	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第5回	表現1:歌唱について1 歌唱における意義や留意点、および児童の発達段階に準じた指導法を、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:うさぎ、茶つみ (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第6回	表現2:歌唱について2 児童の歌う心を引き出す方法、伴奏の基本、および指揮について、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:春の小川、ふじ山 (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、指揮法の復習と、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			

第7回	表現3:器楽について1 器楽における意義や留意点、および鍵盤ハーモニカ・打楽器の奏法の基本、指導法について、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:さくらさくら、とんび（120分）	テキストを読み返し、理解を深め、楽器奏法の復習と、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第8回	表現4:器楽について2 リコーダーの取り扱い、および奏法の基本、指導法について、テキストと実践を通して学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、リコーダーの運指の確認を行う。伴奏付き歌唱:まきばの朝、もみじ（120分）	テキストを読み返し、理解を深め、リコーダー運指の確認と、歌唱共通教材については教材研究を行う。 (60分)
担当教員			
第9回	表現5:音楽づくりについて 音楽づくりにおける意義や留意点、指導法について、視聴覚教材とテキストを用いて学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:こいのぼり、子もり歌（120分）	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			

第10回	鑑賞について 鑑賞における意義や留意点、指導法について、テキストを用いて学ぶ	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:スキーの歌、冬げしき (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第11回	学習指導案の作成 学習指導案の書き方を学び、模擬授業に備える ※ICTを活用した指導法を含む	テキストと解説書の関連箇所に目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:越天楽今様、おぼろ月夜 (120分)	テキストを読み返し、理解を深め、指導案を完成させることと、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			
第12回	和楽器への誘い:箏の特別講義 箏の取り扱い方、奏法の基本などについて、実践を通して学ぶ (注意点)外部講師による授業のため、欠席することのないよう特に留意のこと	テキストP74～75と、5・6年生教科書の箏に関するページに目を通し、予習する。伴奏付き歌唱:任意曲 (120分)	箏に関する資料を読み返し、ポイントをまとめ、歌唱共通教材については教材研究を行う。(60分)
担当教員			

第13回	模擬授業1 作成した指導案をもとに模擬授業(ICTの活用を含む)を体験し、音楽の指導法について考察する	模擬授業の準備・練習と、学習指導要領について見直しをする。伴奏付き歌唱:ふるさと、われは海の子 (120分)	模擬授業を通して見つけた課題について、コメントをまとめる準備をする。(60分)
担当教員			
第14回	模擬授業2 前回に引き続き模擬授業(ICTの活用を含む)を体験し、音楽の指導法について考察する	模擬授業の準備・練習と、学習指導要領について見直しをする。伴奏付き歌唱:任意曲 (120分)	模擬授業を通して見つけた課題について、コメントをまとめる準備をする。(60分)
担当教員			
第15回	模擬授業3、振り返りとまとめ 前回に引き続き模擬授業(ICTの活用を含む)を体験し、音楽の指導法について考察する 模擬授業全体の振り返りと、まとめを行う	模擬授業の準備・練習と、学習指導要領について見直しをする。伴奏付き歌唱:任意曲 (120分)	実践に活かすために必要な基礎知識の補填を行い、模擬授業などは学生同士で更に経験を積むよう心がけること。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	35	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(20%)
その他	65	学習指導案の作成(15%) 模擬授業と全体討議(20%) 歌唱共通教材の弾き歌い2曲(30%)

教科書

最新 初等科音楽教育法 2017年告示／初等科音楽教育研究会／音楽之友社
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編／東洋館出版社
小学校音楽教科書(1～6年)

参考文献

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】／東洋館出版社
その他の参考資料は、授業の中で適宜配布、紹介する。

履修条件・留意事項等

・五線ノートと、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカ（いずれも小学校で使用した楽器でよい）を準備のこと。
・毎時実践する歌唱共通教材の弾き歌いの練習を欠かさないこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 図画工作(前半)					ナンバリング	3552
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

小学校の教育課程における教育方法を学ぶ科目である。教育者としての教育活動や実践力を身につけ、小学校教諭免許取得に必須となる図画工作についての理解を深め実践力を培う。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」「表現Ⅱ造形1,2」は本科目の基礎となる。

授業の概要

小学校における図画工作を実践する上で、当面する諸課題について研究するとともに、図画工作の変遷や理論について理解する。また、子どもがつくりだす喜びを感じ取る授業づくりのために、造形遊びなど具体的な教材研究を行う。

到達目標

1図画工作における教育の目標・内容の考え方を理解し説明できる。
2図画工作における指導法や評価方法について理解を深め実践できる。
3図画工作の授業の在り方を社会の中で思考し、育成すべき「生きる力」について考え続けることができる。

授業の方法

小学校指導要領図画工作編をもとに15回の講義・演習をすすめる。
各授業の導入部分で配布プリントやDVDなどの教材を使用しテーマを把握させる。
各自が設定したテーマをもとに制作活動や模擬授業をする。活動内容についてグループごとに討議しポートフォリオにまとめる。

ICT活用

2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート、ポートフォリオ、指導案、についてはコメントをつけて返却し、振り返る機会を設ける。作品に関しては鑑賞の授業の一環としてとりあげる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義：教科教育法 図画工作の授業計画の説明と「美術と人間」について考察する。 美術の変遷と現代アートの多様性について学ぶ。(2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。)	指導要領p1～p5まで読んでおく。美術の歴史について調べる。(90分)	授業内容をふまえ現代美術の多様性についてまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	A表現 絵に表す活動について 絵に表す活動(体験想起、空想想像、観察記録)の違いについて考察し、指導案を作成する。	教科書の絵に表す活動に関する部分を読んでおく。(90分)	本時の活動内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	A表現 絵に表す活動―共同制作について。共同で絵に表す活動についての演習を行なう。各班でテーマを設定し描画活動をする。また共同で絵に表す活動の指導案を作成する。	こどもの発達と描画活動について調べておく。(90分)	本時の内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			

第4回	A表現 絵に表す活動―評価と指導法について。法則化運動の功罪。代表的な描画法「キミコ式」と「酒井式」の実践例を紹介し、その特質と問題点を考察する。	指導法・描画法の種類を調べておく。(90分)	現在求められている指導法(授業のあり方)についてレポートをまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	A表現 立体に表す活動ー「粘土を使った」指導案の作成。粘土を使った授業案の考察。各自テーマを決めて教材研究をする。制作で気づいたことを生かし指導案を作成する。	教科書の立体表現に関する部分を読んでおく。(90分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	A表現 立体に表す活動―「粘土を使った」模擬授業。各班で用意した授業案の実践。導入方法を振り返り意見交換する。授業内容をワークシートにまとめる。	指導案を完成させ人数分用意する。(90分)	意見交換した内容や他の班の模擬授業などをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	学習指導要領の共通事項 ～形や色、イメージ。共通事項について考察し、形や色をとらえ自分のイメージを持つことについてワークシートを完成させる。	指導要領の共通事項に関する部分を読んでおく。(90分)	共通事項をまとめるワークシートを完成させる。(90分)
担当教員			
第8回	美術教育の変遷と指導法の変容 ～映画「絵を描く子供たち」から学ぶ。また、指導要領の変遷から見えてくる現在求められている図画工作のあり方について考察しワークシートをまとめる。	美術教育の変遷について調べておく。(90分)	授業内容を振り返り美術教育の変わるものと変わらないものについてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	図画工作･美術教育の指導と評価。資質・能力の育成の仕方や評価基準の作成の仕方にについて考察する。また、児童作品への接し方と評価のポイントを実際に作った作品を通して考察する。	図画工作における評価の観点をしらべておく。(90分)	任意の制作物(活動)について評価基準を作成する。(90分)
担当教員			

第10回	図画工作における鑑賞活動について ～DVD「モナリザは怒っている」から学ぶ。児童の感受性を育む鑑賞教育のあり方について考察し、これからの鑑賞教育のあり方についてレポートを書かせる。	指導要領の鑑賞に関する部分を読んでおく。(90分)	現在行なわれている鑑賞教育のレポートを完成させる。(90分)
担当教員			
第11回	A表現 工作に表す表現「ぱらぱら漫画」を作る。映像機器の適切な使用法を考察する。指導要領を参考に学年ごとに適切な道具の使い方及びICTの使用法についてワークシートをまとめる。	指導要領の工作に関する部分を読んでおく。(90分)	各自製作したものをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	図画工作科における道徳の授業との関連。道徳教育の目標に関連付けられる造形活動を考察し実践する。演習「いろいろなものに目を張ってものの気持ちを考えよう」。デジタルカメラを使用した作品制作の方法を実践的に学ぶ。	道徳の指導要領を読んでおく。(90分)	活動内容をポートフォリおにまとめる。(90分)
担当教員			

第13回	A表現 造形遊びについて①。造形遊びの概念を明確にするとともに、素材や場所とのかかわりからイメージを膨らませていく活動について、クリストとゴールズワージーの実践から学び指導案を作成。	ランドアートやインスタレーションについて調べておく。(90分)	ランドアートやインスタレーションについてワークシートにまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	A表現 造形遊びについて② 実践編。空間との関わりをテーマに新聞紙をつかってグループ活動する。活動後は発表、鑑賞を行い。意見を交わし造形遊びの理解を深めるものとする。	指導要領のA表現(1)に関する部分を読んでおく。(90分)	活動内容をもとに指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	図画工作における教育の意味について再構築する。教師を目指す者の資質や、子どもにとって理想の教育者とはどのようなものかを考察する。また課題のぱらぱら漫画の発表を行なう。	図画工作科の目標を再度確認しておく。(90分)	レポート課題について必要な文献の収集をおこなう。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	指導案・模擬授業・ポートフォリオ
その他	50	・作品(フリップブック)の提出 レポート課題「これからの図画工作に求められる教師像」(1200字以上)

教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 文部科学省 平成30年発行
「ずがこうさく1・2上、図画工作3・4上、図画工作5・6上」日本文教出版 文部科学省国立教育政策研究所
「評価基準作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校図画工作」教育出版

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 図画工作(後半)					ナンバリング	3552
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

小学校の教育課程における教育方法を学ぶ科目である。教育者としての教育活動や実践力を身につけ、小学校教諭免許取得に必須となる図画工作についての理解を深め実践力を培う。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」「表現Ⅱ造形1,2」は本科目の基礎となる。

授業の概要

小学校における図画工作を実践する上で、当面する諸課題について研究するとともに、図画工作の変遷や理論について理解する。また、子どもがつくりだす喜びを感じ取る授業づくりのために、造形遊びなど具体的な教材研究を行う。

到達目標

1図画工作における教育の目標・内容の考え方を理解し説明できる。
2図画工作における指導法や評価方法について理解を深め実践できる。
3図画工作の授業の在り方を社会の中で思考し、育成すべき「生きる力」について考え続けることができる。

授業の方法

小学校指導要領図画工作編をもとに15回の講義・演習をすすめる。
各授業の導入部分で配布プリントやDVDなどの教材を使用しテーマを把握させる。
各自が設定したテーマをもとに制作活動や模擬授業をする。活動内容についてグループごとに討議しポートフォリオにまとめる。

ICT活用

2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート、ポートフォリオ、指導案、についてはコメントをつけて返却し、振り返る機会を設ける。作品に関しては鑑賞の授業の一環としてとりあげる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義：教科教育法 図画工作の授業計画の説明と「美術と人間」について考察する。 美術の変遷と現代アートの多様性について学ぶ。(2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。)	指導要領p1～p5まで読んでおく。美術の歴史について調べる。(90分)	授業内容をふまえ現代美術の多様性についてまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	A表現 絵に表す活動について 絵に表す活動(体験想起、空想想像、観察記録)の違いについて考察し、指導案を作成する。	教科書の絵に表す活動に関する部分を読んでおく。(90分)	本時の活動内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	A表現 絵に表す活動―共同制作について。共同で絵に表す活動についての演習を行なう。各班でテーマを設定し描画活動をする。また共同で絵に表す活動の指導案を作成する。	こどもの発達と描画活動について調べておく。(90分)	本時の内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			

第4回	A表現 絵に表す活動―評価と指導法について。法則化運動の功罪。代表的な描画法「キミコ式」と「酒井式」の実践例を紹介し、その特質と問題点を考察する。	指導法・描画法の種類を調べておく。(90分)	現在求められている指導法(授業のあり方)についてレポートをまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	A表現 立体に表す活動ー「粘土を使った」指導案の作成。粘土を使った授業案の考察。各自テーマを決めて教材研究をする。制作で気づいたことを生かし指導案を作成する。	教科書の立体表現に関する部分を読んでおく。(90分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	A表現 立体に表す活動―「粘土を使った」模擬授業。各班で用意した授業案の実践。導入方法を振り返り意見交換する。授業内容をワークシートにまとめる。	指導案を完成させ人数分用意する。(90分)	意見交換した内容や他の班の模擬授業などをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	学習指導要領の共通事項 ～形や色、イメージ。共通事項について考察し、形や色をとらえ自分のイメージを持つことについてワークシートを完成させる。	指導要領の共通事項に関する部分を読んでおく。(90分)	共通事項をまとめるワークシートを完成させる。(90分)
担当教員			
第8回	美術教育の変遷と指導法の変容 ～映画「絵を描く子供たち」から学ぶ。また、指導要領の変遷から見えてくる現在求められている図画工作のあり方について考察しワークシートをまとめる。	美術教育の変遷について調べておく。(90分)	授業内容を振り返り美術教育の変わるものと変わらないものについてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	図画工作･美術教育の指導と評価。資質・能力の育成の仕方や評価基準の作成の仕方にについて考察する。また、児童作品への接し方と評価のポイントを実際に作った作品を通して考察する。	図画工作における評価の観点をしらべておく。(90分)	任意の制作物(活動)について評価基準を作成する。(90分)
担当教員			

第10回	図画工作における鑑賞活動について ～DVD「モナリザは怒っている」から学ぶ。児童の感受性を育む鑑賞教育のあり方について考察し、これからの鑑賞教育のあり方についてレポートを書かせる。	指導要領の鑑賞に関する部分を読んでおく。(90分)	現在行なわれている鑑賞教育のレポートを完成させる。(90分)
担当教員			
第11回	A表現 工作に表す表現「ぱらぱら漫画」を作る。映像機器の適切な使用法を考察する。指導要領を参考に学年ごとに適切な道具の使い方及びICTの使用法についてワークシートをまとめる。	指導要領の工作に関する部分を読んでおく。(90分)	各自製作したものをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	図画工作科における道徳の授業との関連。道徳教育の目標に関連付けられる造形活動を考察し実践する。演習「いろいろなものに目を張ってものの気持ちを考えよう」。デジタルカメラを使用した作品制作の方法を実践的に学ぶ。	道徳の指導要領を読んでおく。(90分)	活動内容をポートフォリおにまとめる。(90分)
担当教員			

第13回	A表現 造形遊びについて①。造形遊びの概念を明確にするとともに、素材や場所とのかかわりからイメージを膨らませていく活動について、クリストとゴールズワージーの実践から学び指導案を作成。	ランドアートやインスタレーションについて調べておく。(90分)	ランドアートやインスタレーションについてワークシートにまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	A表現 造形遊びについて② 実践編。空間との関わりをテーマに新聞紙をつかってグループ活動する。活動後は発表、鑑賞を行い。意見を交わし造形遊びの理解を深めるものとする。	指導要領のA表現(1)に関する部分を読んでおく。(90分)	活動内容をもとに指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	図画工作における教育の意味について再構築する。教師を目指す者の資質や、子どもにとって理想の教育者とはどのようなものかを考察する。また課題のぱらぱら漫画の発表を行なう。	図画工作科の目標を再度確認しておく。(90分)	レポート課題について必要な文献の収集をおこなう。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	指導案・模擬授業・ポートフォリオ
その他	50	・作品(フリップブック)の提出 レポート課題「これからの図画工作に求められる教師像」(1200字以上)

教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 文部科学省 平成30年発行
「ずがこうさく1・2上、図画工作3・4上、図画工作5・6上」日本文教出版 文部科学省国立教育政策研究所
「評価基準作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校図画工作」教育出版

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 家庭					ナンバリング	3554
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木下　教子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる取り組みが求められている」文言と関連する科目である。小学校の家庭科は，家族や地域の異世代の人々と関わる人間関係の育成、家族の一員として家庭の仕事に協力する、食育を一層推進するための食事の役割や栄養・調理に関すること、消費生活 や環境に配慮した生活の仕方、衣食住の生活において、日本の生活文化大切さに気付くことなど学習活動は多岐にわたる。生活の基盤となる衣食住等の知識・技能等を培い、日常生活のなかで自ら課題を見つけ、問題を解決していく資質・能力を育む指導力を高めることを目標ににしている。小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。

授業の概要

小学校家庭科の目標及び内容を分析して各題材のねらいに沿った指導計画をたてる方法について学ぶ。児童が基礎的・基本的な知識および技能を習得できるように教材研究及び実践的な指導ができるよう製作・調理実習、模擬授業などを行う。

到達目標

・家族の一員として男女が協力して家庭や地域の生活を営むことの指導ができる。
・日常生活に必要な知識や技能を身につけ活用させる態度の指導ができる。
・日常生活を見直し、生活上の課題を主体的に解決する方法について指導ができる。
・効果的な教材、ICT端末を用いて模擬授業を実践することができる。
・思考力、判断力、表現力を培うような授業実践ができる。

授業の方法

家庭科は家庭生活を学習対象とするため、児童の生活実態を的確に把握したうえで、各題材の指導計画、学習指導案を作成する。授業はパワーポイント、配布物を用いた講義形式である。児童の生活の自立と家庭生活のよりよい創造を促すことができるように、グループ活動を行い対話的な学びを深めて授業設計に生かしていく。

ICT活用

ICTを活用して、模擬授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

管理栄養士、大学教員の経験を生かして、家庭科教育の指導法を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の小レポートを活用して、講義を進める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 家庭科教育の理念と意義について確認する。家庭科の見方・考え方の4つの視点から日常生活のあり方、自立的に生活を営む力を身につけるための学習のプロセスを理解する。15回までの講義内容について概観する。	学習指導要領の家庭科の目標、内容構成を熟読しておく。(90分)	教科書全体を目を通す。(90分)
担当教員			
第2回	年間指導計画と学習指導案について 2年間の指導計画から小学校、中学校への領域のつながり、題材のまとまり、指導案、準備する教材など授業計画の留意点について理解する。	学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いについて熟読しておく。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	家庭科の評価 について 小学校家庭科の学習評価の4つの観点、授業計画と学習の改善につなげる授業評価の意味、方法について理解する。	配布した指導案を読み評価について確認する。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	家族・家庭生活の指導法について 自分の成長と家族、家庭生活と仕事、家族や地域の人々との関わりなど授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。	授業時に提示した資料を基に家族・家庭生活の現状と課題を確認する。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	衣生活に関する指導法について 衣服の機能、季節や状況に応じた日常着の快適な着方、日常着の手入れ、布を用いた製作など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。	授業時に提示した資料を基に衣生活の現状と課題を確認する。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	食生活の指導法について 食事の役割、調理の基礎、日本の伝統的な日常食、五大栄養素の働き、栄養のバランスを考えた1食分の献立など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。	授業時に提示した資料を基に食生活の現状と課題を確認する。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	住生活に関する指導法について 住まいの機能、室内環境の調整、整理整頓など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。	授業時に提示した資料を基に住生活の現状と課題を確認する。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	消費生活と環境に関する指導法について 物や金銭の大切さ、身近な物の選び方・買い方、環境に配慮した選び方・使い方など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。	授業時に提示した資料を基に消費生活の現状と課題を確認しておく。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			
第9回	生活を豊かにするための布を用いた製作(1) 生活に役立つ小物の製作計画をたてる。	教科書を見て手縫いの仕方、裁縫道具の安全な使い方について確認する。(90分)	小物の縫い方について動画を見て、布の裁断から完成まで製作方法について確認する。(90分)
担当教員			

第10回	生活を豊かにするための布を用いた製作(2) 製作計画に基づいて、布を裁ち手順に留意して製作活動を行う。	小物を丈夫に使うために、製作上の留意点について確認する。(90分)	配布されたワークシートに製作過程・手順をまとめる。(90分)
担当教員			
第11回	生活を豊かにするための布を用いた製作(3) 前時の続きから、完成を目指して製作を行う。	教材として、手縫いでできる作品について考察する。(90分)	ワークシートに製作の手順、製作上の課題、指導における留意点についてまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	「調理の基礎」の指導法(1) 日本の伝統的な食生活、ごはんとみそ汁の調理計画について学び、指導上の留意点について理解する。	教科書を見て調理用具の名前、使い方及びごはんとみそ汁の作り方を確認する。(90分)	みその原料と種類、製法について調べておく。(90分)
担当教員			

第13回	「調理の基礎」の指導法(2) 調理計画に基づき、実際に一食分の食事をつくる。	学習指導要領の「調理の基礎」を熟読しておく。(90分)	ワークシートに調理計画、調理実習の振り返りを行いまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	グループ活動による模擬授業の公開(前半) 模擬授業後に学習指導案、教材、授業展開等を全体交流をする。	模擬授業を行うため学習指導案の確認、教材の準備を行う。(90分)	模擬授業の終了後、よかった点、今後の課題についてまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	グループ活動による模擬授業の公開(後半) 模擬授業後に学習指導案、教材、授業展開等を全体交流をする。	模擬授業を行うため学習指導案の確認、教材の準備を行う。(90分)	模擬授業の終了後、よかった点、今後の課題についてまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度20%、課題50%、作品30%
その他	0	

教科書

小学校家庭科教科書 新編新しい家庭5・6／東京書籍

参考文献

小学校家庭科教育法／大竹美登利他／建帛社

履修条件・留意事項等

課題・レポートは提出期限を厳守する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 体育					ナンバリング	3556
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	浅野　勇						

授業の位置づけ

小学校の教育課程の中で、体育は「身体活動を通して」行われるという特色を生かしながら心身の健康を育み、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する科目である。また、他教科と同様に、子どもたちの健全な人格を形成していくことに寄与する科目でもある。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と特に関係がある科目である。また、「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている」とも関係する。

授業の概要

教科教育法の「体育」は他の教科と大きく違う特徴を持った教科である。「身体活動を通した教育」を前提としていることや教科書がないこと、仲間と競争する楽しさに触れることが位置付けられていることなどが他の教科目と異なる点である。心と体を一体としてとらえ、体を動かすことの楽しさや喜びを感じながら運動に親しむ資質や能力を養う体育授業を構想し、実践する指導力を身につけることを本講義で目指す。

到達目標

⑴ 小学校体育科の目標及び指導内容を理解し、述べることができる。
⑵ 目標及び評価に適した指導計画や学習内容を考えることができる。
⑶ 児童を取り巻く環境や体育科に生起する諸課題を解決するための探究心と学び続ける意欲を身につけ実践することができる。
⑷ 教育現場において、協働的に教育実践を行う意識とコミュニケーション能力を身につけ行動することができる。

授業の方法

主にスライドによる説明とグループワークによって講義を進める。
授業では毎回小レポートにより講義の理解度の確認や振り返りを行う。

ICT活用

振り返りについては、基本的にGoogle Formを用いて行い、学生一人ひとりが自己の学びの変容を確認することができるようにする。また、ディスカッションの活性化を意図した個人の考えやグループワークでの意見の共有をICTを用いながら適宜行う。

実務経験のある教員の教育内容

義務教育学校および中学校での勤務経験があり、保健体育における授業計画・教師の手立て・評価等について実践的な知識を有している。この知識を活かしながら、体育の授業づくりについて指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の振り返りの内容を、次時の授業の導入でフィードバックし、本時の課題を捉える上での参考資料とする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション及び小学校体育の位置付け 体育の授業は子どもたちにとって「学習としての体育を学ぶ活動」を意図的、計画的に学ぶ教育の場（機会）である。基本的な考え方を基に体育科教育の教科活動の重要性を理解する（概論）	「体育科教育法」に関連する文献、学習指導要領、参考書を図書館等で検索しておくこと（90分）	授業の流れを理解し、講義内容をノートにまとめる（90分）
担当教員			
第2回	学習指導要領の変遷からみた体育科の目標と学習内容の理解 1）これまでの我が国での体育科教育の変遷を理解する 2）新学習指導要領の重点を理解する	「体育科教育」の位置づけを考えて、講義に臨む準備をする（90分）	教科目の特徴を自分がどの程度理解できたかについて再考する（90分）
担当教員			
第3回	体育授業における教師の関わりについて 1）体育の授業の中で教師が行う関わりの種類について理解する 2）教師の関わりが子どもの学習にどのように影響するかを考察する	体育科における教師の子どもへの関わりについて事前に学習しておくこと（90分）	講義内容を再考して、理解を深めるための課題発見に努める（90分）
担当教員			

第4回	体育指導と子どもの発育発達 1)幼児期～児童期における子どもの身体的発育発達の特徴・傾向について理解する 2)発育発達を促す体育について考察・検討する	運動が子どもの発育発達に及ぼす影響について検索しておくこと(90分)	運動によって発育発達はどのように促されるかについて文献検索をする(90分)
担当教員			
第5回	体育授業の実際① 1)現在の体育授業の実態について理解する 2)これまでの学習内容を活かしながら教師や子どもの様子について考察する	4回目までの学習内容を復習し、知識を定着させておくこと(90分)	近年行われている体育授業に関する情報や文献を検索する(90分)
担当教員			
第6回	体育科における知識・技能 1)学習指導要領における知識・技能の考え方を理解する 2)体育授業における知識・技能の捉え方と教師の関わり方を検討する	配布資料を熟読して講義に臨む準備をしておくこと(90分)	発展課題の発見のために文献検索を行うこと(90分)
担当教員			

第7回	体育科における思考力・判断力・表現力 1)学習指導要領における思考力・判断力・表現力の考え方を理解する 2)思考力・判断力・表現力の捉え方と教師の関わり方を検討する	学習指導要領における体育科の目標について自分の考えをまとめておくこと(90分)	思考力・判断力・表現力を育成する体育授業の実践について考えを整理すること(90分)
担当教員			
第8回	体育科における学びに向かう力、人間性等 1)学習指導要領における学びに向かう力、人間性等の考え方を理解する 2)学びに向かう力、人間性等と教師の関わり方について検討する	学習指導要領および解説の内容を確認しておくこと(90分)	体育科における育成すべき3つの資質・能力についてまとめる(90分)
担当教員			
第9回	体育授業の実際② 1)体育授業の実態について3つの柱(6～8回目の内容)から捉える 2)これまでの学習内容を活かしながら教師や子どもの様子について考察する	6～8回目までの学習内容を復習し、知識を定着させておくこと(90分)	体育授業の授業計画・授業づくりに関連する文献を検索する(90分)
担当教員			

第10回	体育の授業づくり① 1）年間指導計画の作成方法について理解する 2）実際に年間指導計画を作成し、内容を検討する ※グループでの話し合いによる年間計画・単元計画の作成（アクティブ・ラーニング形式）	体育科の年間指導計画について具体的な例を検索・確認する（90分）	作成した年間指導計画を修正・改善しまとめる（90分）
担当教員			
第11回	体育の授業づくり② 1）体育授業の構成単位について理解する 2）学年ごとの単元計画の作成方法を理解する ※グループでの話し合いによる授業づくりと振り返り（アクティブ・ラーニング形式）	具体例について検索・調査・検討しておく（90分）	授業課題に従って単元計画を作成する（90分）
担当教員			
第12回	体育の授業づくり③ 1）単元計画の具体化と指導過程について理解する ※グループでの話し合いによる授業づくりと振り返り（アクティブ・ラーニング形式）	「単元」の意味を文献検索しておく（90分）	単元の進展過程を簡略化して記述しておく（90分）
担当教員			

第13回	体育の授業づくり④ 1)学習指導案(本時案)の作成方法を理解する 2)実際に学習指導案を作成する	学習指導案の作成方法について実例をまとめておく(90分)	学習指導案を理解するための参考文献を3編検索すること(90分)
担当教員			
第14回	体育科における評価方法 1)体育授業での評価・評定の方法について理解する 2)具体例をもとに児童の何を見とるのかを検討する	体育での評価・評定について自分の考え方をまとめておく(90分)	評価・評定についての文献検索すること(90分)
担当教員			
第15回	講義全体のまとめ 1)体育授業の授業づくり・授業計画の全体像を理解する。 2)1)の理解をもとに，自分なりの具体的な実践方法について考察する。	事前に体育の実践事例について調べておく(45分) これまでの全講義での内容を振り返っておく(45分)	これまでの講義の内容をまとめておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学則を超えた欠席数は評価の対象外となります。 ・授業内の課題(40%) ・提出物(30%) 期日厳守 ・グループワークへの貢献度および受講時の積極的な学習態度(30%)
その他	0	

教科書

小学校学習指導要領(平成29年3月)
小学校学習指導要領解説体育編(平成29年7月)

参考文献

講義の中で適宜紹介していくこととする。

履修条件・留意事項等

以下の項目は受講にあたって、重要な条件となります。
① 講義への積極的・主体的な参加姿勢
② グループワークへの積極的・主体的な参加姿勢

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　小学校教職科目						
科目名	教科教育法 英語					ナンバリング	3558
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣　晴彦						

授業の位置づけ

本科目は、教育職員免許状（小学校）を取得するための科目であり、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」に関係する科目である。施行規則に定める科目区分等で「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に位置づく科目である。「英語概論」を基礎とする科目である。

授業の概要

本授業では、授業実践に必要なスキルと英語力を身につけ、それを活用できる力を養う。与えられた課題を調べ、グループ毎に発表する。また、聞く力、話す力（やり取り・発表）、読む力、書く力を授業場面を意識しながら、英語教材、テキストをどのように活用していくかペアワークでプレゼンテーションを行う。後半は模擬授業を中心に進める。

到達目標

小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解できるようになる。
児童期の第二言語習得の特徴について理解し模擬授業を行うことができるようになる。
児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解した模擬授業ができるようになる。
異文化理解は、授業場面に活用して応用し模擬授業をすることができるようになる。

授業の方法

パワーポイントで作成した資料を提示し、動画も取り入れて、ペアワーク、グループワークの活動を多く活用して授業を進めていく。アクティブラーニングの手法を多く取り入れる。

ICT活用

ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かす。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインで常に課題をフィードバックしていく。Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義の進め方について	テキストを読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第2回	学習指導要領に見る外国語活動と外国語 英語概論で学んだことを確認する。	テキストの第1章を読んでおく (90分	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第3回	小・中の連携と小学校の役割 言語習得理論と関連領域	テキストの第2章を読んでおく (90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第4回	国語教育との連携とCLILの活用 国際理解教育と英語教育	テキストの第4章を読んでおく（90分）	講義内容の復習を行う（90分）
担当教員			
第5回	音と文字 フォニックスの指導活用と指導方法 文字指導のあり方	テキストの第15章を読んでおく フォニックスの指導方法をまとめておく（90分）	講義内容の復習を行う（90分）
担当教員			
第6回	Classroom English, Small Talk, Teacher Talk	与えられた資料とテキストの第9章を読んでまとめておく（90分）	講義内容の復習を行う（90分）
担当教員			

第7回	学習到達目標、学習指導案の作り方1 カリキュラム・年間指導計画作成のポイント	テキスト第6章を読んで、学習指導案を作成しておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第8回	学習到達目標、学習指導案の作り方2 カリキュラム・年間指導計画作成のポイント 絵本活用の視点　ゲストスピーカーによる実践活動①	テキスト第6章を読んで、学習指導案を作成しておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第9回	学習到達目標、学習指導案の作り方2 カリキュラム・年間指導計画作成のポイント 絵本活用の視点　ゲストスピーカーによる実践活動②	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第10回	小学校の英語授業作り 模擬授業1	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第11回	小学校の英語授業作り 模擬授業2	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第12回	小学校の英語授業作り 模擬授業3	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第13回	小学校の英語授業作り 模擬授業4	学習指導案を何度も復習して模擬授業の準備をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第14回	模擬授業の総括 改善点やアクティブラーニングの重要点を再確認	学習指導案の比較を行い、自己学習指導案の完成をする(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 学習状況の評価	この講義で学んだことを整理してまとめる(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題発表3回 50% 模擬授業指導案 25% 模擬授業 25%
その他	0	特になし。

教科書

小学校学習指導要領
小学校学習指導要領解説 外国語・外国語活動編
改訂版 小学校英語科教育法ー理論と実践ー 金森強

参考文献

中学校学習指導要領 開隆堂

履修条件・留意事項等

事前、事後学習は必ず行うこと。課題などの提出期限は厳守すること。

備考欄

外部講師としてゲストスピーカーを招聘して、小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年の活動方法を実践的に学ぶ。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	特別支援教育総論					ナンバリング	3570
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

この授業はディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」と関連する科目である。児童の多様な実態に応じた発達支援について学び、成長・発達を支援するための基本的資質を身につけ、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるものである。この科目は知的障がい教育Ⅰ・Ⅱにつながるものであり、特別支援教育の重層化した全体像の理解を深めることができる。

授業の概要

特別支援教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について、国際的な動向や我が国の特殊教育から特別支援教育への変遷に触れながら学習する。また、特別支援教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、学習指導要領や文部科学省の施策に沿って、教育現場の実際に触れながら学習する。更にそれらに関わる基礎的知識を教育・医療・福祉など多方面から学習し、ニーズに応じた発達支援のあり方を理解する。

到達目標

(1) 特別支援教育の全体像を把握し、障害という現象を構成している諸条件を踏まえて学習し、記述することができる。
(2) 発達論・認知論的観点から特徴的な実践事例について学び、特別支援教育の現状について理解を深め、説明することができる。
(3)特別支援教育に関わる諸問題ならびに解決に向けた具体的方策について理解し、説明することができる。

授業の方法

ICT機器や映像を多用しながら、これまでの経緯や動向、今日的課題についてよりわかりやすく授業を進めるように工夫し、教育現場における実態も紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導計画作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。

ICT活用

パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームや「ふきだしくん」を効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション:授業のテーマや到達目標を理解し、各自の目標を設定する。	特別支援教育の目的について自分の考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第2回	障がい者施策を巡る動向(障害者権利条約、インクルーシブ教育、合理的配慮)について学習し、医療的な視点も踏まえながら発達障がいについて理解する。	障害者権利条約、DSM-5について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	特別支援教育の校内支援体制の推進と特別支援教育コーディネーターの役割について学習する。	校内支援体制について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第4回	交流及び共同学習について学習し、インクルーシブ教育の多様な形態について理解する。	交流及び共同学習について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第5回	個別の教育支援計画と指導計画について学習し、実態把握に基づく立案や効果的活用について理解する。	個別の教育支援計画と指導計画について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第6回	認知論、発達論、行動論に基づく子ども理解について学習し、より多面的な実態把握と個に応じた支援について理解する。	これまでに学習した教育心理学の概要についてまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第7回	認知機能を高める多様な指導法（コグトレ、感覚統合、ビジョントレーニング）について学習し、目的や指導のポイントについて理解する。	認知機能について調べておく。（90分）	講義内容についてキーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第8回	自立活動の目的と指導方法について学習し、ここまでの学習を振り返り小レポートにまとめる。	1～7回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。（90分）	講義内容についてキーワードをもとに整理し、自身の作成した小レポートを振り返りながら自分の考えを整理する。（90分）
担当教員			
第9回	特別支援学校に求められるセンター的機能と役割（心理アセスメント、教育相談）について学習し、客観的な実態把握や教育相談への効果的活用について理解する。	心理アセスメントの目的や種類について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			

第10回	特別支援学級の実際（教育課程）について具体例をもとに理解する。	特別支援学級の学級種について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第11回	特別支援学級の実際（学級経営、具体的な教育活動）について具体例をもとに理解する。	特別支援学級の学級経営について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第12回	特別支援教育における指導上の課題（就学困難事例、家庭との連携）について学習し、関係機関との連携について理解する。	特別支援教育における連携機関について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			

第13回	特別支援教育における指導上の課題（二次障害）について学習し、児童虐待や少年犯罪と発達障がいの関連について理解する。	児童虐待や少年犯罪について調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第14回	共生社会の実現に向けた特別支援教育の役割上の課題について、不登校や引きこもりの視点から理解する。	不登校や引きこもりについて調べておく。（90分）	講義内容について、キーワードをもとに整理する。（90分）
担当教員			
第15回	授業全体を振り返り、学習内容の定着を図る。（最終レポート作成）	1～14回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。（90分）	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第15回で実施する最終レポート作成(70%) 第8回で実施する小レポート作成(10%) 毎回提出する振り返りシート(10%) 授業への参加度・出席態度(10%)
その他	0	なし

教科書

なし(適時資料を配布する)

参考文献

はじめての特別支援教育「あるある事例」の解決法98 青山眞二監修 図書文化 2022

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得の必修科目である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	知的障がい教育Ⅰ					ナンバリング	3572
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ための科目である。さらに、特別支援専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修である。
知的障がい者の心理・生理・病理(1年)を基礎とし、知的障がい教育Ⅱ(2年)の基礎となる。

授業の概要

知的障がい児教育の歴史や障がいの特性を知り、どのように創設され、現在はどのように展開されているのかを学ぶことを目的とする。特別支援学校学習指導要領から、知的障がい児教育の教育課程に焦点を当て、その内容について学ぶ。また、知能とは何か、各教科や特別の教科道徳、特別活動、自立活動等の指導が学校教育の中でどのような形で取り組まれているのか等、実際に特別支援学校で行われている指導について学ぶ。

到達目標

①知的障がいの理解と知的障がい児教育の歴史を説明することができる。
②知的障がい児教育の各教科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳、特別活動、自立活動等についての基本的な事項や合わせた指導が必要となる背景について説明することができる。
③特別支援学校等での教育実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。

授業の方法

パワーポイントおよび配布物を用いるとともに、授業内容に合わせ講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。資料映像なども活用しながら授業を進める。

ICT活用

毎時間パワーポイントを活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
知的障がい等に係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

知的障がい特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題の返却時に、確実に定着が図れるよう解説をする加えるなど工夫することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	＜講義の内容と講義予定について＞ 講義予定、受講時の諸注意、教科用図書、評価等について説明する。知的障がいの定義とその特性、知的障がい児教育の歴史について解説する。	知的障がい教育について、関係する専門書なども含めて授業内容について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	＜通常教育と知的障がい児教育との違いについて＞ 小学校で履修してきたことを手がかりに通常教育で学んできたことの教科や領域を構造化し、知的障がい児に必要な教育との共通点や相違点をグループごとに考えて発表する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	＜知的障がいについて＞ 知的障がいの主な原因と行動特性について詳しく解説し、教育的な対応で必要となる指導上のポイントについて説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	＜学習指導要領について＞ 学習指導要領の法的根拠やこれまでの改訂の歴史を解説し、小学校学習指導要領の内容構成や教育課程の編成について説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第5回	＜特別支援学校学習指導要領について＞ 特別支援学校学習指要領の内容構成や障がいの種類や程度に応じた指導を可能とする特例等について解説し、通常教育との共通点や違いについて理解する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第6回	＜特別支援学校（知的障がい）の教育と学習指導要領について＞ 特別支援学校の教育課程で見られる「準ずる教育」や「下学年対応教育」、「知的代替教育」、「自立活動中心教育」など通常4つの類型の意義と、知的障がい教育の基本や特徴を学習指導要領と関連づけて解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			

第7回	＜幼児・児童・生徒の障がいと発達について＞ 一人一人の障がいや社会性発達の状況についての把握の仕方と、いくつかの障がい事例を通してどのような進め方がいいのかグループごとに考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第8回	＜知的障がい教育の教育内容・方法について＞ 知的障がいのある幼児・児童・生徒の教育的ニーズについて考え、どんな学習内容や方法を用意し指導すべきか教育課程編成の観点から説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第9回	＜教育課程の編成について＞ 知的障がい児教育で使われている教育課程がどのように編成されているか調べ、他の障がいとの共通点や相違点を整理し特有な部分についての理解を深める。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			

第10回	＜特別支援学校（知的障がい児教育）の学習について＞ 本道の特別支援学校の概要を解説し、学習の様子を紹介する映像から実際の場面でどのように指導が進められているかを理解する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第11回	＜知的障がい児教育と個別の計画について＞ 一人一人のニーズに対応した教育を支える個別の教育支援計画や個別の指導計画等を解説し、どのように作成し活用されているのか説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第12回	＜心理アセスメントと知能検査について＞ 知能検査で捉えた知能の定義、その発達や生きていく時に必要な知識や技能などとの関係を考える。また、学校現場での実施の仕方や結果の活用、留意点について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			

第13回	＜知的障がい児への就学支援について＞ 障がい児の就学について関係する法令や市町村教育委員会の業務について解説し、早期からの相談・支援事業について説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第14回	＜特別支援学級（知的障がい）について＞ インクルーシブ教育システムの中で、知的障がい児のための特別支援学級の教育はどのような内容で行われているのかを、通常学級や通級指導学級との関係で説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 （90分）	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第15回	＜知的障がい児教育Ⅰのまとめ＞ 知的障がい児の家族や生活をとりまく状況を福祉や保育、教育の現状から解説し、誕生から就学、卒業後の社会参加までを見通した教育のあり方について考える。まとめのテストを実施する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べるとともに、まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。（90分）	配布プリント及びまとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(30%) まとめのテスト(40%)
その他	0	

教科書

認知機能・知的機能の困難への対応特特別支援教育免許シリーズ)
笠井新一郎、坂井聡、苅田知則 編著
建帛社

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	知的障がい教育Ⅱ					ナンバリング	3573
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

この授業はディプロマ・ポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。（知識・技能）」に特に関連する科目である。理解面に困難さがある幼児・児童・生徒に対する基本的な知識、および適切な支援・指導のための基本的資質を身に付けつけ、それを土台に個別の教育的ニーズに対応している現場の取組に触れることで、共生社会を目指す上で教育について常に思考し「学びに困難さのある児童のよき理解者」になることができる科目である。知的障がいⅠをより発展させ、特別支援教育総論と合わせて受講することで特別支援教育についての理解をより深めることができ、3年次のこども学総合演習Ⅰ・Ⅱに続き、さらに4年次の卒業研究へと発展する科目として位置づけられる。

授業の概要

知的障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標

知的障がいのある幼児、児童又は生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の方法

ICT機器や映像を多用しながら、知的障害について、よりわかりやすい授業を進めるように工夫し、 特に、授業動画の視聴など実際例を紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導案作成、教材作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。

ICT活用

パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームや「ふきだしくん」を効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション：授業で何が学べるのかを理解し、各自の目標を確認する。	「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築」に関する資料（中教申、平成24年7月）を調べておく。（90分）	授業の振り返りをしておく。（90分）
担当教員			
第2回	知的障がいの定義や特性及び社会生活上での困難さについて、配布資料を基に学習する。	知的障がいについて自分の考えをまとめておく（90分）	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。（90分）
担当教員			
第3回	知的障がいのある児童生徒の発達と学習の特性（スモールステップ・繰り返し・具体物を使った活動）について、実践例を基に学習する	特別支援学校、特別支援学級における授業のポイントについて調べておく。（90分）	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。（90分）
担当教員			

第4回	知的障がいのある児童生徒の指導における配慮事項①～学習指導案作りのポイントについて、授業動画や作成例を基に学習する。	特別支援教育における指導案の様式について調べておく。（90分）	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。（90分）
担当教員			
第5回	知的障がいのある児童生徒の指導における配慮事項②～個別目標、指導の手立ての策定について、授業動画や配布資料を基に学習する。	学習指導要領の該当箇所について読み込んでおく。（90分）	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。（90分）
担当教員			
第6回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計①（国語1）～国語科の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成する。	特別支援教育における国語科の授業づくりのポイントについて調べておく。（90分）	自身の作った略案や教材を再検討し、改善を図る。（90分）
担当教員			

第7回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計②（国語2）～各自の作成した指導略案と教材を基に模擬授業ならびに事後検討会を行う。	自身の作った略案や教材を基に、模擬授業に向けた準備をする。（90分）	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。（90分）
担当教員			
第8回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計③（算数1）～算数科の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成する。	特別支援教育における算数科の授業づくりのポイントについて調べておく。（90分）	自身の作った略案や教材を再検討し、改善を図る。（90分）
担当教員			
第9回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計④（算数2）～各自の作成した指導略案と教材を基に模擬授業ならびに事後検討会を行う。	自身の作った略案や教材を基に、模擬授業に向けた準備をする。（90分）	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。（90分）
担当教員			

第10回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計⑤（生活単元学習）～生活単元学習の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における生活単元学習の授業づくりのポイントについて調べておく。（90分）	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。（90分）
担当教員			
第11回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計⑥（日常生活の指導）～日常生活の指導の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における日常生活の指導の授業づくりのポイントについて調べておく。（90分）	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。（90分）
担当教員			
第12回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計⑦（自立活動）～自立活動の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における自立活動の授業づくりのポイントについて調べておく。（90分）	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。（90分）
担当教員			

第13回	知的障がいのある児童生徒の具体的な授業場面を想定した授業設計⑧(道徳)～道徳の授業づくりのポイントについて学習し、指導略案と教材を作成し、模擬授業を実施する。	特別支援教育における道徳の授業づくりのポイントについて調べておく。(90分)	模擬授業の事後検討会を振り返り、成果や課題を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	特別支援学級のおかれている位置や意義について、交流及び共同学習を中心に学習する。	交流及び共同学習について調べておく。(90分)	授業の振り返りをし、重要な事項についてノートにまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる(レポートの作成作業に着手する)。	1～14回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第15回で実施する最終レポート作成(70%) 毎回提出する振り返りシート(15%) 授業への参加度・出席態度(15%)
その他	0	なし

教科書

なし(適時資料を配布する)

参考文献

特別支援学校学習指導要領解説 総則編 平成30年3月 文部科学省

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得の必修科目である。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	肢体不自由児教育Ⅰ					ナンバリング	3576
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下　秀樹、白幡　知尋						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ことと関連する科目である。
肢体不自由児の心理・生理・病理（1年）を基礎としており、肢体不自由児教育Ⅱ（2年後期）の基礎となる。

授業の概要

肢体不自由児教育の歴史や障がいの特性を知り、肢体不自由児教育がどのように創設されてきたのか、また、現在までどのように発展してきたのかを知ることを目的とする。特別支援学校の学習指導要領から、肢体不自由児教育における教育課程に焦点を当て、その内容について整理する。また、各教科や特別の教科道徳、特別活動、自立活動等の指導が学校教育の中でどのような形で取り組まれているのか、さらに医療機関との連携等、実際に特別支援学校で行われている様々な形態の授業について学ぶ。

到達目標

①肢体不自由障がいの理解と肢体不自由児教育の歴史を説明することができる。
②肢体不自由児教育の各教科、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動等についての基本的な事項や学習内容について述べることができる。
③特別支援学校や医療機関等での指導実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。

授業の方法

パワーポイントおよび配布物や教材教具等を用いて、授業内容に合わせた講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。
毎回、宿題・予習プリントを配布し、集中して授業に取り組めるようにする。
途中、5回目・10回目に小テストを実施し、授業内容の確認・整理に努める。

ICT活用

毎時間パワーポイントを活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいや医療的配慮に係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

肢体不自由特別支援学校及び医療機関等での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介及び医療機関で使用されている器具など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。(山下)
理学療法士としての医療機関及び養護学校勤務の経験から、臨床を基にした肢体不自由児への理解を図る。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、返却時に回答例を解説し、確実に定着が図れるよう工夫することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 肢体不自由と教育】 講義の概要と今後の予定及び受講上の注意について周知する。肢体不自由特別支援学校の一日をビデオでたどり、視聴後の討議から今後の受講における視点や学習内容の整理を行う。 （山下・白幡）	肢体不自由について、教科書に目を通して、概要を調べておくこと。（90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第2回	【子どもの発達と肢体不自由】 通常の新生児と肢体不自由障がい新生児の身体発達を比べ、その共通点や違いから肢体不自由障がいの定義を考え、肢体不自由障がいがその後の心身の発達にどのような影響を及ぼすのかを調べる。（白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第3回	【肢体不自由児教育の歴史】 肢体不自由児教育の成立とその時代背景をさぐり、整形外科医療の発達と療育や教育の関係を解説する。さらに肢体不自由教育の創始から現在に至るまでの歴史を振り返り、先人の業績や教育発展の歴史を調べる。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			

第4回	【肢体不自由障がいの理解Ⅰ 主な障がいと教育】 肢体不自由児教育を進める観点から主な障がいの理解を図り、運動と認知の発達と障がいについて解説する。特に脳性まひ、二分脊椎、筋ジストロフィー症の三大障がいについて詳しく調べる。 (白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第5回	【肢体不自由障がいの理解Ⅱ 肢体不自由児の特性】 関係する障がいの原因や分類の仕方を解説し、近年の出現率の傾向や特徴を調べる。また、就学前幼児の障がい特性を理解し、障がいを踏まえた学校教育の可能性や必要な取り組みについて考える。 小テストを実施する。(白幡・山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	【肢体不自由児教育の教育課程】 学校教育法や学習指導要領の法的根拠をもとに、特別支援教育の位置づけと役割を考える。また幼稚園や小学校の教育課程と特別支援学校や特別支援学級の教育課程の共通点と相違点を調べる。(山下)	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			

第7回	【肢体不自由児教育を進める理論】 肢体不自由児教育を支える個別の教育支援計画や個別の指導計画がどのように作成、活用されているのか、また内容や役割は何かを解説する。さらに策定・活用・評価・改善のシステムについてグループで考え、内容を発表するなどして理解を図る。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第8回	【肢体不自由児教育の実践Ⅰ 各教科の指導と指導法】 各教科で指導されている教育の紹介から、準ずる教育や下学年対応教育の指導、知的障がいに対応した教育の指導の内容を整理し、グループごとに一人一人の障がいに応じた各教科の教育の工夫を考える。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第9回	【肢体不自由児教育の実践Ⅱ 各教科の指導と工夫】 各教科ごとの特性を調べ、肢体不自由障がいのある子どもへの指導にあって必要なことは何かをグループごとに考える。学習内容の精選や教材・教具の活用、工夫について解説する。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておく。（90分）
担当教員			

第10回	【肢体不自由児教育の実践Ⅲ 総合的な学習の時間の指導】 特別支援学校での総合的な学習の時間における指導事例から、学習内容や学習形態・指導体制等がどのように工夫されているかを調べる。 小テストを実施する。（山下・白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第11回	【肢体不自由児教育の実践Ⅳ 特別の教科 道徳・特別活動の指導】 特別支援学校で取り組まれている特別の教科 道徳、特別活動における指導を紹介し、障がいや発達を踏まえ一人一人のニーズに応ずる特別の教科 道徳や特別活動指導の工夫を調べる。（山下）	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第12回	【肢体不自由児教育の実践Ⅴ 自立活動の指導】 自立活動とは何なのか、なぜ肢体不自由児教育で重要な要素とされているのかを考え、自立活動の意義や指導の実際を解説する。（白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			

第13回	【肢体不自由児の教育の実践VI 共同学習及び交流学習】 共同学習及び交流学習指導の現状やその共通点や違いについて解説する。また、実施されている幼稚園や小中学校との連携の在り方や指導の工夫について考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第14回	【特別支援教育センターとしての役割】 特別支援学校が果たしているセンター的役割 について解説する。さらに地域の福祉事業所との連携や教育相談について考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	【講義のまとめ 肢体不自由教育の課題】 これまでの講義を振り返ってキーワードから、要点を整理する。さらに、肢体不自由児教育の現状から学んだ成果と課題について、まとめのテストを実施する。(山下・白幡)	予習のプリント及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。(90分)	まとめのテストの内容について整理しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(20%) 2回の小テスト(20%) まとめのテスト(30%)
その他	0	

教科書

運動機能の困難への対応(特別支援教育免許シリーズ)
樫木暢子、笠井新一郎、花井丈夫 編著
建帛社
＊肢体不自由教育Ⅱと共通

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。
宿題・予習のプリントは、必ず提出すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	肢体不自由児教育Ⅱ					ナンバリング	3577
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下　秀樹、白幡　知尋						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。」及び「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ことと関連する科目である。
肢体不自由児の心理・生理・病理（1年）や肢体不自由児教育Ⅰ（2年前期）を基礎としており、肢体不自由教育についての実践的内容を更に深く学ぶ。

授業の概要

肢体不自由児教育の歴史や障がいの特性を知り、肢体不自由児教育がどのように創設されてきたのか、また、現在までどのように発展してきたのかを知ることを目的とする。特別支援学校の学習指導要領から、肢体不自由児教育における教育課程に焦点を当て、その内容について整理する。また、各教科や特別の教科道徳、特別活動、自立活動等の指導が学校教育の中でどのような形で取り組まれているのか、さらに医療機関との連携等、実際に特別支援学校で行われている様々な形態の授業について学ぶ。

到達目標

①肢体不自由障がいの理解と肢体不自由児教育の歴史を説明することができる。
②肢体不自由児教育の各教科、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動等についての基本的な事項や学習内容について述べることができる。
③特別支援学校や医療機関等での指導実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。

授業の方法

パワーポイントおよび配布物や教材教具等を用いて、授業内容に合わせた講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。
毎回、宿題・予習プリントを配布し、集中して授業に取り組めるようにする。
途中、5回目・10回目に小テストを実施し、授業内容の確認・整理に努める。

ICT活用

毎時間パワーポイントを活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいやい量的配慮に係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

肢体不自由特別支援学校及び医療機関等での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介及び医療機関で使用されている器具など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。(山下)
理学療法士としての医療機関及び養護学校勤務の経験から、臨床を基にした肢体不自由児への理解を図る。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、返却時に回答例を解説し、確実に定着が図れるよう工夫することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 肢体不自由と教育】 講義の概要と今後の予定及び受講上の注意について周知する。肢体不自由特別支援学校の一日をビデオでたどり、視聴後の討議から今後の受講における視点や学習内容の整理を行う。 （山下・白幡）	肢体不自由について、教科書に目を通して、概要を調べておくこと。（90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第2回	【子どもの発達と肢体不自由】 通常の新生児と肢体不自由障がい新生児の身体発達を比べ、その共通点や違いから肢体不自由障がいの定義を考え、肢体不自由障がいがその後の心身の発達にどのような影響を及ぼすのかを調べる。（白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第3回	【肢体不自由児教育の歴史】 肢体不自由児教育の成立とその時代背景をさぐり、整形外科医療の発達と療育や教育の関係を解説する。さらに肢体不自由教育の創始から現在に至るまでの歴史を振り返り、先人の業績や教育発展の歴史を調べる。（山下・白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			

第4回	【肢体不自由障がいの理解Ⅰ 主な障がいと教育】 肢体不自由児教育を進める観点から主な障がいの理解を図り、運動と認知の発達と障がいについて解説する。特に脳性まひ、二分脊椎、筋ジストロフィー症の三大障がいについて詳しく調べる。 (白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第5回	【肢体不自由障がいの理解Ⅱ 肢体不自由児の特性】 関係する障がいの原因や分類の仕方を解説し、近年の出現率の傾向や特徴を調べる。また、就学前幼児の障がい特性を理解し、障がいを踏まえた学校教育の可能性や必要な取り組みについて考える。 小テストを実施する。(白幡・山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	【肢体不自由児教育の教育課程】 学校教育法や学習指導要領の法的根拠をもとに、特別支援教育の位置づけと役割を考える。また幼稚園や小学校の教育課程と特別支援学校や特別支援学級の教育課程の共通点と相違点を調べる。(山下)	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			

第7回	【肢体不自由児教育を進める理論】 肢体不自由児教育を支える個別の教育支援計画や個別の指導計画がどのように作成、活用されているのか、また内容や役割は何かを解説する。さらに策定・活用・評価・改善のシステムについてグループで考え、内容を発表するなどして理解を図る。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第8回	【肢体不自由児教育の実践Ⅰ 各教科の指導と指導法】 各教科で指導されている教育の紹介から、準ずる教育や下学年対応教育の指導、知的障がいに対応した教育の指導の内容を整理し、グループごとに一人一人の障がいに応じた各教科の教育の工夫を考える。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第9回	【肢体不自由児教育の実践Ⅱ 各教科の指導と工夫】 各教科ごとの特性を調べ、肢体不自由障がいのある子どもへの指導にあって必要なことは何かをグループごとに考える。学習内容の精選や教材・教具の活用、工夫について解説する。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておく。（90分）
担当教員			

第10回	【肢体不自由児教育の実践Ⅲ 総合的な学習の時間の指導】 特別支援学校での総合的な学習の時間における指導事例から、学習内容や学習形態・指導体制等がどのように工夫されているかを調べる。 小テストを実施する。（山下・白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第11回	【肢体不自由児教育の実践Ⅳ 特別の教科 道徳・特別活動の指導】 特別支援学校で取り組まれている特別の教科 道徳、特別活動における指導を紹介し、障がいや発達を踏まえ一人一人のニーズに応ずる特別の教科 道徳や特別活動指導の工夫を調べる。（山下）	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第12回	【肢体不自由児教育の実践Ⅴ 自立活動の指導】 自立活動とは何なのか、なぜ肢体不自由児教育で重要な要素とされているのかを考え、自立活動の意義や指導の実際を解説する。（白幡）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			

第13回	【肢体不自由児の教育の実践VI 共同学習及び交流学習】 共同学習及び交流学習指導の現状やその共通点や違いについて解説する。また、実施されている幼稚園や小中学校との連携の在り方や指導の工夫について考える。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 （90分）
担当教員			
第14回	【特別支援教育センターとしての役割と校内連携】 特別支援学校が果たしているセンター的役割 について解説する。また校内連携（特に健康面）にかかる重要な事項を開設する。 さらに地域の福祉事業所との連携や教育相談について考える。（山下）	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 （90分）	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。（90分）
担当教員			
第15回	【講義のまとめ 肢体不自由教育の課題】 これまでの講義を振り返ってキーワードから、要点を整理する。さらに、肢体不自由児教育の現状から学んだ成果と課題について、まとめのテストを実施する。（山下・白幡）	予習のプリント及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。（90分）	予習のプリント及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(20%) 2回の小テスト(20%) まとめのテスト(30%)
その他	0	

教科書

運動機能の困難への対応(特別支援教育免許シリーズ)
樫木暢子、笠井新一郎、花井丈夫 編著
建帛社
＊(前期講座)肢体不自由教育Ⅰと教科書は共通

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。
宿題・予習のプリントは、必ず提出すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	病弱教育					ナンバリング	3580
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷　岐子、山下　秀樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と関係する科目である。
特別支援教育の専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。
病弱者の心理・生理・病理（1年）、特別支援教育総論（2年）に関連する。

授業の概要

特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を理解する。幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標

1. 生きる力として知・特・体に加え、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。
2. 病気や障がいの状態、特性および心身の発達の段階等並びに学習の進度を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。
3. 各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児、児童又は生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することを理解している。
4. 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するともに、教化と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを理解している。
5. 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウト、視聴覚メディアを適時活用しながら授業内容を解説する。さらに、病弱教育についての理解を深めるための、グループ学習、体験学習、問題解決学習、ディスカッション等を取り入れる。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、病弱教育に関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。(木谷)
特別支援教育の教諭、管理職として、38年間特別支援教育に従事した実務経験を活かし、病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導や、自立活動及び自立活動の指導等、具体的な授業場面を想定した授業設計に関する学びを提供する。(山下)

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	●オリエンテーション 本講義のシラバスや成績・評価についての説明を受けるとともに、病弱教育の概要について学習する。病弱教育の教育課程・位置づけを考えたり、様々な病種を理解する講義であることを認識する。	本講義の内容を認識する。(90分)	病弱教育の概要をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子、山下　秀樹		
第2回	●病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難と教育課程（木谷） 病弱養護学校、特別支援学級(院内学級)、小学校や中学校に在籍している児童生徒たちが、自分の病気のことで困っていることや悩んでいることについて考える。	1年生前期に学んだ「病弱者の心理・生理・病理」の資料を読んで復習する。(90分)	病気の子供たちの困り感と教師ができる対応をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	●病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階について①(木谷) 児童生徒一人一人の不安や悩み、繊細な思いを理解する関わり方を、心理臨床で活用されている方法論を通して学ぶ。	心理臨床で活用されている方法論について調べる。(90分)	心理臨床で活用されている方法論についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	●病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階について②(木谷) 演習を通して、児童生徒一人一人の不安や悩み、繊細な思いを理解する関わり方を学ぶ。	特に興味を持った心理臨床の方法論について調べる。(90分)	演習の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	●病弱・身体虚弱のあるこどもが抱える様々な不安とその対応①(木谷) こころの不調に関する基本的な理解の仕方や、様々な状態像について学ぶ。	こころの不調の状態像について調べる。(90分)	こころの不調に対する、基本的な考え方をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	●病弱・身体虚弱のあるこどもが抱える様々な不安とその対応②(木谷) 視聴覚教材や、事例を通して、こころの不調をかかえる児童生徒への理解を深める。	こころの不調について考え、まとめたことを話し合う。(90分)	視聴覚教材の内容や事例についての感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	●自立活動の指導における指導計画の作成、指導内容・方法①（山下） 特別支援教育ならではの指導領域である自立活動を主とした個別の指導計画の作成について学ぶ。	本人が困っていることは何かを話し合う（自立活動の項目を参照）。（90分）	生徒の実態に応じた障害の捉え方まとめる。（90分）
担当教員	山下　秀樹		
第8回	●自立活動の指導における指導計画の作成、指導内容・方法②（山下） 一人ひとりの実態を踏まえた系統的な指導実践を展開できるよう指導案（略案）の作成を学ぶ。	指導の根拠について主体的対話的に話合う。（90分）	個別の指導計画を基に授業展開をまとめる。（90分）
担当教員	山下　秀樹		
第9回	●各教科等の個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメント①（山下） 各教科等の教育内容を相互に関連付けながら教科横断的な視点を学ぶ。	目標達成に必要な教育の内容を認識する。（90分）	より良い指導の実践についてまとめる。（90分）
担当教員	山下　秀樹		

第10回	●各教科等の個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメント②(山下) 生徒の実態を踏まえ、自己有用感を引き出す個別の指導計画の作成を学ぶ。	カリキュラム・マネジメントを大局的に捉え3つの層について認識する。(90分)	教育活動に必要な条件整備を授業内容と一体に考え地域の特性等(学生の地元等)をまとめる。(90分)
担当教員	山下　秀樹		
第11回	●学習効果、指導効果を高めるICTの活用、教材教具の活用①(山下) 病弱教育における情報化の意義や有効性について考える。	病弱教育における情報化の施策を認識する。(90分)	リアルタイムで行える学習内容について創造しまとめる。(90分)
担当教員	山下　秀樹		
第12回	●学習効果、指導効果を高めるICTの活用、教材教具の活用②(山下) 比較的障がいの重い生徒の自己有用感を高めるための自作教材を用いて授業の深まりを学ぶ。	併せ持つ障害のケースの場合、限られた学習活動をとおしてより有効な展開を考えまとめる。(90分)	様々な発表内容を聞いて感想をまとめる。(90分)
担当教員	山下　秀樹		

第13回	●自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成①(山下) 各教科の指導と自立活動の指導の基本的な違いについて認識し、6区分27項目について認識し指導案を作成する。	慢性疾患の生徒の自立活動を主とした教育課程を想定し学習指導案を作成する。(90分)	個のニーズに対応した授業展開をまとめる。(90分)
担当教員	山下 秀樹		
第14回	●自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成②(山下) 医療と教育が連携し、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の核として支援していく場合の学校(教師)の役割について。	健康面で多くの課題を抱えている生徒への配慮について「健康の保持」の考えをまとめる。(90分)	事例を通して個々の対応例について具体策をまとめる。(90分)
担当教員	山下 秀樹		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	講義で学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子、山下 秀樹		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%) グループ単位の発表活動及び、ディスカッションへの参加の積極性(30%)
その他	0	

教科書
使用しない
参考文献

適時資料を配布する

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	視覚・聴覚障がい教育					ナンバリング	3582
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	伊藤　太、福山　紀枝子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会にと保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの 実態に即して成長・発達を支援する基本的な資質を身につけている【知識・技能】」ことと関係する科目であり、視覚及び聴覚に障がいのある幼児、児童生徒の特性などを理解し、基礎的・基本的な知識を修得する科目である。さらに、「特別支援教育総論」及び「視覚・聴覚 障がい者の心理・生理・病理」と関連し、「特別支援教育実習」の基礎となる。

授業の概要

本授業は、特別支援教育に関する視覚障がい児及び聴覚障がい児の教育課程及び指導法に関する科目として、視覚障がい教育及び聴覚障がい教育の 国内外の教育の歴史、就学制度を含む教育の制度、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成、重複障がい者等に関する教育課程の取扱いなどによる教育課程編成について学ぶ。
視覚障がい及び聴覚障がいを教育する特別支援学校学習指導要領に示された配慮事項に基づく指導内容・方法、点字指導・歩行指導・視覚補助具の指導や聴覚口話法・指文字・手話、各種情報機器等の活用についての基礎的知識について学ぶ。

到達目標

視覚・聴覚障がいを抱える幼児・児童・生徒の主たる疾患等や視覚・聴覚障がい教育の教育課程の編成、自立活動等に係る教育内容・方法の基礎的・基本的事項について理解できる。
視覚・聴覚障がい教育の教育課程編成に係る基礎的知識を身に付けることができる。

授業の方法

事前授業として、事前学習資料を精読し、ミニレポートをフォーム等で提出する。
スライド及び配布資料により、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。
フィードバックとして講義内容の振り返りのミニレポートをフォーム等で提出し理解度の確認を行う。

ICT活用

毎時間スライドを活用し、視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいに係る動画を視聴し、より理解が深められるようにするとともに、ペア討議やグループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

特別支援学校（視覚障がい）や、公立小学校・中学校の通級指導教室（言語・難聴・発達）での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい 授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして振り返りのミニレポートなどによる理解度の確認を行う。また、レポート内容に関して、フィードバックした方がよい内容については、回収後に個別もしくは全体に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	＜テーマ＞「聴覚障がい教育の歴史と教育制度」 ・講義予定、評価等について説明する。 ・聴覚障がい教育の歴史の概要や特別支援学校（聴覚障がい）の教育課程について中心に説明し、障がいの程度や状況を踏まえた就学や教育的ニーズの傾向について学ぶ。	・本講義のシラバス及び授業内容につ いて確認する。 ・1年次に履修した「聴覚障がい者の心理・生理・病理」について復習し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。（90 分）	聴覚障がい教育の歴史と教育制度について、講義の内容をミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。（90分）
担当教員	伊藤　太		
第2回	＜テーマ＞「特別支援学校（聴覚障がい）の幼稚部及び小学部の教育課程の編成」 幼稚部及び小学部の教育課程の編成、対象と学びの場の現状を知り、聴覚障がいを抱える幼児・児童への学習支援のポイントについて概要を学ぶ。	配布した事前学習資料を精読し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。（90分）	聴覚障がいのある幼児・児童への学習支援について、講義の内容についてミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。（90分）
担当教員	伊藤　太		
第3回	＜テーマ＞「特別支援学校（聴覚障がい）の中学部及び高等部の教育課程の編成」 中学部及び高等部の教育課程の編成、対象と学びの場の現状を知り、聴覚障がいを抱える生徒への学習支援のポイントについて概要を学ぶ。	・配布した事前学習資料を精読し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。 ・まとめのテストに向けて聴覚障がい教育の講義資料（第1回～3回）について復習する。（90分）	聴覚障がいのある生徒への学習支援について、講義の内容についてミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。（90分）
担当教員	伊藤　太		

第4回	＜テーマ＞「聴覚障がい教育の今日的な課題」 聴覚障がい教育における学びの場が多様化した現状を知り、聴覚障がい教育の今日的な課題について学ぶ。聴覚障がい教育について学んだ成果について、まとめのテストを実施する。	配布した事前学習資料を精読し、ミニレポートにまとめフォームにて提出する。(90分)	聴覚障がい教育の今日的な課題について、講義の内容についてミニレポートにまとめ、フォームにて提出する。(90分)
担当教員	伊藤　太		
第5回	＜テーマ＞「視覚障がい教育の歴史と教育制度」 視覚障がい児教育の歴史から現行のインクルーシブ教育制度下での教育内容や学ぶ場について説明し、障がいの程度や状況を踏まえた就学や教育的ニーズへの支援の観点から必要な教育課程について考える。	講義内容について確認し、教科書を中心に授業内容に関わる箇所を事前に調べる。 (90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	福山　紀枝子		
第6回	＜テーマ＞「眼疾患と視覚管理及び視機能と検査法」 眼疾患に対応した視覚管理のあり方や視力について考え、視力や視野等の視機能の各種検査法について解説する。	講義内容について確認し、教科書を中心に授業内容に関わる箇所を事前に調べる。 (90分)	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	福山　紀枝子		

第7回	＜テーマ＞「視覚障がい児の発達と空間認知」 全盲児から弱視児までの視覚状況と知的発達の関係を考え、触察や触読の能力や空間認知の仕方などについての特性を理解する。	教科書を中心に、授業内容に関わる箇所を事前に調べる。（90分）	配布資料などにより、授業内容についてまとめる。（90分）
担当教員	福山　紀枝子		
第8回	＜テーマ＞「ロービジョン児の見え方及び視覚支援」 弱視児の見え方を理解し、生活や学習の中での困難を考える。障がいを改善・克服するための支援器具としての視覚補助具等について、白杖や映像などを使って紹介する。視覚障がいについて学んだ成果について、まとめのテストを実施する。	教科書及び資料等を中心に、授業に関わる事項を事前に調べる。 視覚障がいのまとめのテストに向けて視覚の全体の学習内容について確認する。（90分）	スライド資料や配布資料などにより、授業内容についてまとめる。 まとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめる。（90分）
担当教員	福山　紀枝子		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前学習の状況(20%)、授業への出席及び参加態度(20%)、授業内での発表状況(10%)、事後学習の状況(20%) 障がい種別にまとめのテストを実施する(30%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

・聴覚障がい(第1回～4回)…なし
・視覚障がい(第5回～8回)…新・視覚障害教育入門 青柳まゆみ・鳥山由子 編著 ジアーズ教育新社、
1年次の使用教科書

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。
備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	重複障がい教育総論					ナンバリング	3584
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会にと保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援する基本的な資質を身につけている【知識・技能】」に関係する科目であり、主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目である。
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修である。
知的障がい教育Ⅰ・Ⅱ、肢体不自由児教育Ⅰ・Ⅱ(2年)及び発達障がい等教育総論(3年)が基礎となっている。

授業の概要

重複障がい教育の歴史や障がいの特性を知り、どのように進められてきたのか、また、現在の重複障がい児教育がどのように発展してきたか学ぶ。
特別支援学校学習指導要領から、重複障がい児教育の教育課程と編成について解説し、教科や領域を合わせた指導や自立活動の指導について学ぶ。また、障がいを見通して展開されている多様な教育活動について紹介し、あわせて保護者や障がい者から社会参加の現状を聞き、これからの課題について考える。

到達目標

①重複障がいについての定義や対象児を理解すると共に、重複障がい教育の歴史や可能性について説明できる。
②学習指導要領で示された重複障がい者に関する教育課程の取り扱いを理解し、障がいの状態から必要とされる教育的ニーズに対する授業づくりについて関連づけることができる。
③特別支援学校等での教育実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。

授業の方法

パワーポイントおよび配布物を用いて、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。
資料映像や当事者のお話を直接聞くなどしながら授業を進める。
レポートへのコメント等によりフィードバックする。

ICT活用

パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題の返却時に回答例を解説することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション 重複障がい児と教育】 講義の概要と今後の予定、及び受講上の注意について周知する。特別支援教育における重複障がい児の概念及び、教育の現状からから今後の受講における視点や今後の学習内容の整理を行う。	重複障がいついて、関係する専門書などを中心に調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	【重複障がいについて知る】 重複障がい教育を進める上で必要な身体状況や発達、心理的な特性などを知る方法を解説する。さらに実際に身体状況のチェック表や発達診断テスト等に取り組み、重複障がい児の特徴を把握する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	【重複障害児のための教育課程】 学習指導要領等に示された重複障がい者等に関する教育課程の取り扱いについて解説し、障がいの状況を踏まえた教育課程の編制についての考え方を理解する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	【知的障がい教育の教育課程】 重複障がい児は知的障がいを伴うことが多い。そのため特別支援学校の実践例を示しながら、知的障がい教育の考え方を取り入れた教育課程について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	【重複学級の経営と学内外との連携】 重複学級や訪問学級の経営について必要な知識や方策を考えさせ、保護者や医療、療育、福祉等の関係者と連携した学級経営の在り方について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	【訪問教育】 重複障がい児への訪問教育の制度や歴史をたどり指導の実態等を紹介しながら、訪問教育で必要な知識や指導の在り方や授業作りなどをグループごとに考えて発表する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	【幼児の発達支援と教育】 重複障がい幼児の誕生からその後の発達を支援する療育・教育について解説し、幼児への特別支援教育が果たす役割を考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	【障がい者を知る】 重い障がいがありながらも社会の中で活躍されている障がい者からそのたくましい生き方についての思いを知り、特別支援教育が求められていること、果たすべき役割を考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	【支援や介助の実際について知る】 重複障がい児教育の場で必要な支援や介助の仕方について解説する。一人一人の障がい実態や指導する環境、支援機器の活用状況等の紹介から、必要な支援や介助の在り方をグループごとに考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	【障がい児の保護者の思いを知る】 重い障がいのある子どもを育てている保護者から出生から現在までの子育てについての思いを知り、子どもの障がいや地域での生活の様子を知り、教育への期待や保護者としての思いや願いについてグループごとに考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	【てんかん児の健康管理】 抗てんかん薬の投与や吸引器、人工呼吸器等使用などの医療面での管理が必要な子どもの学校での健康管理について主にてんかんから解説し、医療的ケアの実際や日常的な健康管理について考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	【障がいと教育】 障害者観の歴史をたどり、最近の「ICF」の考え方を紹介し障がいのある人々の社会参加について考える。また、社会参加のために学校教育の中で取り組まれている、移行支援や進路支援について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	【重複障がい児のための授業つくり 1】 特別支援学校の重複学級で作成された指導案をもとに、様式や内容から作成における手順や配慮事項を解説し、実際に指導案を作成する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	【重複障がい児のための授業つくり 2】 特別支援学校の重複学級で作成された指導案をもとに、様式や内容から作成における手順や配慮事項を解説し、実際に指導案を作成する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	【講義のまとめ 重複障がい教育の課題】 講義を振り返って要点を整理する。 重複障がい教育のまとめのテストを実施する。	授業内容の予告に基づき、内容及びまとめのテストに向け、全体の授業内容について確認しておくこと。 (90分)	まとめのテストの確認及び配布プリントを中心に、授業内容についてまとめをしておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(20%) 小論文の提出(10%) 感想文の提出 (10%) まとめのテスト (30%)
その他	0	

教科書

複数の困難への対応(特別支援教育免許シリーズ)
樫木暢子、金森克浩、船橋篤彦 編著
建帛社

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修.

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　特別支援専門科目						
科目名	発達障がい等教育総論					ナンバリング	3586
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷　岐子、村田　敏彰						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）」、「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）」と関係する科目である。
特別支援教育の専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。
特別支援教育総論の学びがベースになっている。

授業の概要

第1回から第7回までは、発達障がいのあるこどもの心理・生理・病理と家庭や関係機関との連携について学習し、第8回から第15回までは、発達障がいのあるこどもに対する教育課程やカリキュラム・マネジメント、各教科等の指導における配慮事項、授業設計を行う方法について学習する。

到達目標

①発達障がいがある幼児、児童又は生徒の脳機能に関わる病理面及び心理面や生理面の特徴とそれらの相互作用を理解するとともに、家庭や関係機関との連携について理解する。
②発達障がいがある幼児、児童又は生徒に対する教育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントについて理解するとともに、障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解する。
③具体的な授業場面を想定した授業設計等を行う方法を身に付ける。

授業の方法

授業とグループ単位で取り組む演習を組み合わせて行う。アクティブな学習環境を提供する。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事してきた実務経験を活かし、発達障がいに関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する（木谷）

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	●オリエンテーション 講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。発達障がいに対してもっているイメージや、各自のこれまでの経験を確認する。	シラバスを読み、学習内容を確認し、特に興味がある内容を書き出す。(90分)	配布された資料を基に、これからの授業の見通しを持つ。(90分)
担当教員	木谷　岐子、村田　敏彰		
第2回	●ASDについて ASDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	ASDの概念についてこれまでの学びを確認する。(90 分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	●ADHDについて ADHDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	ADHDの概念についてこれまでに学んだことをまとめておく。(90分)	配布されたプリントを参考にして、ADHDの特徴についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	●LDについて LDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	LDの概念についてこれまで学んだことをまとめておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、LDの特徴についてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	●障がいと共にある人への社会のサポート① 障がいと共にある人への社会のサポート体制について、乳幼児期から成人期まで整備されている様々なサポートの全体像を学ぶ。	障がいと共にある人への社会のサポートについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、社会のサポート機能についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	●障がいと共にある人への社会のサポート② 児童発達支援の分野で行われている、こどもへの支援や、保護者への支援について学ぶ。この回は特に、児童発達支援センターや放課後等デイサービスについて学ぶ。	児童発達支援センターや放課後等デイサービスについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	●障がいと共にある人への社会のサポート③ 障がいがある子どもを育てる保護者の心情や保護者が求める支援について学ぶ。	保護者の障がい受容のプロセスについて、1年生で学んだ理論に基づいて復習する。(90分)	配付されたプリントを参考にして、保護者の心情や保護者が求める支援についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子		
第8回	●教育課程の編成と日常の授業における合理的配慮 通常の学級の教育課程を基盤とした学習上・生活上の困難を改善・ 克服する力を育む特別の教育課程編成の意義や方法、カリキュラム・マネジメントについて学ぶ。	障がいによる学習上・生活上の困難について、特別支援教育総論で学んだことをまとめておく。(90分)	″配付されたプリントを参考にして、 特別の教育課程編成の意義や方法に、カリキュラム・マネジメントついてまとめる。(90分)″
担当教員	村田　敏彰		
第9回	●校内支援体制の推進 校内支援委員会、個別の教育支援・指導計画の策定、特別支援教育コーディネーターによる連絡調整に関わる校内体制推進上のポイントについて学ぶ。	特別支援教育の校内支援体制について、特別支援教育総論で学んだことをまとめておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、校内支援体制推進上のポイントについてまとめる。(90分)
担当教員	村田　敏彰		

第10回	●通級による指導① 通級指導教室の教育課程編成と自立活動の具体的な指導内容及び配慮事項について理解を深める。	通級指導教室の役割や具体的指導内容について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、自立活動の指導内容や配慮事項についてまとめる。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第11回	●通級による指導② 通級指導教室の教育活動に必要な校内外の人的・物的資源の活用について理解を深める。	通級指導教室の教育活動に必要な人的・物的資源について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、人的・物的資源活用のポイントについてまとめる。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第12回	●個に応じた指導の充実① 授業・教室環境のユニバーサルデザインについて、視聴覚教材を活用しながら理解を深める。	授業・教室環境のユニバーサルデザインについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、授業・教室環境のユニバーサルデザインについてまとめる。(90分)
担当教員	村田　敏彰		

第13回	●個に応じた指導の充実② 人的環境のユニバーサルデザインについて、視聴覚教材を活用しながら理解を深める。	人的環境のユニバーサルデザインについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、人的環境のユニバーサルデザインについてまとめる。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第14回	●個に応じた指導の充実③ 教育課程編成上の工夫や指導上の配慮の実際について、事例を通じて理解を深める。	個に応じた指導の工夫点や配慮事項、カリキュラム・マネジメントについて調べる。(90分)	事例検討における意見を参考にして、個に応じた指導上の留意事項やカリキュラム・マネジメントについてまとめる。(90分)
担当教員	村田　敏彰		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	第14回までの講義で配布された資料を見直し、学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷　岐子、村田　敏彰		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数 50% 制作活動、ディスカッションへの参加の積極性等、授業参加態度 50%
その他	0	

教科書

使用しない。

参考文献

随時必要な参考資料を配布する。

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習指導Ⅰ（前半）					ナンバリング	3830
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている（関心・意欲・態度）」と特に関係がある科目である。また、教育実習Ⅰ（幼稚園実習）で必要な、実践的な指導力の基礎を培い、幼稚園に関する基礎的な技術等を具体的に習得する科目である。
「幼児の理解」を基礎とし、「教育実習Ⅰ」及び「教職実践演習」に繋がる科目である。

授業の概要

幼稚園教育実習に向けての指導として、幼稚園実習の目的、意義、保育の部分指導に関する実習指導案作成等を行う。幼稚園教育実習で最小限必要な、実践的な指導力の基礎を培う。幼稚園教育実習を円滑にするために、幼稚園に関する基礎的な知識・実習に必要な技術、実習に関わる実務などを具体的に習得する。

到達目標

1. 幼稚園教育実習へ向け、自己課題を明確にし、目的意識を高め、意欲的に実習に取り組むことができる。
2. 子ども・保育者などとのコミュニケーション能力を身につけ、実践できる。
3. 指導案作成や、教材研究等を通し、保育実践の理解を深め、自身の保育に活かすことができる。
4. 実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確に論じることができる。

授業の方法

配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

配布資料の他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学び、さらにGoogle Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園、保育所、学童保育の保育現場での担任業務、管理職業務の経験から、幼稚園教諭として必要なことを指導していく。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）。②渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	幼稚園教育実習について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第3回	部分実習の指導計画を立案する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第4回	部分実習の指導計画を立案する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第5回	部分実習の模擬保育及び発表する①。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第6回	部分実習の模擬保育及び発表する②。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第7回	部分実習の模擬保育及び発表する③。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第8回	部分実習「絵本読み」について留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第9回	「園外保育」について考える①。「園外保育」において留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第10回	「園外保育」について考える②。「園外保育」のロールプレイングを通して実際的に理解する。（アクティブラーニング）	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第11回	指導計画とは①。指導計画について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第12回	指導計画とは②。「週案」を理解し作成する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第13回	保育実習Ⅰ－2(保育所)での経験をグループ討議等によって、幼稚園教育実習に生かす。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第14回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第15回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第16回	部分案の作成方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第17回	部分案を作成する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第18回	部分案を作成する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第19回	部分案を作成する③。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第20回	部分実習(責任実習)を行う際に留意することについて理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第21回	幼稚園教育実習単位取得者からの解説を通して、幼稚園教育実習への理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第22回	幼稚園教育実習園の選び方について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第23回	幼稚園教育実習個人調査票や日誌の記入方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第24回	幼稚園教育実習後の事後指導について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

最新保育小六法・資料集(1年次に購入済み)
幼稚園教育要領

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

教育実習Ⅰ（幼稚園教育実習）を選択する学生は必ず履修すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習指導Ⅰ（前半）					ナンバリング	3830
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている（関心・意欲・態度）」と特に関係がある科目である。また、教育実習Ⅰ（幼稚園実習）で必要な、実践的な指導力の基礎を培い、幼稚園に関する基礎的な技術等を具体的に習得する科目である。
「幼児の理解」を基礎とし、「教育実習Ⅰ」及び「教職実践演習」に繋がる科目である。

授業の概要

幼稚園教育実習に向けての指導として、幼稚園実習の目的、意義、保育の部分指導に関する実習指導案作成等を行う。幼稚園教育実習で最小限必要な、実践的な指導力の基礎を培う。幼稚園教育実習を円滑にするために、幼稚園に関する基礎的な知識・実習に必要な技術、実習に関わる実務などを具体的に習得する。

到達目標

1. 幼稚園教育実習へ向け、自己課題を明確にし、目的意識を高め、意欲的に実習に取り組むことができる。
2. 子ども・保育者などとのコミュニケーション能力を身につけ、実践できる。
3. 指導案作成や、教材研究等を通し、保育実践の理解を深め、自身の保育に活かすことができる。
4. 実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確に論じることができる。

授業の方法

配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

配布資料の他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学び、さらにGoogle Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園、保育所、学童保育の保育現場での担任業務、管理職業務の経験から、幼稚園教諭として必要なことを指導していく。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）。②渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	幼稚園教育実習について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第3回	部分実習の指導計画を立案する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第4回	部分実習の指導計画を立案する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第5回	部分実習の模擬保育及び発表する①。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第6回	部分実習の模擬保育及び発表する②。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第7回	部分実習の模擬保育及び発表する③。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第8回	部分実習「絵本読み」について留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第9回	「園外保育」について考える①。「園外保育」において留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第10回	「園外保育」について考える②。「園外保育」のロールプレイングを通して実際的に理解する。（アクティブラーニング）	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第11回	指導計画とは①。指導計画について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第12回	指導計画とは②。「週案」を理解し作成する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第13回	保育実習Ⅰ－2(保育所)での経験をグループ討議等によって、幼稚園教育実習に生かす。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第14回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第15回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第16回	部分案の作成方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第17回	部分案を作成する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第18回	部分案を作成する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第19回	部分案を作成する③。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第20回	部分実習(責任実習)を行う際に留意することについて理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第21回	幼稚園教育実習単位取得者からの解説を通して、幼稚園教育実習への理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第22回	幼稚園教育実習園の選び方について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第23回	幼稚園教育実習個人調査票や日誌の記入方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第24回	幼稚園教育実習後の事後指導について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

最新保育小六法・資料集(1年次に購入済み)
幼稚園教育要領

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

教育実習Ⅰ（幼稚園教育実習）を選択する学生は必ず履修すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習指導Ⅰ（後半）					ナンバリング	3830
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている（関心・意欲・態度）」と特に関係がある科目である。また、教育実習Ⅰ（幼稚園実習）で必要な、実践的な指導力の基礎を培い、幼稚園に関する基礎的な技術等を具体的に習得する科目である。
「幼児の理解」を基礎とし、「教育実習Ⅰ」及び「教職実践演習」に繋がる科目である。

授業の概要

幼稚園教育実習に向けての指導として、幼稚園実習の目的、意義、保育の部分指導に関する実習指導案作成等を行う。幼稚園教育実習で最小限必要な、実践的な指導力の基礎を培う。幼稚園教育実習を円滑にするために、幼稚園に関する基礎的な知識・実習に必要な技術、実習に関わる実務などを具体的に習得する。

到達目標

1. 幼稚園教育実習へ向け、自己課題を明確にし、目的意識を高め、意欲的に実習に取り組むことができる。
2. 子ども・保育者などとのコミュニケーション能力を身につけ、実践できる。
3. 指導案作成や、教材研究等を通し、保育実践の理解を深め、自身の保育に活かすことができる。
4. 実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確に論じることができる。

授業の方法

配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

配布資料の他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学び、さらにGoogle Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園、保育所、学童保育の保育現場での担任業務、管理職業務の経験から、幼稚園教諭として必要なことを指導していく。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）。②渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	幼稚園教育実習について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第3回	部分実習の指導計画を立案する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第4回	部分実習の指導計画を立案する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第5回	部分実習の模擬保育及び発表する①。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第6回	部分実習の模擬保育及び発表する②。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第7回	部分実習の模擬保育及び発表する③。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第8回	部分実習「絵本読み」について留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第9回	「園外保育」について考える①。「園外保育」において留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第10回	「園外保育」について考える②。「園外保育」のロールプレイングを通して実際的に理解する。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第11回	指導計画とは①。指導計画について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第12回	指導計画とは②。「週案」を理解し作成する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第13回	保育実習Ⅰ－2(保育所)での経験をグループ討議等によって、幼稚園教育実習に生かす。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第14回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第15回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第16回	部分案の作成方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第17回	部分案を作成する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第18回	部分案を作成する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第19回	部分案を作成する③。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第20回	部分実習(責任実習)を行う際に留意することについて理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第21回	幼稚園教育実習単位取得者からの解説を通して、幼稚園教育実習への理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第22回	幼稚園教育実習園の選び方について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第23回	幼稚園教育実習個人調査票や日誌の記入方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第24回	幼稚園教育実習後の事後指導について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

最新保育小六法・資料集(1年次に購入済み)
幼稚園教育要領

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

教育実習Ⅰ（幼稚園教育実習）を選択する学生は必ず履修すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習指導Ⅰ（後半）					ナンバリング	3830
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている（関心・意欲・態度）」と特に関係がある科目である。また、教育実習Ⅰ（幼稚園実習）で必要な、実践的な指導力の基礎を培い、幼稚園に関する基礎的な技術等を具体的に習得する科目である。
「幼児の理解」を基礎とし、「教育実習Ⅰ」及び「教職実践演習」に繋がる科目である。

授業の概要

幼稚園教育実習に向けての指導として、幼稚園実習の目的、意義、保育の部分指導に関する実習指導案作成等を行う。幼稚園教育実習で最小限必要な、実践的な指導力の基礎を培う。幼稚園教育実習を円滑にするために、幼稚園に関する基礎的な知識・実習に必要な技術、実習に関わる実務などを具体的に習得する。

到達目標

1. 幼稚園教育実習へ向け、自己課題を明確にし、目的意識を高め、意欲的に実習に取り組むことができる。
2. 子ども・保育者などとのコミュニケーション能力を身につけ、実践できる。
3. 指導案作成や、教材研究等を通し、保育実践の理解を深め、自身の保育に活かすことができる。
4. 実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確に論じることができる。

授業の方法

配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。
次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

配布資料の他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学び、さらにGoogle Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼稚園、保育所、学童保育の保育現場での担任業務、管理職業務の経験から、幼稚園教諭として必要なことを指導していく。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）。②渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。（20分）	オリエンテーション（注意事項・講義のねらいなど）にて 渡された資料を復習し、十分に再確認しすること。（25分）
担当教員			
第2回	幼稚園教育実習について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第3回	部分実習の指導計画を立案する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第4回	部分実習の指導計画を立案する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第5回	部分実習の模擬保育及び発表する①。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第6回	部分実習の模擬保育及び発表する②。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第7回	部分実習の模擬保育及び発表する③。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第8回	部分実習「絵本読み」について留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第9回	「園外保育」について考える①。「園外保育」において留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第10回	「園外保育」について考える②。「園外保育」のロールプレイングを通して実際的に理解する。（アクティブラーニング）	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第11回	指導計画とは①。指導計画について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			
第12回	指導計画とは②。「週案」を理解し作成する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。（20分）	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。（25分）
担当教員			

第13回	保育実習Ⅰ－2(保育所)での経験をグループ討議等によって、幼稚園教育実習に生かす。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第14回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第15回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第16回	部分案の作成方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第17回	部分案を作成する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第18回	部分案を作成する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第19回	部分案を作成する③。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第20回	部分実習(責任実習)を行う際に留意することについて理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第21回	幼稚園教育実習単位取得者からの解説を通して、幼稚園教育実習への理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第22回	幼稚園教育実習園の選び方について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第23回	幼稚園教育実習個人調査票や日誌の記入方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第24回	幼稚園教育実習後の事後指導について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)
その他	0	なし

教科書

最新保育小六法・資料集(1年次に購入済み)
幼稚園教育要領

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

教育実習Ⅰ（幼稚園教育実習）を選択する学生は必ず履修すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習Ⅰ					ナンバリング	4832
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	4
担当教員	山口　宗兼						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）」と特に関係がある科目である。また、幼稚園における教育・保育計画の立案・実践を行い、幼稚園教諭の姿から子どもとの関わり方、援助の方法を学ぶ科目である。加えて、「教育実習指導Ⅰ」を基礎とし、「教職実践演習」に繋がる科目である。

授業の概要

これまでの幼児教育の学習の集大成として、実践をより深めるための実習である。教育実習では、実際に幼稚園のクラスに入り、クラス担任の助手的な役割を務め、部分的にあるいは1日の指導計画の立案・実践を行う（責任実習）。このことを通して、幼児期の子ども達がどのような発達過程を歩んでいるのかを実際の子どもの遊び・仲間関係・興味・関心に触れながら学習する。また、幼稚園教諭がどのように幼児と関わり、幼児を援助しているのかを、幼稚園教諭の姿から学ぶ。

到達目標

1. 幼稚園という保育・教育の場の機能、役割を理解することができる。
2. 幼稚園における遊びや生活を通して子どもを理解することができる。
3. 幼稚園教諭の職務・役割・仕事の内容を具体的に学び理解することができる。
4. 大学における学習と実習の内容を有機的に融合することができる。

授業の方法

幼稚園教諭の職務・役割・仕事を、実習指導教諭を中心とした指導や実習巡回指導教員による指導によって理解を深める。

ICT活用

特になし

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は、幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。
実習では、直接、幼稚園教員から学ぶ。

課題に対するフィードバックの方法

教育実習Ⅰ後に事後指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○幼稚園において、4週間（原則20日間）の実習を行う ○事前訪問 ・実習先と実習のスケジュール等について確認を行い、実習に向けた諸注意等の指導を受ける	なし。	なし。
担当教員			
第2回	○参加実習 ・保育の中に入り生活や遊びを共にする中から保育を体験的に学ぶ ・幼稚園教諭の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を理解する	なし。	なし。
担当教員			
第3回	○幼児の個人差やニーズについて理解し、その援助方法を習得する ・幼児に共感し、受容する態度を身につける。 ・幼児の個人差や発達の違いに応じた援助を身につける	なし。	なし。
担当教員			

第4回	○家庭との意思疎通を具体的な事例を通して学ぶ ・日常の保護者との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ ・親子のコミュニケーションについても学ぶ	なし。	なし。
担当教員			
第5回	○部分案を作成し部分実習を行う ・個々の幼児に応じた指導案を作成し部分的な責任実習を行う ・幼児の興味関心及び安全に十分配慮する	なし。	なし。
担当教員			
第6回	○巡回指導を受ける ・巡回指導教員及び実習指導者からの指導を受け、日々の実践の反省及び課題をより明確化する ・巡回指導による助言を今後の実践に十分生かす	なし。	なし。
担当教員			

第7回	○日案を作成し全日実習を行う ・個々の幼児に応じた指導案を作成し全日（一日）の責任実習を行う ・幼児の興味関心及び安全に十分配慮する	なし。	なし。
担当教員			
第8回	○事後訪問 ・実習終了に係る挨拶を兼ねて訪問し、実習日誌等を提出する ・実習園に対して感謝の気持ちを伝える	なし。	なし。
担当教員			
第9回	○事後指導 ・幼稚園における体験をもとにし、反省や課題を明確化する。 ・今後の学習計画（教職実践演習等）を明確にし、インターンシップ等で実践する。	なし。	なし。
担当教員			

第10回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第11回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第12回	なし。	なし。	なし。
担当教員			

第13回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第14回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第15回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	実習日誌30%(記述内容・実習後の反省・考察)・実習態度20%(出席簿等の結果)
その他	50	実習園評価50%(実習態度・理解・指導力等)

教科書

特になし

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

こども発達学科学外実習履修要件を満たしていること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	特別支援学校教育実習講義(前半)					ナンバリング	3880
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

「ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ことと関連する科目であり、学習指導要領に準拠した教育課程並びに特別支援学校での教育実習に向けた心構えについて学び、学習指導案に基づく模擬授業及び授業観察を行う科目である。
4年次の特別支援教育実習につながる。

授業の概要

特別支援学校の教育実習にあたっての心構えや特別支援学校の組織並びに通常の学校と異なることについて学ぶ。また可能な範囲で実習を行う学校種別ごとに分かれて学習指導案の作成方法について学ぶ。さらに、実際に学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の反省に基づいた授業の評価方法を身につける。

到達目標

①特別支援学校における教育実習にむけた心構えなどについて理解できる。
②実習を行う学校種別ごとに分かれての教材研究や学習指導案の作成ができる。
③反省や評価に基づく模擬授業及び授業観察を行うことができる。

授業の方法

パワーポイントによるプレゼンテーション及び資料により、授業内容に合わせて講義形式・演習方式で進めていく。
フィードバックとしてミニレポートなどによる理解度の確認を行う。

ICT活用

パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介、指導案作成のポイント等について、より具体的で実習に活かせるような授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物については、返却時に補足説明をし、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○ オリエンテーション ・特別支援学校における教育実習講義のシラバスについての説明を受ける。 ・特別支援学校における教育実習にむけた基本的な心構えについて考える。	本講義の内容（シラバス）について確認する。（25分）	基本的な心構えをまとめる。（20分）
担当教員			
第2回	○教育実習ハンドブックについて ・「保育実習・教育実習ハンドブック」（こども発達学科編）の内容について確かめる。 ・ハンドブックにより「特別支援学校教諭免許取得」にかかる実習内容などについて理解する。	ハンドブックの内容について確認する。（25分）	免許取得の内容をまとめる。（20分）
担当教員			
第3回	○あいさつの仕方など、実習中の子供たちとのかかわり方について ・特別支援教育実習における配慮事項などについて、ハンドブックをもとに考える。 ・特別支援教育実習における教職員、保護者及び児童生徒への接し方について考える。	実習での配慮事項を確認する。（25分）	実習現場での配慮点をまとめる。（20分）
担当教員			

第4回	○校務分掌と学級経営、学級（ホーム・ルーム）活動について ・特別支援学校における校務分掌や学級の形態について理解する。 ・特別支援学校における「個別指導計画」「個別の教育支援計画」について理解する。	特別支援学校の実態について調べる。（25分）	指導計画・教育支援計画をまとめる。（20分）
担当教員			
第5回	○特別支援学校における教育実習の意義と目的について ・特別支援教育に関するDVDを視聴し、その教育に関するレポートをまとめる。 ・特別支援学校における教育実習にむけた自分の考えや抱負をまとめ発表する。	教育実習の意義・目的を確認する。（25分）	実習に向けた考え方などをまとめる。（20分）
担当教員			
第6回	○特別支援学校の組織や通常の学校との違いなどについて ・なぜ、特別支援教育に変わったのか、その基本となる考え方は何かを理解する。 ・特別支援教育コーディネーターの役割について知る。 ・特別支援学校と特別支援学級並びに普通学級における教育の違いを理解する。	特別支援教育に関して調べる。（25分）	通常学級との違いをまとめる。（20分）
担当教員			

第7回	○良い学級づくり、良い授業の進め方について ・特別支援教育における教育課程の構造について理解する。 ・知的障害教育及び視覚・聴覚・肢体不自由・病弱教育に関する教育課程の内容について理解する。 ・4領域（各教科・特別な教科 道徳・特別活動・自立活動）及び各指導の形態について理解する。	教育課程の構造について調べる。（25分）	領域、指導の形態についてまとめる。（20分）
担当教員			
第8回	○教材研究、授業への準備について ・個別の実態把握から授業の計画・実施・評価（P・D・C・A）について理解する。 ・特別支援教育で対象となる児童生徒について考える。 ・支援を要する（障害のある）児童生徒への対応について考える。	授業のP・D・C・Aについて調べる。（25分）	児童生徒への対応についてまとめる。（20分）
担当教員			
第9回	○学習指導案の作成について（教科別の指導） ・「教科別の指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「教科指導」と「「教科別の指導」との違い（教育課程の再編成）について理解する。 ＜準備学習＞教科別の指導について調べる。 ＜事後学習＞教育課程の再編成についてまとめる。	教科別の指導について調べる。（25分）	教育課程の再編成についてまとめる。（20分）
担当教員			

第10回	○学習指導案の作成について（領域・教科を合わせた指導） ・「領域・教科を合わせた指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」及び「自立活動」について理解する。	学習指導案の作成について調べる。（25分）	合わせた指導についてまとめる。（20分）
担当教員			
第11回	○学習指導案の作成及び授業観察について ・特別支援学校に関する学校種別（障害種別）の教育内容等に関して理解する。 ・特別支援学校における5つの障害種に関して、各グループ毎に課題学習を取り組む。	特別支援学校の障害種について調べる。（25分）	グループごとの課題をまとめる。（20分）
担当教員			
第12回	○模擬授業「学習指導案にそった授業及び授業観察」 ・作成した指導案をもとに、各グループ毎に模擬授業を行う。 ・各グループの模擬授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業に関して調べる。（25分）	模擬授業の観察記録をまとめる。（20分）
担当教員			

第13回	○模擬授業「反省・評価に基づく授業及び授業観察」 ・各グループの模擬授業に対する反省・評価などをもとに授業を展開する。 ・反省・評価などをもとにした授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業の反省・評価に関して調べる。(25分)	模擬授業の観察記録を仕上げる。(20分)
担当教員			
第14回	○教育実習に向けて ・実習ハンドブックなどを参考に実習日誌の書き方について考える。 ・実習報告書等の作成に取り組む。 ・実習の自己評価などの観点について整理し、実習課題との整合性をもたせる。	実習日誌の記入について確認する。(25分)	自己評価の観点についてまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	○まとめ ・特別支援教育実習講義の内容について整理する。 ・教育実習にあたっての決意や抱負について改めて整理し、発表する。	実習に向けた決意や抱負を考える。(25分)	本講義の内容についてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題の提出(20%) ・授業観察時の討議及び観察記録の提出(25%) ・学習指導案の作成(25%) ・模擬授業の実施(30%)
その他	0	

教科書

なし

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック

履修条件・留意事項等

4年次の特別支援学校教育実習については、3年次終了時までに、特別支援学校教諭免許の必修科目の
80％以上（事前事後指導科目を含む）の単位履修が必要となることに留意する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	特別支援学校教育実習講義(後半)					ナンバリング	3880
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ことと関連する科目であり、学習指導要領に準拠した教育課程並びに特別支援学校での教育実習に向けた心構えについて学び、学習指導案に基づく模擬授業及び授業観察を行う科目である。
4年次の特別支援教育実習につながる。

授業の概要

特別支援学校の教育実習にあたっての心構えや特別支援学校の組織並びに通常の学校と異なる点について学ぶ。また可能な範囲で実習を行う学校種別ごとに分かれて学習指導案の作成方法について学ぶ。さらに実際に学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の反省に基づいた授業の評価方法を身につける。

到達目標

①特別支援学校における教育実習にむけた心構えなどについて理解できる。
②実習を行う学校種別ごとに分かれての教材研究や学習指導案の作成ができる。
③反省や評価に基づく模擬授業及び授業観察を行うことができる。

授業の方法

パワーポイントによるプレゼンテーション及び資料により、授業内容に合わせて講義形式・演習方式で進めていく。
フィードバックとしてミニレポートなどによる理解度の確認を行う。

ICT活用

パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら模擬授業や授業観察等を通して、互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介,指導案の作成のポイント等について、より具体的で実習に活かせるような授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物については、返却時に補足説明をし、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○ オリエンテーション ・特別支援学校における教育実習講義のシラバスについての説明を受ける。 ・特別支援学校における教育実習にむけた基本的な心構えについて考える。	本講義の内容（シラバス）について確認する。 （25分）	基本的な心構えをまとめる。（20分）
担当教員			
第2回	○教育実習ハンドブックについて ・「保育実習・教育実習ハンドブック」（こども発達学科編）の内容について確かめる。 ・ハンドブックにより「特別支援学校教諭免許取得」にかかる実習内容などについて理解する。	ハンドブックの内容について確認する。（25分）	免許取得の内容をまとめる。（20分）
担当教員			
第3回	○あいさつの仕方など、実習中の子供たちとのかかわり方について ・特別支援教育実習における配慮事項などについて、ハンドブックをもとに考える。 ・特別支援教育実習における教職員、保護者及び児童生徒への接し方について考える。	実習での配慮事項を確認する。 （25分）	実習現場での配慮点をまとめる。（20分）
担当教員			

第4回	○校務分掌と学級経営、学級（ホーム・ルーム）活動について ・特別支援学校における校務分掌や学級の形態について理解する。 ・特別支援学校における「個別指導計画」「個別の教育支援計画」について理解する。	特別支援学校の実態について調べる。（25分）	指導計画・教育支援計画をまとめる。（20分）
担当教員			
第5回	○特別支援学校における教育実習の意義と目的について ・特別支援教育に関するDVDを視聴し、その教育に関するレポートをまとめる。 ・特別支援学校における教育実習にむけた自分の考えや抱負をまとめ発表する。	教育実習の意義・目的を確認する。（25分）	実習に向けた考え方などをまとめる。（20分）
担当教員			
第6回	○特別支援学校の組織や通常の学校との違いなどについて ・なぜ、特別支援教育に変わったのか、その基本となる考え方は何かを理解する。 ・特別支援教育コーディネーターの役割について知る。 ・特別支援学校と特別支援学級並びに普通学級における教育の違いを理解する。	特別支援教育に関して調べる。（25分）	通常学級との違いをまとめる。（20分）
担当教員			

第7回	○良い学級づくり、良い授業の進め方について ・特別支援教育における教育課程の構造について理解する。 ・知的障害教育及び視覚・聴覚・肢体不自由・病弱教育に関する教育課程の内容について理解する。 ・4領域（各教科・特別な教科 道徳・特別活動・自立活動）及び各指導の形態について理解する。	教育課程の構造について調べる。（25分）	領域、指導の形態についてまとめる。（20分）
担当教員			
第8回	○教材研究、授業への準備について ・個別の実態把握から授業の計画・実施・評価（P・D・C・A）について理解する。 ・特別支援教育で対象となる児童生徒について考える。 ・支援を要する（障害のある）児童生徒への対応について考える。	授業のP・D・C・Aについて調べる。（25分）	児童生徒への対応についてまとめる。（20分）
担当教員			
第9回	○学習指導案の作成について（教科別の指導） ・「教科別の指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「教科指導」と「「教科別の指導」との違い（教育課程の再編成）について理解する。 ＜準備学習＞教科別の指導について調べる。 ＜事後学習＞教育課程の再編成についてまとめる。	教科別の指導について調べる。（25分）	教育課程の再編成についてまとめる。（20分）
担当教員			

第10回	○学習指導案の作成について（領域・教科を合わせた指導） ・「領域・教科を合わせた指導」に関する教材研究と指導案の作成に取り組む。 ・「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」及び「自立活動」について理解する。	学習指導案の作成について調べる。（25分）	合わせた指導についてまとめる。（20分）
担当教員			
第11回	○学習指導案の作成及び授業観察について ・特別支援学校に関する学校種別（障害種別）の教育内容等に関して理解する。 ・特別支援学校における5つの障害種に関して、各グループ毎に課題学習を取り組む。	特別支援学校の障害種について調べる。（25分）	グループごとの課題をまとめる。（20分）
担当教員			
第12回	○模擬授業「学習指導案にそった授業及び授業観察」 ・作成した指導案をもとに、各グループ毎に模擬授業を行う。 ・各グループの模擬授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業に関して調べる。（25分）	模擬授業の観察記録をまとめる。（20分）
担当教員			

第13回	○模擬授業「反省・評価に基づく授業及び授業観察」 ・各グループの模擬授業に対する反省・評価などをもとに授業を展開する。 ・反省・評価などをもとにした授業に関する観察記録を作成する。	模擬授業の反省・評価に関して調べる。(25分)	模擬授業の観察記録を仕上げる。(20分)
担当教員			
第14回	○教育実習に向けて ・実習ハンドブックなどを参考に実習日誌の書き方について考える。 ・実習報告書等の作成に取り組む。 ・実習の自己評価などの観点について整理し、実習課題との整合性をもたせる。	実習日誌の記入について確認する。(25分)	自己評価の観点についてまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	○まとめ ・特別支援教育実習講義の内容について整理する。 ・教育実習にあたっての決意や抱負について改めて整理し、発表する。	実習に向けた決意や抱負を考える。(25分)	本講義の内容についてまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題の提出(20%) ・授業観察時の討議及び観察記録の提出(25%) ・学習指導案の作成(25%) ・模擬授業の実施(30%)
その他	0	

教科書

なし

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック

履修条件・留意事項等

4年次の特別支援学校教育実習については、3年次終了時までに、特別支援学校教諭免許の必修科目の
80％以上（事前事後指導科目を含む）の単位履修が必要となることに留意する。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	特別支援学校教育実習					ナンバリング	4882
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。」と関係する科目である。4基領域（各教科、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動）及び総合的な学習の時間の指導形態による授業観察と、個別の指導計画・個別の教育支援計画に基づく学習指導を行い、学習指導案作成を含めた教材研究・教材作成を行う科目である。
特別支援教育実習講義及び幼稚園教育実習または小学校教育実習のスキルを基礎としている。

授業の概要

特別支援学校において、学校経営の内容、学校評価の方法、保護者との連携、児童生徒の安全、地域のセンター機能の実際等を理解する。次に、各教科、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動、総合的な学習の時間の観察を行い、その後、指導案を作成して実際の指導を行う。また、学級経営の基礎や生徒指導についても理解を深める。実習終了後の反省会などを通して、教職に対する意欲を喚起する。

到達目標

①教育実習を通して、障がいのある幼児、児童・生徒の実態把握や配慮すべき留意事項などを習得することができる。
②「領域・教科をあわせた指導」「教科別の指導」の学習指導案を作成することができる。
③配属となった学級において授業研究を行うことができる。

授業の方法

道内の特別支援学校（盲学校・聾学校・養護学校など）において、2週間から3週間の期間、教育実習を行う。
授業研究のフィードバックとしての研究協議の場において、自己評価を行う。

ICT活用

パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。
障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、研究協議の場でフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○ 特別支援学校における事前指導（オリエンテーション） ・特別支援学校の実態等について説明を受ける。 ・特別支援教育に関する基礎的知識や教員の一員としての心得について説明を受ける。	なし	なし
担当教員			
第2回	○ 各特別支援学校での教育実習（3週間） ・特別支援学校での実習にあたっての配慮事項について説明を受ける。 ・学校経営、学校評価、保護者との連携、児童生徒の安全などについて理解する。	なし	なし
担当教員			
第3回	・地域における特別支援教育の「センター的機能の発揮」について理解する。 ・障がいのある幼児・児童・生徒の実態把握や配慮すべき留意事項などについて理解する。	なし	なし
担当教員			

第4回	・各学級に所属し、指導教員(学級担任等)のもと、基本的な事柄を学びながら実習を行う。 ・学級の子供の観察と理解や教育目標の設定、教育内容・方法などについて説明を受ける。	なし	なし
担当教員			
第5回	・「領域・教科をあわせた指導」「教科別の指導」について理解を深める。 ・実習校の障害種や児童生徒の実態に応じた学習指導案の作成を取り組む。	なし	なし
担当教員			
第6回	・授業研究の準備（教材研究等）並びに授業研究に向けた事前の授業を繰り返し行う。 ・授業研究に向けて、指導教諭並びに実習担当教諭等の指導を受ける。	なし	なし
担当教員			

第7回	・授業研究を実施すると共に、授業に対する自己反省の内容を整理する。 ・授業研究に関する反省会において、実習校の教員並びに大学の巡回指導担当より指導を受ける。	なし	なし
担当教員			
第8回	○ 大学における事後指導 ・教育実習に関する自己評価（反省等）を行い、課題レポートとしてまとめる。 ・実習報告会において成果などを発表する。	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・実習校による評価(40%)＜総合評価＞ ・実習日誌(30%)＜記述内容、実習後の反省・考察＞ ・実習態度(30%)＜巡回指導教員の評価＞
その他	0	

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

・基礎免許（幼稚園または小学校）の教育実習を履修すること。
・3年次終了時までに、特別支援学校教諭免許の必修科目の80％以上（事前事後指導科目を含む）の単位
履修が必要である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習指導Ⅱ					ナンバリング	3850
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉、佐々木　英明						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる（思考・判断・表現）」ことを重視した科目である。
また、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につける（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。小学校教育実習（4年前期）、教職実践演習（4年後期）の基礎的な資質能力を身につける科目として位置づけられる。

授業の概要

教員を目指す学生が、教育実習の基礎的理解、技術習得、要領等について学び、実習の心構えを確実なものとする。そのため教育実習の意義と目的、形態や方法、授業実践の基本や技能習得等について理解を深める。
教員としての資質を磨き、実践に結び付くように演習では様々な教育活動の場を想定して実践的に行う。

到達目標

1. 教育実習の目的を説明することができる。
2. 教育課程を編成する意義を説明することができる。
3. 授業づくりの基礎を活用し、指導案の作成ができる。
4. 指導案をもとに模擬授業を行うことができる。

授業の方法

関係資料を用い、小学校の教育現場における具体的な事例を提示し、「学級経営のあり方」や「教育課程編成の方法」などを解説する。
また、小グループを編成し、指導案づくりや模擬授業と相互評価を繰り返していく。この演習を通して、授業スキルを高めていく。

ICT活用

パワーポイント等を使用し、視覚的にも理解しやすいように教育課程や単元構成の構築について解説する。
また、デジタル黒板、実物投影機、スライド黒板などを連動させた、板書指導や模擬授業づくりの場を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教員として勤務してきた経験を生かして、学校教育の在り方や教育課程などの授業を行う。
また、教育実習生の指導担当教員としての経験も多くあり、教育実習における心構え、指導案作成、生徒指導、板書指導の知識、知見を有している。
この経験を生かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。
また、模擬授業や指導案作成については個別指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【教育実習の意義や内容、要領についての理解】【教育実習の心構え】 大学の学びと実習、教員の資質、実践研究、実践的な能力、倫理性を高める基礎訓練について理解することが目的となる。 具体事例から 、教職につくための要件や教育現場の実態と今日的な課題について学ぶ。 介護等体験をふまえて、教員として求められる資質や実習の心構えについて話し合い課題意識を持つことの大切さを理解する。。 特に使命感、責任感、教育的愛情、知識・理解、指導力、コミュニケーション力の重要性について学ぶ。(佐々木雅哉)	教育実習ハンドブックを読んでおくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	【学校教育と教育法規】 ハンドブックP46-P49 法規により教員は校長を中心とした学校組織の一員として教育に当たっていることを理解する。 特に法令の体系、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、政令、省令、校務分掌などについて学ぶ。 【学校教育と教育課程 】 学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を考慮した教育課程によって教育活動が行われている ことを学ぶ。 日本各地の小学校の教育課程が今日的な教育課題を踏まえていることを主体的に対話しながら深く理解する。(佐々木雅哉)	事前に配布された小学校教育や幼・小の発達に関する資料を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第3回	【今日的な教育課題】 グループ討議を行い、学力・いじめ・不登校・虐待・ICT活用・危機管理等について深く学ぶ。 また、教育課題ごとに、現状と対策、意見を交流することで、新学習指導要領で重視されている「主体的・対話的・深い学び」や「カリキュラム・マネージメント」などを理解する。 【小学校における1年間の学校行事・活動と担任としての役割】 今時の学校校舎・子供の様子を知り、楽しい授業の作り方を学ぶ。実際に子どもが意欲的になる各教科の授業を再現し、理解を深める。(佐々木雅哉)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		

第4回	【指導案作りに向けて】 「指導案の作り方と板書計画の関連性を理解する。 これまでの各教科教育法、各教科指導論を踏まえ、子どもの実態に即した指導案作りの基礎基本を確かめる。 従来型の指導案と構造型の指導案を比較し、その違いを理解する。(佐々木雅哉)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第5回	【指導案の構成と単元計画】 実際の指導案作りを通して、従来型と構造型の違いについて不明な点や指導案と板書をリンクさせていく方法について議論を深めながら理解する。また、単元計画の再検討や教師の児童への支援の在り方についても検討し、理解を深める。 次回からのグループ別授業について、ガイダンスを行う。 (佐々木雅哉)	事前に配布された小学校教育に関する資料を読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第6回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその1 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	指導案作成をすすめる。	指導案作成、また他の授業者の批正。
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		

第7回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその2 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
第8回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその3 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
第9回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその4 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		

第10回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその5 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
第11回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその6 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
第12回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその7 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		

第13回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその8 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
第14回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその9 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	配布された模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
第15回	【教育実習での授業作りに向けて】 ・模擬授業グループその10 各自作成する指導案をもとに一人40分程度の模擬授業を行い授業作りの理解を深める。 また、相互評価を行い、模擬授業の仕方を再確認する。 (佐々木英明・佐々木雅哉)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)	模擬授業の指導案と板書を検討し、自分の模擬授業に生かすこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉、佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物 ・5点(小課題)×4回＝20点 ・小テスト10点 ・模擬授業30点・模擬授業指導案(板書計画を含む))20点 ・ 相互評価20点
その他	0	なし

教科書

・保育実習、教育実習ハンドブック(すでに配布済み)
・これまで購入した教科書を使用する。
・模擬授業に必要な教科書を各自で準備する。

参考文献

・各教科概論や各教科教育法で使用した教科書やノート、資料を活用する。

履修条件・留意事項等

備考欄

・履修者数によって、各自の模擬授業の時間が変わることがある。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	教育実習Ⅱ					ナンバリング	4852
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	4
担当教員	村田　敏彰、佐々木　雅哉、佐々木　英明						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。事前に教育実習指導Ⅱを履修していなければならない。また、小学校教員免許取得のためには、この授業あるいは「教育実習Ⅰ」が必修であるが、小学校教師になる場合はこの授業を選択すること。

授業の概要

事前指導を踏まえ、教育実習の意義を再確認しながら、授業観察の方法、指導案の書き方や授業実践の仕方について具体的に学び、実習についての心構えを身につける。また、教育実習での子ども理解や対処の仕方、学級経営などについて、現場の教員から学んだことを生かして、研究授業等に取り組む。

到達目標

教育現場で、教師の立場で教育実習を体験することにより、次の目標を達成させる。
①教職の素晴らしさに気付くことができる。
②教員としての資質や能力の基礎を身に付けることができる。
③資質・能力の向上に向けて、より意欲的に学習する態度を高めることができる。

授業の方法

4月から、実習までの4週間には、直前指導として、実習目標や心構えの確認や授業の進め方の確認をする。
4月下旬からGW中に、教科書を使って該当学年の指導計画づくりや授業の進め方について、事前の学習をさせる。
実習中の休日を利用して、実習記録の書き方や研究授業の構想などの交流や指導を通して、不安解消や実習の充実を目指す。
実習終了後は、実習の内容や努力が教員としての実践的能力に結びつくよう、事後の指導を充実させる。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

実習記録の点検と指導
①事前指導 事前訪問の内容と目標の記載
②実習中指導 記録の書き方
③事後指導 目標に対する実施状況や考察

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「オリエンテーション」 事前指導のポイントを再確認する。本実習の内容を中心に、その直前の指導や事中指導の内容を伝え、心構えを確立させる。 実習記録の書き方について説明し、個人調査書の内容を実習記録に転記させる。 事前登校(学校への電話)や実習のための通学定期券の申し込みについて説明する。	なし	なし
担当教員			
第2回	事前指導① 指導略案書きと模擬授業の準備 実習の目的を再確認する中で、教材研究の仕方について説明する。(ハンドブック使用)	なし	なし
担当教員			
第3回	事前指導② 教材研究、指導案書きを行う。また、先輩の体験談を聴き、実習に向けて意欲の向上を図る。	なし	なし
担当教員			

第4回	事前指導③ 授業参観の仕方、実習記録の書き方（実習校の概要、自己目標の具体化、日々の記録など）、出勤簿、実習評価についての説明する。購入教科書を活用した教材研究の準備をさせる。	なし	なし
担当教員			
第5回	実習中指導① 実習記録の交流と指導。授業観察の仕方の再指導。教材研究の仕方や児童との触れ合い(学級経営)についての指導。	なし	なし
担当教員			
第6回	実習中指導② 教材研究に基づく指導案作成の留意点の指導。特に、国語、算数を中心に「ねらいに基づく」「“教える”と“考えさせる”」指導を重点的に行う。	なし	なし
担当教員			

第7回	実習中指導③ 指導案作成の留意点と授業づくりの指導。特に、「わかる、できる授業」「個に応じる」指導を重点的に行う。教員としての法的事項や身分・立場についての学習についても触れる。	なし	なし
担当教員			
第8回	実習中指導④ 研究授業及び研究協議における指導。巡回指導教員による。指導のねらいに基づく授業実践の反省・評価に対する指導。児童理解に基づく授業づくりに対する指導など。	なし	なし
担当教員			
第9回	事後指導① 自己課題（目標）に基づく反省・評価の交流と自己課題の焦点化。礼状の書き方の指導と実際。 実習記録の整理と実習校への提出などの指導。	なし	なし
担当教員			

第10回	事後指導② 「実習のまとめと考察の交流」自己課題の焦点化と教職実践演習に向けての指導。また、道徳や学級活動の指導、学級経営について補足の指導を行う。	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	実習日誌30%(記述内容) 実習に対する取り組み状況30%(巡回指導の評価、出勤簿、自己評価)
その他	40	実習校による評価40%(学習指導力・生徒指導力・実習態度)

教科書

保育実習・教育実習ハンドブック

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

小学校教員免許取得希望者 必修
学外実習履修要件を満たしていること。（「保育実習・教育実習ハンドブック」3ページ参照）

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅰ－1(1組)					ナンバリング	3800
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」に関連する科目である。保育内容総論や保育者論な どの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ-1に必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅲの基礎ともなる。

授業の概要

保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究 テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。施設実習を行うため必要な「施設の現状と課題」「施設実習の意義と目的」「施設実習の特徴」「施設実習の心得」「実習日誌について」などを学ぶ。

到達目標

1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。
2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。
3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。
4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。

授業の方法

保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像（DVD）視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を 中心に行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をしかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージを整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第2回	実習の意義・目的について 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	実習施設について 児童福祉施設の社会的な役割、「社会的養護を行う施設」の特性について、また、実習園の特色を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第4回	児童福祉法と関連法規 児童福祉法、社会福祉法等についての確認を行い、その概要について理解を深める。また、「こどもの最善の利益」の意味を理解し、取り組みについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第8回	実習に必要な手続きについて 施設実習の各段階における手続きの内容について学ぶ(実習園の選択・決定、実習における必要書類、実習園によるオリエンテーション、事前事後指導、事後の御礼等)。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	施設実習の実際について① 施設の役割りと機能、施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第10回	施設実習の実際について② 対象者の理解をするために、観察の方法、記録の取り方、具体的援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第11回	施設実習の実際について③ 各施設における計画や活動、対象者の状態に応じた生活、活動や環境について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	施設実習の実際について④ 支援計画の理解、活用とこれらの計画に対する記録と省察・自己評価について理解する	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第13回	施設実習の実際について⑤（美馬） 施設における保育士の業務内容や職員間の分担や連携、職業倫理について理解する。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第14回	「もしもの時」に備える 施設においての安全対策や健康管理について理解をする。また、実習中に、1）事故にあったら 2）ケガをさせたら 3）園の物を壊したら 4）具合が悪くなったらどうするかについて知る。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第15回	まとめ 実習を行うにあたり、1）訪問指導の意義 2）訪問指導の内容を理解し、実習に臨む。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20) 授業ごとの課題への取り組み内容(30) 計画案等の提出物(50)
その他	0	

教科書

Let's have a dialogue！ワークシートで学ぶ施設実習／同文書院
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編
保育所保育指針／フレーベル館

履修条件・留意事項等

保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持っての履修が望まれる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅰ－1(2組)					ナンバリング	3800
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。」に関連する科目である。保育内容総論や保育者論な どの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ-1に必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅲの基礎ともなる。

授業の概要

保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究 テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。施設実習を行うため必要な「施設の現状と課題」「施設実習の意義と目的」「施設実習の特徴」「施設実習の心得」「実習日誌について」などを学ぶ。

到達目標

1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。
2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。
3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。
4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。

授業の方法

保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像（DVD）視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を 中心に行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をしかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージを整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第2回	実習の意義・目的について 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	実習施設について 児童福祉施設の社会的な役割、「社会的養護を行う施設」の特性について、また、実習園の特色を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第4回	児童福祉法と関連法規 児童福祉法、社会福祉法等についての確認を行い、その概要について理解を深める。また、「こどもの最善の利益」の意味を理解し、取り組みについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第8回	実習に必要な手続きについて 施設実習の各段階における手続きの内容について学ぶ(実習園の選択・決定、実習における必要書類、実習園によるオリエンテーション、事前事後指導、事後の御礼等)。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	施設実習の実際について① 施設の役割りと機能、施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第10回	施設実習の実際について② 対象者の理解をするために、観察の方法、記録の取り方、具体的援助や関わりについて理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第11回	施設実習の実際について③ 各施設における計画や活動、対象者の状態に応じた生活、活動や環境について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	施設実習の実際について④ 支援計画の理解、活用とこれらの計画に対する記録と省察・自己評価について理解する	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第13回	施設実習の実際について⑤ 施設における保育士の業務内容や職員間の分担や連携、職業倫理について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第14回	「もしもの時」に備える 施設においての安全対策や健康管理について理解をする。また、実習中に、1)事故にあったら 2)ケガをさせたら 3)園の物を壊したら 4)具合が悪くなったらどうするかについて知る。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第15回	まとめ 実習を行うにあたり、1)訪問指導の意義 2)訪問指導の内容を理解し、実習に臨む。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20) 授業ごとの課題への取り組み内容(30) 計画案等の提出物(50)
その他	0	

教科書

Let's have a dialogue！ワークシートで学ぶ施設実習／同文書院
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編
保育所保育指針／フレーベル館

履修条件・留意事項等

保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持っての履修が望まれる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅰ－2(前半)					ナンバリング	3801
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

保育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけるための科目である。保育内容総論や保育者論な どの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ-2に必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅱの基礎ともなる。

授業の概要

保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究 テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。保育所実習を行うため必要な「保育施設の現状と課題」「保育所実習の意義と目的」「保育所実習の特徴」「保育所実習の心得」「実習日誌について」「指導計画の作成」などを基にして、模擬保育等を通じて実践を学ぶ。

到達目標

1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。
2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。
3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。
4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。

授業の方法

保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像（DVD）視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を 中心に行う。

ICT活用

提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。
そのほか適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。

実務経験のある教員の教育内容

保育士としての担任業務、実習生への指導等の経験を活かし、子どもへの関わり方や保育所の役割などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

提出物や課題等への解説は、授業時間に適宜行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージ を整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第2回	実習の意義・目的について 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第3回	実習施設について 保育所の社会的な役割、について、実習施設の特徴を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			

第4回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連する法規等(児童福祉法、教育基本法、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等)について確認し、その概要について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第8回	実習における計画① 保育における計画に意義を確認し、指導計画作成の実際に触れる。(指導計画の内容と作成の具体的な方法)	指導案を作成して授業に臨む(25分)	指導案の改定と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第9回	実習における計画② 部分実習の指導計画(指導案)を作成し、作成した指導案の検討を通じて指導計画作成の意義を学ぶ。	模擬保育作成のための計画準備、参考文献等の収集(25分)	グループによる保育のねらいと内容の検討と模擬保育準備(20分)
担当教員			

第10回	模擬保育① 部分実習指導案作成とその計画に元ずく実践と評価委を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者としての評価(20分)
担当教員			
第11回	模擬保育② 部分実習指導案作成とその計画に基づく実践と評価を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者としての評価(20分)
担当教員			
第12回	実習に際しての留意事項 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について学ぶ	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			

第13回	安全管理と衛生管理の実際 実習園における安全管理・衛生管理に触れ、実習生としての安全・衛生管理の姿勢と身に着けるための要点を学ぶ。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第14回	実習課題の明確化 実習課題の重要性について理解し、課題設定や自己評価の視点について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ 及び実習課題の立案（20分）
担当教員			
第15回	まとめ 実習を行う上での自己の姿勢を点検し、意欲を高めるとともに具体的な準備や留意点の確認を行う	実習に向かう姿勢の確認を小集団によるディスカッションを通じて高める（25分）	実習課題の具体化と確認（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する課題等(20%) 授業内で実施する達成度確認(20%) 提出物等(20%) 授業への参加態度(40%)
その他	0	

教科書

自分をいかす保育実習ハンドブック 関口はつ江 大学図書出版

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編
保育所保育指針／フレーベル館

履修条件・留意事項等

保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持っての履修が望まれる

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅰ－2(後半)					ナンバリング	3801
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

保育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけるための科目である。保育内容総論や保育者論な どの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ-2に必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅱの基礎ともなる。

授業の概要

保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究 テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。保育所実習を行うため必要な「保育施設の現状と課題」「保育所実習の意義と目的」「保育所実習の特徴」「保育所実習の心得」「実習日誌について」「指導計画の作成」などを基にして、模擬保育等を通じて実践を学ぶ。

到達目標

1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。
2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。
3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。
4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。

授業の方法

保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像（DVD）視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を 中心に行う。

ICT活用

提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。
そのほか適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。

実務経験のある教員の教育内容

保育士としての担任業務、実習生への指導等の経験を活かし、子どもへの関わり方や保育所の役割などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

提出物や課題等への解説は、授業時間に適宜行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージ を整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第2回	実習の意義・目的について 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第3回	実習施設について 保育所の社会的な役割、について、実習施設の特徴を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			

第4回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連する法規等(児童福祉法、教育基本法、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等)について確認し、その概要について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第8回	実習における計画① 保育における計画に意義を確認し、指導計画作成の実際に触れる。(指導計画の内容と作成の具体的な方法)	指導案を作成して授業に臨む(25分)	指導案の改定と要点のまとめ (20分)
担当教員			
第9回	実習における計画② 部分実習の指導計画(指導案)を作成し、作成した指導案の検討を通じて指導計画作成の意義を学ぶ。	模擬保育作成のための計画準備、参考文献等の収集(25分)	グループによる保育のねらいと内容の検討と模擬保育準備(20分)
担当教員			

第10回	模擬保育① 部分実習指導案作成とその計画に元ずく実践と評価委を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者としての評価(20分)
担当教員			
第11回	模擬保育② 部分実習指導案作成とその計画に基づく実践と評価を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者としての評価(20分)
担当教員			
第12回	実習に際しての留意事項 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について学ぶ	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ (20分)
担当教員			

第13回	安全管理と衛生管理の実際 実習園における安全管理・衛生管理に触れ、実習生としての安全・衛生管理の姿勢と身に着けるための要点を学ぶ。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第14回	実習課題の明確化 実習課題の重要性について理解し、課題設定や自己評価の視点について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ 及び実習課題の立案（20分）
担当教員			
第15回	まとめ 実習を行う上での自己の姿勢を点検し、意欲を高めるとともに具体的な準備や留意点の確認を行う	実習に向かう姿勢の確認を小集団によるディスカッションを通じて高める（25分）	実習課題の具体化と確認（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する課題等(20%) 授業内で実施する達成度確認(20%) 提出物等(20%) 授業への参加態度(40%)
その他	0	

教科書

自分をいかす保育実習ハンドブック 関口はつ江 大学図書出版

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編
保育所保育指針／フレーベル館

履修条件・留意事項等

保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持っての履修が望まれる

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅱ(前半)					ナンバリング	3806
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる能力を身につけるための科目である。さらには、変化する社会の中で、保育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育のあり方を考え続け、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度も身につける科目でもある。保育実習Ⅰ－1、保育実習Ⅰ－2を経験し、更に実践的実習である保育実習Ⅱへの準備を行う。

授業の概要

保育実習Ⅰ-2に対する自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。新たな実習課題の設定と共に、既習の保育の知識・技術を土台とした実践力の習得を図る。実習後は、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行ない、保育に対する課題や認識の明確化を図る。

到達目標

1. 保育について総合的な理解が深まり、既習の知識・技術を土台とした保育の実践ができる。
2. 保育の観察、記録等を生かした保育の改善についての理解が深まり、望ましい保育計画について考えることができる。
3. 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

授業の方法

保育実習の枠組みの理解については、パワーポイントと配布印刷物を使用した講義形式で実施する。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育を中心に行う。

ICT活用

こどもの生活を知り、保育実践の理解を深めるためには、実践場面についての情報収集が必要である。写真のみならず映像なども活用するとともに、実践の場におけるポートフォリオの導入についても取り組む。
そのほか、提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。
また、適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。

実務経験のある教員の教育内容

保育士としての担任業務、実習生への指導等の経験を活かし、子どもへの関わり方や保育所の役割などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、質問等への回答を行う。
提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、保育実習Ⅰ-2の評価 保育実習の意義と目的を確認し、実践的な学びの重要性について改めて理解する。保育実習Ⅰ-2に対しての自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。	保育実習Ⅰ－2の振り返り(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	保育士の専門性と職業倫理、「子どもの最善の利益」について 「保育所保育指針解説」や関連法規等に示された保育士の専門性、職業倫理について学ぶ。また、「子どもの最善の利益」を考慮した保育について具体的に学び、理解を深める。	「保育所保育指針解説」pp17～18の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連法規等(児童福祉法、教育基本法、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領等)についての確認を行い、その概要についての理解を深める。	「保育所保育指針」の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第4回	保育の観察と記録、評価について 保育における観察や記録、評価の意義について理解し、それらに基づく保育の改善の重要性について学ぶ。	保育実習Ⅰ－2で記述した実習日誌についての改善点の検討(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	「保育環境」への配慮について 保育環境を構成する上で配慮すべき点について学び、保育における環境の重要性について理解を深める。	「環境を通して行う教育」についての確認(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	保育の計画と実践について① 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践について学ぶ。	保育指導案の作成法(保育実習指導Ⅰ)の復習(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	保育の計画と実践について② 指導計画の作成、検討を通して、保育の計画の意義についての理解を深める。	保育指導案の作成(25分)	保育指導案の改善(20分)
担当教員			
第8回	保育の具体的な計画と実践① グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員			
第9回	保育の具体的な計画と実践② グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員			

第10回	保育の具体的な計画と実践③ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			
第11回	保育の具体的な計画と実践④ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			
第12回	保育の具体的な計画と実践⑤ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			

第13回	保育の具体的な計画と実践⑥ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			
第14回	保護者支援について 保育士と保護者との関係性について理解し、保育所における保護者に対する支援の内容と関わり方について学ぶ。	保育実習Ⅰ－2において学んだ保護者支援についてのまとめ（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第15回	実習課題の明確化 これまでの実習や学びについて振り返り、保育実習Ⅱに向けての自己課題を明確にする。	実習課題の内容検討（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ、実習課題の設定（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する課題等(20%) 授業内で実施する達成度確認(20%) 提出物等(20%) 授業への参加態度(40%)
その他	0	なし

教科書

自分をいかす保育実習ハンドブック 関口はつ江 大学図書出版

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編
保育所保育指針／フレーベル館

履修条件・留意事項等

保育実習Ⅰ－1及び保育実習Ⅰ－2の単位を修得していること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅱ(後半)					ナンバリング	3806
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる能力を身につけるための科目である。さらには、変化する社会の中で、保育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育のあり方を考え続け、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度も身につける科目でもある。保育実習Ⅰ－1、保育実習Ⅰ－2を経験し、更に実践的実習である保育実習Ⅱへの準備を行う。

授業の概要

保育実習Ⅰ-2に対する自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。新たな実習課題の設定と共に、既習の保育の知識・技術を土台とした実践力の習得を図る。実習後は、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行ない、保育に対する課題や認識の明確化を図る。

到達目標

1. 保育について総合的な理解が深まり、既習の知識・技術を土台とした保育の実践ができる。
2. 保育の観察、記録等を生かした保育の改善についての理解が深まり、望ましい保育計画について考えることができる。
3. 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

授業の方法

保育実習の枠組みの理解については、パワーポイントと配布印刷物を使用した講義形式で実施する。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育を中心に行う。

ICT活用

こどもの生活を知り、保育実践の理解を深めるためには、実践場面についての情報収集が必要である。写真のみならず映像なども活用するとともに、実践の場におけるポートフォリオの導入についても取り組む。
そのほか、提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。
また、適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。

実務経験のある教員の教育内容

保育士としての担任業務、実習生への指導等の経験を活かし、子どもへの関わり方や保育所の役割などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、質問等への回答を行う。
提出物やグループワークへの具体的な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、保育実習Ⅰ-2の評価 保育実習の意義と目的を確認し、実践的な学びの重要性について改めて理解する。保育実習Ⅰ-2に対しての自己評価を行い、実習園による評価との分析を行う。	保育実習Ⅰ－2の振り返り(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	保育士の専門性と職業倫理、「子どもの最善の利益」について 「保育所保育指針解説」や関連法規等に示された保育士の専門性、職業倫理について学ぶ。また、「子どもの最善の利益」を考慮した保育について具体的に学び、理解を深める。	「保育所保育指針解説」pp17～18の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連法規等(児童福祉法、教育基本法、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領等)についての確認を行い、その概要についての理解を深める。	「保育所保育指針」の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第4回	保育の観察と記録、評価について 保育における観察や記録、評価の意義について理解し、それらに基づく保育の改善の重要性について学ぶ。	保育実習Ⅰ－2で記述した実習日誌についての改善点の検討(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第5回	「保育環境」への配慮について 保育環境を構成する上で配慮すべき点について学び、保育における環境の重要性について理解を深める。	「環境を通して行う教育」についての確認(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	保育の計画と実践について① 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践について学ぶ。	保育指導案の作成法(保育実習指導Ⅰ)の復習(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第7回	保育の計画と実践について② 指導計画の作成、検討を通して、保育の計画の意義についての理解を深める。	保育指導案の作成(25分)	保育指導案の改善(20分)
担当教員			
第8回	保育の具体的な計画と実践① グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員			
第9回	保育の具体的な計画と実践② グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備(25分)	実践後の評価、指導案の改善(20分)
担当教員			

第10回	保育の具体的な計画と実践③ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			
第11回	保育の具体的な計画と実践④ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			
第12回	保育の具体的な計画と実践⑤ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			

第13回	保育の具体的な計画と実践⑥ グループによる保育計画の立案と、それに基づく実践、評価、改善を行う。	保育指導案の作成と保育準備（25分）	実践後の評価、指導案の改善（20分）
担当教員			
第14回	保護者支援について 保育士と保護者との関係性について理解し、保育所における保護者に対する支援の内容と関わり方について学ぶ。	保育実習Ⅰ－2において学んだ保護者支援についてのまとめ（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ（20分）
担当教員			
第15回	実習課題の明確化 これまでの実習や学びについて振り返り、保育実習Ⅱに向けての自己課題を明確にする。	実習課題の内容検討（25分）	配布プリントの復習と要点のまとめ、実習課題の設定（20分）
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する課題等(20%) 授業内で実施する達成度確認(20%) 提出物等(20%) 授業への参加態度(40%)
その他	0	なし

教科書

自分をいかす保育実習ハンドブック 関口はつ江 大学図書出版

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編
保育所保育指針／フレーベル館

履修条件・留意事項等

保育実習Ⅰ－1及び保育実習Ⅰ－2の単位を修得していること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習指導Ⅲ					ナンバリング	3810
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行使用とする意欲・態度を身につける」に関連する科目である。
保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ-1と関連し、保育実習Ⅲの基礎となる。

授業の概要

本講義では、保育士として必要な資質・能力・技術の習得を目的としている保育実習Ⅲにむけた専門的、実践的な事前指導を行う。保育実習は、大学で学んでいる子ども観や保育観、講義等で習得した知識・技術・技能を実習という体験を通して、具体的、総合的に身につける。そして、これから更に学ばなければならない理論や身につけなければならない技能を実習現場の指導によって深く学ぶ。

到達目標

・保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、現場体験にむけて現実の「福祉」の意味を知り、説明することができる。

・学内で習得した専門的知識・技術・技能を踏まえ実践力に応用できる。
・観察、記録自己評価などを踏まえ実践の場の改善に適用できる。
・実習を通して学ばなければならない理論、専門性や倫理綱領について述べることができる。
・身につけなければならない技術を適用することができる。

授業の方法

パワーポイントによるプレゼンテーション及び資料により、授業内容に合わせて講義形式とグループ学習で進めていく。
また、福祉施設や福祉サービス事業などに関して、調査学習によってレポートをまとめる。

ICT活用

Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をしかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして課題などにコメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・福祉施設実習の目的と意義について学ぶ。 ・保育実習（福祉施設）の概要（実習の位置づけ、実施基準、保育実習Ⅲの内容等）について学ぶ。	本講義の内容（シラバス）を確認する。（25分）	実習の概要についてまとめる。（20分）
担当教員			
第2回	福祉施設における実習内容について理解する。（グループ学習） ・社会的養護施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、児童自立支援施設など）の法的な位置づけ、子どもの最善の利益について、施設の現状、道内の施設を知る。	福祉施設の種類について調べる。（25分）	社会的養護施設についてまとめる。（20分）
担当教員			
第3回	福祉施設における実習内容について理解する。（グループ学習） ・社会的養護施設での実習の特徴や実習のポイントについて理解する。 ・児童養護施設実習の一日の流れについて考え,子どもとの関わりについて考える。	福祉施設での実習内容について調べる。（25分）	実習の特徴・ポイントについてまとめる。（20分）
担当教員			

第4回	障害児(者)支援施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・障害児支援施設の種類(入所型支援施設と通園型支援施設)について知る。 ・障害児入所施設、児童発達支援センター(福祉型・医療型)等について知る。	障害児(者)施設について調べる。(25分)	入所型・通園型支援施設をまとめる。(20分)
担当教員			
第5回	障害児(者)支援施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・障害者支援施設(指定障害者福祉サービス事業所)の種類について知る。 ・障害児(者)施設での実習の特徴や各施設の現状と特徴について知る。	障害者福祉サービスについて調べる。(25分)	各施設の現状についてまとめる。(20分)
担当教員			
第6回	障害児(者)支援施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・障害児(者)施設での実習のポイントについて考える。 ・障害児(者)支援施設の一日の流れを考える。	障害児(者)支援施設の実習内容について調べる。(25分)	実習のポイントをまとめる。(20分)
担当教員			

第7回	身体障害児(者)福祉施設の実習内容について理解する。(グループ学習) ・医療型障害児入所施設と医療型児童発達支援施設について知る。 ・身体障害児(者)福祉施設での実習のポイントについて考える。	身体障害児(者)福祉施設を調べる。(25分)	医療型入所施設・発達支援施設をまとめる。(20分)
担当教員			
第8回	障害福祉サービスの概要について理解する。 ・障害者総合支援法に基づくサービスの概要について知る。 ・地域生活支援事業の概要について知る。	障害福祉サービスについて調べる。(25分)	自立支援法に基づくサービスについてまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	保育実習Ⅲの目標と内容について理解する。 ・保育実習Ⅰ(Ⅰ－1、Ⅰ－2)と保育実習Ⅲの違いについて考える。 ・施設における支援の具体的な内容について知る。	保育実習Ⅰ－1を振り返る。(25分)	保育実習ⅠとⅢの違いをまとめる。(20分)
担当教員			

第10回	保育実習Ⅲにむけた事前学習に取り組む。 ・各施設、入所対象児(者)についての理解を深める。 ・保育士と権利保障(児童の権利に関する条約)の関係を考える。	児童の権利条約について調べる。(25分)	保育士と権利保障の関係をまとめる。(20分)
担当教員			
第11回	保育実習Ⅲにむけた事前学習に取り組む。 ・保育士とソーシャルワーカーとの連携について考える。 ・保育士と地域社会との関わりを考える。	ソーシャルワーカーについて調べる。(25分)	保育士と地域社会と関わりをまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	福祉施設実習に関するQ&Aに取り組む。 ・社会的養護施設の実習に関する内容について考える。 ・障害児(者)系施設の実習に関する内容について考える。	社会的養護施設について調べる。(25分)	社会的養護施設・障害児者施設の実習についてまとめる。 (20分)
担当教員			

第13回	保育実習Ⅲへの諸準備を行う。 ・保育実習日誌や個人調査票の記入の仕方について考える。 ・個人調査票、出席簿、施設実習評価票の必要箇所への記述を行う。	実習日誌・調査票について確認する。(25分)	日誌・調査票等の記入について整理する。(20分)
担当教員			
第14回	保育実習Ⅲへの諸準備を行う。 ・先輩の「研究課題レポート」を参考事例とし、自分の感想をまとめる。 ・保育実習Ⅲにむけた実習課題や研究課題を整理し実習日誌に記述する。	実習課題・研究課題について確認する。(25分)	実習課題・研究課題を整理する。(20分)
担当教員			
第15回	保育実習Ⅲへの抱負(決意)を発表する。 ・保育実習Ⅰ－1、Ⅰ－2の体験(経験)を生かした内容を考える。	保育実習Ⅰ－1、Ⅰ－2を振り返る。(25分)	保育実習Ⅲへの抱負をまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業における課題(配布資料、レポート)への取り組み状況
その他	40	実習課題・研究課題への取り組み状況

教科書

使用しない。

参考文献

「保育実習・教育実習ハンドブック」（北海道文教大学人間科学部こども発達学科編）

履修条件・留意事項等

保育実習Ⅰ－1及びⅠ－2を履修していること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習Ⅰ－1					ナンバリング	3802
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマポリシー「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている」に関連する科目である。また、福祉施設での実習における体験で、施設の役割や生活支援のあり方などを理解し、保育士としての基本的な専門性を修得する科目である。
保育実習指導Ⅰのスキルを生かすとともに、保育実習Ⅰ－2（保育所実習）へとつながる。

授業の概要

保育実習Ⅰ－1（福祉施設での実習）は、これまでに学んだ教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。利用者に対する直接的な働きかけによって、保育の理論と実践の関係について理解する。つまり、福祉施設における実習を通して、施設の役割や活動内容を理解すると共に、保育士と利用者とのかかわり等についても学ぶ機会となる。

到達目標

・児童福祉施設の役割や機能を具体的に説明できる。
・観察や関わりを通して対象の理解や実習の意義や目的、内容などが説明できる。
・児童福祉施設での実習における様々な体験やふれ合いの中で、保育士としての業務内容や職業倫理について具体的に説明することができる。
・児童福祉施設での実習を通して計画・観察・記録・自己評価について理解すると共に、自らの課題を明確にすることができる。

授業の方法

基本的に児童福祉施設において2週間（実日数10日）以上の実習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をいかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、実習終了後に事後指導を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・児童福祉施設における2週間（10日間）の実習である。 ・実習形態としては参加実習を中心とし（状況によっては責任実習を行うこともある）、実習先の実態把握をしながら、利用者との関わり等について学ぶ。実習内容については実習先によって異なるが、大まかには次の通りである。	なし	なし
担当教員			
第2回	事前指導：「保育実習指導Ⅰ」 （保育者としての基礎を培い、保育の質の向上に役立てることをテーマとし、保育実習Ⅰ－1が円滑にまた効果的に進められるよう、必要な知識・技術・実習にかかわる実務などを具体的に習得する。）	なし	なし
担当教員			
第3回	事前訪問 （実習先に出向き、実習のスケジュール等について確認したり、実習にむけた諸注意等の指導を受ける。）	なし	なし
担当教員			

第4回	見学観察実習、参加実習 （利用者の中に入って活動や生活を共にしながら、観察をしたり援助に関わったりする。）	なし	なし
担当教員			
第5回	部分実習 （実習先の施設から短い時間をいただいて、指導、援助、介護などに関わったりする。）	なし	なし
担当教員			
第6回	分的な責任実習 （実習生の状況によって、実習先の施設からある程度の時間をいただいて、指導計画に沿った活動を行う。）	なし	なし
担当教員			

第7回	・巡回指導 実習の状況などについて施設担当者と情報交換すると共に、実習課題等をもとに学生指導を行う。	なし	なし
担当教員			
第8回	事後指導 （施設実習の体験を整理すると共に自己評価を行い、課題レポートをもとに保育士としての資質に関する今後の課題を明らかにする。）	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	・実習先による評価(40%) ・実習態度(30%)＜巡回指導教員の評価＞
その他	30	・実習日誌(30%)＜記載内容、実習後の反省・考察＞

教科書

なし

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編

履修条件・留意事項等

・2年次への進級条件を満たしていることを履修条件とする。
・保育実習指導Ⅰを修得していることを履修条件とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習Ⅰ－2					ナンバリング	3803
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育・保育環境及び教育・保育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるための科目である。これまで学習したことを実践、確認するために保育現場で実習を行う。「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」へ発展していく。

授業の概要

これまでに学んだ教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力の養成を図る。乳幼児に対する直接的な働きかけによって、保育の理論と実践の関係について考えさせようとするものである。保育所における実習を通じて、保育所の役割や保育内容を理解するとともに、保育者としての自己の在り方についても学ぶ機会となる。

到達目標

1. 保育所の役割や機能について説明することができる。
2. 実習における具体的な観察や関わりにより、子どもへの理解を深めることができる。
3. 保育の計画・観察・記録・自己評価等についての理解を深めることができる。
4. 保育士の業務内容や職業倫理についての具体的な理解を深めることができる。
5. 実習における様々な体験や触れ合いの中で、保育者としての必要な資質について理解を深めることができる。

授業の方法

保育所(園)において10日間の実習を行う。実習の実施前に「事前指導」、実施後に「事後指導」を行なう。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

保育士としての担任業務、実習生への指導等の経験を活かし、子どもへの関わり方や保育所の役割などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

実習終了後に実施する課題に対し個別に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	保育所等において10日間の実習を行う。実習形態としては観察・参加実習を中心とし、保育の場における様々な体験を通して、「保育所の役割と機能」「子どもの理解」「保育内容・保育環境」「保育の計画・観察・記録」「専門職としての保育士の保育士の役割と職業倫理」等について、具体的・総合的に学ぶ。	なし	なし
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			

第4回	なし	なし	なし
担当教員			
第5回	なし	なし	なし
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	実習状況等(30%) 実習日誌等(30%)
その他	40	実習施設による評価(実習評価票)

教科書

「自分をいかす保育実習ハンドブック」関口はつ江編著 大学図書出版
「保育実習・教育実習ハンドブック」北海道文教大学人間科学部こども発達学科編

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

・学外実習履修要件を満たしていること
・保育実習指導Ⅰ-2の単位を修得していること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習Ⅱ					ナンバリング	3808
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育・保育環境及び教育・保育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるための科目である。これまで履修した専門科目の総まとめとして、保育実習Ⅰにおける経験を基礎にして保育現場で実習を行う。

授業の概要

保育実習Ⅰの成果を踏まえて、具体的な計画に基づく保育実践を学ぶとともに、自らの保育を評価し、保育を改善することも体験的に学ぶ。保育所における実習の総括として、保育所の役割・機能への理解、保育の理解、保育士の職務への理解等を深めるとともに、必要とされる保育の知識・技術の習得を図る。

到達目標

1. 保育所の役割や機能について、また、子ども、保育、子育て支援等について、具体的、総合的な理解が深まり、実践に繋げることができる。
2. 保育の計画・観察・記録・自己評価等について実施、改善することができる。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に、結びつけて理解することができる。
4. 自己評価を行うことにより、今後の学びにおける課題を明確にすることができる。

授業の方法

保育所（園）において10日間の実習を行う。実習の実施前に「事前指導」、実施後に「事後指導」を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

保育士としての担任業務、実習生への指導等の経験を活かし、子どもへの関わり方や保育所の役割などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

実習終了後に実施する課題に対し個別に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	保育所において10日間の実習を行う。保育の場における具体的な実践を通して、「保育所の役割や機能の具体的展開」「観察に基づく保育の理解」「子どもの保育及び保護者支援、地域社会等との連携」「指導計画の作成・実践・観察・記録・評価」「保育士の業務と職業倫理」「自己の課題の明確化」等について理解を深める。	なし	なし
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			

第4回	なし	なし	なし
担当教員			
第5回	なし	なし	なし
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	実習状況等(30%) 実習日誌等(30%)
その他	40	実習施設による評価(実習評価票)

教科書

「自分をいかす保育実習ハンドブック」関口はつ江編著 大学図書出版
「保育実習・教育実習ハンドブック」北海道文教大学人間科学部こども発達学科編

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

・学外実習履修要件を満たしていること
・保育実習Ｉ－1、及び保育実習Ｉ－2の単位を修得していること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　学外実習						
科目名	保育実習Ⅲ					ナンバリング	3812
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている」に関連する科目である。
また、社会福祉施設での実習をとおして、自己評価をもとにして保育士に関する自己課題を明確にするとともに、保育士の職業倫理について習得する科目である。
保育実習Ⅰ－1、保育実習Ⅰ－2、保育実習指導Ⅲのスキルを基礎としている。

授業の概要

保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ－1(入所型施設での実習)をふまえて、施設養護にたずさわる保育士としてさらに高いレベルの養護技術と知識を習得することを目的とする。あらゆる社会福祉関係諸法令に基づき設置される施設での実習を通して保育士に関する自己課題を明確化にすると共に、保育士の職業倫理に関して学ぶ。

到達目標

・既知の教科目や保育実習の経験を踏まえ、福祉施設等（保育所以外）の役割や機能に関して、実習を通して理解を深め、説明することができる。
・利用者の最善の利益や保育士としての職業倫理を具体的に学び、説明することができる。
・福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化し、説明することができる。

授業の方法

基本的に社会福祉施設（成人の施設）において2週間（実日数10日）以上の実習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をいかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、事後指導を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・児童福祉施設、あるいは社会福祉施設において、2週間（原則10日間）の実習を行う。 ・事前訪問 （実習先に出向き実習のスケジュール等について確認したり、実習にむけた諸注意等の指導を受ける。）	なし	なし
担当教員			
第2回	・養護活動全般に参加し、養護技術を習得する。 実習先の実態把握をしながら、利用者との関わり等について学ぶ。 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を理解する。	なし	なし
担当教員			
第3回	・利用者（子ども等）の個人差やニーズについて理解し、その対応方法を習得する。 利用者（子ども等）に共感し、受容する態度を身につける。 利用者（子ども等）の個人差や発達の違いに応じた対応方法を身につける。 生活環境などに伴う利用者（子ども等）のニーズを理解する。	なし	なし
担当教員			

第4回	・家族との意思疎通の方法を具体的な事例を通して学ぶ。 日常の保護者との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。 子どもと保護者（家族）のコミュニケーションの在り方について学ぶ。	なし	なし
担当教員			
第5回	・地域社会との連携について具体的に学ぶ。 地域の子育て支援のニーズを理解し、施設の役割について学ぶ。 地域支援事業等の実際に触れ、その地域の保育ニーズを理解する。 地域の社会資源との連携について理解を深める。	なし	なし
担当教員			
第6回	・利用者（子ども等）の最善の利益への配慮を学ぶ。 受け入れ先の施設の理念、目標などから、配慮点を理解する。 保育士の援助の方法や対応から、その姿勢について学ぶ。 利用者（子ども等）の権利擁護の実際について理解する。	なし	なし
担当教員			

第7回	・施設の保育士としての職業倫理を理解する。 守秘義務の遵守について、実際的に理解する。 保育士の具体的な職業倫理を理解する。	なし	なし
担当教員			
第8回	・巡回指導 実習の状況や就職(採用)の見込みなどについて施設担当者と情報交換すると共に、実習課題等をもとに学生指導を行う。	なし	なし
担当教員			
第9回	・事後指導 施設実習の体験を整理すると共に自己評価を行い、課題レポートをもとに保育士としての資質に関する今後の課題を明らかにする。	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	実習先による評価(40%) 実習態度(30%)＜巡回指導教員の評価＞
その他	30	実習日誌(30%)＜記載内容、実習後の反省・考察＞

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

保育実習Ⅰ－1及びⅠ－2を履修していることを履修条件とする。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（笠見　康大）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。美術館等へのフィールドワークも予定している。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 本科目では、アートプロジェクトを基盤に、プロジェクト型保育、アートワークショップの開発、教材研究をテーマに授業を行なうものとする。今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	アートプロジェクトについて調べておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	レッジョエミリアについて調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	アートプロジェクトの達成に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（木谷　岐子）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷　岐子						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンを活用し、報告書や発表資料を作成する。また、Google Suite for Education 等のプラットフォームを、効果的に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論を通して認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第2回	【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容(①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援)に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	今後の研究テーマについて関心事をまとめる。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておく。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。（25分）	グループにより決定された内容を整理する。（20分）
担当教員	木谷　岐子		
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討する。（25分）	活動計画の内容を再度検討する。（20分）
担当教員	木谷　岐子		
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考え方、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだ情報の利用法について復習する。（25分）	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。（20分）
担当教員	木谷　岐子		

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第8回	【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究する。(25分)	研究活動の内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第9回	【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理する。(25分)	今回の研究活動の内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第10回	【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をする。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第11回	【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第12回	【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第13回	【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	調査活動の達成に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第14回	【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを行う。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第15回	【中間報告書の作成と提出】15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理する。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 授業参加姿勢50% 2. 課題25%　3. 発表25%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（今井　由惠）（非開講）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備を行う。また、Google Classroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関してコメントする。演奏等については随時、プレゼンテーションや演奏発表においては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 本ゼミでは、上記に係るテーマについて音楽を介して考察する機会を持ち、最終的に実践発表することを見据えて、今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	音楽を用いた活動にどのような内容が考えられるか、事例について調べておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	レッジョエミリアについて調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）
改訂新版 音楽の文章術～論文・レポートの執筆から文献表記法まで～／リチャード・J. ウィンジェル 著／宮澤淳一、小倉眞理 訳／春秋社（東京）
その他の資料は都度紹介する。

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（白幡　知尋）（非開講）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡　知尋						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
「基礎ゼミナール」を履修し、「こども学総合演習Ⅱ」の基礎となる

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法についての理解を基に、論文作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	指導を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を復習しておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	研究内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第13回	(全体活動)【中間報告会1:グループ発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	報告会に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第14回	(全体活動)【中間報告会2:グループ発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

適宜紹介する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（西野　美穂）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナール、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関してコメントする。プレゼンテーションや演奏においては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	担当教員の専門領域から研究課題を検討する。(20分)
担当教員			
第3回	(全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	研究テーマ・研究活動内容につき検討を進める。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	研究内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（美馬　正和）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーション能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をいかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第3回	(全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	計画内容に関連する領域について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	研究活動の報告準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（村田　敏彰）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	指導を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を復習しておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	研究内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	報告会に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（渡邉　尭宏）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。美術館等へのフィールドワークも予定している。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育者としての必要なことを伝え、保育の重要性と楽しさを指導する。（渡邉）

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートついてのフィードバック。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 本科目では、保育実践を中心にフィールドワーク、実践検討を行い、今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	気になる保育について調べておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	気になる保育実践について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自身の気になる、保育実践まとめに向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

参考資料については適宜紹介していく

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（山下　秀樹）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者・教育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士、教員として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。教育施設や美術館等へのフィールドワークも予定している。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

特別支援学校教諭としての経験とともに、特別支援教育に関する研究団体での実践研究をもとにした知見を有している。併せて、幼保小連携の立場からの実務経験をもとに、実践的なアプローチをしていく。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品等に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育者・教育者としての使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④特別支援教育の現状と課題 本科目では、特別支援教育を基盤に、障がいの理解、特別な支援が必要なこどもへの教材研究等をテーマに授業を行なうものとする。今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	特別支援教育について調べておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	図書館等の文献検索の方法について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	収集した資料を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	特別支援教育に関わる現状と課題について整理をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

特別支援学校学習指導要領

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（佐々木　雅哉）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。教育施設や美術館等へのフィールドワークも予定している。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教諭としての経験とともに、文字教育に関する研究団体での実践研究をもとにした知見を有している。併せて、幼保小連携の立場からの実務経験をもとに、実践的なアプローチをしていく。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品等に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 本科目では、「文字教育」に関する教材研究をテーマに授業を行なうものとする。今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	「書写」について調べておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	「著作」、「著作権」について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し、担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	各自の発表を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	「文字研究」の発表に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

都度、紹介する。

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（小林　美花）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。保育所等へのフィールドワークも予定している。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

保育士の経験があり、保育について幅広い知識を有している。この経験を活かして、保育内容、子ども、環境等について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 本科目では、教材研究等をテーマに授業を行なうものとする。今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	子育て支援や子育て環境について調べておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	日本の子育てに関する制度等について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	プロジェクトの達成に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（山本　愛子）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けを行う。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。保育施設等へのフィールドワークも予定している。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有している。また、本学子育て教育地域支援センターにおいても臨床実践を続けてきた。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート内容やプレゼンテーションに対して講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理する。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	国立情報学研究所学術情報ナビゲータ「CiNii」について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(20分)	研究報告書の作成を行う。(25分)
担当教員			
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	研究活動の発表へ向けた準備を行う。(20分)	発表資料の作成・検討を行う。(25分)
担当教員			

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	研究活動の成果の発表へ向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅰ（佐々木　英明）					ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
基礎ゼミナールを履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる。

授業の概要

こども発達学科の総合科目である。
学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査・フィールドワーク等を行い成果を発表する。発表後は成果物をもとにレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、google classroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め、地域素材を教材化した実践を重ねてきた他、勤務校においてはPTA活動の活性化や地域学校協働活動本部の立ち上げに携わった経験をもつ。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、家庭・地域・子育て関連の機関との連携による実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、学びのポートフォリオ、発表物等に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅰ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の 授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	(全体活動)【オリエンテーション Ⅱ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	(全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	決定された内容を整理する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	前回の授業を確認しておく(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回に引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	発表内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間15分、質疑時間3分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間15分、質疑時間3分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表リハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出す る。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（笠見　康大）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（木谷　岐子）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷　岐子						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンを活用し、報告書や発表資料を作成する。また、Google Suite for Education 等のプラットフォームを効果的に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論によりながら認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第2回	【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容(①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援)に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	【テーマごとのグループの編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	後期の具体的活動内容について検討する。(25分)	テーマ、活動計画等の細目を検討する。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第9回	【保育現場の取材活動の実施Ⅰ】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施Ⅱ】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合う。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業までに収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析する。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	木谷　岐子		

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考える。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 授業参加姿勢50% 2. 課題25%　3. 発表25%
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（今井　由惠）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備を行う。また、Google Classroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関してコメントする。演奏等については随時、プレゼンテーションや演奏発表においては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版（岡山）
改訂新版 音楽の文章術～論文・レポートの執筆から文献表記法まで～／リチャード・J. ウィンジェル 著／宮澤淳一、小倉眞理 訳／春秋社（東京）
その他の資料は都度紹介する。

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（白幡　知尋）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡　知尋						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
「こども学総合演習Ⅰ」を基礎とする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、google classroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法についての理解を基に、論文作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第6回	参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第8回	【調査活動の検討・計画】前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第9回	【調査活動の実施1】収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第10回	【資料収集と調査活動の実施2】前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】前回までに収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	調査内容について具体的な見通しを立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第14回	【研究報告会】研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第15回	【研究報告書の作成と提出】15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%)　2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

適宜紹介する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（西野　美穂）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をおこなう。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関してコメントする。プレゼンテーションや演奏においては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	研究計画について予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討しリストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（美馬　正和）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をいかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（村田　敏彰）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第6回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			

第7回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第8回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第9回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			

第10回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第11回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる。(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、プレゼンテーションソフトで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（渡邉　尭宏）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育者としての必要なことを伝え、保育の重要性と楽しさを指導する。（渡邉）

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート等にフィードバックを行う。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	保育実践の観察のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（山下　秀樹）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育者・教育者として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

特別支援学校教諭としての経験とともに、特別支援教育に関する研究団体での実践研究をもとにした知見を有している。併せて、幼保小連携の立場からの実務経験をもとに、実践的なアプローチをしていく。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品等に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育者・教育者の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④特別な支援が必要なこどもに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④特別な支援が必要なこどもに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	図書館等の文献検索の方法を確認しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%)　2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（佐々木　雅哉）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 職業人として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教諭としての経験とともに、文字教育に関する研究団体での実践研究をもとにした知見を有している。併せて、幼保小連携の立場からの実務経験をもとに、実践的なアプローチをしていく。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品等に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①小学校教員の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①小学校教員の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	鑑賞のポイントを予測しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%)　2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

適宜資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（小林　美花）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

保育士の勤務経験があり、保育について幅広い知識を有している。この経験を活かして、保育内容、子ども、環境等について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	参考文献を整理しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書
なし
参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（山本　愛子）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする。

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用した課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有している。また、本学子育て教育地域支援センターにおいても臨床実践を続けてきた。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート内容やプレゼンテーションに対して講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	テーマを次の4点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 について指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員			
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援等に係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員			
第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容・活動計画書の作成・提出】 メンバーによる討議を行い、テーマを確定する。研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を行い、必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	前期の研究の資料を整理しておく。(25分)	分析・反省から今後の研究に役立つ資する内容を抽出する。(20分)
担当教員			
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権・Web情報の利用法】 1年次の基礎ゼミナールで行われた指導内容と経験を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と注意点についての指導を行う。	国立情報学研究所学術情報ナビゲータ「CiNii」を用いた文献検索の方法について調べる。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			

第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】 研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を見出し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	研究計画等に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究の成果についてはただちに整理・分析を行う。(20分)
担当教員			
第8回	【取材活動の検討・計画】 前回の授業でリストアップした資料をふまえて取材活動の検討を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	研究テーマの再検討、整理を行う。(25分)	指導内容を確実に理解して発表に活かす。(20分)
担当教員			
第9回	【保育現場の取材活動の実施1】 収集した資料内容からテーマに沿った内容を把握して考察する。また、学外での活動を実施する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	役割分担に無理がないかを検討しておく。(25分)	研究成果の分析と論文作成の準備を進める。(20分)
担当教員			

第10回	【資料収集と保育現場の取材活動の実施2】 前回の授業において収集した資料の考察の検討、学外での活動の不順分な点をふまえて研究内容を深める。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に 指導教員に相談をして指示を受ける。	研究活動の行き詰まりがあれば十分に話し合うこと。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第11回	【活動:収集した資料などの整理・分析】 前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成を行い、発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについて検討を行う。	研究の成果を整理・分析しておく。(25分)	徐々に報告書の枠組み・骨格の検討を始める。(20分)
担当教員			
第12回	【研究発表会に向けての準備:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、パワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員			
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員			
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	こども学総合演習Ⅱ（佐々木　英明）					ナンバリング	3601
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

「こども学総合演習Ⅱ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。
こども学総合演習Ⅰで学んだことを発展させ、今後の研究活動の基礎となるようにする

授業の概要

学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基とした授業である。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て個別に報告を行い、報告書を作成・提出する。

到達目標

1. 保育士として使命を説明できる。
2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。
3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。
4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。
5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。

授業の方法

配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。

ICT活用

パソコンや映像機器を利用したデータ取集や取材、編集、発表の準備を行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、発表物に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 科目の目的と意義、授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点につい て必要な説明を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を充分に理解する必要がある。	前期の研究活動内容を整理しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておくこと。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	テーマを次の3点として、自主的な学習活動を行うことを周知する。 ①社会科教育 ②授業方法 ③教育課程と幼児教育との連携をテーマとし、指導の方針と指導方法、単位認定の方法等につき説明を行う。学生は研究テーマの検討を行う。	前期の研究活動の内容、反省点などを把握しておく。(25分)	指導された内容を整理する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	【テーマにそって具体的な学習方針を立てる】 具体例として、①社会科教育 ②授業方法 ③教育課程と幼児教育との連携をテーマとし、テーマに係る資料収集、実習の振り返り、フィールド・ワーク、グループ討論等方針を立てる。	前期のテーマからの発展の方法について検討しておく。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】 希望するテーマにより研究活動の単位となるグループまたは個人を編成する。リーダーを決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	前期の研究方法の反省点をまとめる。(25分)	活動の方法を検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木　英明		
第8回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木　英明		
第9回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木　英明		

第10回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木　英明		
第11回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木　英明		
第12回	【研究フィールドにおける調査活動】 アシスタント・ティーチャーとして小学校の授業支援を通し、児童の特性を踏まえて各研究テーマに応じた幼児教育との連携について調査を行う。必要に応じて適宜指導教員の指導・助言を受ける。	調査内容について具体的な計画を立てる(25分)	活動記録の記入と次回に向けての調査活動を検討する。(20分)
担当教員	佐々木　英明		

第13回	【活動内容のまとめ、発表資料作成】 研究活動のまとめである研究レポートの作成に向けて、プレゼンテーションソフトで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	事前のリハーサルを充分に行う。(25分)	他のグループ・個人の発表を聞き、報告書作成の参考にする。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	【研究報告会】 研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	自分のグループの研究のどこに問題があるかを考えておく。(25分)	講評の内容を今後の学修に役立てる。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	【研究報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて報告書を作成して提出する。研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点など今後の研究活動への課題と展望などをまとめる。	論文の作成の仕方を復習する。(25分)	本科目で学んだ研究者としての姿勢を今後の学修に活かす。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.研究活動報告書(20%) 2.発表(20%) 3.レポート(60%)
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

こども学総合演習Ⅰで用いたテキストノートを使用する
資料を配布する

履修条件・留意事項等

積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 こども発達学科						
区分	専門科目 総合科目						
科目名	教職実践演習(幼・小)(幼稚園)					ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	山口 宗兼、美馬 正和、渡邉 尭宏						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。

授業の概要

教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校系、特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。

到達目標

こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を身に付けること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識すること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築することができる。

授業の方法

・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかり認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。
・現場教員の講話をはじめ、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修に励むための環境を提供する。
・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。
・インターンシップは、本科目の後半に位置づけ、連続3日間設定し、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において、幼稚園系は恵庭市の幼稚園で行う。

ターンシップは、本科目の最終に位置づけ、11月から12月の連続3日間設定し、幼稚園系は、恵庭市3園と附属幼稚園において、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。
ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについても紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ・ICTの活用について説明する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・幼稚園実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。 ・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		
第2回	○幼稚園系オリエンテーション	・幼稚園実習の日誌を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(20分)	・幼稚園実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。
担当教員	山口　宗兼、渡邉　尭宏		
第3回	教育実習を今後に生かすⅠ	・幼稚園実習の日誌を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(20分)	・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	山口　宗兼、渡邉　尭宏		

第4回	教育実習を今後に生かすⅡ	・幼稚園実習の日誌を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。(20分)	・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	山口　宗兼、渡邉　尭宏		
第5回	インターンシップオリエンテーション	・幼稚園について資料やHPで情報を収集する。(20分)	・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		
第6回	インターンシップ発表会の方法について	・幼稚園について資料やHPで情報を収集する。(20分)	・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		

第7回	幼稚園教育の実際Ⅰ（現場のお話から学ぶ）	・講師が所属する幼稚園のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。（20分）	・記録の整理と課題の提出。（25分）
担当教員	渡邉　尭宏		
第8回	幼稚園教育の実際Ⅱ（討議）	・講師が所属する幼稚園のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。（20分）	・記録の整理と課題の提出。（25分）
担当教員	渡邉　尭宏		
第9回	実際的保護者対応Ⅰ（現場のお話から学ぶ）	・講師が所属する幼稚園のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。（20分）	・記録の整理と課題の提出。（25分）
担当教員	美馬　正和、渡邉　尭宏		

第10回	実際的保護者対応Ⅱ（討議）	・講師が所属する幼稚園のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。（20分）	・記録の整理と課題の提出。（25分）
担当教員	美馬　正和、渡邉　尭宏		
第11回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、教育等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。（20分）	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。（25分）
担当教員	山口　宗兼		
第12回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、教育等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。（20分）	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。（25分）
担当教員	山口　宗兼		

第13回	○特別支援学校の教育について① ・特別支援学校の教員による、特別支援学校の教育の実際について、動画や講話を通じて学習する。 ・教職実践演習（小学校系）との合同で行う。担当教員は、小学校系の山下秀樹教員となる。	・特別支援学校のHPを閲覧し、教育活動について確認する。（20分）	・記録の整理と提出。（25分）
担当教員			
第14回	○特別支援学校の教育について② ・前時の学習の記録を元に、講師への質疑と学生同士のディスカッションにより理解を深める。 ・教職実践演習（小学校系）との合同で行う。担当教員は、小学校系の山下秀樹教員となる。	・特別支援学校のHPを閲覧し、教育活動について確認する。（20分）	・記録の整理と提出。（25分）
担当教員			
第15回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。（20分）	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。（25分）
担当教員	山口　宗兼		

第16回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		
第17回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		
第18回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		

第19回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		
第20回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		
第21回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		

第22回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山口　宗兼		
第23回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		
第24回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		

第25回	インターンシップ発表会発表準備①	・発表の準備に向けて資料を整える。(20分)	・発表の準備の確認を行う。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		
第26回	インターンシップ発表会発表準備②	・発表の準備に向けて資料を整える。(20分)	・発表の準備の確認を行う。(25分)
担当教員	渡邉　尭宏		
第27回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと 、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。(25分)
担当教員	山口　宗兼、渡邉　尭宏		

第28回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ（生命の若木）への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。（20分）	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。（25分）
担当教員	山口　宗兼、渡邉　尭宏		
第29回	◎インターンシップ発表会③ ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ（生命の若木）への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。（20分）	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。（25分）
担当教員	山口　宗兼、渡邉　尭宏		
第30回	◎インターンシップ発表会④ ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ（生命の若木）への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。（20分）	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。（25分）
担当教員	渡邉　尭宏		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲（視察や講話の記録）30%、・表現力（授業の課題）30%、 ・指導力（インターンシップ記録・発表）40%
その他	0	特になし。

教科書

使用しない。

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許取得希望者は必修である。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	教職実践演習(幼・小)(小学校)					ナンバリング	3604
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	村田　敏彰、相馬　哲也、山下　秀樹、佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている【思考・判断・表現】」を最重点に位置付けている科目である。さらに、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている【知識・技能】」ための科目である。幼稚園教諭・小学校教諭の免許を取得するために必修の授業である。

授業の概要

教職課程科目として設置された教科に関する科目及び教職に関する科目や、教職課程での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、本学科が目標とする教員像や到達目標に照らして最終的に確認するための科目である。幼稚園系、小学校・特別支援学校系に分けたクラス編成により、教育実習で焦点化された自己課題に基づき、事例研究、インターンシップ等を取り入れた内容により行う。

到達目標

こども発達学科では、「教育に対する明確な理念と知識を持ち、幼稚園・学校現場で子どもたちと真剣に向き合うことのできる資質・能力を有する教員の養成」を目指しており、そのため本演習では、実践的指導力育成のため、①望ましい授業づくりや学級経営の方法を実践できること、②使命感や責任感、教育的愛情をもった子どもとの関わり方を認識できること、③こうしたことを具体的に実践しようとする気構えを構築できることを到達目標とする。

授業の方法

・初回のオリエンテーションにおいて、教職に関する授業や学外実習で残された課題をしっかり認識できるよう振り返りの観点などを情報提供する。
・学校参観や現場教員の講話をはじめ、事例研究、インターンシップなど、現場との強い関連を意識させながら学修に励むための環境を提供する。
・幼稚園系、小学校系・特別支援学校系の2つのグループ構成で進めていく。必要に応じて小学校系と特別支援学校系を分けて行う場合ある。
・インターンシップは、本科目の後半に位置づけ、10月から11月の連続3日間設定し、小学校系、特別支援学校系は、恵庭市の小学校において行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法の説明等を行う。また、これらを活用した双方向型授業も体験させる。
ビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、ICTを活用したグループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。

実務経験のある教員の教育内容

担当者全員が幼稚園・小学校・特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の工夫などについて紹介する機会を設け、より実践的な授業内容とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての振り返りやグループワーク等により授業のフィードバックができるようにする。提出された課題については講評を伝えて返却する。
インターンシップの発表を通して、様々な事例に対する意見交換や自分の取組みに対する自己評価と教員からの講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーション ・授業の進め方などについて説明する。 ○ICTの活用の意義と方向性について説明する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。 ・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	相馬　哲也、村田　敏彰、山下　秀樹、佐々木　雅哉		
第2回	○今日の教育課題と求められる教師像 ・今日の教育課題(服務規律、働き方改革)と教師の資質や能力について教育実習を振り返りながら考察する。	・シラバスを読み授業内容を確認する。(20分)	・小学校実習の「まとめ・考察」を熟読し、本科目での学習の自己課題を明確にする。 ・本時の授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	村田　敏彰		
第3回	○講話① ・恵庭市内の小学校管理職による、期待される教師像についての講話を行う。	・講師が所属する小学校のHPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と課題の提出。(25分)
担当教員	村田　敏彰		

第4回	○講話② ・恵庭市内の小学校管理職による、コミュニティースクールの意義や実態についての講話を行う。 ○教育研修施設におけるインターンシップのオリエンテーション	・コミュニティ・スクールに関わる小学校HPを閲覧し、教育活動等について確認しておく。(20分)	・記録の整理と課題の提出。(25分)
担当教員	村田　敏彰		
第5回	○教育研修施設におけるインターンシップ① ・教育研修施設の役割や教員研修の実態について視察を行う。 ・視察先の都合によっては日時を他の回と入れ替える。	・訪問する教育研修施設について、HPから情報を収集しておく。(20分)	・視察の記録を整理し提出する。(25分)
担当教員	相馬　哲也、村田　敏彰		
第6回	○教育研修施設におけるインターンシップ② ・教育研修施設の役割や教員研修の実態について視察を行う。 ・視察先の都合によっては日時を他の回と入れ替える。	・訪問する教育研修施設について、HPから情報を収集しておく。(20分)	・視察の記録を整理し提出する。(25分)
担当教員	相馬　哲也、村田　敏彰		

第7回	○保護者との連携や対応(事例研究)① ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読と授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第8回	○保護者との連携や対応(事例研究)② ・学級通信や家庭訪問・懇談の工夫などを通して、保護者や地域との連携・協力について考える。	・学校における、保護者や地域との連携・協力について事前学習する。(20分)	・配布プリントの再読と授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第9回	○学校におけるICTの活用① ・電子黒板やデジタル教科書の利用、教育クラウドプラットフォームを用いた課題の提出と評価の方法や双方向授業などの活用を学ぶ。	・学校におけるICTの活用方法や意義について調べておく。(20分)	・課題として指示されたデータを提出する。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		

第10回	○学校におけるICTの活用② ・ICTを活用した校務の効率化について学ぶ。	・学校におけるICTの活用方法や意義について調べておく。(20分)	・課題として指示されたデータを提出する。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第11回	○特別支援学級の教育について ・特別支援学級の位置づけや役割について考える。	・特別支援学級について資料やHPで情報を収集する。(20分)	・授業内容に関する課題の提出。(25分)
担当教員	村田 敏彰		
第12回	○自分の目指す教師像について ・これまでの学習を元に、自分の目指す教師像とその理由、その実現に向けた自身の課題について交流する。	・記録を再読し、疑問点などについて整理する。(20分)	・班あるいは全体での交流記録の整理と提出。(25分)
担当教員	村田 敏彰、佐々木 雅哉		

第13回	○特別支援学校の教育について① ・特別支援学校の教員による、特別支援学校の教育の実際について、動画や講話を通じて学習する。 ・講師の都合によっては日時を他の回と入れ替える。	・特別支援学校のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	山下　秀樹		
第14回	○特別支援学校の教育について② 前時の学習の記録を元に、講師への質疑と学生同士のディスカッションにより理解を深める。 ・講師の都合によっては日時を他の回と入れ替える。 ○小学校におけるインターンシップのオリエンテーション	・特別支援学校のHPを閲覧し、教育活動について確認する。(20分)	・記録の整理と提出。(25分)
担当教員	山下　秀樹		
第15回	◎インターンシップ① ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり　イ、学級づくりの補助を通しての児童理解　ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	村田　敏彰		

第16回	◎インターンシップ② ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山下 秀樹		
第17回	◎インターンシップ③ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第18回	◎インターンシップ④ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	村田 敏彰		

第19回	◎インターンシップ⑤ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山下 秀樹		
第20回	◎インターンシップ⑥ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第21回	◎インターンシップ⑦ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	村田 敏彰		

第22回	◎インターンシップ⑧ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山下 秀樹		
第23回	◎インターンシップ⑨ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第24回	◎インターンシップ⑩ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	村田 敏彰		

第25回	◎インターンシップ⑪ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録と翌日の目標の設定。(25分)
担当教員	山下 秀樹		
第26回	◎インターンシップ⑫ ・3日間にわたって、教育実習の体験や、この授業でのこれまでの学習を踏まえ、地域の学校でのインターンシップに臨む。 ・例として、ア、授業等の補助や教材づくり イ、学級づくりの補助を通しての児童理解 ウ、学校における実務・職務の補助などを重点課題にし、現場の教員の指導を受け、教育活動の実践を体験的に学ぶ。	・インターンシップを行う学校のHPを閲覧し、教育活動等について把握しておく。(20分)	・インターンシップの本日の記録のまとめ。(25分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第27回	◎インターンシップ発表会準備① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと 、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の準備状況の相互評価を行う。 ・履修カルテ(生命の若木)への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。(20分)	・自分の発表内容を振り返るとともに、他者の発表準備から学んだことを記録する。(25分)
担当教員	村田 敏彰、山下 秀樹、佐々木 雅哉		

第28回	◎インターンシップ発表会準備② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の準備状況の相互評価を行う。 ・履修カルテ（生命の若木）への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。（20分）	・自分の発表内容を振り返るとともに、他者の発表準備から学んだことを記録する。（25分）
担当教員	村田　敏彰、山下　秀樹、佐々木　雅哉		
第29回	◎インターンシップ発表会① ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ（生命の若木）への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。（20分）	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。（25分）
担当教員	相馬　哲也、村田　敏彰、山下　秀樹、佐々木　雅哉		
第30回	◎インターンシップ発表会② ・発表の内容としては ア、インターンシップで学んだこと、イ、この授業で自己の課題解決に向けて特に取り組んできたこと、ウ、教員としての資質・能力を意識した今後の課題と抱負、とする。 ・学生同士の相互評価を行う。 ・履修カルテ（生命の若木）への記載と関連付ける。	・発表の準備をする。（20分）	・自分の発表を振り返るとともに、他者の発表から学んだことを記録する。（25分）
担当教員	相馬　哲也、村田　敏彰、山下　秀樹、佐々木　雅哉		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・意欲（視察や講話の記録）30%、・表現力（授業の課題）30%、 ・指導力（インターンシップ記録・発表）40%
その他	0	特になし。

教科書

使用しない。

参考文献

保育実習・教育実習ハンドブック

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得希望者は必修である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（相馬　哲也）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として、教科指導（英語）、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。特に「国際理解教育」、「生徒指導」、「総合的な学習の時間」、「学級経営」、「教育行政」に関する知識を生かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	相馬　哲也		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員	相馬　哲也		

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員	相馬　哲也		
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（木谷　岐子）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷　岐子						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ及び、こども学総合演習Ⅰ・Ⅱを基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論によりながら認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ(今井　由惠)(非開講)					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」(以下、卒研Ⅰ)は、ディプロマ・ポリシー(以下DP)をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。(知識・理解)
②成果発表(卒研Ⅱ)に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。(思考・判断・表現)
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

Google Classroomのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍
・リチャード・J. ウィンジェル（2007）（＝2014・宮澤淳一、小倉眞理 訳）『改訂新版 音楽の文章術～論文・レポートの執筆から文献表記法まで～』春秋社

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（白幡　知尋）（非開講）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡　知尋						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法についての理解を基に、論文作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。（白幡）

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員	白幡　知尋		

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員	白幡　知尋		
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（西野　美穂）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（美馬　正和）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、児童発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をいかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

担当から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（笠見　康大）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（村田　敏彰）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

履修条件・留意事項等

基礎ゼミナールやこども学総合演習で学んできた内容をさらに深めたいという気持ち、4年間の学びの集大成を成し遂げたいという姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（渡邉　尭宏）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

保育所、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験と保育研究の分野を合わせ指導を行う。（渡邉）

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（山下　秀樹）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

・授業担当者(山下)は、複数の障がい種の特別支援学校に38年間勤務し、特別支援教育における教科等を合わせた授業やHR指導、生徒指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、管理職（教頭、副校長、校長）としてカリキュラムマネジメントの研究・実施を進めてきた。以上の経験を活かし、教育実践の具体的現場をリアルに想定すること、とりわけ障がいのある子どもの特性や具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（佐々木　雅哉）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

小学校教諭として小学校の教育全般に関わり、特に教科研究として国語科を実践してきた。「漢字教育」「文字(書写)教育」を専門とし、国語の屋台骨となる「ことば」の獲得が、漢字や文字の習得といかに関わっているのか、また習得のための効果的な指導方法等を実践レベルで研究してきた。この知見をもとに、幼児期・就学初中期においての文字や漢字との出合い、具体的な指導方法などについて講義する。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	佐々木　雅哉		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、研究内容の決定と「研究計画書」の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、基礎ゼミナールやこども学総合演習で学んできた内容をさらに深めたいと言う気持ち、姿勢があること。
統一の研究テーマに対し、共同研究に賛同して参加できる者。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（小林　美花）（非開講）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

保育士の勤務経験があり、保育について幅広い知識を有している。この経験を活かして、保育内容、子ども、環境等について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（山本　愛子）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有している。また、本学子育て教育地域支援センターにおいても臨床実践を続けてきた。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員			

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員			
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、という気持ちや姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅰ（佐々木　英明）					ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。
②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。

授業の概要

①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解）
②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解）
②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現）
③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能）
②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。 (20分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。 (20分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	

教科書

各担当教師から、適宜資料を配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

4年間の学びの集大成を成し遂げたい、基礎ゼミナールやこども学総合演習で学んできた内容をさらに深めたいと言う気持ち、姿勢があること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（相馬　哲也）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬　哲也						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

教諭として、教科指導（英語）、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。特に「国際理解教育」、「生徒指導」、「総合的な学習の時間」、「学級経営」、「教育行政」に関する知識を生かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員	相馬　哲也		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員	相馬　哲也		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	相馬　哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（木谷　岐子）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷　岐子						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論によりながら認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員	木谷　岐子		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員	木谷　岐子		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	木谷　岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ(今井　由惠)					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井　由惠						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

Google Classroomをプラットフォームとし、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生に還元し、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Googlec Cassroomをプラットフォームとし、場合によっては学生の論文指導をClassroomを介して行う。論文作成についてアドバイスやコメントを加える。学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（白幡　知尋）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡　知尋						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ）では、ディプロ・マポリシー（以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。（知識・理解・技能）
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。（思考・判断・表現）
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法についての理解を基に、論文作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。（白幡）

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	白幡　知尋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（西野　美穂）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野　美穂						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、保育・教育の現場で求められる、子どもの音楽活動を援助するために必要な知識や技術の実践的な習得を目指す授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（美馬　正和）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬　正和						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

障害者入所施設、発達支援センターでの勤務経験があり、福祉施設についての知識や経験を有している。この経験をいかして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（笠見　康大）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見　康大						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（村田　敏彰）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	村田　敏彰						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（渡邉　尭宏）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邉　尭宏						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

保育所、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験と保育研究の分野を合わせ指導を行う。（渡邉）

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（山下　秀樹）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下　秀樹						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②関係教育機関(学校、施設)等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③関係教育機関（学校、施設）等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

・授業担当者(山下)は、複数の障がい種の特別支援学校に38年間勤務し、特別支援教育における教科等を合わせた授業やHR指導、生徒指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、管理職（教頭、副校長、校長）としてカリキュラムマネジメントの研究・実施を進めてきた。以上の経験を活かし、教育実践の具体的現場をリアルに想定すること、とりわけ障がいのある子どもの特性や具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（佐々木　雅哉）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　雅哉						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ）では、ディプロ・マポリシー（以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。（知識・理解・技能）
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。（思考・判断・表現）
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。（関心・意欲・態度）

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

小学校での実務経験や管理職としての経験から、初等教育の現場で必要なスキルについて整理してきた。国語科、特に「文字・漢字教育」を核として実践研究を進めたり、教科書執筆の過程で得たりした知見から、これからの社会を生きる子どもたちにどんな国語(文字、漢字、ことば)の力をつけていけばいいのかを教授する。また、そのための具体的な授業像をともに考えたい。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	佐々木　雅哉		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業研究を履修し、卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。
共同研究に賛同し、参加できる者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（小林　美花）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小林　美花						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

保育士の経験があり、保育について幅広い知識を有している。この経験を活かして、保育や子ども理解等について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ（山本　愛子）					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本　愛子						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

・e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院、教育相談機関での臨床経験を有している。また、本学子育て教育地域支援センターにおいても臨床実践を続けてきた。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員			
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員			

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員			
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員			

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員			
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員			
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員			

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員			
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員			
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員			

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員			
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員			
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

卒業研究Ⅰを履修し、こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部　こども発達学科						
区分	専門科目　総合科目						
科目名	卒業研究Ⅱ(佐々木　英明)					ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木　英明						

授業の位置づけ

①「卒業研究Ⅱ」(以下、卒研Ⅱ)では、ディプロ・マポリシー(以下DP)をふまえ、現代社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる力を身につける科目である。そしてこれまで学んできた知識・技能・態度をより確実になものにし、更なる展望を見出す実践的視野を身につける。またその他のDPとも関係し、主として教育・保育等の現場において即実践につながる力を身につける。
②「卒研Ⅱ」は、「こども学総合演習」や「卒研Ⅰ」をふまえ、こども発達学科4年間のすべての科目の集大成として位置づけられるものである。

授業の概要

①卒研Ⅱでは、「先行研究」をよく読み、理解するための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能)
②小学校やこども園等の現場に行き、フィールドワークによる参与観察法、インタビュー調査、アンケート調査などデータを収集する実践的方法について、自分の研究の目的に合わせて身につける。(思考・判断・表現)
③論文や作品の完成に向けた、大学4年間の学びの集大成である。卒業研究発表会では教師や学生の前で発表し、現場で役立つ実践力を身につける。(関心・意欲・態度)

到達目標

①一般的なレポートと「論文」との違いについて理解し、説明できるようになる。（知識・理解）
②自分の研究目的に合わせ、データを収集するためのフィールドワークや参与観察、インタビュー、アンケート調査等を「研究計画」にもとづき実施できるようになる。（思考・判断・表現）
③卒業論文、卒業制作完成のため、教師や他の学生との対話に参加し、最後までやり遂げるよう意欲的に参加できる。また卒業研究発表会では、研究の成果を他者にわかりやすく発表し、質問に対して応答できるコミュニケーション力を身につける。また、他の発表者に対し関心をもって質問し、発表会の活性化に貢献する豊かな人間の資質を身につける。（関心・意欲・態度）

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。
①学生の執筆過程、作品制作過程に寄り添い、完成に向け必要な知識や技能を説明する。（知識・技能）
②「卒業論文」、「卒業制作」の完成および「卒業研究要旨」の構成に向け、教師や他の学生との対話を主とするアクティブ・ラーニングにより思考を深め、表現力が豊かになるよう支援する。（思考・判断・表現）
③小学校やこども園等でのフィールドワークや参与観察、インタビューやアンケート調査等のデータ収集活動を実行し、研究への関心が深まるよう支援する。また成果発表の際には、質疑に対し丁寧で、適切な対応ができるよう準備を促すとともに、他者の研究への関心を持って参加できるようアドバイスする。（関心・意欲・態度）

ICT活用

Googleclassroomをプラットフォームとし、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科（社会・理科）、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め札幌市内各区の社会科教育に方針を示し、実践を集約した。近年は教科書執筆にも携わり、学習指導要領を基にした学習指導についての執筆も行ってきた。以上の多数の教科指導の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Googleclassroomをプラットフォームとし、学生の論文指導をclassroomを介して行う。論文作成についてアドバイスやコメントを加える。学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、小学校やこども園等の現場調査、あるいは作品制作のためのフィールドワークの計画を確認する。	論文作成あるいは作品制作に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(20分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	論文の執筆あるいは作品制作(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆や作品制作の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆や作品制作の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(20分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	論文の執筆あるいは作品制作(2) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	論文の執筆あるいは作品制作(3) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	論文の執筆あるいは作品制作(4) 執筆した「研究の方法」あるいは「作品制作の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。 (25分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	論文の執筆あるいは作品制作(5) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(20分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(20分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	卒業論文、卒業制作の構成 卒業論文、卒業制作の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける。	論文構成、作品構成を考え、読者にわかりやすく伝わるようリハーサルしてみる。(20分)	アドバイスを参考に、論文構成、作品構成を再度修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	卒業論文、卒業制作の「結果」 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	卒業論文、卒業制作の「考察」 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (20分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。 (25分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	卒業論文、卒業制作の「今後の課題」 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	卒業論文、卒業制作の完成 これまでの研究活動を総括し、卒業論文、卒業制作を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文および作品の最終チェックを行う。(20分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	卒業論文、卒業制作の発表 卒業論文、卒業制作について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(20分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文・卒業制作(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	

教科書

・各授業において、論文(作品)完成に必要な資料を適宜配布する。

参考文献

・河野哲也（1997）『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会
・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍

履修条件・留意事項等

こども発達学科4年間の学びの集大成にチャレンジしたいと思う者。
卒業論文や卒業制作の完成に向け、やり遂げる気持ちを持っている者。

備考欄